地域活動の参加促進に向けて

～地域課題に関する調査研究～

資料編

令和２（2020）年３月

栃木県総合教育センター

＊目　次＊

第１章　地域課題に関する意識・行動調査の結果 ―――――――― 2
　1　県民対象調査 ・・・・・・ 2
　2　高校生対象調査 ・・・・・・ 47

第２章　地域課題の解決に関する取組状況等調査の結果 ―――――――― 98
　1　高等学校・特別支援学校教員対象調査 ・・・・・・ 98
　2　市町生涯学習・社会教育関係職員対象調査
　　社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査 ・・・・・・126

資料（アンケート調査票）
　1　県民対象の地域課題に関する意識・行動調査アンケート調査票
　2　高校生対象の地域課題に関する意識・行動調査アンケート調査票
　3　高等学校・特別支援学校教員対象の地域課題に関する取組状況等調査
　　アンケート調査票
　4　市町生涯学習・社会教育関係職員対象の地域課題に関する取組状況等調査
　　アンケート調査票
　5　社会福祉協議会・中間支援センター職員対象の地域課題に関する取組状況等調査
　　アンケート調査票

資料（リーフレット）
　6　調査研究リーフレット
　　「高校生の地域活動参加促進に向けて ～高校生とかかわる大人ができること～」

＊御注意いただきたいこと＊

○本調査研究の報告書の構成について

　本調査研究の報告書は、「概要・総括編」と「資料編」の２分冊の構成になっています。本分冊は、「資料編」として、主に調査結果のデータをまとめたものです。主に調査研究の概要や結果に基づく提言等を掲載した「概要・総括編」も、Web サイト「とちぎレインボーネット」にて公開しています。そちらも合わせて御覧ください。

○各アンケート調査のデータの数値について

　本報告書のアンケート調査結果で用いられているパーセント表示については、小数第２位を四捨五入し、小数第１位までの数値にして掲載しています。パーセントの数値を全て合計した際に、100%にならないこともありますので御留意ください。

第１章　地域課題に関する意識・行動調査の結果

１　県民対象調査

(1)　回答数および回答率と回答者の属性

ア　回答数および回答率

(ｱ)　調査対象者　　　　　２，００６名

(ｲ)　回答数　　　　　　　１，６７０名

(ｳ)　回答率　　　　　　　　８３．３%

イ　回答者の属性

(ｱ)　地区別・年代別・性別回答数

【表１】

地　区　別			
河 内 地 区	n=	334	20.0%
上都賀地区	n=	177	10.6%
芳 賀 地 区	n=	246	14.7%
下都賀地区	n=	278	16.6%
塩谷南那須地区	n=	184	11.0%
那 須 地 区	n=	199	11.9%
安 足 地 区	n=	184	11.0%
県　　外	n=	8	0.5%
無　回　答	n=	60	3.6%
合　　計	n=	1,670	100.0%

【表２】

年　代　別			
20 歳代	n=	28	1.7%
30 歳代	n=	250	15.0%
40 歳代	n=	505	30.2%
50 歳代	n=	401	24.0%
60 歳代	n=	302	18.1%
70 歳以上	n=	143	8.6%
無回答	n=	41	2.5%
合　計	n=	1,670	100.0%

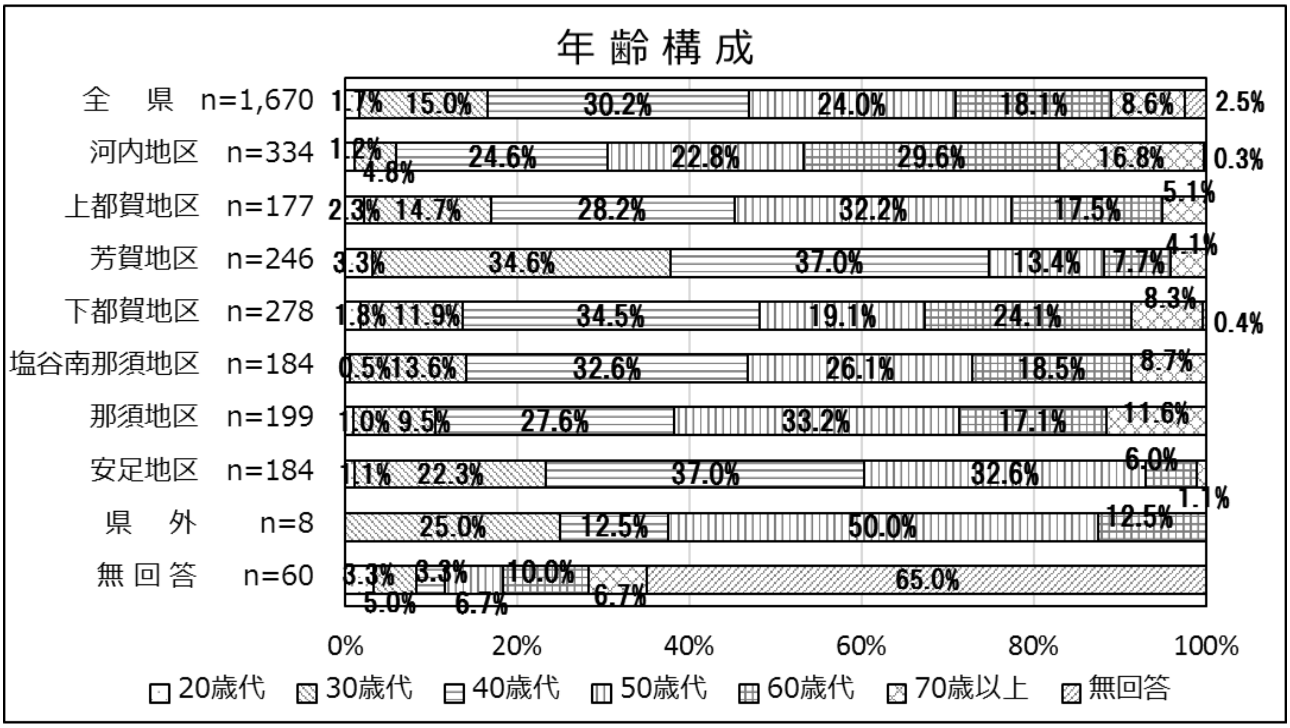
【表３】

性　別			
女　　性	n=	1,064	63.7%
男　　性	n=	521	31.2%
無 回 答	n=	85	5.1%
合　計	n=	1,670	100.0%

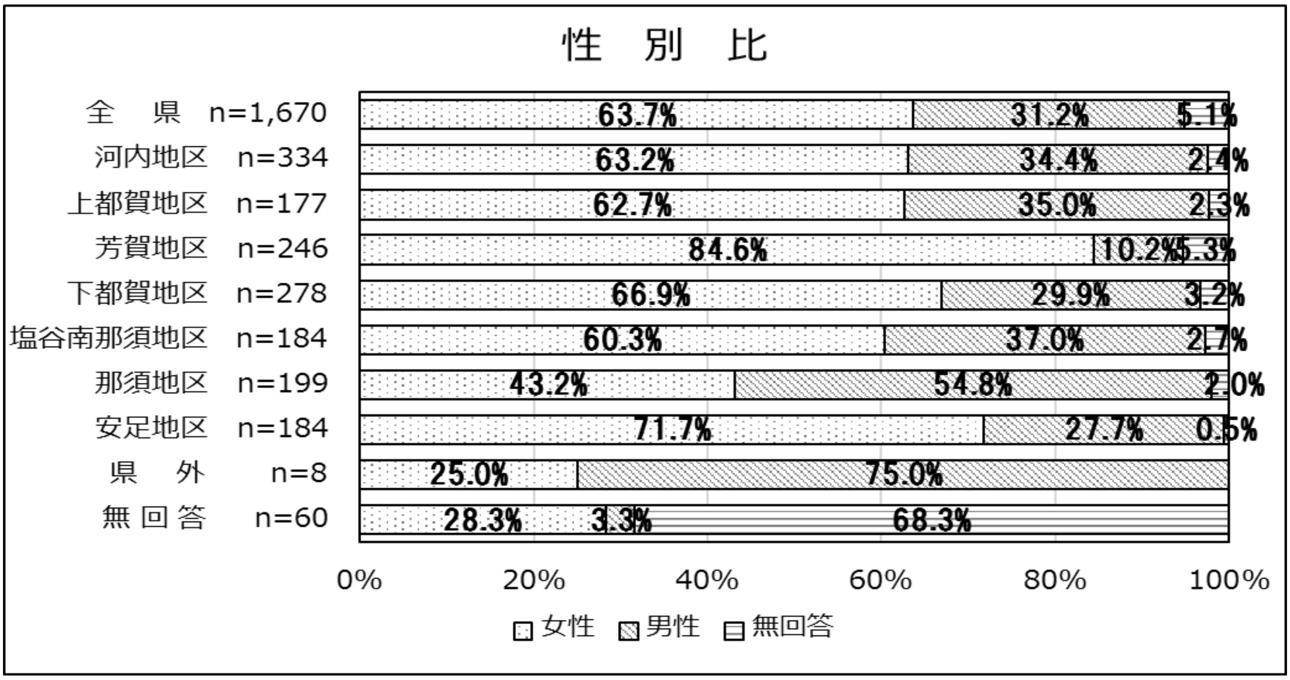
地区別では、各地区が 10～20%の範囲に分布する。
年代別では、40 歳代、50 歳代が多く、合計すると全体の 50%を超えている。
性別では、女性の数が全体で約 64%を占めた。

(ｲ)　回答者の属性

【図１】



【図２】



年齢構成を見ると、河内地区では 60 歳代、上都賀地区、那須地区では 50 歳代が最多となっているが、他の地区では 40 歳代が最多である。また、芳賀地区では 30 歳代、河内地区では 70 歳以上の占める割合が他地区より高い。

性別比を見ると、芳賀地区で女性の割合が約 85%と高い。また、那須地区では男性の割合が約 55%と男性の数が女性の数を上回っている。他の地区では、女性が 60～70%、男性が 30～40%の範囲に分布している。

(2)　地域課題の認識状況

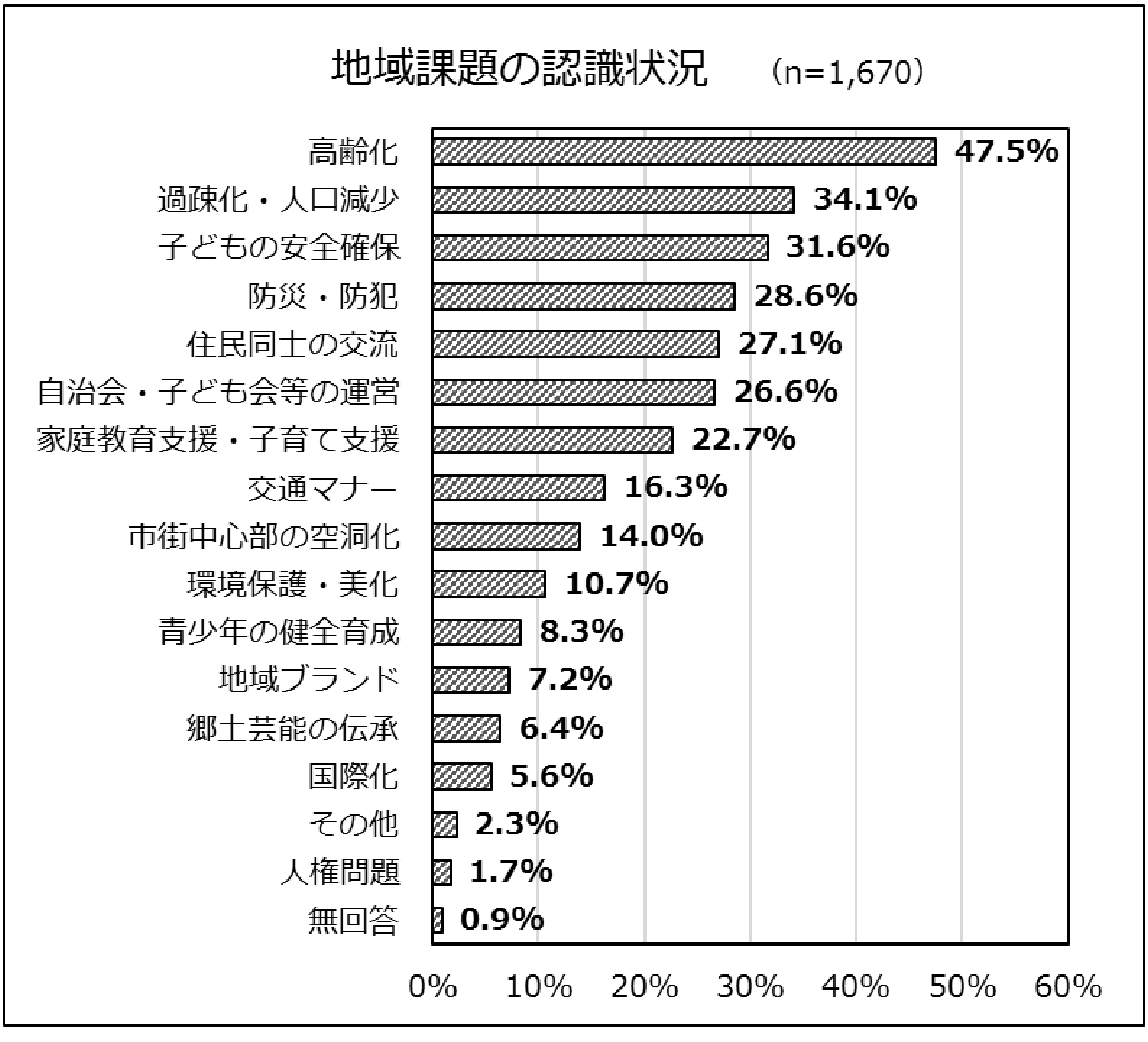
本調査における「地域」とは、概ね回答者の居住する小学校区とし、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問１　あなたのお住まいの地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題の認識状況

【図３】



全県で見ると「高齢化」の回答割合が最も高く、47.5%であった。次いで、「過疎化・人口減少」「子どもの安全確保」で、これら上位３項目が30%を超える回答割合となった。他にも、「防災・防犯」「住民同士の交流」などが上位に挙げられた。

【表４】

地域課題の認識（地区別）	全　県 n=1,670	河内地区 n=334	上都賀地区 n=177	芳賀地区 n=246	下都賀地区 n=278	塩谷南那須地区 n=184	那須地区 n=199	安足地区 n=184	県　外 n=8	無回答 n=60
防災・防犯	28.6%	33.5%	28.2%	32.1%	25.5%	17.9%	29.1%	28.3%	50.0%	30.0%
子どもの安全確保	31.6%	26.0%	34.5%	42.3%	33.1%	26.6%	30.2%	31.0%	12.5%	28.3%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	17.4%	16.4%	28.9%	23.4%	19.0%	19.1%	36.4%	37.5%	21.7%
青少年の健全育成	8.3%	9.3%	9.0%	6.1%	9.7%	3.3%	9.0%	10.3%	12.5%	10.0%
郷土芸能の伝承	6.4%	8.4%	5.6%	4.5%	7.2%	6.0%	8.0%	4.3%	0.0%	5.0%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	29.9%	23.2%	21.5%	29.5%	24.5%	28.6%	28.8%	12.5%	21.7%
住民同士の交流	27.1%	39.8%	23.2%	19.9%	25.9%	21.7%	33.7%	18.5%	12.5%	25.0%
高齢化	47.5%	51.8%	50.8%	40.7%	47.1%	51.6%	49.2%	39.1%	25.0%	53.3%
地域ブランド	7.2%	5.7%	6.8%	9.3%	3.2%	12.5%	9.0%	7.1%	12.5%	5.0%
国際化	5.6%	6.3%	4.0%	6.1%	8.3%	3.8%	2.0%	7.6%	25.0%	0.0%
過疎化・人口減少	34.1%	16.5%	53.1%	33.3%	28.1%	52.7%	38.7%	33.7%	62.5%	33.3%
環境保護・美化	10.7%	17.4%	5.1%	8.1%	12.2%	8.7%	7.5%	9.8%	0.0%	13.3%
人権問題	1.7%	0.3%	0.6%	1.6%	1.4%	4.9%	2.0%	2.2%	0.0%	3.3%
市街中心部の空洞化	14.0%	10.2%	12.4%	16.3%	9.7%	24.5%	16.1%	12.0%	37.5%	13.3%
交通マナー	16.3%	21.6%	19.8%	14.6%	16.9%	12.5%	11.6%	14.7%	0.0%	15.0%
その他	2.3%	1.8%	0.0%	5.3%	2.5%	2.2%	1.0%	3.3%	0.0%	0.0%
無回答	0.9%	1.5%	0.6%	0.8%	1.4%	0.5%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%

地区別にみると、全県で最上位の「高齢化」は、河内、下都賀、那須、安足の各地区で最上位であった。「過疎化・人口減少」は、上都賀地区、塩谷南那須地区で最上位となり、芳賀、那須、安足の各地区でも上位に挙げられた。また、「子どもの安全確保」は、芳賀地区で最上位となり、上都賀、下都賀、塩谷南那須の各地区でも上位に挙げられた。

各地区での順位を整理したものを表５、各課題別に順位を整理したものを表６に示した。

「過疎化・人口減少」では、上都賀地区、塩谷南那須地区と河内地区の間に、地区間の顕著な差異がみられた。他にも、20 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、「家庭教育支援・子育て支援」で安足地区と上都賀地区、「住民同士の交流」で河内地区と安足地区との間に差異を見出すことができる。一方で、「自治会・子ども会の運営」等では、地区間に明確な差異はみられなかった。

【表５】

	全　県 n=1,670	河内地区 n=334	上都賀地区 n=177	芳賀地区 n=246	下都賀地区 n=278	塩谷南那須地区 n=184	那須地区 n=199	安足地区 n=184	県　外 n=8	無回答 n=60
1	高齢化 47.5%	高齢化 51.8%	過疎化・人口減少 53.1%	子どもの安全確保 42.3%	高齢化 47.1%	過疎化・人口減少 52.7%	高齢化 49.2%	高齢化 39.1%	過疎化・人口減少 62.5%	高齢化 53.3%
2	過疎化・人口減少 34.1%	住民同士の交流 39.8%	高齢化 50.8%	高齢化 40.7%	子どもの安全確保 33.1%	高齢化 51.6%	過疎化・人口減少 38.7%	家庭教育支援 子育て支援 36.4%	防災・防犯 50.0%	過疎化・人口減少 33.3%
3	子どもの安全確保 31.6%	防災・防犯 33.5%	子どもの安全確保 34.5%	過疎化・人口減少 33.3%	自治会・子ども会等の運営 29.5%	子どもの安全確保 26.6%	住民同士の交流 33.7%	過疎化・人口減少 33.7%	家庭教育支援 子育て支援 37.5%	防災・防犯 30.0%
4	防災・防犯 28.6%	自治会・子ども会等の運営 29.9%	防災・防犯 28.2%	防災・防犯 32.1%	過疎化・人口減少 28.1%	自治会・子ども会等の運営 24.5%	子どもの安全確保 30.2%	子どもの安全確保 31.0%	市街中心部の空洞化 37.5%	子どもの安全確保 28.3%
5	住民同士の交流 27.1%	子どもの安全確保 26.0%	自治会・子ども会等の運営 23.2%	家庭教育支援 子育て支援 28.9%	住民同士の交流 25.9%	市街中心部の空洞化 24.5%	防災・防犯 29.1%	自治会・子ども会等の運営 28.8%	高齢化 25.0%	住民同士の交流 25.0%
6	自治会・子ども会等の運営 26.6%	交通マナー 21.6%	住民同士の交流 23.2%	自治会・子ども会等の運営 21.5%	防災・防犯 25.5%	住民同士の交流 21.7%	自治会・子ども会等の運営 28.6%	防災・防犯 28.3%	国際化 25.0%	家庭教育支援 子育て支援 21.7%
7	家庭教育支援 子育て支援 22.7%	家庭教育支援 子育て支援 17.4%	交通マナー 19.8%	住民同士の交流 19.9%	家庭教育支援 子育て支援 23.4%	家庭教育支援 子育て支援 19.0%	家庭教育支援 子育て支援 19.1%	住民同士の交流 18.5%	子どもの安全確保 12.5%	自治会・子ども会等の運営 21.7%
8	交通マナー 16.3%	環境保護・美化 17.4%	家庭教育支援 子育て支援 16.4%	市街中心部の空洞化 16.3%	交通マナー 16.9%	防災・防犯 17.9%	市街中心部の空洞化 16.1%	交通マナー 14.7%	青少年の健全育成 12.5%	交通マナー 15.0%
9	市街中心部の空洞化 14.0%	過疎化・人口減少 16.5%	市街中心部の空洞化 12.4%	交通マナー 14.6%	環境保護・美化 12.2%	地域ブランド 12.5%	交通マナー 11.6%	市街中心部の空洞化 12.0%	自治会・子ども会等の運営 12.5%	環境保護・美化 13.3%
10	環境保護・美化 10.7%	市街中心部の空洞化 10.2%	青少年の健全育成 9.0%	地域ブランド 9.3%	青少年の健全育成 9.7%	交通マナー 12.5%	青少年の健全育成 9.0%	青少年の健全育成 10.3%	住民同士の交流 12.5%	市街中心部の空洞化 13.3%
11	青少年の健全育成 8.3%	青少年の健全育成 9.3%	地域ブランド 6.8%	環境保護・美化 8.1%	市街中心部の空洞化 9.7%	環境保護・美化 8.7%	地域ブランド 9.0%	環境保護・美化 9.8%	地域ブランド 12.5%	青少年の健全育成 10.0%
12	地域ブランド 7.2%	郷土芸能の伝承 8.4%	郷土芸能の伝承 5.6%	青少年の健全育成 6.1%	国際化 8.3%	郷土芸能の伝承 6.0%	郷土芸能の伝承 8.0%	国際化 7.6%	郷土芸能の伝承 0.0%	郷土芸能の伝承 5.0%
13	郷土芸能の伝承 6.4%	国際化 6.3%	環境保護・美化 5.1%	国際化 6.1%	郷土芸能の伝承 7.2%	人権問題 4.9%	環境保護・美化 7.5%	地域ブランド 7.1%	環境保護・美化 0.0%	地域ブランド 5.0%
14	国際化 5.6%	地域ブランド 5.7%	国際化 4.0%	その他 5.3%	地域ブランド 3.2%	国際化 3.8%	国際化 2.0%	郷土芸能の伝承 4.3%	人権問題 0.0%	人権問題 3.3%
15	その他 2.3%	その他 1.8%	人権問題 0.6%	郷土芸能の伝承 4.5%	その他 2.5%	青少年の健全育成 3.3%	人権問題 2.0%	その他 3.3%	交通マナー 0.0%	国際化 0.0%
16	人権問題 1.7%	無回答 1.5%	無回答 0.6%	人権問題 1.6%	人権問題 1.4%	その他 2.2%	その他 1.0%	人権問題 2.2%	その他 0.0%	その他 0.0%
17	無回答 0.9%	人権問題 0.3%	その他 0.0%	無回答 0.8%	無回答 1.4%	無回答 0.5%	無回答 0.0%	無回答 1.1%	無回答 0.0%	無回答 0.0%

【表６】

	防災・防犯		子どもの安全確保		家庭教育支援・子育て支援		青少年の健全育成		郷土芸能の伝承	
1	河内地区 n=334	33.5%	芳賀地区 n=246	42.3%	安足地区 n=184	36.4%	安足地区 n=184	10.3%	河内地区 n=334	8.4%
2	芳賀地区 n=246	32.1%	上都賀地区 n=177	34.5%	芳賀地区 n=246	28.9%	下都賀地区 n=278	9.7%	那須地区 n=199	8.0%
3	那須地区 n=199	29.1%	下都賀地区 n=278	33.1%	下都賀地区 n=278	23.4%	河内地区 n=334	9.3%	下都賀地区 n=278	7.2%
4	安足地区 n=184	28.3%	安足地区 n=184	31.0%	那須地区 n=199	19.1%	那須地区 n=199	9.0%	塩谷南那須地区 n=184	6.0%
5	上都賀地区 n=177	28.2%	那須地区 n=199	30.2%	塩谷南那須地区 n=184	19.0%	上都賀地区 n=177	9.0%	上都賀地区 n=177	5.6%
6	下都賀地区 n=278	25.5%	塩谷南那須地区 n=184	26.6%	河内地区 n=334	17.4%	芳賀地区 n=246	6.1%	芳賀地区 n=246	4.5%
7	塩谷南那須地区 n=184	17.9%	河内地区 n=334	26.0%	上都賀地区 n=177	16.4%	塩谷南那須地区 n=184	3.3%	安足地区 n=184	4.3%

	自治会・子ども会等の運営		住民同士の交流		高齢化		地域ブランド		国際化	
1	河内地区 n=334	29.9%	河内地区 n=334	39.8%	河内地区 n=334	51.8%	塩谷南那須地区 n=184	12.5%	下都賀地区 n=278	8.3%
2	下都賀地区 n=278	29.5%	那須地区 n=199	33.7%	塩谷南那須地区 n=184	51.6%	芳賀地区 n=246	9.3%	安足地区 n=184	7.6%
3	安足地区 n=184	28.8%	下都賀地区 n=278	25.9%	上都賀地区 n=177	50.8%	那須地区 n=199	9.0%	河内地区 n=334	6.3%
4	那須地区 n=199	28.6%	上都賀地区 n=177	23.2%	那須地区 n=199	49.2%	安足地区 n=184	7.1%	芳賀地区 n=246	6.1%
5	塩谷南那須地区 n=184	24.5%	塩谷南那須地区 n=184	21.7%	下都賀地区 n=278	47.1%	上都賀地区 n=177	6.8%	上都賀地区 n=177	4.0%
6	上都賀地区 n=177	23.2%	芳賀地区 n=246	19.9%	芳賀地区 n=246	40.7%	河内地区 n=334	5.7%	塩谷南那須地区 n=184	3.8%
7	芳賀地区 n=246	21.5%	安足地区 n=184	18.5%	安足地区 n=184	39.1%	下都賀地区 n=278	3.2%	那須地区 n=199	2.0%

	過疎化・人口減少		環境保護・美化		人権問題		市街中心部の空洞化		交通マナー	
1	上都賀地区 n=177	53.1%	河内地区 n=334	17.4%	塩谷南那須地区 n=184	4.9%	塩谷南那須地区 n=184	24.5%	河内地区 n=334	21.6%
2	塩谷南那須地区 n=184	52.7%	下都賀地区 n=278	12.2%	安足地区 n=184	2.2%	芳賀地区 n=246	16.3%	上都賀地区 n=177	19.8%
3	那須地区 n=199	38.7%	安足地区 n=184	9.8%	那須地区 n=199	2.0%	那須地区 n=199	16.1%	下都賀地区 n=278	16.9%
4	安足地区 n=184	33.7%	塩谷南那須地区 n=184	8.7%	芳賀地区 n=246	1.6%	上都賀地区 n=177	12.4%	安足地区 n=184	14.7%
5	芳賀地区 n=246	33.3%	芳賀地区 n=246	8.1%	下都賀地区 n=278	1.4%	安足地区 n=184	12.0%	芳賀地区 n=246	14.6%
6	下都賀地区 n=278	28.1%	那須地区 n=199	7.5%	上都賀地区 n=177	0.6%	河内地区 n=334	10.2%	塩谷南那須地区 n=184	12.5%
7	河内地区 n=334	16.5%	上都賀地区 n=177	5.1%	河内地区 n=334	0.3%	下都賀地区 n=278	9.7%	那須地区 n=199	11.6%

また、各課題の上位３地区をみていくと、最も課題が集約されているのは上都賀地区の４項目で、課題が分散されているのは河内地区と下都賀地区の９項目であった。特に、河内地区は７項目で最も回答割合が高かった。他の地区は５～７項目であった。

イ　性別に見た地域課題の認識状況

【表７】

地域課題の認識（性別）	全　県 n=1,670	女　性 n=1,064	男　性 n=521	無回答 n=85
防災・防犯	28.6%	28.2%	29.4%	28.2%
子どもの安全確保	31.6%	34.2%	25.5%	36.5%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	25.8%	17.3%	16.5%
青少年の健全育成	8.3%	8.5%	7.5%	11.8%
郷土芸能の伝承	6.4%	5.9%	7.7%	4.7%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	25.8%	29.2%	21.2%
住民同士の交流	27.1%	25.7%	31.1%	20.0%
高齢化	47.5%	46.7%	49.3%	45.9%
地域ブランド	7.2%	6.9%	8.3%	5.9%
国際化	5.6%	6.7%	3.8%	2.4%
過疎化・人口減少	34.1%	30.8%	40.5%	36.5%
環境保護・美化	10.7%	10.5%	10.9%	10.6%
人権問題	1.7%	1.5%	1.5%	5.9%
市街中心部の空洞化	14.0%	13.3%	16.1%	9.4%
交通マナー	16.3%	17.4%	13.8%	17.6%
その他	2.3%	2.4%	2.1%	1.2%
無回答	0.9%	1.1%	0.0%	3.5%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、４項目で差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは、「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」の２項目で、約９ポイント上回った。また、男性が女性を上回ったものも２項目で、「住民同士の交流」で約５ポイント、「過疎化・人口減少」で約 10 ポイント上回った。

ウ　年代別に見た地域課題の認識状況

【表８】

地域課題の認識（年代別）	全　県 n=1,670	20歳代 n=28	30歳代 n=250	40歳代 n=505	50歳代 n=401	60歳代 n=302	70歳以上 n=143	無回答 n=60
防災・防犯	28.6%	25.0%	29.6%	26.3%	26.4%	30.8%	36.4%	29.3%
子どもの安全確保	31.6%	32.1%	51.6%	39.2%	24.4%	17.2%	18.9%	36.6%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	21.4%	35.2%	27.3%	23.2%	11.9%	7.0%	19.5%
青少年の健全育成	8.3%	10.7%	6.4%	9.5%	9.2%	6.3%	8.4%	9.8%
郷土芸能の伝承	6.4%	3.6%	5.2%	5.3%	6.5%	8.6%	7.7%	7.3%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	7.1%	26.4%	32.9%	27.4%	23.5%	16.1%	17.1%
住民同士の交流	27.1%	21.4%	18.4%	20.0%	26.7%	40.4%	42.7%	22.0%
高齢化	47.5%	46.4%	32.8%	37.2%	52.4%	63.2%	61.5%	51.2%
地域ブランド	7.2%	3.6%	8.4%	7.3%	8.2%	6.3%	4.9%	7.3%
国際化	5.6%	10.7%	6.8%	4.8%	6.5%	5.3%	4.9%	0.0%
過疎化・人口減少	34.1%	35.7%	33.2%	34.1%	38.9%	31.8%	27.3%	34.1%
環境保護・美化	10.7%	3.6%	5.2%	7.3%	9.2%	18.2%	21.0%	12.2%
人権問題	1.7%	3.6%	2.0%	2.6%	1.0%	1.0%	0.7%	4.9%
市街中心部の空洞化	14.0%	7.1%	9.6%	15.0%	12.5%	17.9%	16.1%	9.8%
交通マナー	16.3%	32.1%	20.0%	20.0%	11.7%	12.6%	13.3%	19.5%
その他	2.3%	3.6%	3.6%	3.0%	2.0%	1.0%	1.4%	0.0%
無回答	0.9%	3.6%	1.2%	0.8%	0.5%	1.0%	1.4%	0.0%

「防災・防犯」や「過疎化・人口減少」は世代間に課題認識の明確な差異がみられない。それに対して、「交通マナー」は 20～40 歳代で、「子どもの安全確保」や「家庭教育支援・子育て支援」、「交通マナー」は 30・40 歳代で回答割合が高かった。また、「自治会・子ども会等の運営」は 30～50 歳代で、「住民同士の交流」や「高齢化」、「環境保護・美化」は 60 歳代・70 歳以上で割合が高いなど、世代間で課題認識に明確な差が生じるものも多くみられる。

エ　地域課題の認識状況についての過去の調査との比較

過去の調査との比較を行うデータは、同様の集計方法でないと比較ができないため、「総回答数からの割合」で集計を行っている。

【表９】

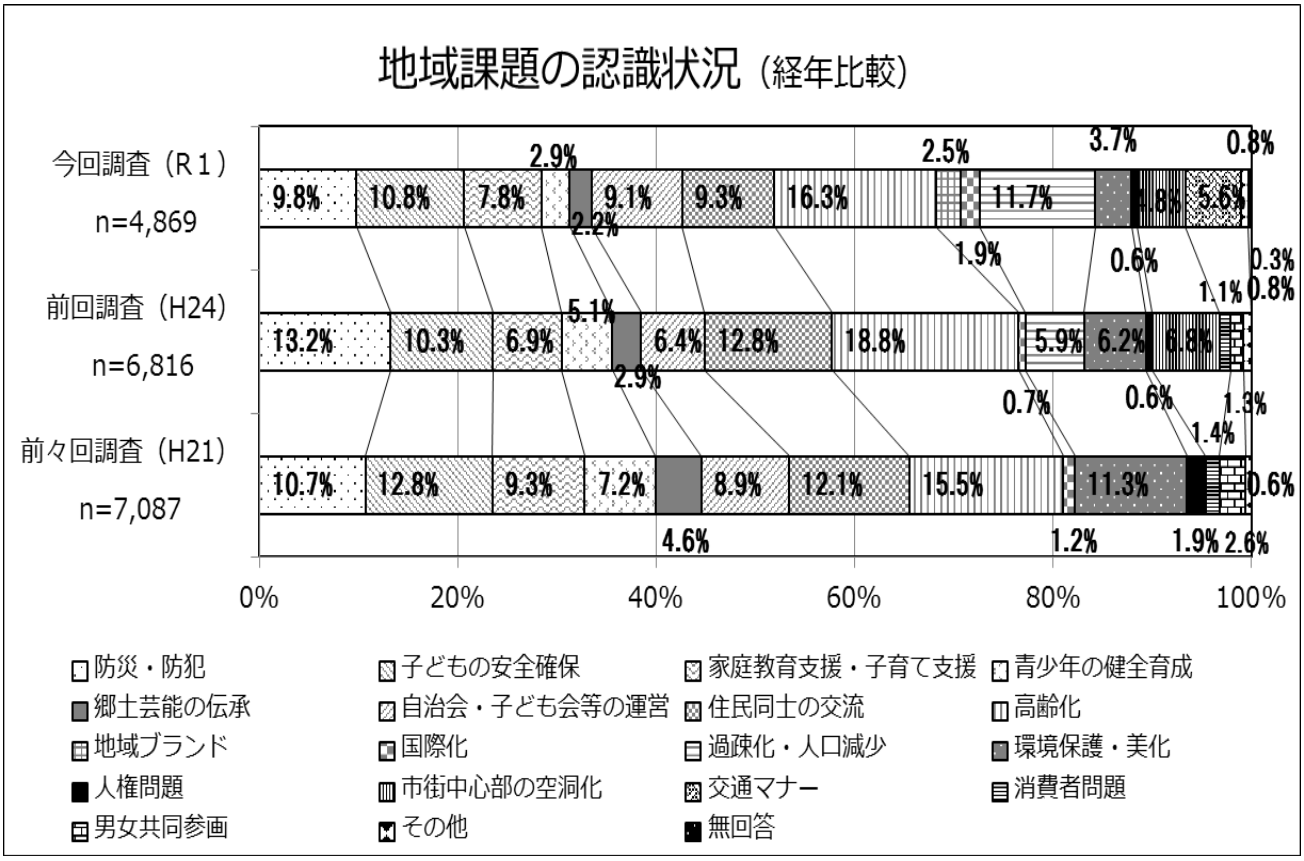
地域課題の認識（経年比較）	今回調査（Ｒ１）n=4,869	前回調査（H24）n=6,816	前々回調査（H21）n=7,087	今回調査と前回調査の増減
防災・防犯	9.8%	13.2%	10.7%	*-3.4%*
子どもの安全確保	10.8%	10.3%	12.8%	*0.5%*
家庭教育支援・子育て支援	7.8%	6.9%	9.3%	*0.9%*
青少年の健全育成	2.9%	5.1%	7.2%	*-2.2%*
郷土芸能の伝承	2.2%	2.9%	4.6%	*-0.7%*
自治会・子ども会等の運営	9.1%	6.4%	8.9%	*2.7%*
住民同士の交流	9.3%	12.8%	12.1%	*-3.5%*
高齢化	16.3%	18.8%	15.5%	*-2.5%*
地域ブランド	2.5%	－	－	－
国際化	1.9%	0.7%	1.2%	*1.2%*
過疎化・人口減少	11.7%	5.9%	－	*5.8%*
環境保護・美化	3.7%	6.2%	11.3%	*-2.5%*
人権問題	0.6%	0.6%	1.9%	*0.0%*
市街中心部の空洞化	4.8%	6.8%	－	*-2.0%*
交通マナー	5.6%	－	－	－
消費者問題	－	1.1%	1.4%	－
男女共同参画	－	1.3%	2.6%	－
その他	0.8%	0.8%	0.6%	*0.0%*
無回答	0.3%	－	－	－

今回の調査では、「地域ブランド」「交通マナー」という選択肢を新たに設け、「消費者問題」「男女共同参画」を削除した。選択肢の数は前回調査と同数にした。

大きく割合を増加させたのは「過疎化・人口減少」で、5.8 ポイントであった。これは、前回調査の９位から３位に上昇するもので、特に顕著なものであるといえる。他に、「自治会・子ども会等の運営」も 2.7 ポイントであった。

逆に、3 ポイント以上割合を減少させたのは、「住民同士の交流」で 3.5 ポイント、「防災・防犯」で 3.4 ポイントであった。「防災・防犯」については、前回調査が東日本大震災後のため、県民の防災意識が高まっていたことが影響していると考えられる。

【図４】



《参考：問１「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎公共交通の整備　◎空き家対策　◎耕作放棄地対策

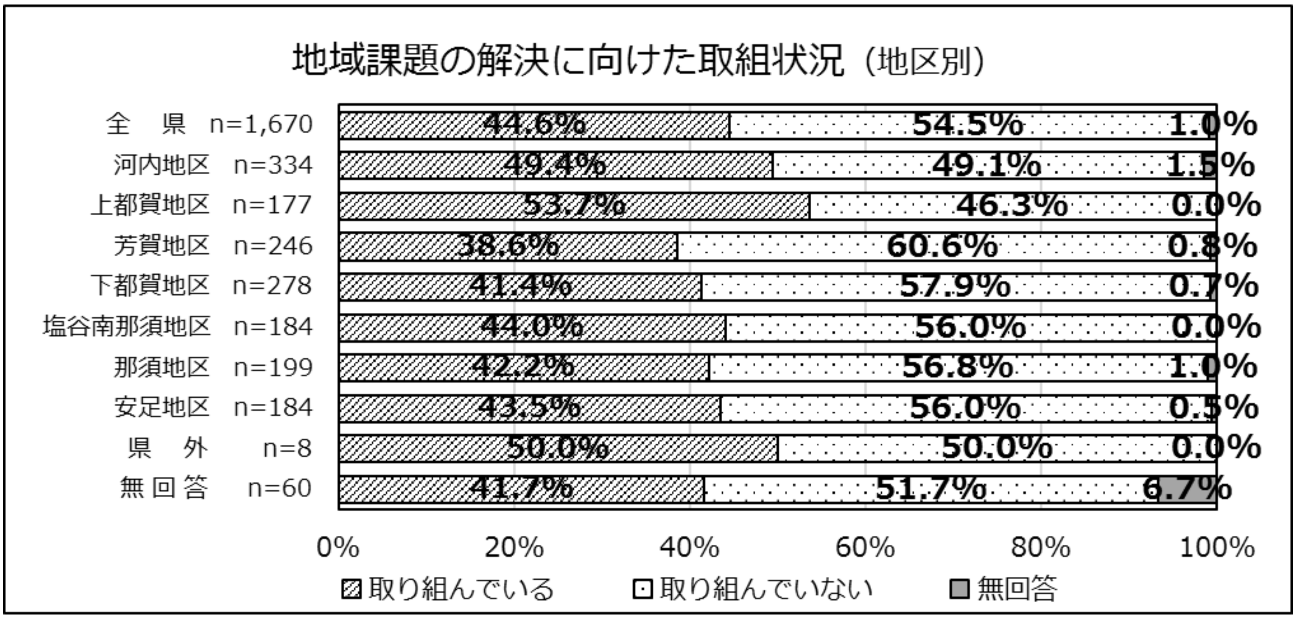
○隣宅とのトラブル　○買物難民対策　○道路・歩道等のインフラ整備

(3)　地域課題の解決に向けた取組状況

問２　　現在、あなたは地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。上記選択肢や下記活動例を参考に、あてはまる番号に○をつけてください。
＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた取組状況

【図５】

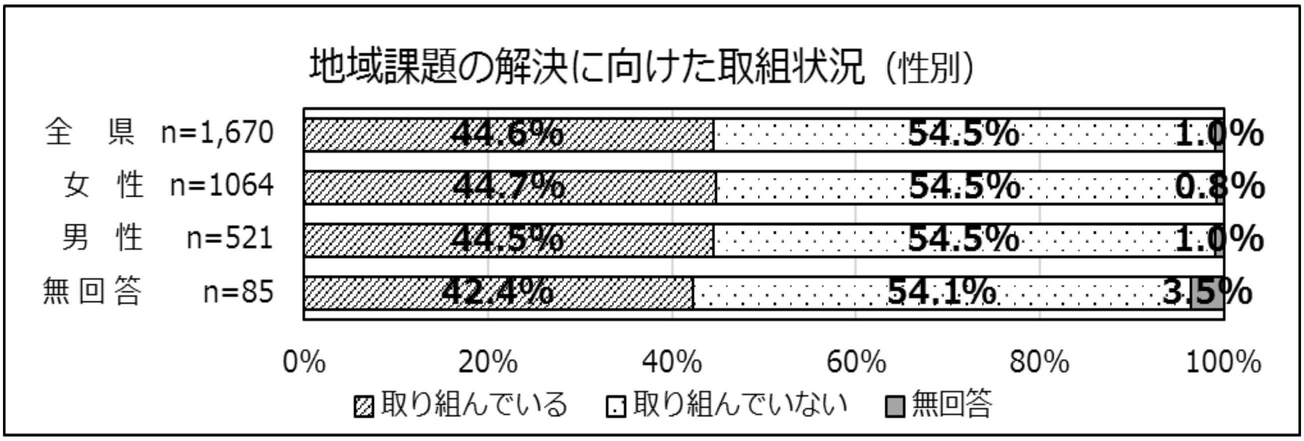


全県でみると、「活動に取り組んでいる」と回答した割合は約45%であった。

地区別にみると、最も活動に取り組んでいる割合が高かったのは上都賀地区で、唯一50%を超える約54%であった。

イ　性別にみた取組状況

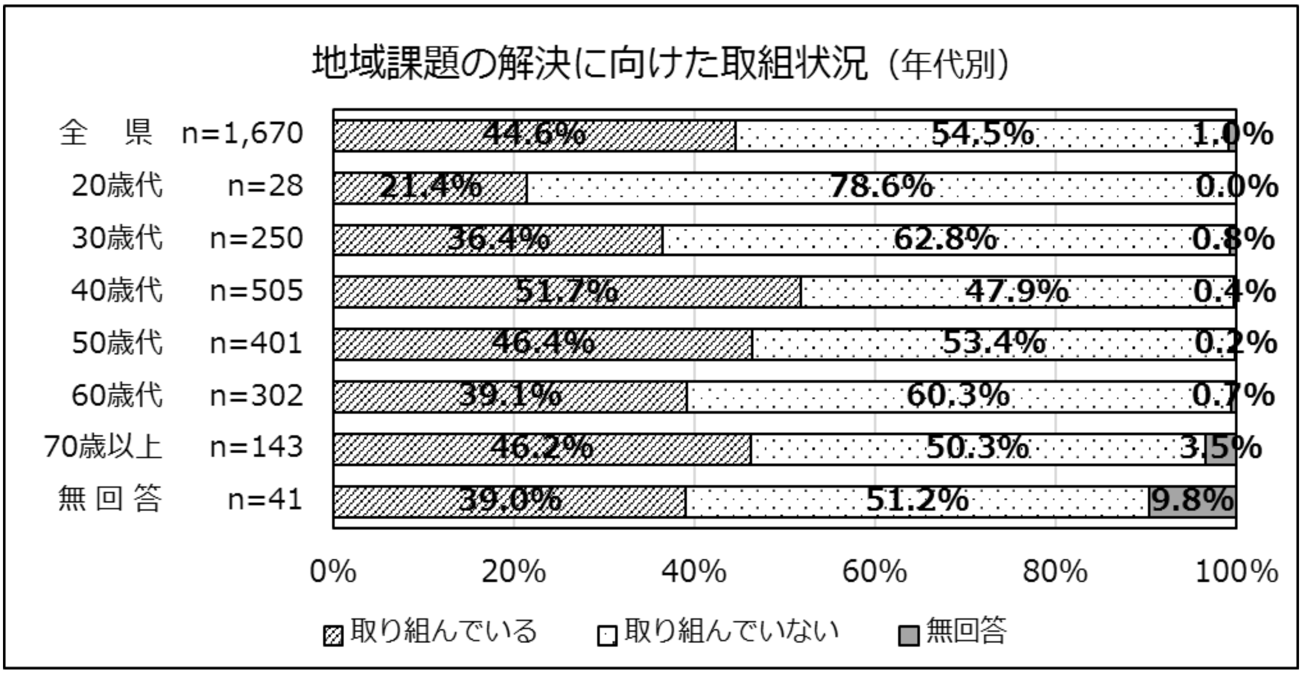
【図６】



前回調査では、「活動に取り組んでいる」と回答した割合は、女性37.6%、男性52.9%と大きな差がみられたが、今回の調査では性別での差異はみられなかった。

ウ　年代別にみた取組状況

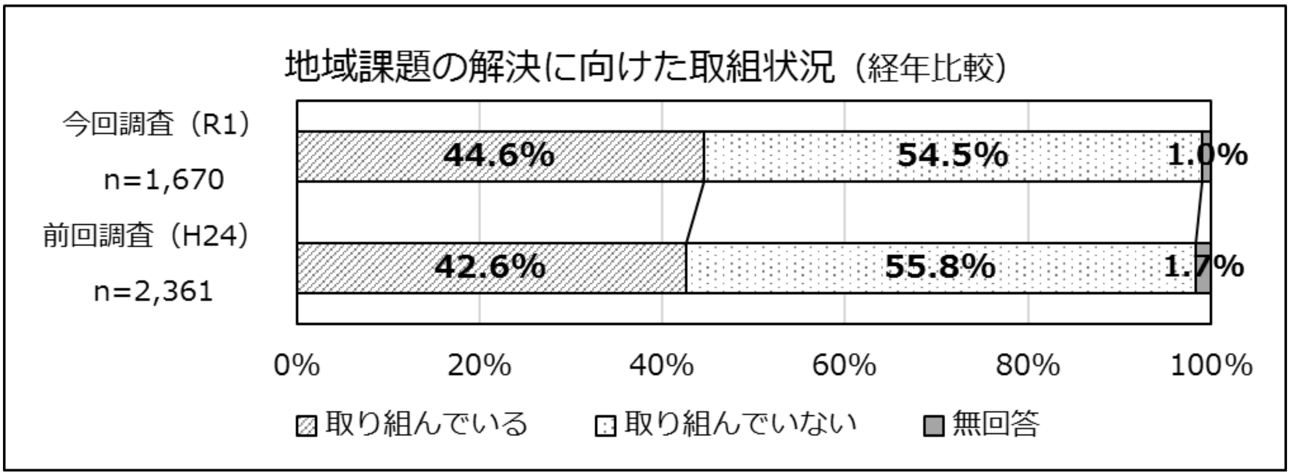
【図７】



年代別に活動の取組状況をみると、「40 歳代」が最も多く、半数以上が何らかの活動に取り組んでいることが分かる。また、50 歳代と 60 歳代で徐々にその回答割合は減少するが、「70 歳以上」でまた急増している。「40 歳代」と「70 歳以上」において活動に取り組んだ経験が増加する傾向は、前回調査と同様である。

エ　取組状況についての過去の調査との比較

【図８】



前回調査と比較し、活動に「取り組んでいる」と回答した割合は、2 ポイントほど増加した。

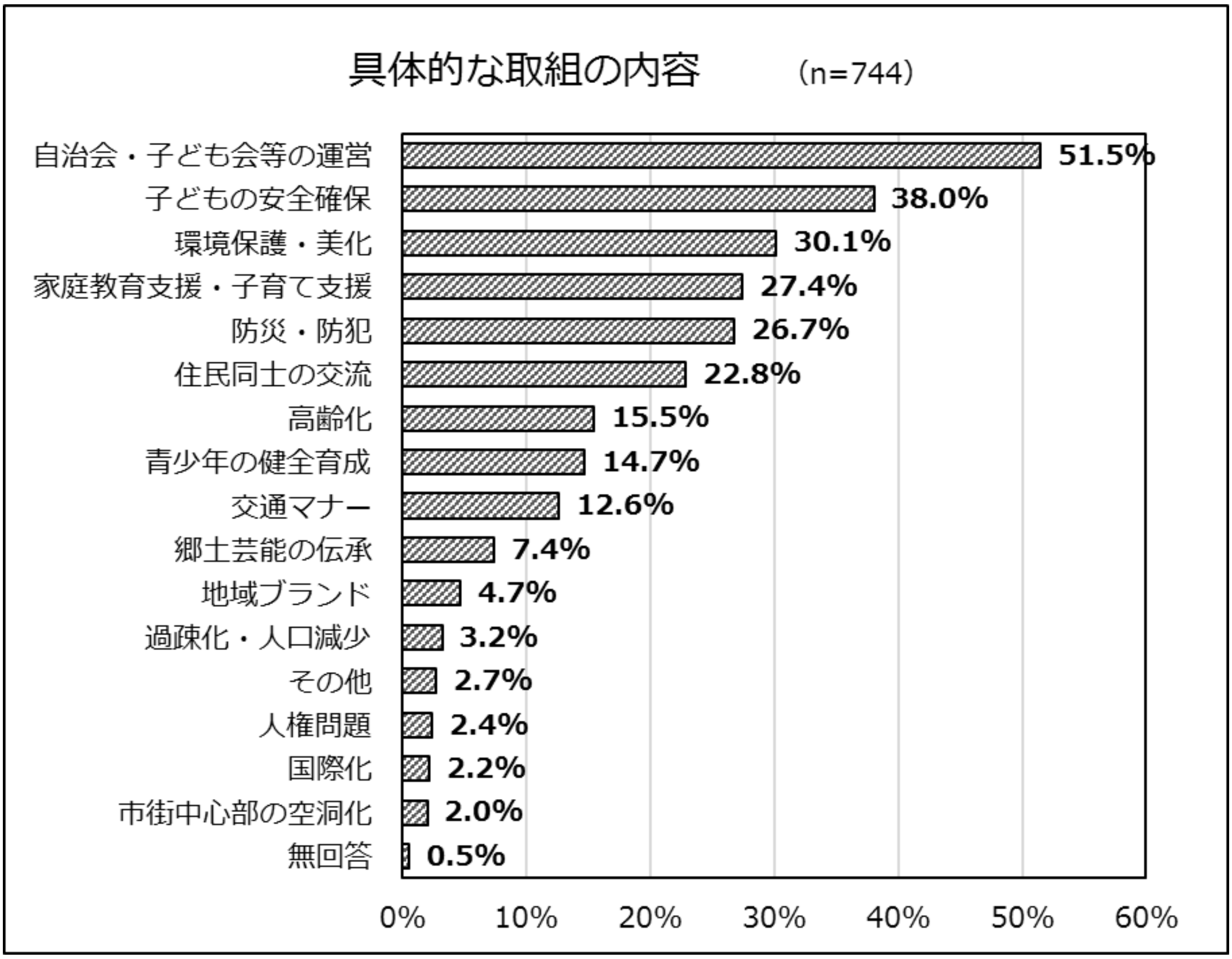
(4) 具体的な取組の内容

問３　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた取組の内容

【図９】



実際に地域課題の解決に向けた活動に取り組んだ経験をもつ744名に対して、その内容について質問した。

全県でみると、「自治会・子ども会等の運営」が 51.5%と最も高く、唯一半数を超えた。また、「子どもの安全確保」「環境保護・美化」が、それに次いで回答割合が高かった。

【表 10】

具体的な取組の内容（地区別）	全　県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県　外 n=4	無回答 n=25
防災・防犯	26.7%	27.3%	31.6%	20.0%	32.2%	18.5%	28.6%	23.8%	0.0%	40.0%
子どもの安全確保	38.0%	41.8%	44.2%	38.9%	44.3%	28.4%	25.0%	40.0%	0.0%	32.0%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	26.7%	29.5%	44.2%	20.0%	28.4%	26.2%	16.3%	25.0%	32.0%
青少年の健全育成	14.7%	12.1%	21.1%	10.5%	14.8%	14.8%	15.5%	13.8%	0.0%	24.0%
郷土芸能の伝承	7.4%	6.1%	9.5%	4.2%	9.6%	4.9%	9.5%	8.8%	0.0%	8.0%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	58.2%	50.5%	44.2%	53.0%	49.4%	48.8%	55.0%	25.0%	40.0%
住民同士の交流	22.8%	18.2%	28.4%	20.0%	20.0%	25.9%	41.7%	15.0%	0.0%	12.0%
高齢化	15.5%	16.4%	11.6%	15.8%	13.0%	16.0%	27.4%	8.8%	0.0%	16.0%
地域ブランド	4.7%	1.8%	6.3%	6.3%	3.5%	7.4%	4.8%	6.3%	0.0%	4.0%
国際化	2.2%	0.6%	3.2%	0.0%	1.7%	2.5%	2.4%	5.0%	0.0%	8.0%
過疎化・人口減少	3.2%	1.2%	6.3%	2.1%	3.5%	4.9%	6.0%	1.3%	0.0%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	30.9%	29.5%	30.5%	29.6%	28.4%	31.0%	36.3%	0.0%	16.0%
人権問題	2.4%	1.8%	4.2%	1.1%	1.7%	1.2%	2.4%	5.0%	0.0%	4.0%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.6%	2.1%	0.0%	4.3%	1.2%	1.2%	3.8%	25.0%	4.0%
交通マナー	12.6%	15.8%	16.8%	13.7%	8.7%	9.9%	13.1%	6.3%	0.0%	20.0%
その他	2.7%	1.2%	2.1%	6.3%	3.5%	4.9%	0.0%	1.3%	25.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%

地区別にみると、全県で最上位であった「自治会・子ども会等の運営」は、全ての地区で回答割合が最も高かった。また、芳賀地区では「家庭教育支援・子育て支援」も同率の回答割合であり、那須地区では「住民同士の交流」が２番目に高くなっているなど、地区の実態を反映した取組内容となっている様子もみられる。

「家庭教育支援・子育て支援」では、回答割合の最も高い芳賀地区と最も低い安足地区で約 28 ポイントの差があり、「住民同士の交流」では、那須地区と安足地区で約 27 ポイントの差があるなど、項目によって地区間の取組内容の差異が顕著であるものもみられる。

イ　性別にみた取組の内容

【表 11】

具体的な取組の内容（性別）	全　県 n=744	女　性 n=476	男　性 n=232	無 回 答 n=36
防災・防犯	26.7%	22.9%	31.9%	44.4%
子どもの安全確保	38.0%	37.8%	37.1%	47.2%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	33.4%	13.8%	36.1%
青少年の健全育成	14.7%	11.6%	21.1%	13.9%
郷土芸能の伝承	7.4%	6.5%	9.1%	8.3%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	52.1%	52.2%	38.9%
住民同士の交流	22.8%	21.2%	28.0%	11.1%
高齢化	15.5%	15.8%	15.5%	11.1%
地域ブランド	4.7%	3.8%	7.3%	0.0%
国際化	2.2%	1.7%	2.6%	5.6%
過疎化・人口減少	3.2%	2.1%	6.0%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	30.5%	29.3%	30.6%
人権問題	2.4%	2.3%	2.2%	5.6%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.8%	4.3%	2.8%
交通マナー	12.6%	11.1%	14.2%	22.2%
その他	2.7%	2.9%	2.2%	2.8%
無回答	0.5%	0.6%	0.0%	2.8%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、4 項目で差異があるといえる。

「防災・防犯」「青少年の健全育成」「住民同士の交流」では男性が女性を上回った。また、「家庭教育支援・子育て支援」では、女性が男性を約 20 ポイント上回った。

ウ　年代別にみた取組の内容

【表 12】

具体的な取組の内容（年代別）	全　県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無回答 n=16
防災・防犯	26.7%	0.0%	20.9%	23.4%	28.5%	30.5%	31.8%	56.3%
子どもの安全確保	38.0%	33.3%	44.0%	46.0%	37.6%	21.2%	30.3%	37.5%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	33.3%	27.5%	24.1%	31.7%	31.4%	19.7%	31.3%
青少年の健全育成	14.7%	33.3%	9.9%	16.5%	18.3%	10.2%	9.1%	18.8%
郷土芸能の伝承	7.4%	0.0%	4.4%	7.7%	6.5%	7.6%	12.1%	12.5%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	0.0%	50.5%	60.2%	52.7%	42.4%	39.4%	37.5%
住民同士の交流	22.8%	16.7%	24.2%	16.5%	22.0%	33.1%	33.3%	12.5%
高齢化	15.5%	0.0%	7.7%	6.5%	10.8%	36.4%	37.9%	18.8%
地域ブランド	4.7%	0.0%	9.9%	5.7%	3.2%	4.2%	0.0%	0.0%
国際化	2.2%	0.0%	2.2%	2.7%	1.6%	1.7%	1.5%	6.3%
過疎化・人口減少	3.2%	0.0%	3.3%	3.1%	2.7%	3.4%	6.1%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	50.0%	34.1%	25.7%	30.1%	33.9%	34.8%	25.0%
人権問題	2.4%	0.0%	0.0%	2.3%	3.8%	2.5%	1.5%	6.3%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.0%	2.2%	2.7%	1.1%	1.7%	3.0%	0.0%
交通マナー	12.6%	16.7%	12.1%	13.0%	10.2%	11.0%	16.7%	31.3%
その他	2.7%	0.0%	4.4%	4.2%	1.6%	0.0%	3.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%	1.5%	6.3%

回答数の少ない 20 歳代を除いた全ての年代で、「自治会・子ども会等の運営」の割合が最も高かった。また、「子どもの安全確保」では 30・40 歳代で、「住民同士の交流」や「高齢化」は 60 歳代と 70 歳以上で、他の年代よりも回答割合が高かった。

「防災・防犯」は、年代が上がるに連れて、回答割合が高かった。

エ　取組の内容についての過去の調査との比較

【表 13】

具体的な取組の内容 **（経年比較）**	今回調査 （R１） n=744	前回調査 （H24） n=1,006	今回調査と 前回調査の 増減
防災・防犯	26.7%	28.6%	*-1.9%*
子どもの安全確保	38.0%	34.0%	*4.0%*
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	20.3%	*7.1%*
青少年の健全育成	14.7%	18.7%	*-4.0%*
郷土芸能の伝承	7.4%	10.9%	*-3.5%*
自治会・子ども会等の運営	51.5%	45.8%	*5.7%*
住民同士の交流	22.8%	29.0%	*-6.2%*
高齢化	15.5%	27.7%	*-12.2%*
地域ブランド	4.7%	−	−
国際化	2.2%	2.1%	*0.1%*
過疎化・人口減少	3.2%	3.3%	*-0.1%*
環境保護・美化	30.1%	32.0%	*-1.9%*
人権問題	2.4%	4.3%	*-1.9%*
市街中心部の空洞化	2.0%	4.1%	*-2.1%*
交通マナー	12.6%	−	−
消費者問題	−	3.9%	−
男女共同参画	−	8.8%	−
その他	2.7%	1.8%	*0.9%*
無回答	0.5%	−	−

前回調査と比較し、回答割合が最も増加した項目は「家庭教育支援・子育て支援」で、7.1 ポイント増加した。次いで、「自治会・子ども会等の運営」で 5.7 ポイント、「子どもの安全確保」で 4.0 ポイント、それぞれ増加した。

それに対して、回答割合が最も減少した項目は「高齢化」で 12.2 ポイント減少した。次いで、「住民同士の交流」が 6.2 ポイント、「青少年の健全育成」が 4.0 ポイント、それぞれ減少した。

また、今回調査で新たに追加した「交通マナー」が 12.6%と、活動している方が相当数いることが分かる。

《参考：問３「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎学校支援ボランティア　　　○スポーツ指導　　　○耕作放棄地への対応

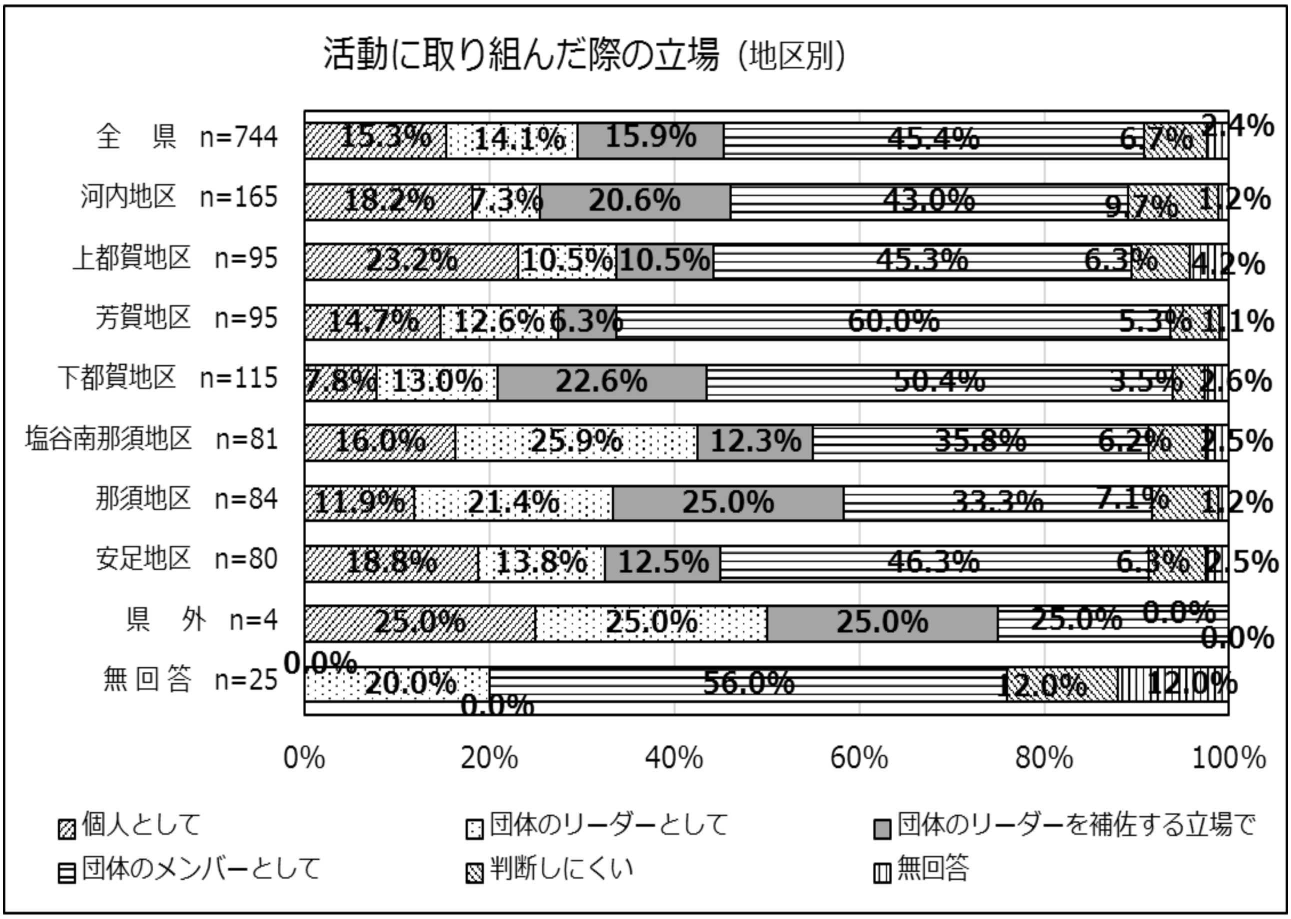
(5)　活動に取り組んだ際の立場

問４　　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。活動にはどのような立場で取り組まれています（いました）か。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

【図 10】

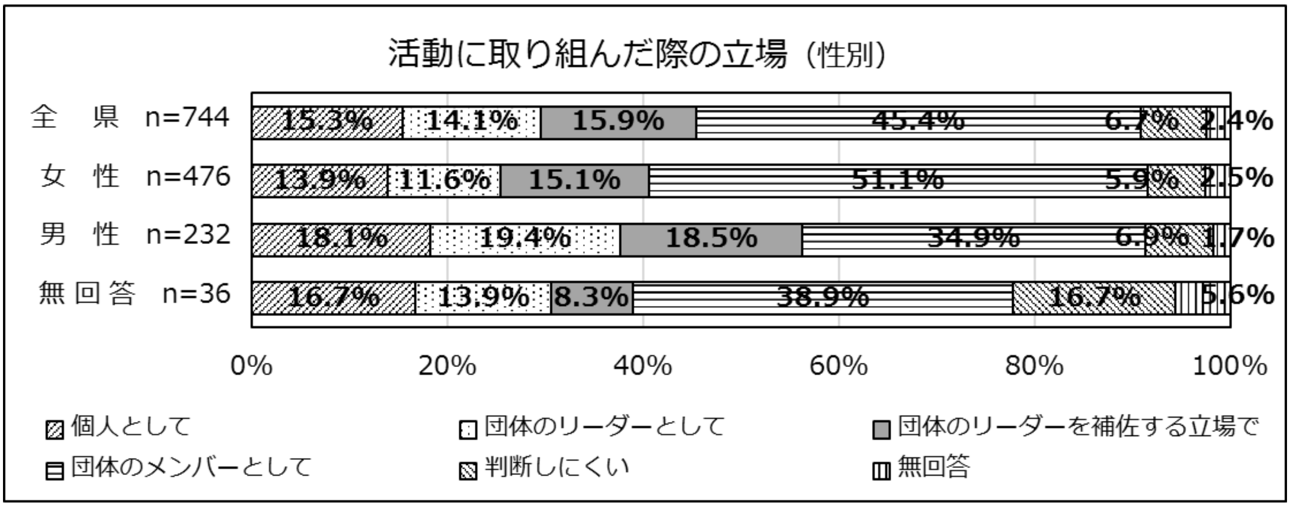


リーダーとして活動経験をもつと回答した割合は、最も高い地区が 25.9%、最も低い地区で 7.3%と 3 倍以上の開きがあった。また、個人で活動していると回答した割合も、最も高い地区が 23.2%、最も低い地区で 7.8%と 3 倍近くの開きがあった。塩谷南那須地区、那須地区で、リーダーとしての活動経験をもつ割合が高い傾向は、前回調査と同様である。

全県でみても、個人での活動は 15.3%、団体に所属しての活動が 75.4%と、地域課題解決に向けた活動は、何らかの団体やグループで取り組まれていることが多いことが分かる。

イ　性別にみた状況

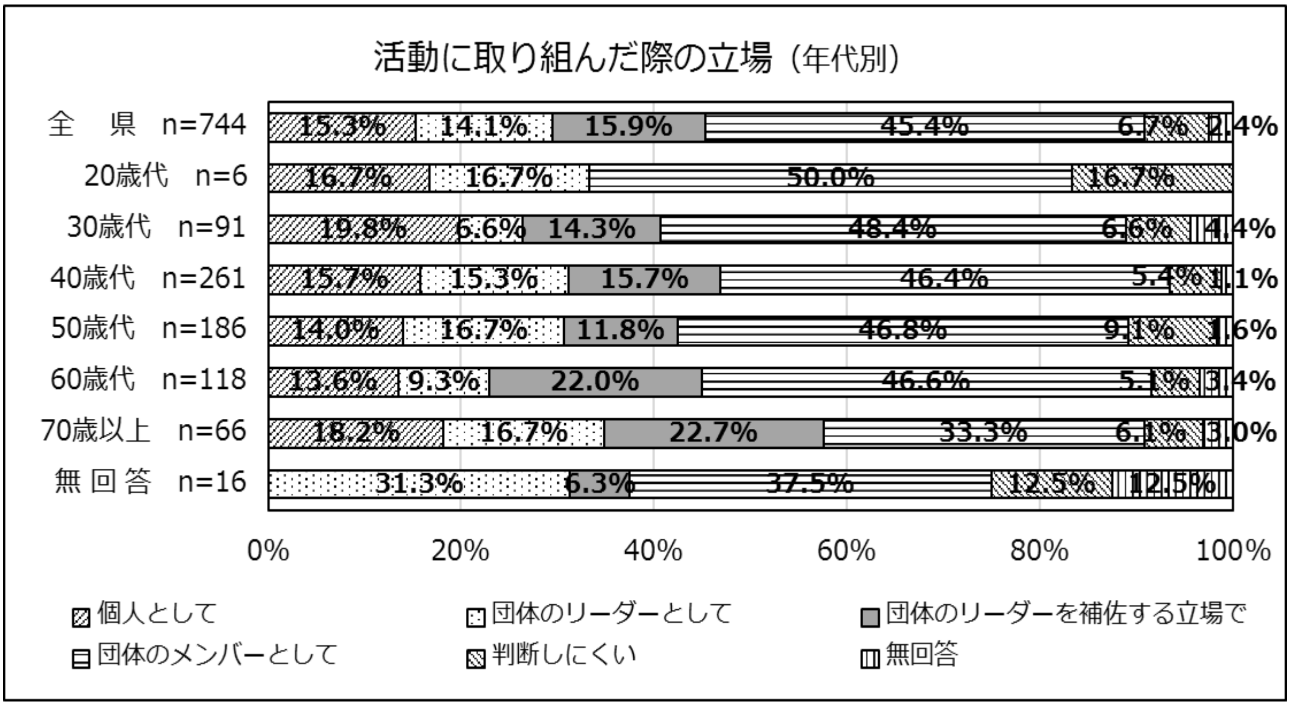
【図 11】



個人として活動する割合は、男性が女性をやや上回った。また、団体においてリーダーを補佐する立場を務める割合においても同様であった。リーダーとしての活動については、男性が女性を約８ポイント上回った。一方で、役職に就かないメンバーとして活動すると回答した割合では、女性が男性を約 16 ポイント上回る結果となった。

ウ　年代別にみた状況

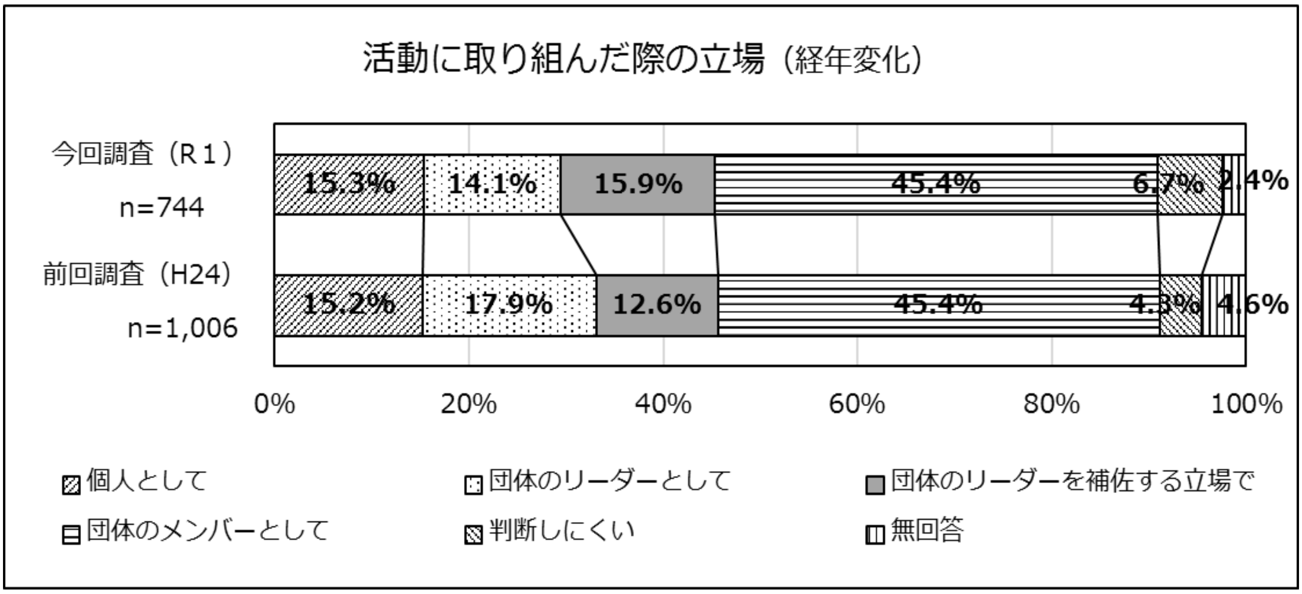
【図 12】



個人で活動している割合は、年代別にみて大きな差はみられない。また、団体に属して活動していると回答した割合は、40 歳代で最も高くなった。リーダーやリーダーを補佐するなど、団体の中心的な立場で活動している割合は、70 歳以上で最も高くなり、次いで 40 歳代となった。

エ　活動に取り組んだ際の立場についての過去の調査との比較

【図 13】



リーダーとリーダーを補佐する立場それぞれで３ポイントほどの差がみられたが、両者はともに団体の中心的な立場であり、その割合に大きな変化はない。したがって、前回調査とほぼ同じような結果であったといえる。

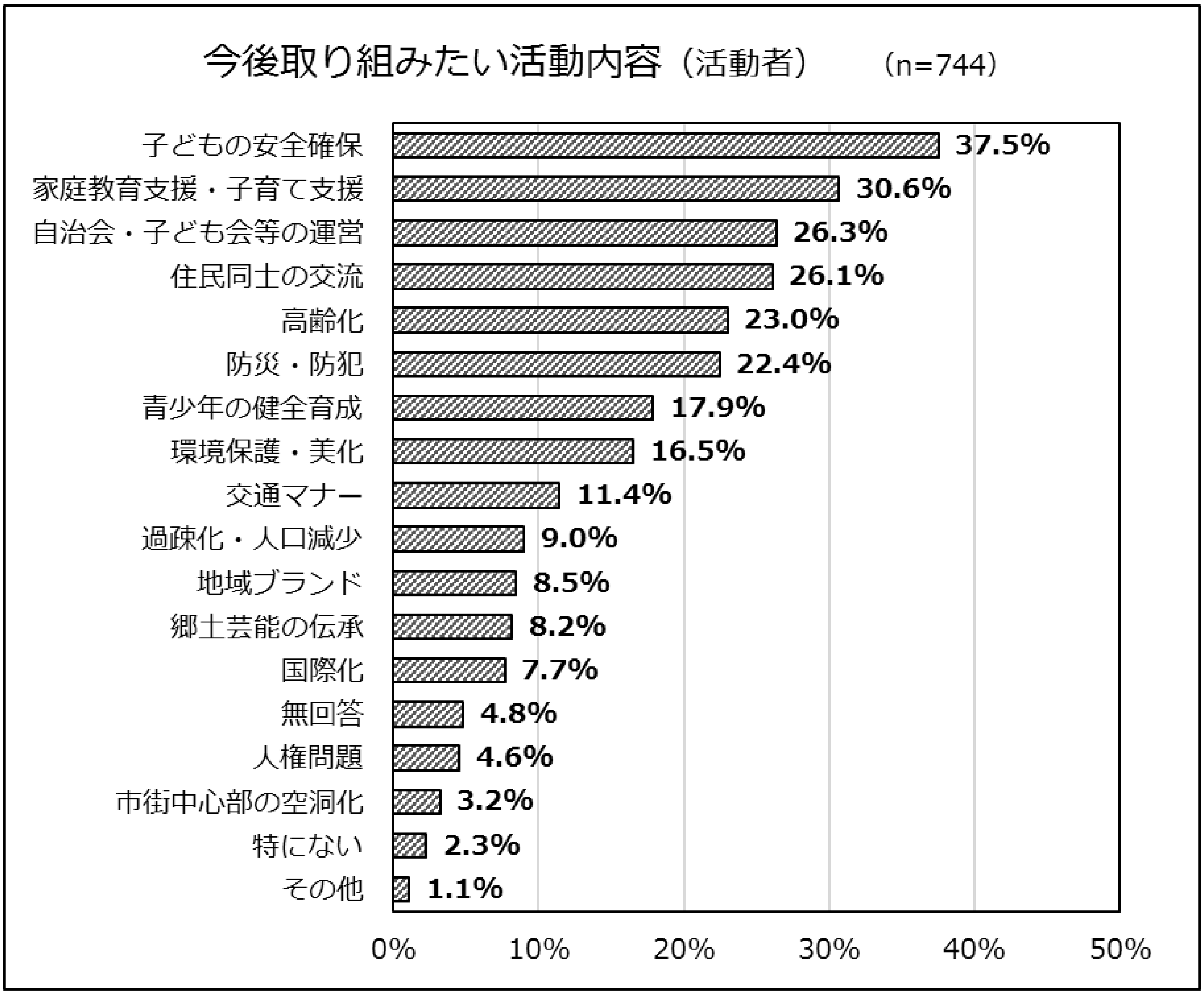
(6)　今後取り組みたい活動内容

問５　　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。今後、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた取り組みたい活動内容

【図 14】



全県でみると、「子どもの安全確保」が 37.5%で回答割合が最も高かった。次いで、「家庭教育支援・子育て支援」「自治会・子ども会等の運営」であった。

【表 14】

取り組みたい活動内容（地区別）	全　県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県　外 n=4	無回答 n=25
防災・防犯	22.4%	22.4%	17.9%	25.3%	25.2%	21.0%	23.8%	21.3%	0.0%	24.0%
子どもの安全確保	37.5%	40.6%	42.1%	38.9%	41.7%	34.6%	25.0%	36.3%	50.0%	28.0%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	27.9%	30.5%	41.1%	32.2%	32.1%	28.6%	26.3%	25.0%	20.0%
青少年の健全育成	17.9%	15.2%	20.0%	17.9%	18.3%	11.1%	26.2%	16.3%	50.0%	20.0%
郷土芸能の伝承	8.2%	6.7%	14.7%	7.4%	8.7%	4.9%	11.9%	3.8%	0.0%	8.0%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	30.3%	24.2%	25.3%	34.8%	17.3%	29.8%	16.3%	50.0%	20.0%
住民同士の交流	26.1%	26.7%	25.3%	23.2%	25.2%	29.6%	42.9%	12.5%	0.0%	20.0%
高齢化	23.0%	26.1%	17.9%	14.7%	23.5%	23.5%	34.5%	20.0%	0.0%	24.0%
地域ブランド	8.5%	4.8%	8.4%	10.5%	7.0%	9.9%	13.1%	10.0%	0.0%	8.0%
国際化	7.7%	8.5%	6.3%	5.3%	8.7%	8.6%	6.0%	8.8%	25.0%	8.0%
過疎化・人口減少	9.0%	3.6%	13.7%	9.5%	8.7%	11.1%	15.5%	7.5%	25.0%	0.0%
環境保護・美化	16.5%	18.8%	12.6%	21.1%	16.5%	13.6%	13.1%	18.8%	0.0%	16.0%
人権問題	4.6%	1.2%	6.3%	4.2%	9.6%	3.7%	3.6%	6.3%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	1.2%	4.2%	0.0%	2.6%	2.5%	3.6%	7.5%	25.0%	12.0%
交通マナー	11.4%	13.3%	12.6%	12.6%	14.8%	7.4%	11.9%	5.0%	25.0%	4.0%
特にない	2.3%	3.0%	0.0%	2.1%	1.7%	4.9%	3.6%	1.3%	0.0%	0.0%
その他	1.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.9%	3.7%	1.2%	0.0%	0.0%	4.0%
無回答	4.8%	4.2%	5.3%	3.2%	4.3%	3.7%	2.4%	6.3%	0.0%	24.0%

地区別にみると、全県で回答割合の最も高かった「子どもの安全確保」は、河内、上都賀、下都賀、塩谷南那須、安足の各地区で最上位であった。また、芳賀地区では「家庭教育支援・子育て支援」が、那須地区では「住民同士の交流」が最上位であった。

項目毎にみると、地区間でのばらつきが多くみられ、回答割合の最も高い那須地区と最も低い安足地区の差が「住民同士の交流」では 30 ポイント以上もあった。他にも、「高齢化」では約 20 ポイント、「自治会・子ども会等の運営」では約 18 ポイント、「子どもの安全確保」では約 17 ポイント、「家庭教育支援・子育て支援」「青少年の健全育成」では約 15 ポイントの差がみられた。

イ　性別にみた取り組みたい活動内容

【表 15】

取り組みたい活動内容（性別）	全　県 n=744	女　性 n=476	男　性 n=232	無回答 n=36
防災・防犯	22.4%	20.6%	25.9%	25.0%
子どもの安全確保	37.5%	38.7%	35.8%	33.3%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	37.6%	17.2%	25.0%
青少年の健全育成	17.9%	15.5%	22.0%	22.2%
郷土芸能の伝承	8.2%	6.3%	12.1%	8.3%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	25.4%	28.9%	22.2%
住民同士の交流	26.1%	26.5%	25.9%	22.2%
高齢化	23.0%	21.2%	25.4%	30.6%
地域ブランド	8.5%	5.0%	15.9%	5.6%
国際化	7.7%	6.7%	8.2%	16.7%
過疎化・人口減少	9.0%	6.3%	15.1%	5.6%
環境保護・美化	16.5%	16.4%	16.4%	19.4%
人権問題	4.6%	4.6%	5.2%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	1.9%	5.2%	8.3%
交通マナー	11.4%	10.5%	13.4%	11.1%
特にない	2.3%	2.5%	1.7%	2.8%
その他	1.1%	0.6%	1.7%	2.8%
無回答	4.8%	5.3%	2.2%	16.7%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、６項目で差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは１項目のみで、「家庭教育支援・子育て支援」で約 20 ポイントの差があった。それに対して、男性が女性を上回ったものは５項目あり、「地域ブランド」では約 10 ポイントの差があり、次いで「過疎化・人口減少」「青少年の健全育成」「郷土芸能の伝承」「防災・防犯」であった。

ウ　年代別にみた取り組みたい活動内容

【表 16】

取り組みたい活動内容（年代別）	全　県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無 回 答 n=16
防災・防犯	22.4%	16.7%	20.9%	19.5%	22.0%	25.4%	31.8%	25.0%
子どもの安全確保	37.5%	33.3%	48.4%	45.2%	35.5%	25.4%	21.2%	7.6%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	16.7%	34.1%	33.3%	34.9%	27.1%	13.6%	4.5%
青少年の健全育成	17.9%	0.0%	12.1%	21.1%	24.7%	10.2%	9.1%	4.5%
郷土芸能の伝承	8.2%	33.3%	8.8%	6.1%	6.5%	14.4%	7.6%	1.5%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	0.0%	24.2%	33.3%	16.7%	28.8%	27.3%	6.1%
住民同士の交流	26.1%	50.0%	18.7%	19.2%	28.5%	38.1%	34.8%	4.5%
高齢化	23.0%	0.0%	8.8%	15.3%	23.7%	39.0%	42.4%	7.6%
地域ブランド	8.5%	16.7%	12.1%	7.3%	9.7%	8.5%	4.5%	1.5%
国際化	7.7%	16.7%	6.6%	9.6%	4.8%	8.5%	6.1%	3.0%
過疎化・人口減少	9.0%	16.7%	3.3%	10.7%	10.8%	8.5%	7.6%	0.0%
環境保護・美化	16.5%	0.0%	15.4%	12.6%	17.2%	18.6%	27.3%	6.1%
人権問題	4.6%	16.7%	8.8%	6.1%	2.2%	4.2%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	16.7%	2.2%	4.2%	1.6%	2.5%	3.0%	3.0%
交通マナー	11.4%	0.0%	9.9%	14.6%	9.7%	8.5%	13.6%	1.5%
特にない	2.3%	0.0%	2.2%	3.1%	2.7%	0.8%	1.5%	0.0%
その他	1.1%	0.0%	2.2%	1.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4.8%	0.0%	7.7%	3.4%	2.7%	5.1%	6.1%	7.6%

「地域ブランド」では 20・30 歳代が、「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」では 30～50 歳代が、「青少年の健全育成」では 40・50 歳代が、「防災・防犯」「住民同士の交流」「高齢化」「環境保護・美化」では 60 歳代・70 歳以上の回答割合がそれぞれ高くなっている。

《参考：問５「その他」の主な回答記述》

○空き家の活用　　　○子どもの交流の場づくり

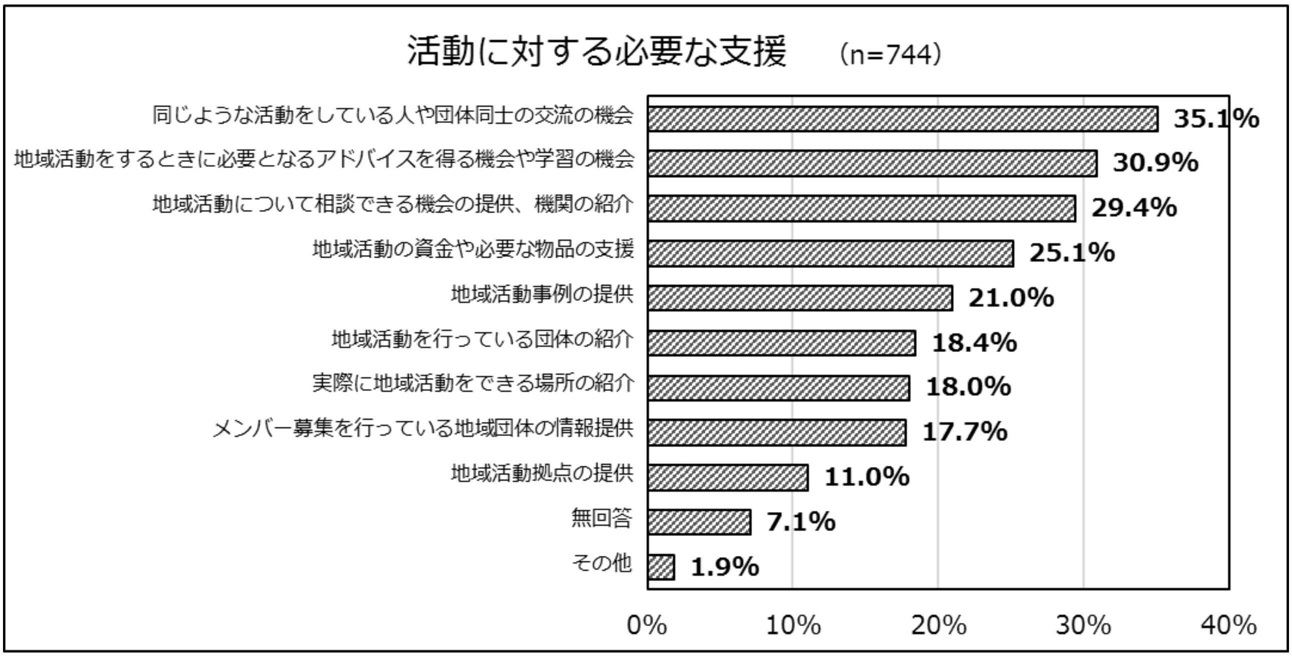
(7) 活動に対する必要な支援

問６　　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。どのような手助けがあるとさらに活動に取り組みやすくなると思いますか。あてはまる番号３つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた必要な支援

【図 15】



【表 17】

活動に対する必要な支援	全　県	河内地区	上都賀地区	芳賀地区	下都賀地区	塩谷南那須地区	那須地区	安足地区	県　外	無回答
（地区別）	n=744	n=165	n=95	n=95	n=115	n=81	n=84	n=80	n=4	n=25
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	32.1%	27.4%	32.6%	24.3%	29.6%	33.3%	27.5%	50.0%	20.0%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	20.0%	15.8%	14.7%	15.7%	19.8%	15.5%	18.8%	100.0%	16.0%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	17.6%	15.8%	22.1%	19.1%	13.6%	14.3%	21.3%	50.0%	32.0%
実際に地域活動をできる場所の紹介	18.0%	17.0%	12.6%	21.1%	19.1%	25.9%	14.3%	17.5%	25.0%	16.0%
地域活動事例の提供	21.0%	18.8%	20.0%	21.1%	23.5%	21.0%	25.0%	22.5%	25.0%	8.0%
地域活動拠点の提供	11.0%	8.5%	13.7%	6.3%	10.4%	13.6%	14.3%	12.5%	0.0%	16.0%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	35.2%	32.6%	22.1%	25.2%	35.8%	34.5%	32.5%	25.0%	24.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	32.1%	36.8%	33.7%	42.6%	38.3%	31.0%	32.5%	25.0%	32.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	22.4%	28.4%	26.3%	27.8%	23.5%	31.0%	22.5%	0.0%	12.0%
その他	1.9%	2.4%	3.2%	1.1%	0.9%	1.2%	3.6%	1.3%	0.0%	0.0%
無回答	7.1%	7.9%	6.3%	6.3%	7.0%	3.7%	7.1%	6.3%	0.0%	24.0%

全県でみると、「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」の回答割合が35.1%と最も高く、地区別にみても河内地区、那須地区を除く5つの地区で最上位となった。
次いで、河内、那須、安足の各地区で最上位（安足は最上位に2項目）の「地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」となり、この2項目の回答割合が30%を超えた。また、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」が 29.1%、「地域活動の資金や必要な物品の支援」が 25.1%と、これらの 2 項目も高い回答割合となった。
上に挙げた4項目が、順序は違えど各地区の上位4項目となり、地区間による大きな差異はみられなかった。

イ　性別にみた必要な支援

【表 18】

活動に対する必要な支援（性別）	全　県 n=744	女　性 n=476	男　性 n=232	無回答 n=36
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	28.2%	34.1%	16.7%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	18.5%	17.2%	11.1%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	18.9%	17.7%	16.7%
実際に地域活動をできる場所の紹介	18.0%	17.9%	18.5%	16.7%
地域活動事例の提供	21.0%	21.0%	22.4%	11.1%
地域活動拠点の提供	11.0%	11.3%	11.2%	5.6%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	32.8%	28.0%	25.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	36.3%	34.1%	25.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	23.7%	27.6%	27.8%
その他	1.9%	1.1%	3.4%	2.8%
無回答	7.1%	6.1%	5.6%	30.6%

「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」が、男性が女性を約6ポイント上回ったが、それ以外の項目については性別による大きな差異はみられなかった。

ウ　年代別にみた必要な支援

【表 19】

活動に対する必要な支援（年代別）	全　県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無回答 n=16
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	33.3%	28.6%	28.7%	34.4%	26.3%	28.8%	12.5%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	16.7%	16.5%	19.9%	19.9%	16.9%	9.1%	6.3%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	33.3%	17.6%	19.2%	18.8%	16.9%	13.6%	31.3%
実際に地域活動をできる場所の紹介	18.0%	33.3%	15.4%	16.1%	18.3%	20.3%	22.7%	18.8%
地域活動事例の提供	21.0%	0.0%	19.8%	24.5%	16.7%	19.5%	28.8%	6.3%
地域活動拠点の提供	11.0%	0.0%	9.9%	10.0%	14.0%	10.2%	12.1%	6.3%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	0.0%	26.4%	30.7%	28.5%	40.7%	31.8%	25.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	0.0%	36.3%	37.5%	36.0%	33.9%	28.8%	25.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	50.0%	27.5%	23.0%	30.6%	22.0%	22.7%	6.3%
その他	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	2.7%	1.7%	3.0%	0.0%
無回答	7.1%	0.0%	9.9%	3.8%	4.3%	7.6%	15.2%	43.8%

「地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」が 60 歳代で 40.7%と、他の年代と比較して回答割合が高かった。仕事を退職して、地域に意識が向いたり、地域活動を始めたいと考えたりする年代だからこそ、必要な支援だろう。他の項目については、年代間の大きな差異はみられなかった。

《参考：問６「その他」の主な回答記述》

○スタッフを募集する際の広報活動　　　○地元企業・行政・住民の合同会議

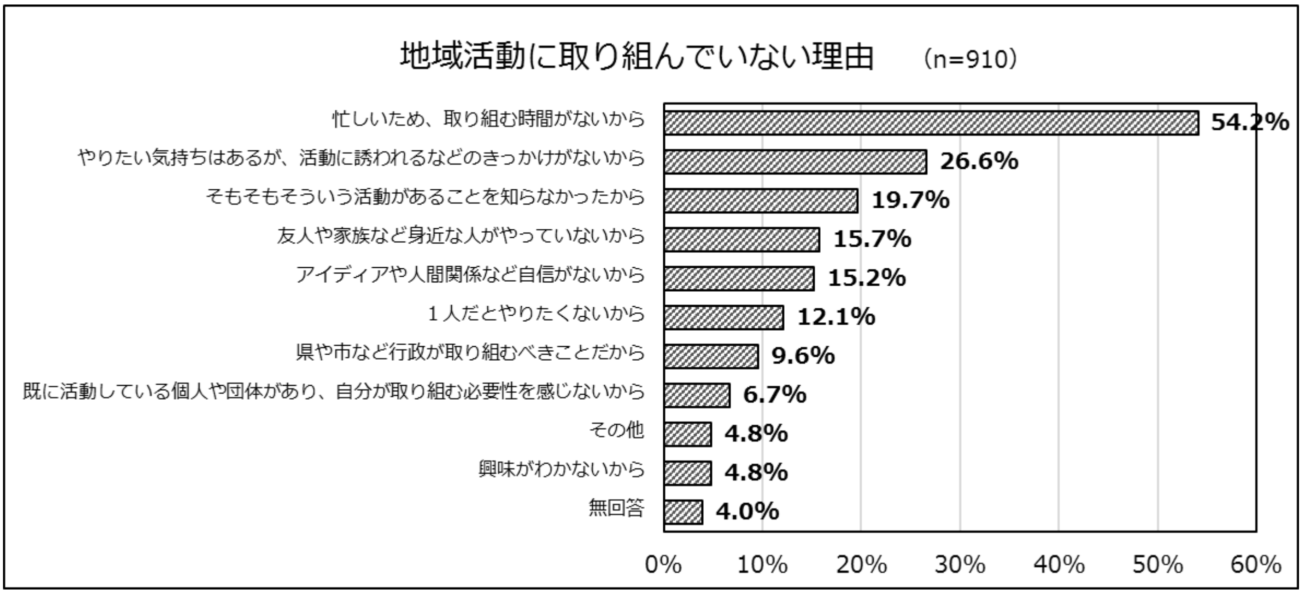
(8) 地域活動に取り組んでいない理由

問７　　問２で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組まれていない理由は何ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

【図 16】



【表 20】

取り組んでいない理由	全　県	河内地区	上都賀地区	芳賀地区	下都賀地区	塩谷南那須地区	那須地区	安足地区	県　外	無回答
(地区別)	n=910	n=164	n=82	n=149	n=161	n=103	n=113	n=103	n=4	n=31
忙しいため、取り組む時間がないから	54.2%	51.2%	53.7%	51.0%	47.8%	58.3%	57.5%	65.0%	75.0%	54.8%
友人や家族など身近な人がやっていないから	15.7%	18.9%	15.9%	16.1%	18.6%	12.6%	13.3%	12.6%	25.0%	9.7%
１人だとやりたくないから	12.1%	12.2%	11.0%	15.4%	13.7%	11.7%	9.7%	11.7%	25.0%	0.0%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	28.0%	22.0%	24.2%	32.9%	23.3%	23.9%	26.2%	50.0%	29.0%
アイディアや人間関係など自信がないから	15.2%	15.2%	17.1%	18.1%	18.6%	11.7%	14.2%	8.7%	25.0%	12.9%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	19.7%	21.3%	7.3%	28.9%	14.9%	19.4%	20.4%	24.3%	25.0%	6.5%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	11.0%	9.8%	4.0%	4.3%	5.8%	8.0%	2.9%	0.0%	12.9%
県や市など行政が取り組むべきことだから	9.6%	4.9%	13.4%	14.1%	9.9%	11.7%	8.0%	7.8%	0.0%	6.5%
興味がわかないから	4.8%	3.7%	6.1%	6.0%	4.3%	4.9%	6.2%	2.9%	0.0%	6.5%
その他	4.8%	5.5%	4.9%	4.7%	6.2%	2.9%	4.4%	3.9%	0.0%	6.5%
無回答	4.0%	6.1%	3.7%	3.4%	3.7%	4.9%	3.5%	1.0%	0.0%	6.5%

地域活動の解決に向けた活動に取り組んだ経験がないと回答した 910 名に、その理由について質問した。

全ての地区で、「忙しいため、取り組む時間がないから」という回答割合が最も高く、全県で 54.2%であった。次いで、「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」で、全県で 26.6%であり、芳賀地区を除いた 6 地区で、2 番目に高い回答割合であった。

イ　性別にみた状況

【表 21】

取り組んでいない理由（性別）	全　県 n=910	女　性 n=580	男　性 n=284	無回答 n=46
忙しいため、取り組む時間がないから	54.2%	51.6%	59.2%	56.5%
友人や家族など身近な人がやっていないから	15.7%	16.6%	16.2%	2.2%
１人だとやりたくないから	12.1%	11.9%	14.1%	2.2%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	26.9%	25.7%	28.3%
アイディアや人間関係など自信がないから	15.2%	16.4%	13.7%	8.7%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	19.7%	19.8%	19.7%	17.4%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	6.2%	7.7%	6.5%
県や市など行政が取り組むべきことだから	9.6%	9.3%	10.2%	8.7%
興味がわかないから	4.8%	4.7%	4.9%	6.5%
その他	4.8%	5.2%	3.5%	8.7%
無回答	4.0%	5.0%	1.4%	6.5%

「忙しいため、取り組む時間がないから」が、男性が女性を約８ポイント上回った。それ以外の項目については、性別による差異はみられなかった。

ウ　年代別にみた状況

【表 22】

取り組んでいない理由（年代別）	全　県 n=910	20歳代 n=22	30歳代 n=157	40歳代 n=242	50歳代 n=214	60歳代 n=182	70歳以上 n=72	無 回 答 n=21
忙しいため、取り組む時間がないから	54.2%	54.5%	58.6%	55.4%	73.4%	35.7%	30.6%	52.4%
友人や家族など身近な人がやっていないから	15.7%	13.6%	19.1%	14.0%	12.1%	20.3%	16.7%	4.8%
１人だとやりたくないから	12.1%	9.1%	12.1%	11.6%	10.3%	17.6%	9.7%	0.0%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	22.7%	21.7%	21.5%	20.6%	40.1%	37.5%	33.3%
アイディアや人間関係など自信がないから	15.2%	27.3%	15.3%	14.5%	10.7%	21.4%	12.5%	9.5%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	19.7%	18.2%	26.1%	25.2%	10.7%	18.1%	20.8%	9.5%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	4.5%	2.5%	5.0%	8.9%	9.3%	8.3%	9.5%
県や市など行政が取り組むべきことだから	9.6%	0.0%	15.3%	9.1%	10.7%	8.2%	2.8%	4.8%
興味がわかないから	4.8%	13.6%	4.5%	3.7%	5.6%	4.9%	5.6%	0.0%
その他	4.8%	9.1%	4.5%	3.7%	5.6%	4.4%	5.6%	9.5%
無回答	4.0%	0.0%	1.3%	2.9%	1.4%	7.7%	11.1%	9.5%

全ての年代で、「忙しいため、取り組む時間がないから」の割合が最も高かったが、とりわけ 50 歳代で 73.4%と突出している。30・40 歳代では「そもそもそういう活動があることを知らなかったから」が、60 歳代・70 歳以上では「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」の回答割合が高かった。

エ　取り組んでいない理由についての過去の調査との比較

【表 23】

取り組んでいない理由（経年比較）	今回調査（R１） n=910	前回調査（H24） n=1,778	今回調査と前回調査の増減
忙しいため、取り組む時間がないから	54.2%	49.7%	*4.5%*
友人や家族など身近な人がやっていないから	15.7%	−	−
１人だとやりたくないから（前回調査：仲間がいないから）	12.1%	24.7%	*-12.6%*
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	−	−
アイディアや人間関係など自信がないから	15.2%	23.5%	*-8.3%*
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	19.7%	−	−
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	8.2%	*-1.5%*
県や市など行政が取り組むべきことだから	9.6%	12.5%	*-2.9%*
興味がわかないから	4.8%	10.6%	*-5.8%*
その他	4.8%	5.8%	*-1.0%*
無回答	4.0%	−	−

前回調査と比較して選択肢を増やした（一部変更した）ので単純比較はできないが、やはり「忙しいため、取り組む時間がないから」という理由が、前回調査に続いて回答割合が最も高い項目となった。

残りの項目は全て前回調査よりも回答割合が減少した。しかし、今回調査に新たに追加した項目「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」が約 27%、「そもそもそういう活動があることを知らなかった」が約 20%と回答割合が高かった。

《参考：問７「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎どう取り組んでいいか分からないから

◎家庭内に介護する人がいるため

◎小さな子どもがいて活動ができるか分からないから

◎引っ越して間がなく地域になじめていないから

○個人で解決できる課題ではないため

○情報が少ないから

○高齢で自分のことで精一杯であるから

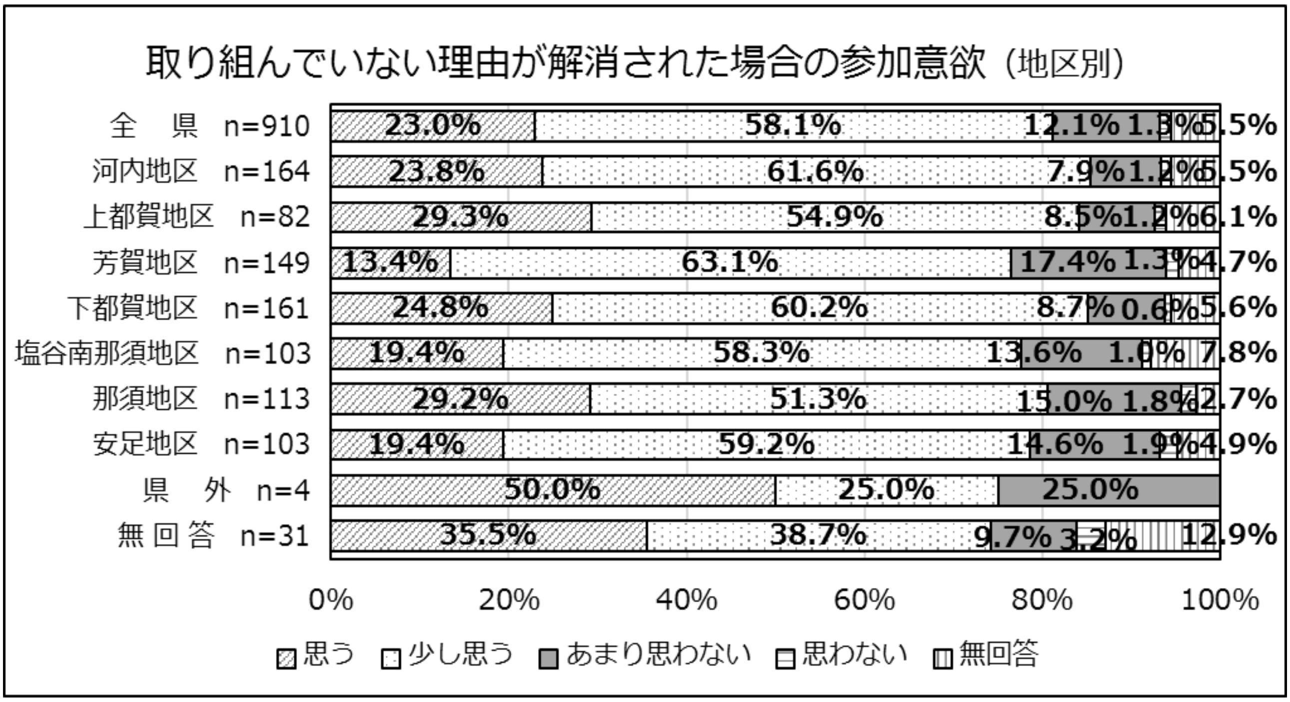
(9)　取り組んでいない理由が解消された場合の参加意欲

問８　　問２で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組んでいない理由が解消された場合、地域課題解決に向けた活動に取り組もうと思いますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

【図 17】

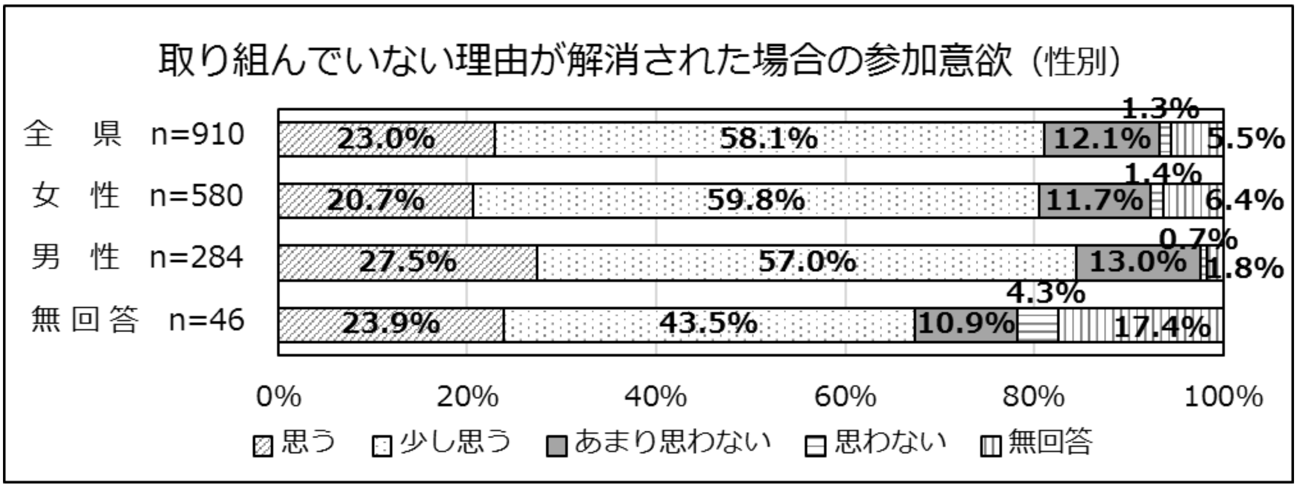


「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」それぞれの割合は、地区間により多少のばらつきはあるが、両者の回答割合の合計は各地区で 80%前後であった。

全県でみると、「取り組もうと思う」が約 23%、「取り組もうと少し思う」が約 58%となった。

イ　性別にみた状況

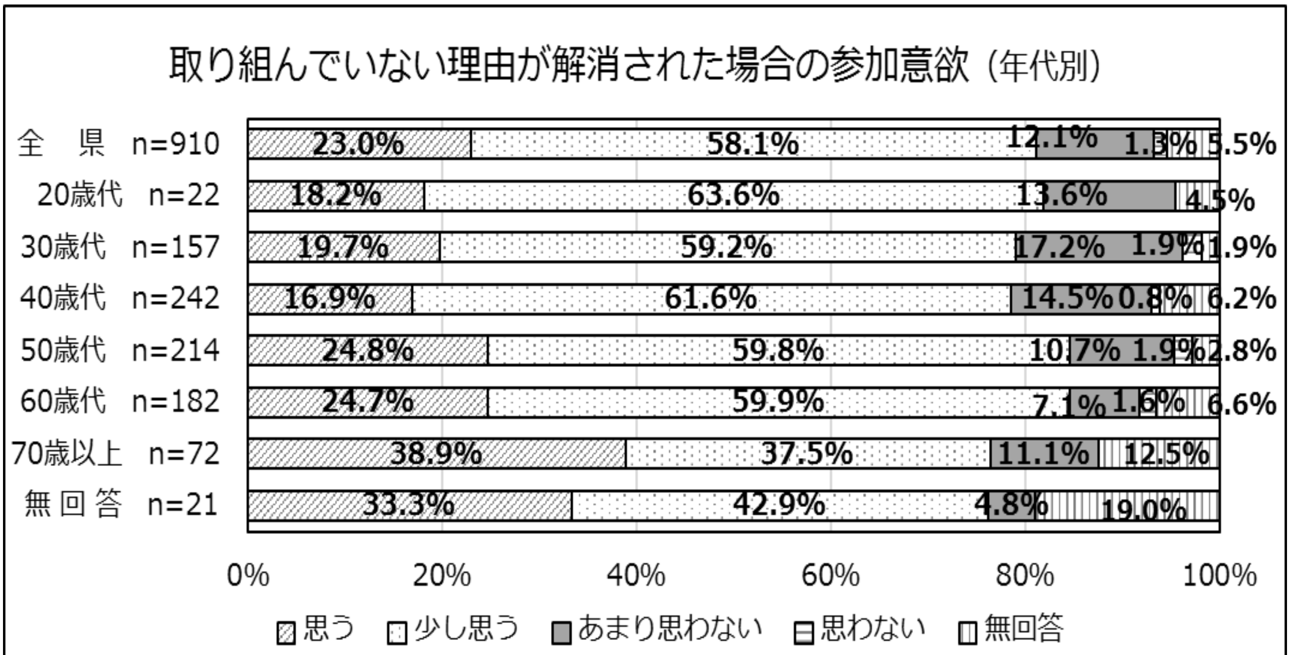
【図 18】



「取り組もうと思う」と積極的な意欲を示す回答割合は、男性が女性を約７ポイント上回った。「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の合計でも、男性が女性を約４ポイント上回っている。

ウ　年代別に見た状況

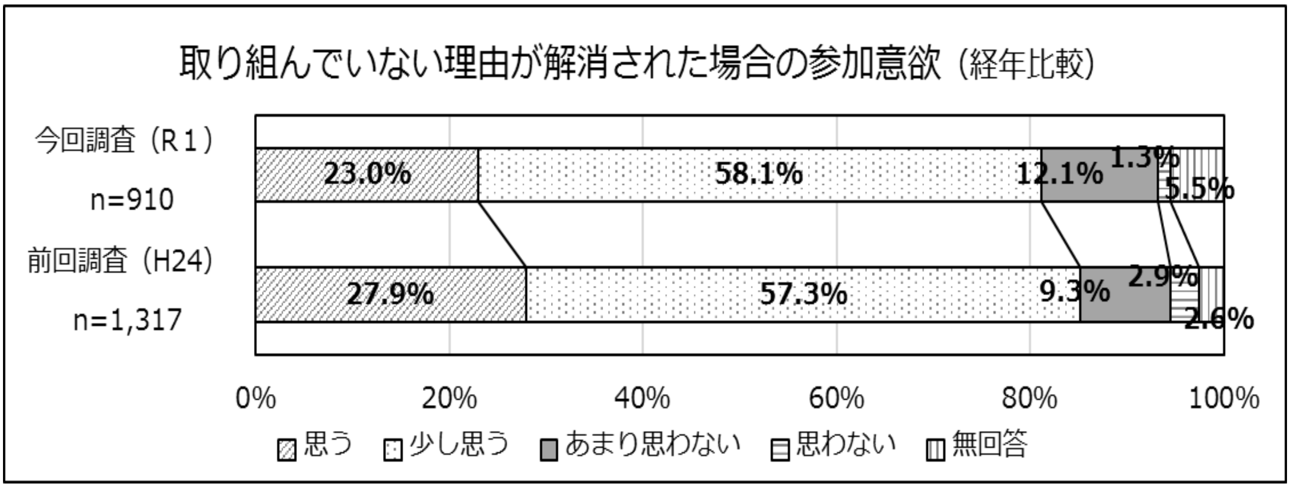
【図 19】



「取り組もうと思う」と積極的な意欲を示す回答は、多少のばらつきがあるものの、基本的に年代が上がるにつれて回答割合が高くなった。「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の合計は、各年代とも 80%前後の回答割合となった。特に、50・60 歳代は、85%に近い回答割合となった。

エ　取り組まない理由が解消された場合の参加意欲についての過去の調査との比較

【図 20】



「取り組もうと思う」と積極的に参加する意欲を示す回答割合は、前回調査より約５ポイント減少した。また、「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の回答割合の合計も、前回調査より約４ポイント減少した。

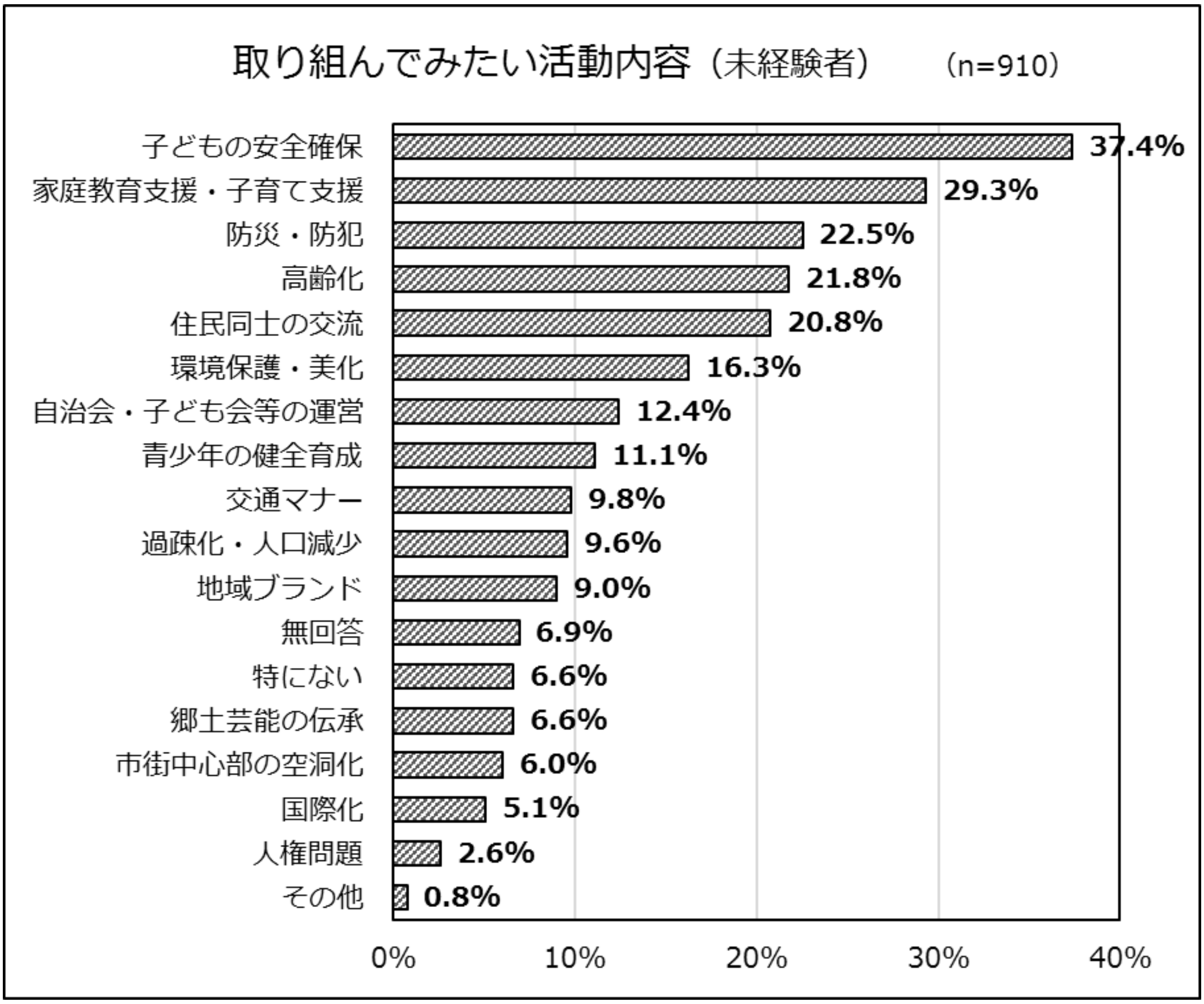
(10)　活動未経験者の取り組んでみたい活動内容

問９　　問２で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。どのような活動であれば、取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

【図 21】



全県でみると､｢子どもの安全確保｣の回答割合が約 37%と最も高く､唯一 30%を超えた。次いで、「家庭教育支援」「防災・防犯」となった。

【表 24】

取り組んでみたい活動内容（地区別）	全　県 n=910	河内地区 n=164	上都賀地区 n=82	芳賀地区 n=149	下都賀地区 n=161	塩谷南那須地区 n=103	那須地区 n=113	安足地区 n=103	県　外 n=4	無回答 n=31
防災・防犯	22.5%	31.7%	19.5%	18.1%	23.6%	24.3%	23.0%	16.5%	50.0%	6.5%
子どもの安全確保	37.4%	32.3%	36.6%	52.3%	36.0%	32.0%	38.9%	34.0%	50.0%	22.6%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	22.0%	22.0%	37.6%	31.1%	28.2%	23.0%	39.8%	50.0%	29.0%
青少年の健全育成	11.1%	11.0%	6.1%	10.1%	13.0%	5.8%	16.8%	12.6%	25.0%	9.7%
郷土芸能の伝承	6.6%	7.9%	6.1%	6.0%	5.6%	6.8%	8.8%	6.8%	0.0%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	12.2%	11.0%	15.4%	13.7%	11.7%	11.5%	11.7%	0.0%	6.5%
住民同士の交流	20.8%	33.5%	19.5%	11.4%	24.2%	18.4%	20.4%	11.7%	50.0%	19.4%
高齢化	21.8%	34.8%	18.3%	10.1%	24.2%	18.4%	20.4%	18.4%	25.0%	32.3%
地域ブランド	9.0%	7.9%	12.2%	8.7%	9.3%	7.8%	12.4%	7.8%	0.0%	3.2%
国際化	5.1%	6.7%	6.1%	3.4%	7.5%	1.0%	3.5%	4.9%	25.0%	6.5%
過疎化・人口減少	9.6%	3.0%	17.1%	10.1%	7.5%	11.7%	15.0%	7.8%	25.0%	9.7%
環境保護・美化	16.3%	22.6%	15.9%	10.7%	16.8%	18.4%	15.9%	11.7%	25.0%	16.1%
人権問題	2.6%	1.2%	7.3%	3.4%	2.5%	1.9%	2.7%	1.9%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	6.0%	3.7%	11.0%	6.0%	5.6%	5.8%	7.1%	4.9%	25.0%	6.5%
交通マナー	9.8%	14.0%	8.5%	6.0%	12.4%	8.7%	8.8%	10.7%	0.0%	0.0%
特にない	6.6%	4.9%	3.7%	8.7%	4.3%	7.8%	9.7%	5.8%	50.0%	6.5%
その他	0.8%	0.6%	1.2%	2.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.9%	4.9%	7.3%	6.7%	5.0%	11.7%	4.4%	9.7%	0.0%	12.9%

地区別にみると、全県で最上位だった「子どもの安全確保」は、河内、安足を除いた 5 地区で最上位となっており、特に芳賀地区では 50%を超えた。また、安足地区では「家庭教育支援」、河内地区では、「高齢化」が最上位となった。

項目毎にみると、「高齢化」が最も回答割合の高い地区と低い地区の差が約 25 ポイント、「住民同士の交流」で約 22 ポイントの差があった（県外、無回答は除く）。

イ　性別にみた状況

【表 25】

取り組んでみたい活動内容（性別）	全　県 n=910	女　性 n=580	男　性 n=284	無回答 n=46
防災・防犯	22.5%	19.5%	30.6%	10.9%
子どもの安全確保	37.4%	39.7%	32.4%	39.1%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	37.8%	14.1%	17.4%
青少年の健全育成	11.1%	10.9%	12.7%	4.3%
郷土芸能の伝承	6.6%	6.4%	7.4%	4.3%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	12.8%	12.3%	8.7%
住民同士の交流	20.8%	16.4%	28.9%	26.1%
高齢化	21.8%	19.0%	27.1%	23.9%
地域ブランド	9.0%	7.8%	12.7%	2.2%
国際化	5.1%	5.2%	4.9%	4.3%
過疎化・人口減少	9.6%	5.7%	16.9%	13.0%
環境保護・美化	16.3%	16.0%	17.3%	13.0%
人権問題	2.6%	2.9%	2.1%	2.2%
市街中心部の空洞化	6.0%	5.3%	7.0%	8.7%
交通マナー	9.8%	10.0%	10.6%	2.2%
特にない	6.6%	6.4%	6.0%	13.0%
その他	0.8%	0.9%	0.7%	0.0%
無回答	6.9%	8.4%	2.5%	15.2%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、6 項目に差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは２項目で、特に「家庭教育支援・子育て支援」では、約 24 ポイントの差があった。それに対して、男性が女性を上回ったものは４項目あり、中でも「防災・防犯」「住民同士の交流」「過疎化・人口減少」では 10 ポイント以上の差があった。

ウ　年代別に見た状況

【表 26】

取り組んでみたい活動内容（年代別）	全　県 n=910	20歳代 n=22	30歳代 n=157	40歳代 n=242	50歳代 n=214	60歳代 n=182	70歳以上 n=72	無回答 n=21
防災・防犯	22.5%	4.5%	22.9%	19.8%	21.5%	24.2%	37.5%	14.3%
子どもの安全確保	37.4%	40.9%	61.8%	40.9%	39.3%	17.6%	19.4%	23.8%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	40.9%	42.7%	31.4%	29.0%	19.8%	19.4%	14.3%
青少年の健全育成	11.1%	9.1%	15.3%	10.7%	15.0%	7.1%	4.2%	4.8%
郷土芸能の伝承	6.6%	22.7%	5.1%	3.3%	9.3%	8.2%	5.6%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	18.2%	17.8%	14.9%	9.8%	9.9%	8.3%	0.0%
住民同士の交流	20.8%	22.7%	12.7%	14.5%	15.4%	34.1%	40.3%	23.8%
高齢化	21.8%	13.6%	7.6%	9.9%	22.0%	37.9%	50.0%	33.3%
地域ブランド	9.0%	22.7%	8.9%	8.7%	13.1%	6.0%	2.8%	4.8%
国際化	5.1%	4.5%	5.1%	5.8%	4.7%	4.4%	4.2%	9.5%
過疎化・人口減少	9.6%	13.6%	8.9%	10.3%	8.4%	9.9%	9.7%	9.5%
環境保護・美化	16.3%	13.6%	15.3%	9.1%	17.8%	22.0%	22.2%	23.8%
人権問題	2.6%	4.5%	3.8%	2.9%	2.3%	2.2%	1.4%	0.0%
市街中心部の空洞化	6.0%	9.1%	4.5%	7.4%	5.1%	6.0%	6.9%	4.8%
交通マナー	9.8%	4.5%	13.4%	10.3%	6.1%	11.0%	12.5%	0.0%
特にない	6.6%	0.0%	8.9%	8.3%	7.9%	3.8%	2.8%	0.0%
その他	0.8%	0.0%	0.6%	1.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.9%	4.5%	3.8%	9.5%	4.2%	6.6%	11.1%	19.0%

「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」では 20～50 歳代が、「防災・防犯」「住民同士の交流」「高齢化」「環境保護・美化」では 60 歳代・70 歳以上の回答割合がそれぞれ高かった。

《参考：問９「その他」の主な回答記述》
○介護予防、健康づくりへの取組
○子どもの居場所づくり（子ども食堂の運営等）
○若者が戻りやすい環境づくり

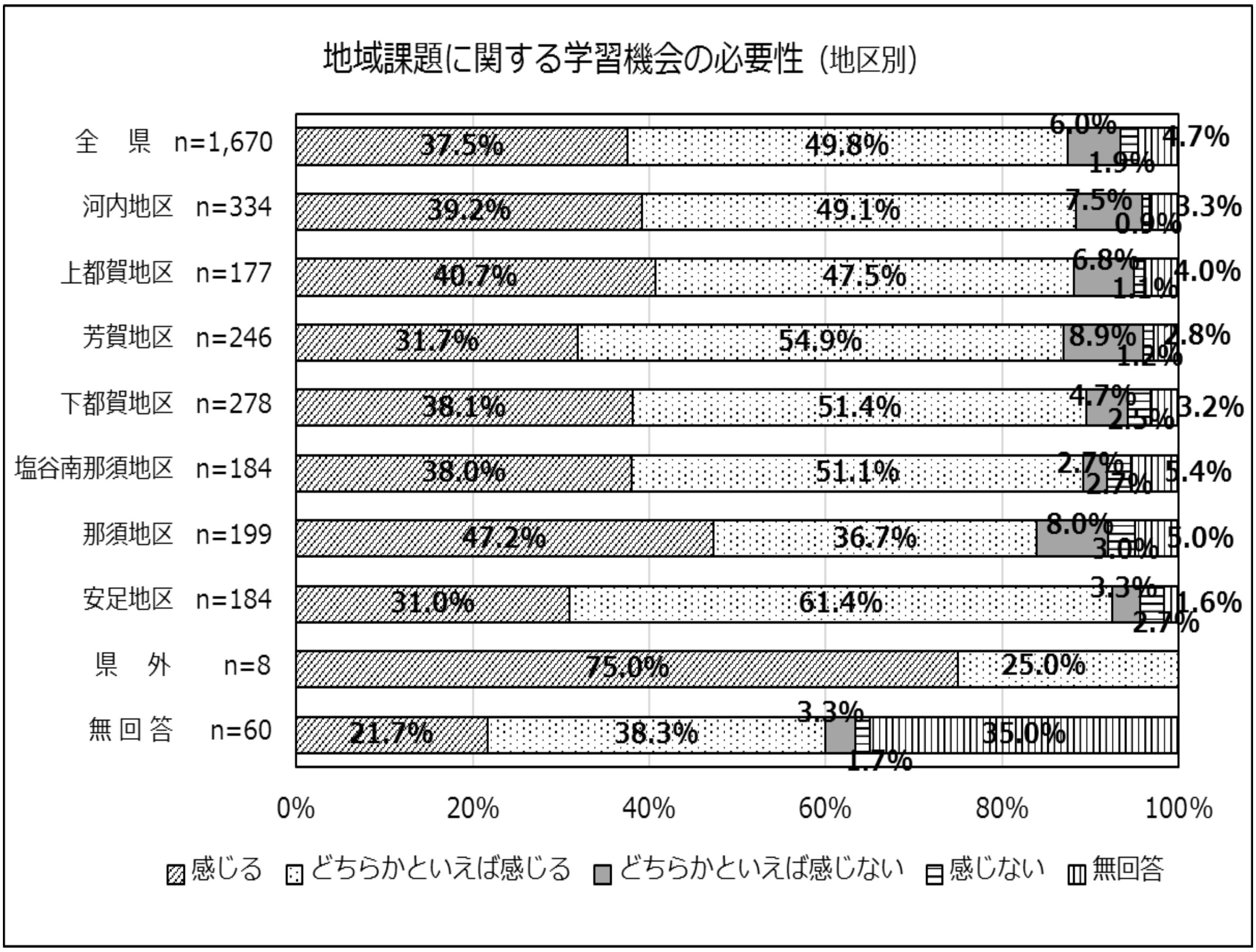
(11)　地域課題に関する学習機会の必要性

問 10　　地域課題に関して学習する機会の必要性を感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

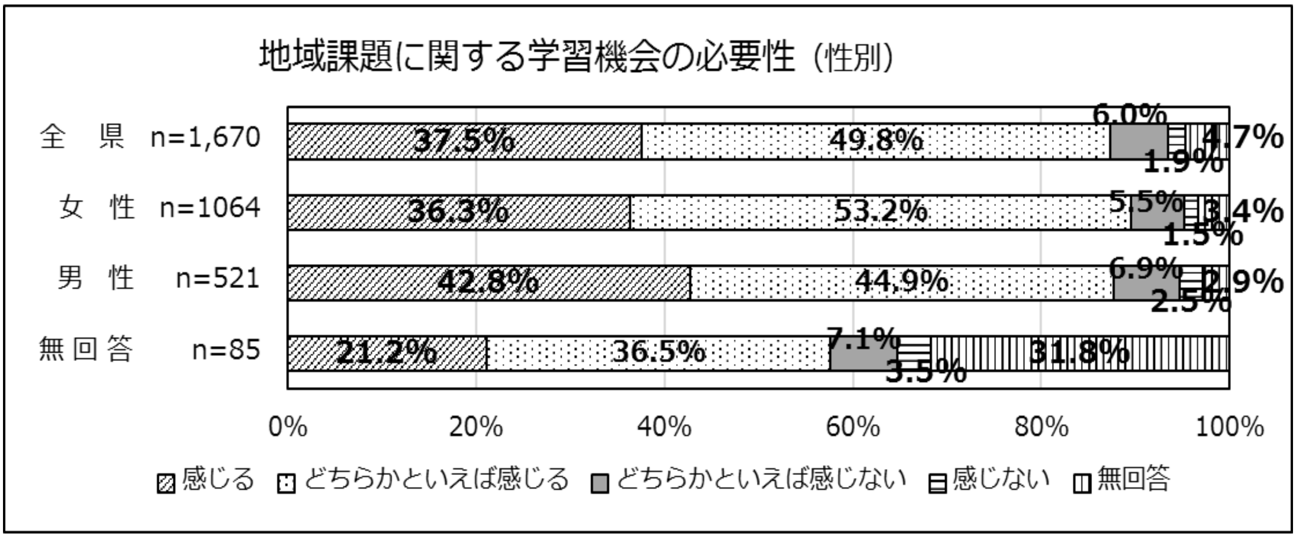
【図 22】



学習機会の必要性を「感じる」「どちらかといえば感じる」それぞれの割合は、地区間により多少のばらつきはあるが、両者の回答割合の合計は各地区で 80%を超えた。特に、那須地区で「感じる」と回答した割合が約 47%と、全県での 37.5%を約 10 ポイントも上回っていることや、安足地区で「感じる」「どちらかといえば感じる」の回答割合の合計が 90%を超えていることがみえてくる。

イ　性別にみた状況

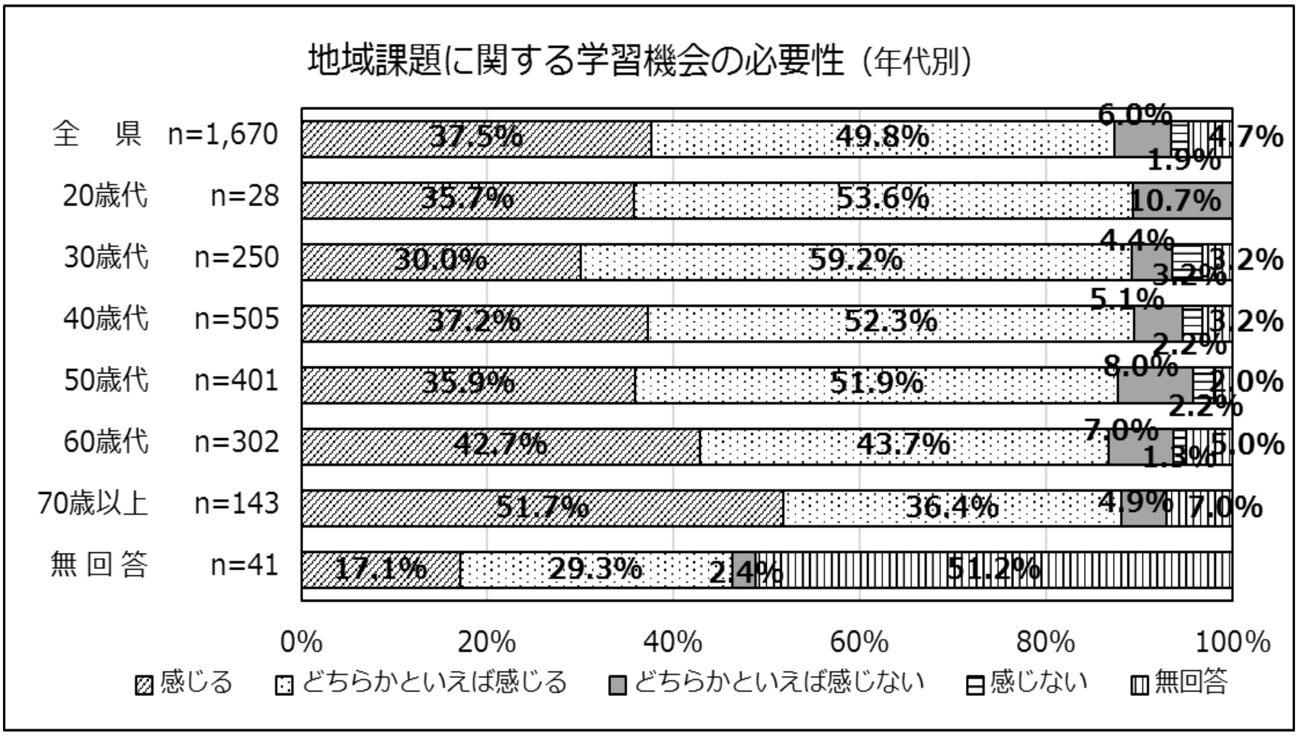
【図 23】



「感じる」と回答した割合は、男性が女性を 6.5 ポイント上回った。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の合計での回答割合では、女性が男性を約２ポイント上回った。

ウ　年代別に見た状況

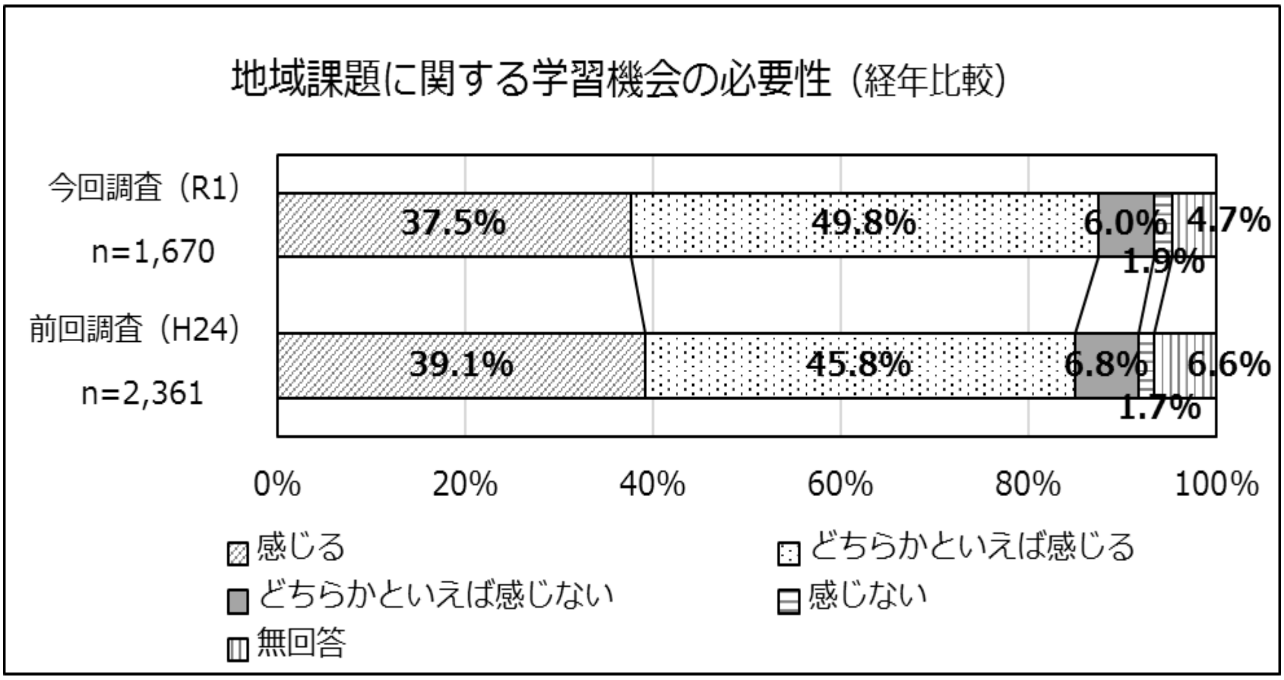
【図 24】



「感じる」と回答した割合は 60 歳代・70 歳以上で高く、特に 70 歳以上では過半数である。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の回答割合の合計は、どの年代も 85～90%であり、年代間による大きな差異はみられない。

エ　地域課題に関する学習機会の必要性についての過去の調査との比較

【図 25】



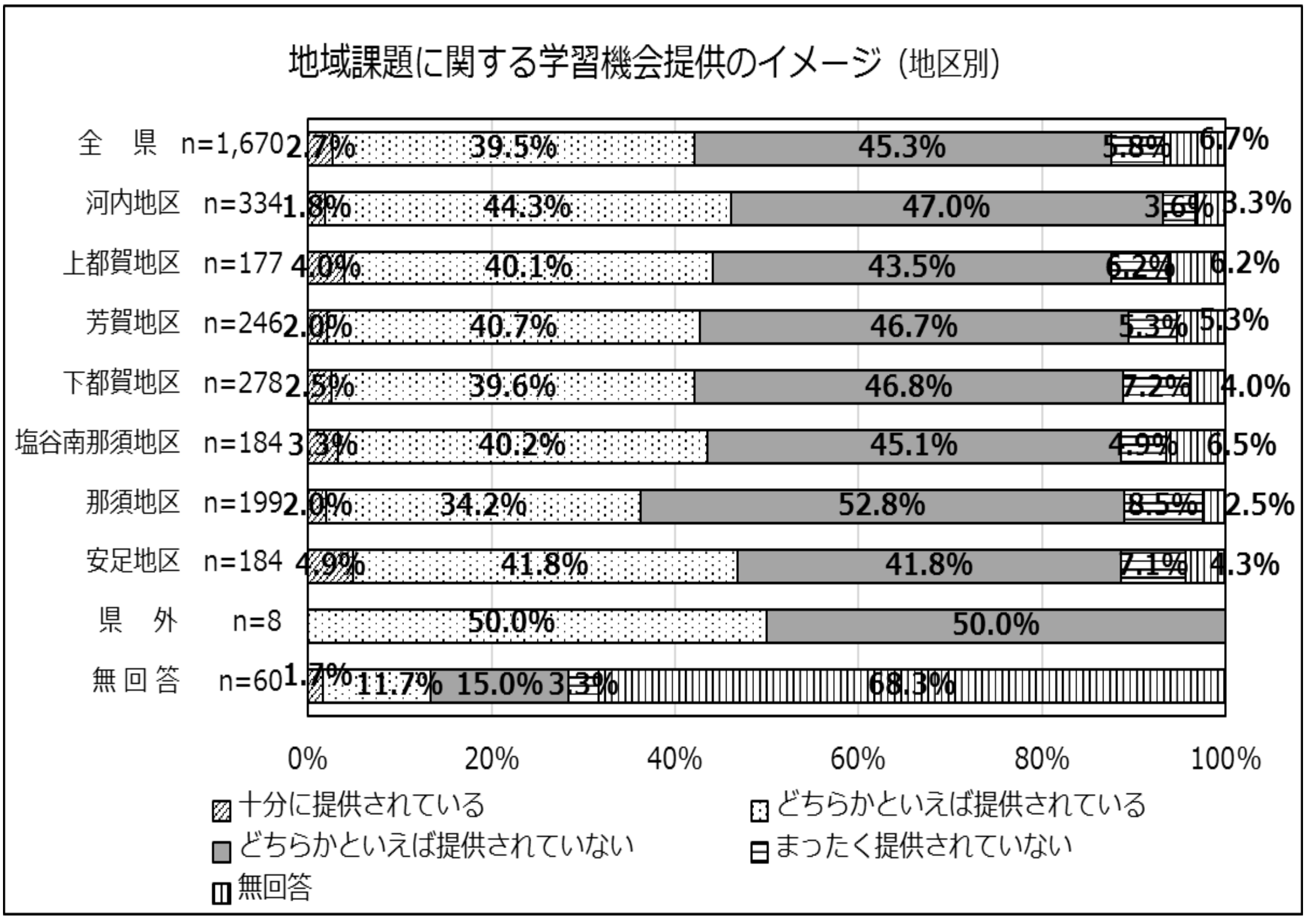
「感じる」と回答した割合は、前回調査と比較し 1.6 ポイント減少した。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の回答割合の合計では、前回調査と比較し 2.4 ポイント増加しており、前回調査よりも、さらに地域課題に関する学習機会を求めるニーズは高まっているといえるだろう。

(12)　地域課題に関する学習機会提供のイメージ

問 11　地域課題に関して学習する機会は、十分に提供されていると感じますか。
最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。
＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

【図 26】

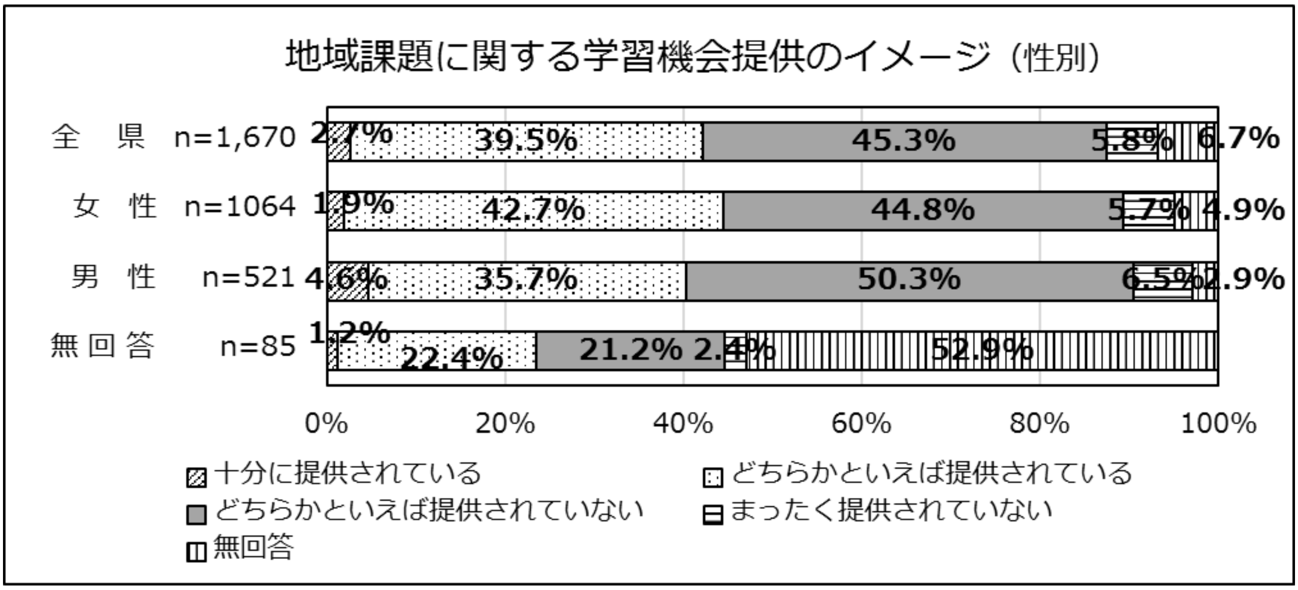


本設問では個人の感覚に大きく依存する表現を使用しており、回答に実際提供されている状況が反映されるか定かではないため、学習機会提供の「イメージ」として捉えることとする。「十分提供されている」「まったく提供されていない」という回答割合は低く、「どちらかといえば提供されている」「どちらかといえば提供されていない」という回答割合が極めて高かった。また、無回答の割合も他の設問と比較するとやや高かった。

その中で、いずれの地区も、「十分提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージよりも「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージがやや上回った。地区間による傾向は変わらず、大きな差異はみられない。

イ　性別にみた状況

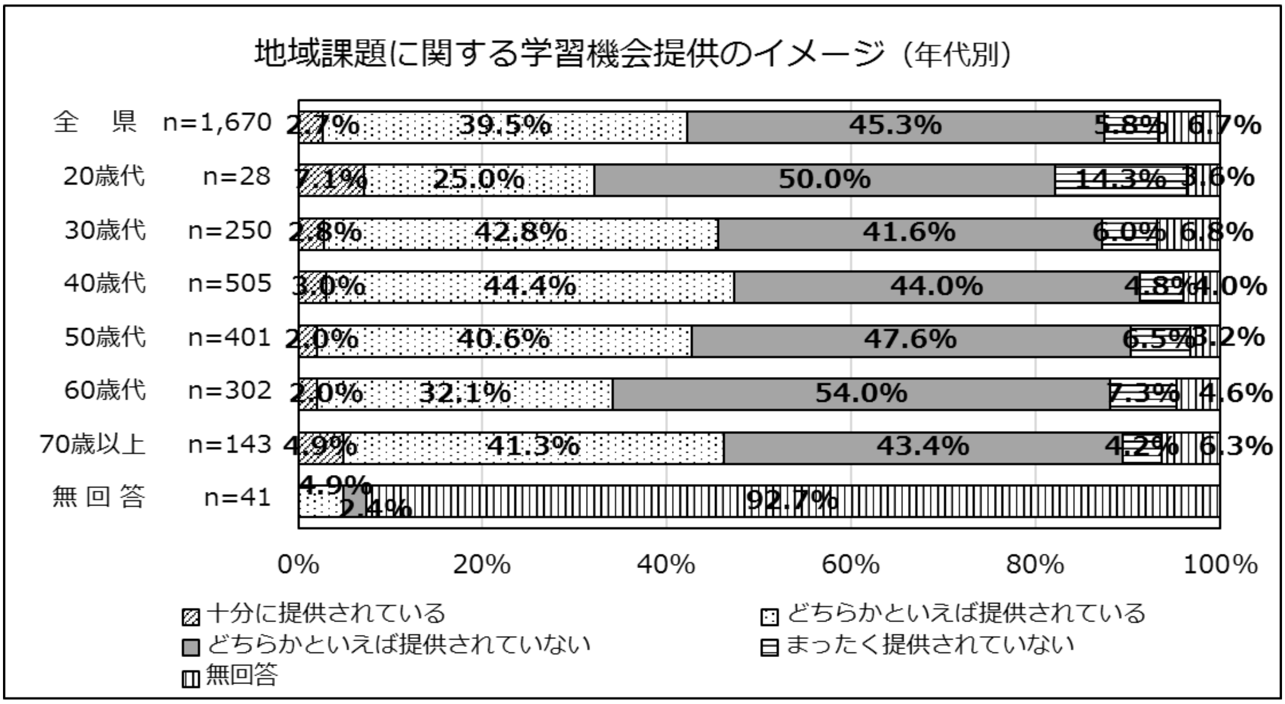
【図 27】



「十分提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージは、女性が男性よりも 4.3 ポイント上回った。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージは、男性が女性よりも 6.3 ポイント上回った。

ウ　年代別に見た状況

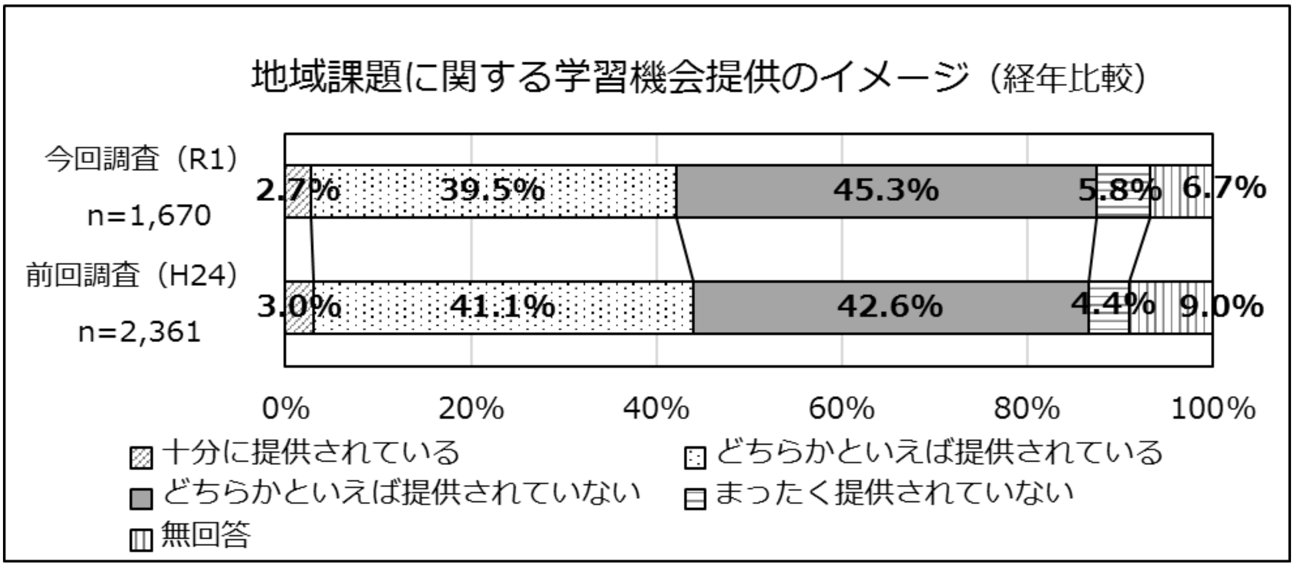
【図 28】



30～50 歳代と 70 歳以上は、肯定的なイメージが 45%前後、否定的なイメージが 50%前後であるが、20 歳代と 60 歳代は、肯定的なイメージが 30%台前半、否定的なイメージが 60%台前半となった。

エ　地域課題に関する学習機会提供のイメージについての過去の調査との比較

【図 29】



「十分提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージは、前回調査よりも 1.9 ポイント減少した。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージは、前回調査よりも 4.1 ポイント増加し、半数を超えた。

(13)　地域活動に対するそれぞれの思い

問 12　　その他、地域活動全般について、自由にお書きください。
＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

アンケート調査回答者の地域活動全般に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 12 の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎地域活動においては、地域住民の温度差があり、活躍する人、活動できる人が限られてくる。役割として兼任などが多くなるため、1 人ひとりが活躍できるようにいろいろな人を巻き込んでいけると、活性化するのではないかと思う。

◎地域活動は誰かがやってくれるのを待つものではなく、地域住民みんなが自ら何ができるかを考え実践することから始まるものだと考える。自分のことと実感してもらうことが大切なのではないかと思う。

○地域課題に関しての学習の機会はあるが、一般の立場からすると仕事の都合をつけてまで参加することは困難である。参加しやすい時間等はもちろんのこと、学習する機会に参加することで何が得られるかをもっと理解できるような工夫をしてほしい。

○地域を自治会などの運営によってよりよくする考え方は、都市部では既に有名無実なのではないか。そもそもつながりがないし、ない方が安心という方が多い。

○情報が提供されていたとしても、一般にその情報が浸透していない。消極的な情報提供ではなく、有効な手立てを考えるべきだと思う。

○学校の統合に伴って、学校から遠い地域は学区内の活動と受け入れられにくく、子ども　から老人までの活動をすることが大変になっている。

○昼夜の人口構成の変化を考えると、企業などの労働人口にも目を向け、地域課題をともに考える必要性を感じる。

○現在の住居環境は、自治会などに入っていないために地域住民との交流が十分確保されていない。これからは、マンション住民としてどのように活動していくか考えて行動する必要があると思われる。

○地域が必要としていることと自分のできることが合致するための情報と、それをコーディネートする窓口があると良いと思う。

○地域活動は確かに必要である。しかし、既に活動している方々に、新しい方々にとって入りにくい雰囲気があったり、活動への取組手段（昔からのやり方がある！など）に固執されたりすると、なかなか活動に取り組みにくい。

○地域のコミュニティがしっかりと整備されているところとされていないところの地域差を感じており、保護者や地域の大人の意識の差が子どもたちのものの考え方や見方にも影響を与えている。地域で子どもを育てようという意識のあるコミュニティならよいが、そうでないと子どもへの関わりが各家庭のみとなり、家庭教育のみでは困難を感じることも多い。地域の中心的な役割を担う人たちと若い世代や子ども、学校関係者が交流する場を設けて、地域ぐるみの子育てを実現したい。

○２、３ヶ月に１度（多いと毎月）花いっぱい、ゴミ拾い、草刈りなどをしているが、１度始めると、「やるべき（毎回出席すべき）という空気」があり、とても負担である。

2　高校生対象調査

(1)　回答数および回答率と回答者の属性

ア　回答数および回答率

(ｱ)　調査対象者　　　　２，７９５名

(ｲ)　回答数　　　　　　２，６９２名

(ｳ)　回答率　　　　　　　９６．３％

イ　回答者の属性

(ｱ)　地区別、性別、課程・学科別、学校所在地・居住地別回答数

【表 27】

地　区　別			
河 内 地 区	n=	636	23.6%
上都賀地区	n=	295	11.0%
芳 賀 地 区	n=	258	9.6%
下都賀地区	n=	594	22.1%
塩谷南那須地区	n=	250	9.3%
那 須 地 区	n=	320	11.9%
安 足 地 区	n=	339	12.6%
合　　計	n=	2,692	100.0%

※地区は、学校の所在地により分類した。

【表 28】

性　別			
女　　性	n=	1,293	48.0%
男　　性	n=	1,299	48.3%
無 回 答	n=	100	3.7%
合　計	n=	2,692	100.0%

【表 29】

課　程・学　科　別			
全日制：普通・総合	n=	1,549	57.5%
全日制：職業系専門	n=	705	26.2%
定時制	n=	184	6.8%
通信制	n=	45	1.7%
特別支援学校	n=	209	7.8%
合　計	n=	2,692	100.0%

【表 30】

学校所在地・居住地			
同じ市町である	n=	1,261	46.8%
違う市町である	n=	1,352	50.2%
無回答	n=	79	2.9%
合　計	n =	2,692	100.0%

今回の調査では、全ての県立学校（高等学校、特別支援学校高等部〈附属中学校等は除く〉）に御協力いただき、2,692 名からの回答を得られた。

地区別にみると、学校数の多い河内地区、下都賀地区の割合がともに 20%超えた。それ以外の地区については、９～13%の範囲内であった。

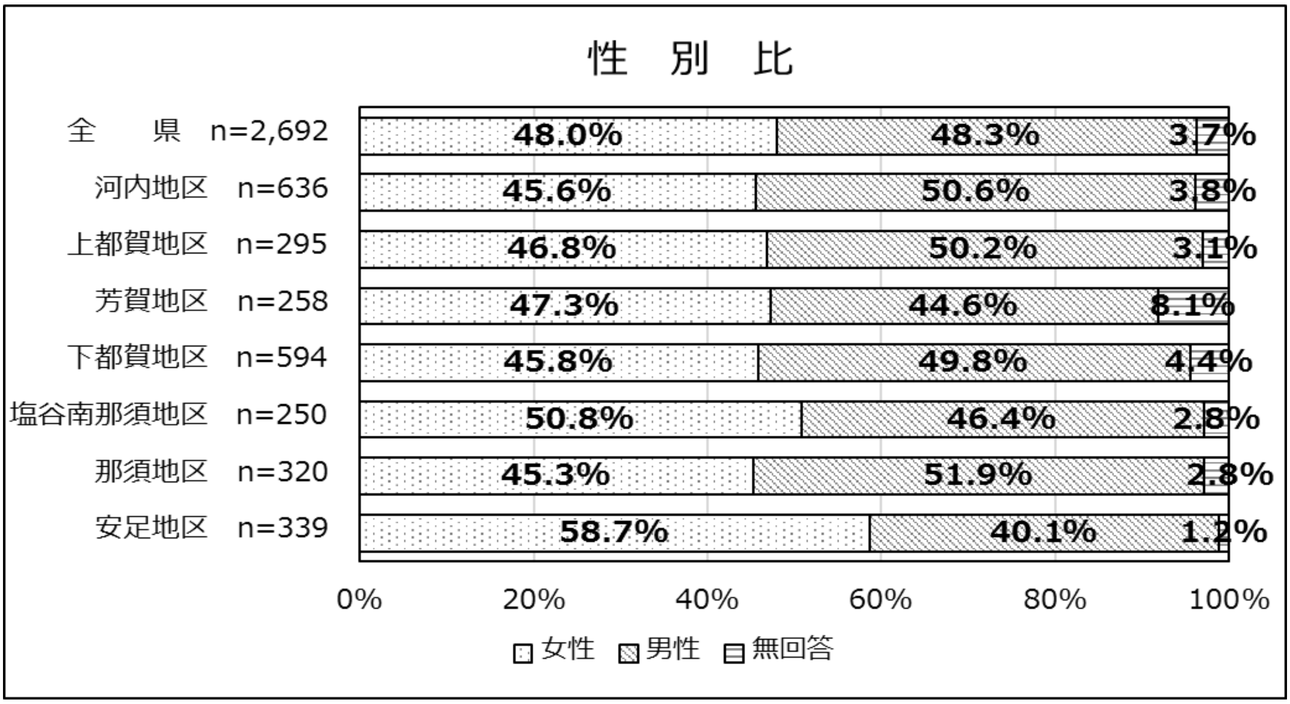
性別にみると、男女とも 48%前後とほぼ同数であった。

課程・学科別では、表 29 のように分類した。「全日制：普通・総合」は、普通科、普通系専門学科、総合学科に在籍する生徒を示す。「全日制：職業系専門」は、職業系専門学科に在籍する生徒を示す。

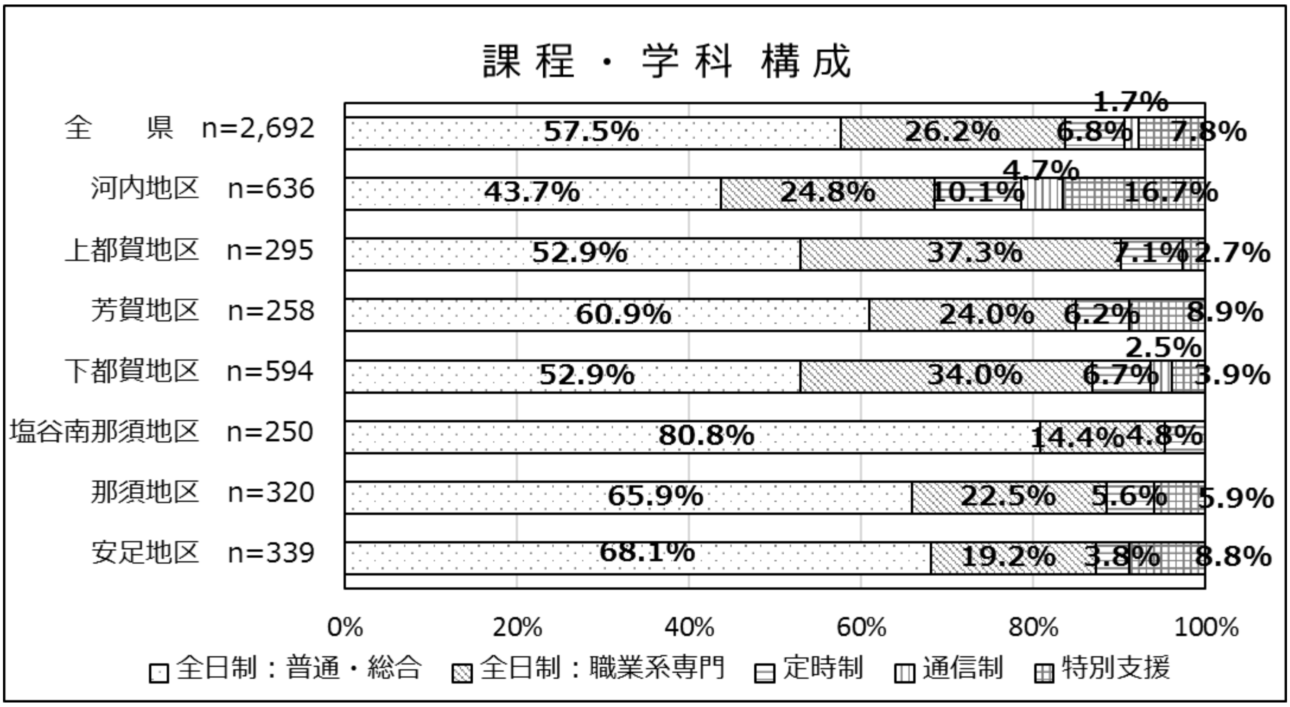
全日制の普通科、総合学科に在籍する生徒が 57.5%と半数を超えた。

学校所在地と居住地では、「違う市町である」が「同じ市町である」より 3.4 ポイント高かった。

【図 30】



【図 31】



性別比では、那須地区で男性の回答割合が、安足地区で女性の回答割合がそれぞれやや高かった。それ以外の地区については、男女の回答割合の差は５％以内であった。

課程・学科構成は、各地区に設置されている学校の課程・学科の数の影響もあり、塩谷南那須地区で、全日制の普通科、総合学科が 80%を超えていること、河内地区で特別支援学校の割合が高いことなどが分かる。

(2)　地域課題の認識

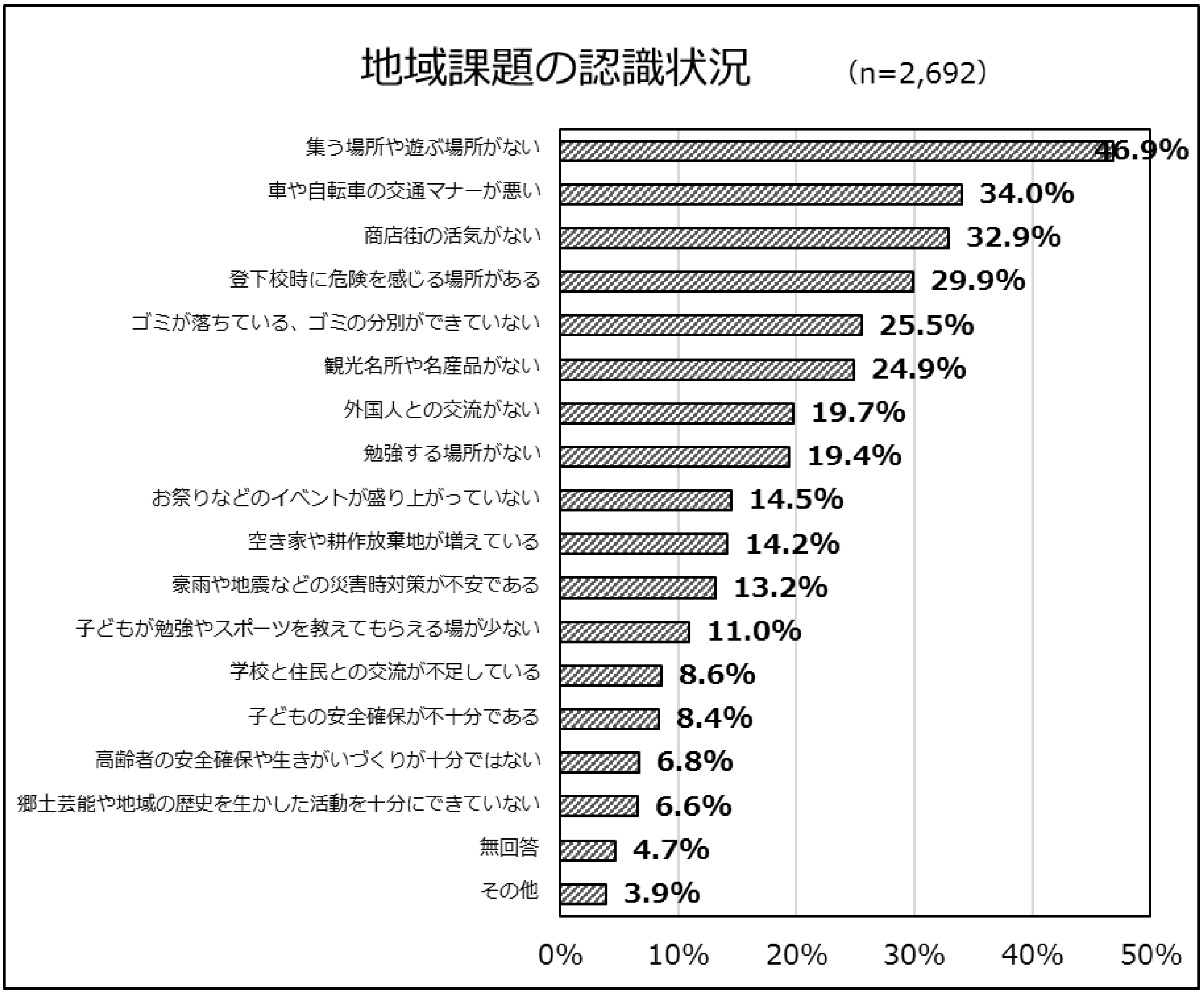
本調査における「地域」とは、あなたが通学する学校付近と定義した。また、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問１　　学校付近や通学時におけるあなたの困りごとや地域の気がかりなこと（地域課題）を教えてください。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題の認識状況

【図 32】



【表 31】

地域課題の認識状況（各地区別）	全　県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%	36.2%	58.6%	55.4%	42.6%	56.0%	53.8%	47.2%
車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%	42.0%	34.6%	31.4%	29.1%	23.6%	34.7%	38.1%
勉強する場所がない	19.4%	19.5%	13.2%	17.4%	26.6%	16.8%	17.8%	18.1%
登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%	31.9%	30.5%	35.7%	28.6%	20.8%	24.1%	37.8%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%	12.4%	19.3%	16.7%	12.6%	12.8%	6.9%	15.0%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%	26.4%	31.9%	32.2%	24.6%	21.2%	20.6%	24.1%
学校と住民との交流が不足している	8.6%	8.5%	9.5%	13.2%	6.6%	8.4%	8.4%	9.1%
外国人との交流がない	19.7%	22.0%	18.3%	25.2%	14.6%	24.4%	18.4%	20.3%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%	13.5%	10.8%	10.1%	14.0%	21.2%	15.0%	19.7%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%	8.6%	6.4%	8.9%	4.9%	7.6%	5.3%	6.3%
子どもの安全確保が不十分である	8.4%	9.4%	10.5%	10.1%	6.6%	8.4%	6.6%	9.1%
観光名所や名産品がない	24.9%	29.4%	21.0%	24.0%	23.7%	33.2%	21.6%	20.6%
商店街の活気がない	32.9%	30.0%	37.3%	38.4%	26.1%	46.8%	30.3%	36.3%
空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%	12.4%	16.3%	17.4%	9.9%	18.0%	13.1%	19.7%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%	9.1%	5.4%	8.9%	4.2%	8.0%	5.6%	5.9%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%	11.5%	11.2%	12.8%	9.9%	13.6%	9.4%	10.3%
その他	3.9%	5.0%	3.7%	5.0%	3.0%	3.6%	4.1%	3.1%
無回答	4.7%	4.4%	3.7%	3.5%	4.7%	4.4%	7.5%	4.7%

全県でみると、「集う場所や遊ぶ場所がない」の回答が約半数で、回答割合が最も高い結果となった。次いで、「車や自転車の交通マナーが悪い」「商店街の活気がない」となり、これら３項目が、30%を超える回答割合となった。高校生の日常生活に関わる項目について、回答割合が高い傾向にある。

地区別にみると、全県で最上位である「集う場所や遊ぶ場所がない」は、河内を除く６地区で最上位となっている。河内地区で最上位となるなど、市街地を多く含む地区では「車や自転車の交通マナーが悪い」等の回答割合が高く、農村部を多く含む地区では、「集う場所や遊ぶ場所がない」「商店街の活気がない」「空き地や耕作放棄地が増えている」等の回答割合が高いなど、地区間により大きな差異がみられる項目も複数あった。

【表 32】

	集う場所や遊ぶ場所がない		車や自転車の交通マナーが悪い		勉強する場所がない		登下校時に危険を感じる場所がある	
1	上都賀地区 n=295	58.6%	河内地区 n=636	42.0%	下都賀地区 n=594	26.6%	安足地区 n=339	37.8%
2	塩谷南那須地区 n=250	56.0%	安足地区 n=339	38.1%	河内地区 n=636	19.5%	芳賀地区 n=258	35.7%
3	芳賀地区 n=258	55.4%	那須地区 n=320	34.7%	安足地区 n=339	18.1%	河内地区 n=636	31.9%
4	那須地区 n=320	53.8%	上都賀地区 n=295	34.6%	那須地区 n=320	17.8%	上都賀地区 n=295	30.5%
5	安足地区 n=339	47.2%	芳賀地区 n=258	31.4%	芳賀地区 n=258	17.4%	下都賀地区 n=594	28.6%
6	下都賀地区 n=594	42.6%	下都賀地区 n=594	29.1%	塩谷南那須地区 n=250	16.8%	那須地区 n=320	24.1%
7	河内地区 n=636	36.2%	塩谷南那須地区 n=250	23.6%	上都賀地区 n=295	13.2%	塩谷南那須地区 n=250	20.8%

	豪雨や地震などの災害時対策が不安である		ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない		学校と住民との交流が不足している		外国人との交流がない	
1	上都賀地区 n=295	19.3%	芳賀地区 n=258	32.2%	芳賀地区 n=258	13.2%	芳賀地区 n=258	25.2%
2	芳賀地区 n=258	16.7%	上都賀地区 n=295	31.9%	上都賀地区 n=295	9.5%	塩谷南那須地区 n=250	24.4%
3	安足地区 n=339	15.0%	河内地区 n=636	26.4%	安足地区 n=339	9.1%	河内地区 n=636	22.0%
4	塩谷南那須地区 n=250	12.8%	下都賀地区 n=594	24.6%	河内地区 n=636	8.5%	安足地区 n=339	20.3%
5	下都賀地区 n=594	12.6%	安足地区 n=339	24.1%	那須地区 n=320	8.4%	那須地区 n=320	18.4%
6	河内地区 n=636	12.4%	塩谷南那須地区 n=250	21.2%	塩谷南那須地区 n=250	8.4%	上都賀地区 n=295	18.3%
7	那須地区 n=320	6.9%	那須地区 n=320	20.6%	下都賀地区 n=594	6.6%	下都賀地区 n=594	14.6%

	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない		高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない		子どもの安全確保が不十分である		観光名所や名産品がない	
1	塩谷南那須地区 n=250	21.2%	芳賀地区 n=258	8.9%	上都賀地区 n=295	10.5%	塩谷南那須地区 n=250	33.2%
2	安足地区 n=339	19.7%	河内地区 n=636	8.6%	芳賀地区 n=258	10.1%	河内地区 n=636	29.4%
3	那須地区 n=320	15.0%	塩谷南那須地区 n=250	7.6%	河内地区 n=636	9.4%	芳賀地区 n=258	24.0%
4	下都賀地区 n=594	14.0%	上都賀地区 n=295	6.4%	安足地区 n=339	9.1%	下都賀地区 n=594	23.7%
5	河内地区 n=636	13.5%	安足地区 n=339	6.3%	塩谷南那須地区 n=250	8.4%	那須地区 n=320	21.6%
6	上都賀地区 n=295	10.8%	那須地区 n=320	5.3%	下都賀地区 n=594	6.6%	上都賀地区 n=295	21.0%
7	芳賀地区 n=258	10.1%	下都賀地区 n=594	4.9%	那須地区 n=320	6.6%	安足地区 n=339	20.6%

	商店街の活気がない		空き家や耕作放棄地が増えている		郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない		子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	
1	塩谷南那須地区 n=250	46.8%	安足地区 n=339	19.7%	河内地区 n=636	9.1%	塩谷南那須地区 n=250	13.6%
2	芳賀地区 n=258	38.4%	塩谷南那須地区 n=250	18.0%	芳賀地区 n=258	8.9%	芳賀地区 n=258	12.8%
3	上都賀地区 n=295	37.3%	芳賀地区 n=258	17.4%	塩谷南那須地区 n=250	8.0%	河内地区 n=636	11.5%
4	安足地区 n=339	36.3%	上都賀地区 n=295	16.3%	安足地区 n=339	5.9%	上都賀地区 n=295	11.2%
5	那須地区 n=320	30.3%	那須地区 n=320	13.1%	那須地区 n=320	5.6%	安足地区 n=339	10.3%
6	河内地区 n=636	30.0%	河内地区 n=636	12.4%	上都賀地区 n=295	5.4%	下都賀地区 n=594	9.9%
7	下都賀地区 n=594	26.1%	下都賀地区 n=594	9.9%	下都賀地区 n=594	4.2%	那須地区 n=320	9.4%

各課題の上位 3 地区をみていくと、課題が最も集約されているのは下都賀地区の 1 項目、次いで那須地区の 2 項目であった。課題が分散されているのは芳賀地区の 13 項目、次いで河内地区の 10 項目であった。課題の集約の度合いはその差が大きく開いた。これは、 1 人当たりの回答した選択肢の数にも対応している（表 33 参照）。

【表 33】

地　区	回答数
河内地区 n=636	3.32
上都賀地区 n=295	3.42
芳賀地区 n=258	3.66
下都賀地区 n=594	2.92
塩谷南那須地区 n=250	3.49
那須地区 n=320	3.03
安足地区 n=339	3.26

【表 34】

	全　県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
1	集う場所や遊ぶ場所がない 46.9%	車や自転車の交通マナーが悪い 42.0%	集う場所や遊ぶ場所がない 58.6%	集う場所や遊ぶ場所がない 55.4%	集う場所や遊ぶ場所がない 42.6%	集う場所や遊ぶ場所がない 56.0%	集う場所や遊ぶ場所がない 53.8%	集う場所や遊ぶ場所がない 47.2%
2	車や自転車の交通マナーが悪い 34.0%	集う場所や遊ぶ場所がない 36.2%	商店街の活気がない 37.3%	商店街の活気がない 38.4%	車や自転車の交通マナーが悪い 29.1%	商店街の活気がない 46.8%	車や自転車の交通マナーが悪い 34.7%	車や自転車の交通マナーが悪い 38.1%
3	商店街の活気がない 32.9%	登下校時に危険を感じる場所がある 31.9%	車や自転車の交通マナーが悪い 34.6%	登下校時に危険を感じる場所がある 35.7%	登下校時に危険を感じる場所がある 28.6%	観光名所や名産品がない 33.2%	商店街の活気がない 30.3%	登下校時に危険を感じる場所がある 37.8%
4	登下校時に危険を感じる場所がある 29.9%	商店街の活気がない 30.0%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 31.9%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 32.2%	勉強する場所がない 26.6%	外国人との交流がない 24.4%	登下校時に危険を感じる場所がある 24.1%	商店街の活気がない 36.3%
5	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 25.5%	観光名所や名産品がない 29.4%	登下校時に危険を感じる場所がある 30.5%	車や自転車の交通マナーが悪い 31.4%	商店街の活気がない 26.1%	車や自転車の交通マナーが悪い 23.6%	観光名所や名産品がない 21.6%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 24.1%
6	観光名所や名産品がない 24.9%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 26.4%	観光名所や名産品がない 21.0%	外国人との交流がない 25.2%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 24.6%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 21.2%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 20.6%	観光名所や名産品がない 20.6%
7	外国人との交流がない 19.7%	外国人との交流がない 22.0%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 19.3%	観光名所や名産品がない 24.0%	観光名所や名産品がない 23.7%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 21.2%	外国人との交流がない 18.4%	外国人との交流がない 20.3%
8	勉強する場所がない 19.4%	勉強する場所がない 19.5%	外国人との交流がない 18.3%	勉強する場所がない 17.4%	外国人との交流がない 14.6%	登下校時に危険を感じる場所がある 20.8%	勉強する場所がない 17.8%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 19.7%
9	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 14.5%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 13.5%	空き家や耕作放棄地が増えている 16.3%	空き家や耕作放棄地が増えている 17.4%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 14.0%	空き家や耕作放棄地が増えている 18.0%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 15.0%	空き家や耕作放棄地が増えている 19.7%
10	空き家や耕作放棄地が増えている 14.2%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 12.4%	勉強する場所がない 13.2%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 16.7%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 12.6%	勉強する場所がない 16.8%	空き家や耕作放棄地が増えている 13.1%	勉強する場所がない 18.1%
11	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 13.2%	空き家や耕作放棄地が増えている 12.4%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 11.2%	学校と住民との交流が不足している 13.2%	空き家や耕作放棄地が増えている 9.9%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 13.6%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 9.4%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 15.0%
12	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 11.0%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 11.5%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 10.8%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 12.8%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 9.9%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 12.8%	学校と住民との交流が不足している 8.4%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 10.3%
13	学校と住民との交流が不足している 8.6%	子どもの安全確保が不十分である 9.4%	子どもの安全確保が不十分である 10.5%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 10.1%	学校と住民との交流が不足している 6.6%	学校と住民との交流が不足している 8.4%	無回答 7.5%	学校と住民との交流が不足している 9.1%
14	子どもの安全確保が不十分である 8.4%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 9.1%	学校と住民との交流が不足している 9.5%	子どもの安全確保が不十分である 10.1%	子どもの安全確保が不十分である 6.6%	子どもの安全確保が不十分である 8.4%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 6.9%	子どもの安全確保が不十分である 9.1%
15	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 6.8%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 8.6%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 6.4%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 8.9%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 4.9%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 8.0%	子どもの安全確保が不十分である 6.6%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 6.3%
16	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 6.6%	学校と住民との交流が不足している 8.5%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 5.4%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 8.9%	無回答 4.7%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 7.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 5.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 5.9%
17	無回答 4.7%	その他 5.0%	その他 3.7%	その他 5.0%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 4.2%	無回答 4.4%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 5.3%	無回答 4.7%
18	その他 3.9%	無回答 4.4%	無回答 3.7%	無回答 3.5%	その他 3.0%	その他 3.6%	その他 4.1%	その他 3.1%

イ　課程・学科別にみた地域課題の認識状況

【表 35】

地域課題の認識状況（課程・学科別）	全　県 n=2,692	全日制：普通・総合 n=1,549	全日制：職業系専門 n=705	定時制 n=184	通信制 n=45	特別支援 n=209
集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%	50.2%	50.4%	38.0%	31.1%	22.0%
車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%	29.9%	36.6%	46.2%	33.3%	45.0%
勉強する場所がない	19.4%	23.0%	17.0%	10.3%	13.3%	10.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%	30.1%	29.1%	24.5%	26.7%	36.4%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%	11.0%	12.9%	16.8%	24.4%	25.4%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%	20.9%	26.8%	38.0%	28.9%	43.5%
学校と住民との交流が不足している	8.6%	8.9%	8.1%	7.6%	11.1%	8.6%
外国人との交流がない	19.7%	20.7%	17.3%	20.7%	22.2%	19.6%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%	14.5%	14.8%	13.0%	20.0%	13.9%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%	5.4%	7.0%	10.3%	8.9%	12.9%
子どもの安全確保が不十分である	8.4%	7.6%	7.0%	17.9%	8.9%	11.0%
観光名所や名産品がない	24.9%	25.8%	26.5%	20.1%	22.2%	17.2%
商店街の活気がない	32.9%	36.9%	30.4%	21.2%	31.1%	22.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%	13.9%	14.2%	14.1%	13.3%	15.8%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%	7.2%	7.2%	4.3%	8.9%	2.4%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%	9.4%	12.5%	9.8%	11.1%	18.2%
その他	3.9%	3.7%	3.8%	5.4%	2.2%	5.3%
無回答	4.7%	2.8%	5.7%	12.5%	4.4%	8.1%

全日制課程の生徒では、学科を問わず、「集う場所や遊ぶ場所が少ない」との回答が 50%を超えた。それに対して、定時制、通信制は 30%台、特別支援学校は 20%台と、差が顕著であった。

また、「ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない」では、特別支援学校が 40%を超えたことに対して、定時制が 30%台後半、全日制職業系専門学科、通信制が 20%台後半、全日制普通・総合系学科が約 20%とこちらも差が顕著であった。

学び方によりそれぞれの生活スタイルが異なり、それによって地域の中の問題点の捉え方、興味関心のもち方に差異が生まれていることがうかがえる。

ウ　性別にみた地域課題の認識状況

【表 36】

地域課題の認識状況（性別）	全　県 n=2,692	女　性 n=1,293	男　性 n=1,299	無 回 答 n=100
集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%	50.5%	43.6%	43.0%
車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%	33.5%	35.1%	26.0%
勉強する場所がない	19.4%	22.8%	16.1%	19.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%	33.5%	26.9%	23.0%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%	14.3%	11.8%	18.0%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%	24.5%	26.8%	22.0%
学校と住民との交流が不足している	8.6%	9.2%	8.0%	9.0%
外国人との交流がない	19.7%	20.6%	19.4%	12.0%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%	14.2%	14.8%	16.0%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%	6.8%	6.8%	6.0%
子どもの安全確保が不十分である	8.4%	8.0%	8.6%	11.0%
観光名所や名産品がない	24.9%	24.0%	26.1%	21.0%
商店街の活気がない	32.9%	34.0%	31.7%	34.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%	15.5%	12.8%	15.0%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%	6.7%	6.5%	8.0%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%	10.4%	11.6%	9.0%
その他	3.9%	3.9%	3.9%	5.0%
無回答	4.7%	3.3%	5.6%	10.0%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、３項目に差異があるといえる。

「集う場所や遊ぶ場所がない」「勉強する場所がない」「登下校時に危険を感じる場所がある」の 3 項目で、いずれも女性が男性を約７ポイント上回った。特に、「集う場所や遊ぶ場所がない」では、半数を超える女性が回答している。

エ　県民対象調査との比較

【表 37】

県民　n=1,670		高校生　n=2,692	
高齢化	47.5%	集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%
過疎化・人口減少	34.1%	車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%
子どもの安全確保	31.6%	商店街の活気がない	32.9%
防災・防犯	28.6%	登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%
住民同士の交流	27.1%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	観光名所や名産品がない	24.9%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	外国人との交流がない	19.7%
交通マナー	16.3%	勉強する場所がない	19.4%
市街中心部の空洞化	14.0%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%
環境保護・美化	10.7%	空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%
青少年の健全育成	8.3%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%
地域ブランド	7.2%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%
郷土芸能の伝承	6.4%	学校と住民との交流が不足している	8.6%
国際化	5.6%	子どもの安全確保が不十分である	8.4%
その他	2.3%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%
人権問題	1.7%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%
無回答	0.9%	無回答	4.7%
		その他	3.9%

両調査の同様の設問での選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、県民が認識している地域課題は、社会課題とも考えられるようなテーマが上位の項目となっている。対して、高校生は、自身の目線で普段の生活の中で身近に感じられるものを地域課題として捉えている傾向にあるといえる。

《参考：問１「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎電車・バスの本数増発や歩道・横断歩道の整備、カーブミラー、信号、街灯の設置などの、交通面でのインフラやハード面での整備を進めて欲しい。

◎学校間の交流が少ない。

◎外出する子どもが減少する一因に、公園や遊園地などの遊び場で遊具やボール遊びなどの禁止事項が多いことがあるのではないか。

◎交通マナーや生活マナーなどの悪化が目立つ。

○場所がない訳ではないが、公共の無料の学習室は増えたら良いと思う。

○ゴミ収集の所にネットがかかってなく、カラスに散らかされている。

○地域住民の障害者に対しての理解が進んでいない。

○高齢者向けの施策が多く、子どもや若者に対しての施策は少ないように感じる。

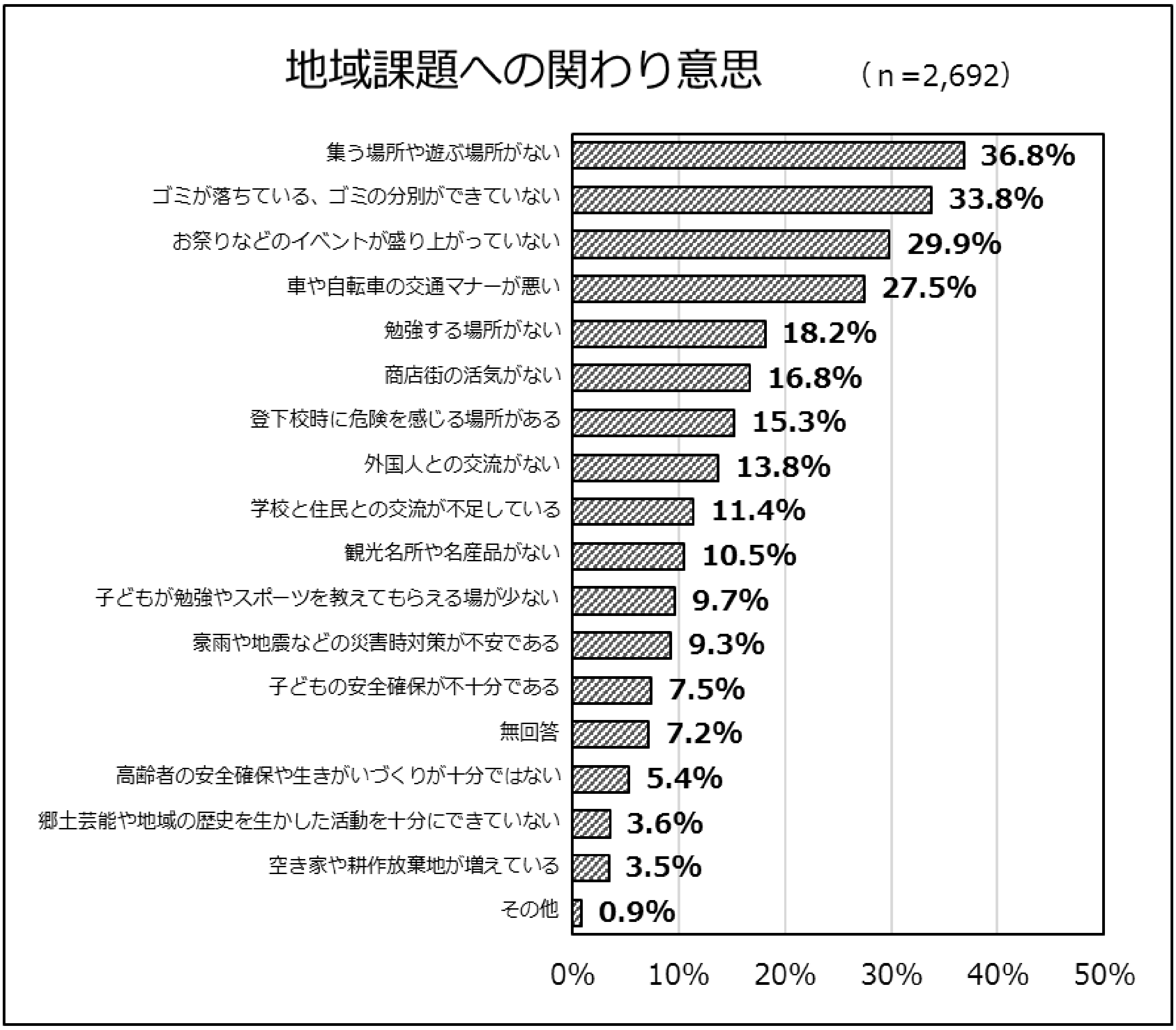
(3) 地域課題への関わり意思

問２　問１の１～16 中で、現状を改善するために、あなたが関わってもよいと思うものはどれですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題への関わり意思

【図 33】



全県でみると、「集う場所や遊ぶ場所がない」が 36.8%で回答割合が最も高かった。次いで、「ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない」が続き、これら２項目が 30%を超える回答割合となった。「お祭りなどのイベントが盛り上がっていない」「車や自転車の交通マナーが悪い」も回答割合が高かった。

【表 38】

地域課題への関わり意思（各地区別）	全　県 n =2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
集う場所や遊ぶ場所がない	36.8%	28.3%	44.4%	39.9%	36.0%	49.2%	38.4%	36.6%
車や自転車の交通マナーが悪い	27.5%	31.4%	25.8%	24.4%	25.6%	21.2%	26.3%	35.0%
勉強する場所がない	18.2%	18.4%	12.2%	19.4%	23.9%	16.8%	16.9%	15.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	15.3%	17.3%	10.2%	18.2%	16.2%	11.6%	14.1%	16.9%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	9.3%	9.1%	11.9%	14.0%	8.9%	9.2%	5.9%	8.4%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	33.8%	31.1%	36.9%	36.4%	35.5%	34.0%	33.4%	32.8%
学校と住民との交流が不足している	11.4%	11.5%	15.3%	11.2%	10.8%	10.8%	8.4%	13.1%
外国人との交流がない	13.8%	17.1%	17.3%	10.1%	10.1%	14.8%	13.8%	13.8%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	29.9%	25.6%	31.2%	24.8%	33.8%	36.0%	27.2%	33.4%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	5.4%	7.1%	6.4%	4.3%	5.2%	4.4%	3.1%	5.6%
子どもの安全確保が不十分である	7.5%	7.2%	5.8%	7.8%	10.1%	6.0%	7.5%	5.9%
観光名所や名産品がない	10.5%	13.4%	11.5%	10.5%	8.1%	11.2%	10.0%	9.4%
商店街の活気がない	16.8%	14.5%	17.6%	19.4%	14.3%	23.2%	15.6%	20.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	3.5%	4.1%	2.4%	4.3%	2.5%	3.6%	3.4%	4.4%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	3.6%	5.7%	4.1%	2.3%	3.2%	2.0%	0.9%	4.7%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	9.7%	9.0%	8.1%	9.3%	11.1%	8.0%	7.8%	14.1%
その他	0.9%	1.1%	0.3%	0.8%	0.8%	0.4%	1.3%	1.3%
無回答	7.2%	8.8%	4.7%	5.4%	7.2%	4.8%	11.3%	5.9%

地区別にみると、全県で最上位であった「集う場所や遊ぶ場所がない」は、河内地区を除く 6 地区で最上位であった。河内地区では 28.3%であったが、残りの 6 地区は 30%台後半～50%の範囲にあり、20 ポイント以上の差があった。

また、「車や自転車の交通マナーが悪い」では、最も回答割合の高い安足地区と最も低い塩谷南那須地区で、「勉強する場所がない」では下都賀地区と上都賀地区で、「お祭りなどのイベントが盛り上がっていない」では塩谷南那須地区と芳賀地区で、それぞれ 10 ポイント以上の差があった。

イ　課程・学科別にみた地域課題への関わり意思

【表 39】

地域課題への関わり意思（課程・学科別）	全　県 n =2,692	全日制：普通・総合 n =1,549	全日制：職業系専門 n =705	定時制 n =184	通信制 n =45	特別支援 n =209
集う場所や遊ぶ場所がない	36.8%	40.6%	36.6%	31.5%	33.3%	14.8%
車や自転車の交通マナーが悪い	27.5%	24.0%	31.2%	28.8%	22.2%	41.1%
勉強する場所がない	18.2%	22.7%	13.8%	8.7%	17.8%	7.7%
登下校時に危険を感じる場所がある	15.3%	14.4%	15.0%	13.0%	13.3%	24.9%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	9.3%	8.1%	8.5%	10.9%	11.1%	19.1%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	33.8%	31.5%	37.9%	32.1%	40.0%	36.8%
学校と住民との交流が不足している	11.4%	11.4%	12.9%	11.4%	4.4%	7.7%
外国人との交流がない	13.8%	16.1%	11.5%	8.2%	13.3%	9.6%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	29.9%	32.1%	31.5%	19.0%	31.1%	16.7%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	5.4%	4.9%	6.5%	4.3%	8.9%	5.3%
子どもの安全確保が不十分である	7.5%	7.4%	6.1%	9.8%	4.4%	11.0%
観光名所や名産品がない	10.5%	10.5%	12.2%	7.1%	11.1%	8.1%
商店街の活気がない	16.8%	18.4%	15.6%	10.3%	20.0%	13.4%
空き家や耕作放棄地が増えている	3.5%	2.8%	3.5%	3.3%	4.4%	7.7%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	3.6%	3.5%	3.1%	4.3%	6.7%	4.3%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	9.7%	10.4%	9.9%	6.0%	11.1%	6.7%
その他	0.9%	0.8%	0.6%	1.6%	0.0%	1.9%
無回答	7.2%	5.0%	6.7%	20.1%	6.7%	14.4%

「集う場所や遊ぶ場所がない」では、全日制普通・総合系学科で最上位であった。「ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない」は、全日制職業系専門学科、定時制、通信制で最上位であり、「車や自転車の交通マナーが悪い」は、特別支援で最上位であった。

ウ　性別にみた地域課題への関わり意思

【表 40】

地域課題への関わり意思（性別）	全　県 n =2,692	女　性 n=1,293	男　性 n=1,299	無 回 答 n=100
集う場所や遊ぶ場所がない	36.8%	37.4%	36.7%	31.0%
車や自転車の交通マナーが悪い	27.5%	22.2%	32.9%	25.0%
勉強する場所がない	18.2%	18.6%	18.0%	15.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	15.3%	12.1%	18.6%	13.0%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	9.3%	8.3%	10.2%	11.0%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	33.8%	35.0%	32.9%	29.0%
学校と住民との交流が不足している	11.4%	13.8%	8.8%	14.0%
外国人との交流がない	13.8%	15.9%	11.8%	13.0%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	29.9%	37.5%	22.5%	27.0%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	5.4%	7.7%	3.2%	5.0%
子どもの安全確保が不十分である	7.5%	7.5%	7.2%	10.0%
観光名所や名産品がない	10.5%	11.1%	10.5%	5.0%
商店街の活気がない	16.8%	18.0%	15.6%	15.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	3.5%	2.7%	4.1%	5.0%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	3.6%	4.4%	2.8%	2.0%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	9.7%	9.4%	10.2%	7.0%
その他	0.9%	0.5%	1.2%	2.0%
無回答	7.2%	5.3%	8.9%	10.0%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、４項目に差異があるといえる。

「お祭りなどのイベントが盛り上がっていない」が約 15 ポイント、「学校と住民の交流が不足している」が約 5 ポイント、女性が男性を上回った。また、「車や自転車の交通マナーが悪い」が約 11 ポイント、「登下校時に危険を感じる場所がある」が約 7 ポイント、男性が女性を上回った。

《参考：問２「その他」の主な回答記述》
○空き地や耕作放棄地の再整備

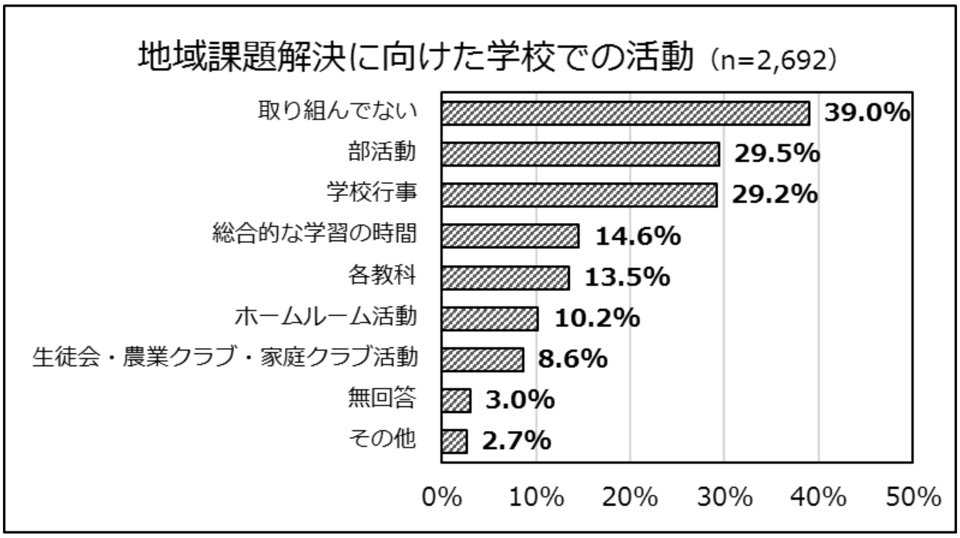
(4) 地域課題解決に向けた学校での活動

問３ あなたは、学校の活動で、ボランティアや地域の活動に取り組んでいますか。その場面について、あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題解決に向けた学校での活動

【図 34】



【表 41】

地域課題解決に向けた学校での活動（各地区別）	全 県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
各教科	13.5%	15.4%	14.2%	15.5%	14.0%	10.0%	11.3%	12.5%
総合的な学習の時間	14.6%	11.6%	12.9%	16.7%	15.5%	25.2%	10.9%	14.7%
部活動	29.5%	27.2%	31.9%	33.3%	32.3%	28.4%	28.4%	26.9%
ホームルーム活動	10.2%	10.4%	8.8%	9.7%	10.3%	8.0%	11.6%	12.5%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	8.6%	6.3%	9.2%	8.5%	9.3%	12.8%	7.5%	9.7%
学校行事	29.2%	24.5%	35.3%	29.1%	33.5%	33.2%	29.1%	23.8%
その他	2.7%	2.5%	1.0%	8.9%	2.5%	1.2%	1.9%	1.9%
取り組んでない	39.0%	42.8%	37.6%	31.0%	35.2%	37.2%	42.5%	46.6%
無回答	3.0%	3.9%	1.7%	3.9%	2.7%	2.0%	2.8%	3.4%

全県でみると、活動に取り組んでいる中で回答割合が最も高かったものは「部活動」で、僅差で「学校行事」が続く。多少ばらつきは見られるものの、各項目の地区間による大きな差異はみられない。

また、「取り組んでいない」は 39.0%であり、実際には活動しているが、それが地域課題の解決につながる活動であることを意識できていない、または取組が地域課題と結びついていない状況がうかがえる。

イ　課程・学科別にみた地域課題解決に向けた学校での活動

【表 42】

地域課題解決に向けた学校での活動（課程・学科別）	全　県 n=2,692	全日制：普通・総合 n=1,549	全日制：職業系専門 n=705	定時制 n=184	通信制 n=45	特別支援 n=209
各教科	13.5%	10.4%	15.3%	16.3%	42.2%	22.0%
総合的な学習の時間	14.6%	13.6%	9.8%	13.6%	37.8%	33.5%
部活動	29.5%	29.6%	34.3%	12.5%	15.6%	30.1%
ホームルーム活動	10.2%	8.0%	10.5%	14.1%	37.8%	16.3%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	8.6%	7.5%	10.6%	8.7%	24.4%	6.2%
学校行事	29.2%	24.4%	33.9%	35.9%	33.3%	42.1%
その他	2.7%	2.9%	2.3%	0.5%	0.0%	4.8%
取り組んでない	39.0%	43.0%	35.0%	42.4%	35.6%	20.6%
無回答	3.0%	2.6%	2.6%	7.6%	4.4%	3.3%

課程・学科別にみると、項目によって 30 ポイントを超える開きがあるなど、大きな差異がみられる。通信制では、「各教科」「総合的な学習の時間」「ホームルーム活動」と回答した割合が、他課程・学科と比較すると極めて高かった。また、特別支援では「総合的な学習の時間」「学校行事」と回答した割合が、他課程・学科と比較すると極めて高く、「取り組んでいない」は 20%をやや超えた程度で極めて低かった。特別支援の生徒は、学校で「地域のために活動している」と自覚して取り組んでいる様子がうかがえる。

ウ　性別にみた地域課題解決に向けた学校での活動

【表 43】

地域課題解決に向けた学校での活動（性別）	全　県 n=2,692	女　性 n=1,293	男　性 n=1,299	無 回 答 n=100
各教科	13.5%	13.8%	12.9%	18.0%
総合的な学習の時間	14.6%	14.2%	14.7%	18.0%
部活動	29.5%	29.2%	30.3%	21.0%
ホームルーム活動	10.2%	9.8%	10.8%	8.0%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	8.6%	11.5%	5.9%	6.0%
学校行事	29.2%	28.8%	30.2%	22.0%
その他	2.7%	3.5%	1.7%	5.0%
取り組んでない	39.0%	38.4%	40.1%	32.0%
無回答	3.0%	1.9%	3.6%	9.0%

「生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動」において、女性が男性を約 6 ポイント上回った。それ以外の項目については、性別による明確な差異はみられなかった。

《参考：問 3 「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎ボランティア単位認定活動　　　◎委員会活動

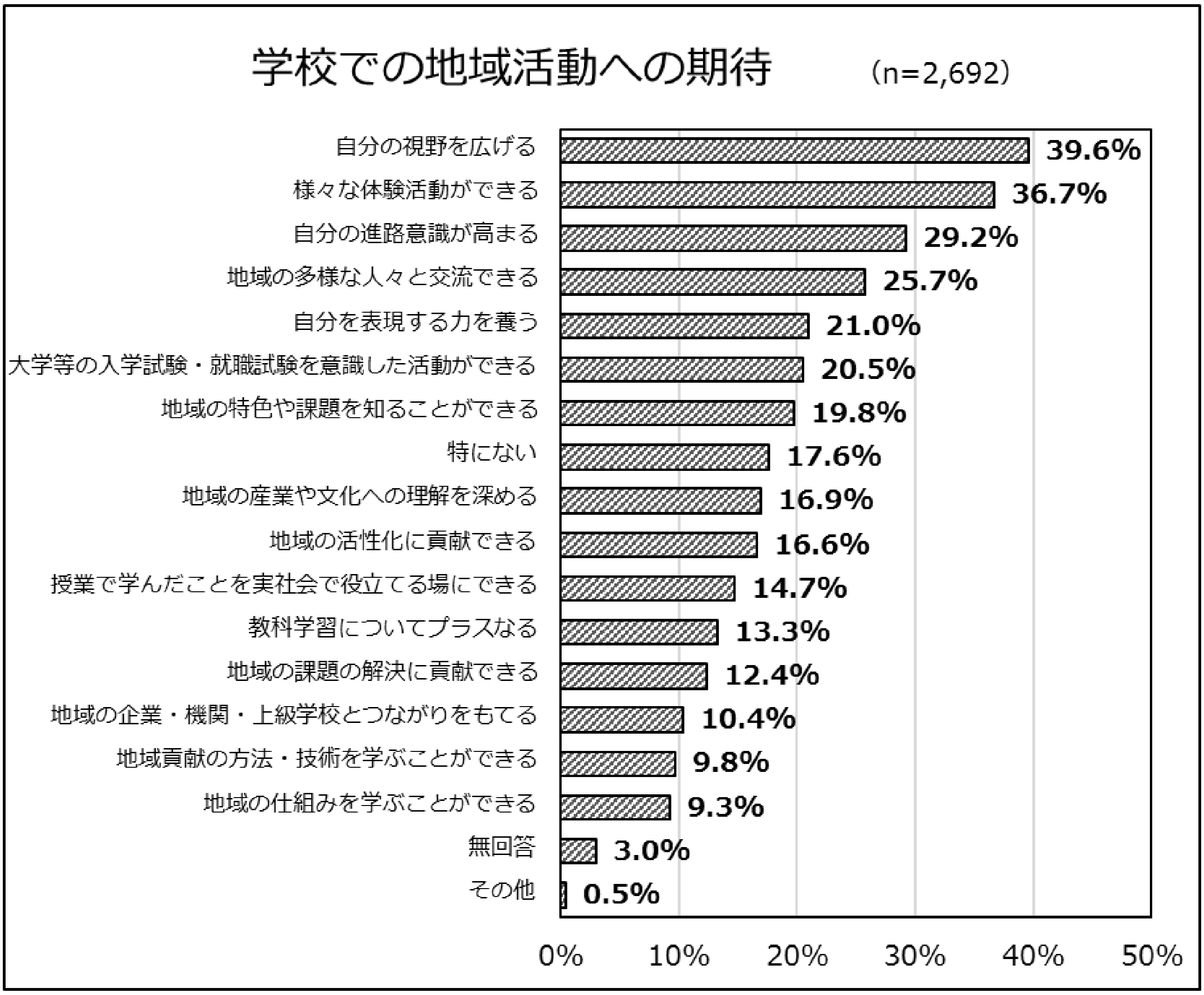
(5)　学校での地域活動への期待

問４　学校での地域活動について、次の中でどのようなことを期待しますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた学校での地域活動への期待

【図 35】



全県でみると、「自分の視野を広げる」が最上位で、「様々な体験活動ができる」が続く。次いで、「自分の進路意識が高まる」「地域の多様な人々と交流できる」が続く。自分自身の成長に関わる選択肢を選んでいる傾向がみられ、地域に貢献していくための学びや理解に関する選択肢の回答割合はそれほど高くなかった。

【表 44】

学校での地域活動への期待（各地区別）	全　県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
地域の特色や課題を知ることができる	19.8%	19.8%	25.8%	23.6%	16.7%	24.8%	15.9%	17.8%
地域の産業や文化への理解を深める	16.9%	19.5%	19.7%	15.9%	15.2%	18.8%	15.3%	14.7%
地域の多様な人々と交流できる	25.7%	30.8%	29.5%	27.5%	21.0%	22.8%	18.8%	30.3%
地域の企業・機関・上級学校とつながりをもてる	10.4%	11.9%	10.2%	12.4%	9.9%	10.4%	9.1%	8.8%
地域の仕組みを学ぶことができる	9.3%	10.7%	10.2%	8.9%	7.9%	12.0%	8.1%	8.4%
地域貢献の方法・技術を学ぶことができる	9.8%	11.5%	10.8%	14.0%	6.9%	11.2%	9.4%	7.2%
地域の課題の解決に貢献できる	12.4%	17.8%	13.9%	8.9%	8.2%	16.4%	10.9%	10.0%
地域の活性化に貢献できる	16.6%	19.5%	23.1%	15.5%	13.6%	14.4%	14.1%	16.6%
自分の進路意識が高まる	29.2%	31.1%	28.1%	32.9%	26.9%	28.8%	28.8%	30.3%
様々な体験活動ができる	36.7%	37.1%	41.4%	43.8%	34.0%	35.2%	32.8%	38.4%
自分の視野を広げる	39.6%	42.5%	39.7%	45.0%	35.7%	38.4%	36.3%	43.1%
自分を表現する力を養う	21.0%	19.8%	20.7%	26.4%	19.2%	22.0%	18.4%	25.3%
教科学習についてプラスなる	13.3%	15.7%	16.6%	14.7%	12.1%	12.8%	10.0%	11.3%
大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる	20.5%	21.9%	19.3%	19.8%	19.4%	20.8%	18.1%	25.3%
授業で学んだことを実社会で役立てる場にできる	14.7%	15.6%	13.2%	16.3%	15.8%	12.4%	12.5%	16.3%
特にない	17.6%	19.7%	12.9%	17.8%	17.2%	18.8%	20.3%	16.3%
その他	0.5%	0.3%	1.0%	0.8%	0.7%	0.4%	0.0%	0.3%
無回答	3.0%	3.8%	2.0%	2.7%	3.4%	2.0%	3.8%	2.5%

地区別にみると、全県で上位 2 項目であった「自分の視野を広げる」「様々な体験活動ができる」が、全ての地区で上位２項目となり、いずれも 30～45%の回答割合であった。

項目毎にみると、「地域の多様な人々と交流できる」では、回答割合の最も高い河内地区と最も低い那須地区で約 12 ポイントの差異がみられた。それ以外の項目については、地区間の大きな差異はみられなかった。

イ　課程・学科別にみた学校での地域活動への期待

【表 45】

学校での地域活動への期待 （課程・学科別）	全　県 n=2,692	全日制：普通・総合 n=1,549	全日制：職業系専門 n=705	定時制 n=184	通信制 n=45	特別支援 n=209
地域の特色や課題を知ることができる	19.8%	20.4%	20.6%	20.7%	11.1%	13.4%
地域の産業や文化への理解を深める	16.9%	15.4%	18.6%	17.4%	17.8%	22.5%
地域の多様な人々と交流できる	25.7%	23.7%	30.6%	22.3%	17.8%	29.2%
地域の企業・機関・上級学校とつながりをもてる	10.4%	9.0%	11.2%	10.3%	11.1%	17.7%
地域の仕組みを学ぶことができる	9.3%	8.4%	8.9%	12.5%	8.9%	14.8%
地域貢献の方法・技術を学ぶことができる	9.8%	8.9%	10.8%	12.5%	2.2%	12.0%
地域の課題の解決に貢献できる	12.4%	14.5%	9.1%	9.8%	8.9%	11.5%
地域の活性化に貢献できる	16.6%	17.9%	15.2%	15.2%	11.1%	13.9%
自分の進路意識が高まる	29.2%	28.5%	29.4%	24.5%	24.4%	39.2%
様々な体験活動ができる	36.7%	36.4%	40.0%	28.3%	35.6%	35.9%
自分の視野を広げる	39.6%	40.3%	40.3%	39.1%	42.2%	31.6%
自分を表現する力を養う	21.0%	22.5%	17.2%	20.7%	8.9%	25.4%
教科学習についてプラスなる	13.3%	13.4%	12.3%	13.0%	22.2%	14.8%
大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる	20.5%	24.5%	15.9%	10.9%	20.0%	15.8%
授業で学んだことを実社会で役立てる場にできる	14.7%	14.0%	14.6%	12.5%	15.6%	22.5%
特にない	17.6%	14.1%	17.2%	34.8%	28.9%	27.8%
その他	0.5%	0.6%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
無回答	3.0%	2.2%	2.7%	9.2%	4.4%	4.8%

10 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、8 項目に差異があるといえる。

全日制普通・総合系学科では、「大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる」の回答割合が他と比べて高かった。また、通信制では、「教科学習についてプラスになる」の回答割合が他と比べて高かった。特別支援では、「自分の進路意識が高まる」「自分を表現する力を養う」「授業で学んだことを実社会で役立てる場にできる」の回答割合が他と比べて高かった。

ウ　性別にみた学校での地域活動への期待

【表 46】

学校での地域活動への期待（性別）	全　県 n=2,692	女　性 n=1,293	男　性 n=1,299	無回答 n=100
地域の特色や課題を知ることができる	19.8%	18.4%	21.9%	10.0%
地域の産業や文化への理解を深める	16.9%	18.9%	15.8%	7.0%
地域の多様な人々と交流できる	25.7%	31.2%	20.3%	25.0%
地域の企業・機関・上級学校とつながりをもてる	10.4%	9.4%	11.8%	6.0%
地域の仕組みを学ぶことができる	9.3%	7.3%	11.4%	9.0%
地域貢献の方法・技術を学ぶことができる	9.8%	8.4%	11.2%	8.0%
地域の課題の解決に貢献できる	12.4%	13.3%	11.7%	10.0%
地域の活性化に貢献できる	16.6%	18.3%	14.9%	16.0%
自分の進路意識が高まる	29.2%	31.3%	27.6%	24.0%
様々な体験活動ができる	36.7%	44.8%	28.6%	38.0%
自分の視野を広げる	39.6%	43.6%	35.6%	38.0%
自分を表現する力を養う	21.0%	21.6%	20.2%	22.0%
教科学習についてプラスなる	13.3%	13.9%	12.7%	14.0%
大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる	20.5%	23.9%	16.9%	24.0%
授業で学んだことを実社会で役立てる場にできる	14.7%	18.8%	10.9%	13.0%
特にない	17.6%	12.2%	21.6%	36.0%
その他	0.5%	0.2%	0.8%	0.0%
無回答	3.0%	1.9%	3.3%	15.0%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、６項目に差異があるといえる。

「様々な体験活動ができる」は約 16 ポイント、「地域の多様な人々と交流できる」は約 11 ポイント、「自分の視野を広げる」「授業で学んだことを実社会で役立てる」は約８ポイント、「大学等の入学試験、就職試験を意識した活動ができる」は約 7 ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。それに対して、「特にない」は男性が女性を約９ポイント上回った。

《参考：問４「その他」の主な回答記述》

○高校生同士の交流　　○学校での地域活動がないから分からない

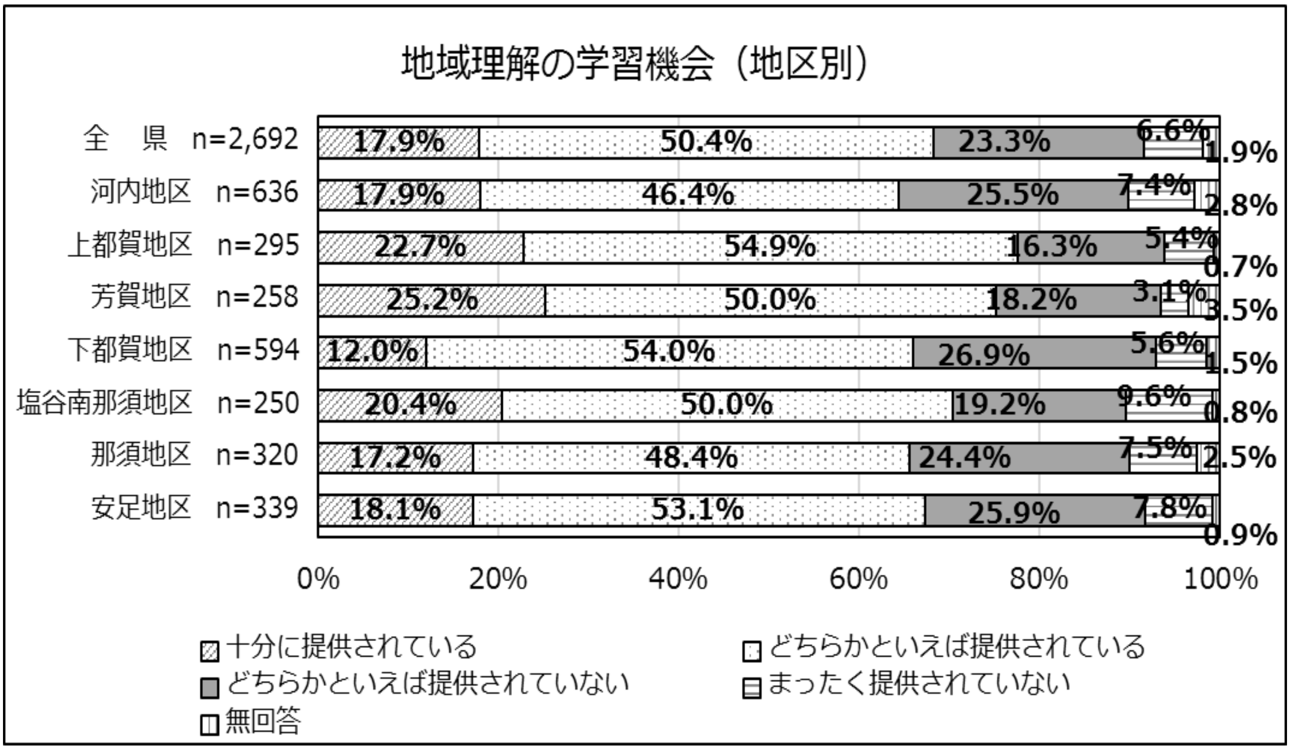
(6) 地域理解の学習機会

問５　　地域のことを知る・学習する機会は、学校や地域から十分に提供されていると感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域理解の学習機会

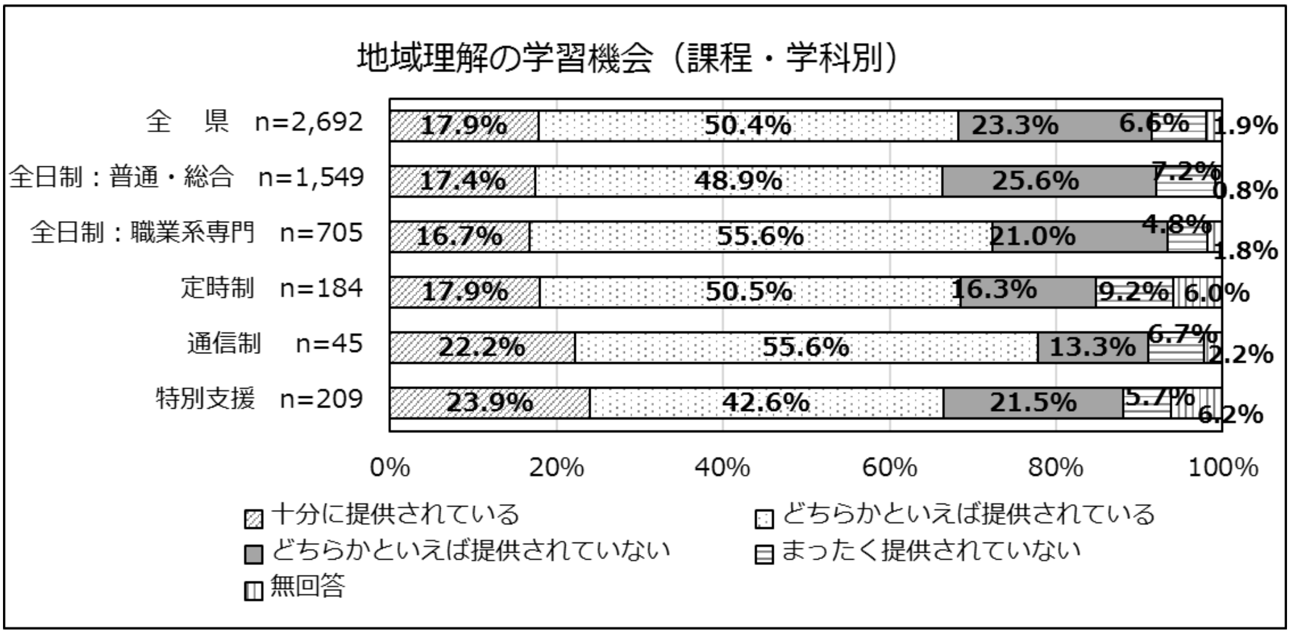
【図 36】



全県でみると、「十分に提供されている」「どちらかといえば提供されている」を合わせた回答割合は 68.3%であった。特に、上都賀地区や芳賀地区では、75%を超える回答があった。「提供されている」と回答した割合の最も高い地区と最も低い地区で約 12 ポイントの開きがあり、地区間の差異がややみられた。

イ　課程・学科別にみた地域理解の学習機会

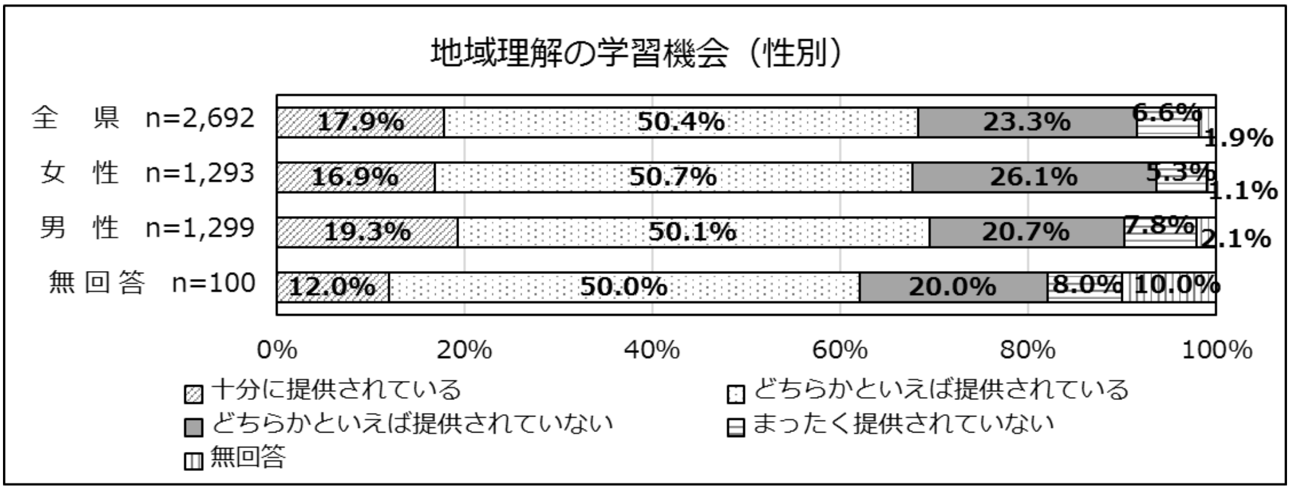
【図 37】



通信制、全日制職業系専門学科で、「十分に提供されている」「どちらかといえば提供されている」を合わせた回答割合が 70%を超えた。特に通信制では、回答数は少ないものの77.8%の回答割合で、他と比較すると高い状況にあるといえる。

ウ　性別にみた地域理解の学習機会

【図 38】



「十分に提供されている」「まったく提供されていない」が、2～3ポイント男性が女性を上回った。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」が、約 5 ポイント女性が男性を上回った。

総じてみれば、性別による大きな差異はみられなかった。

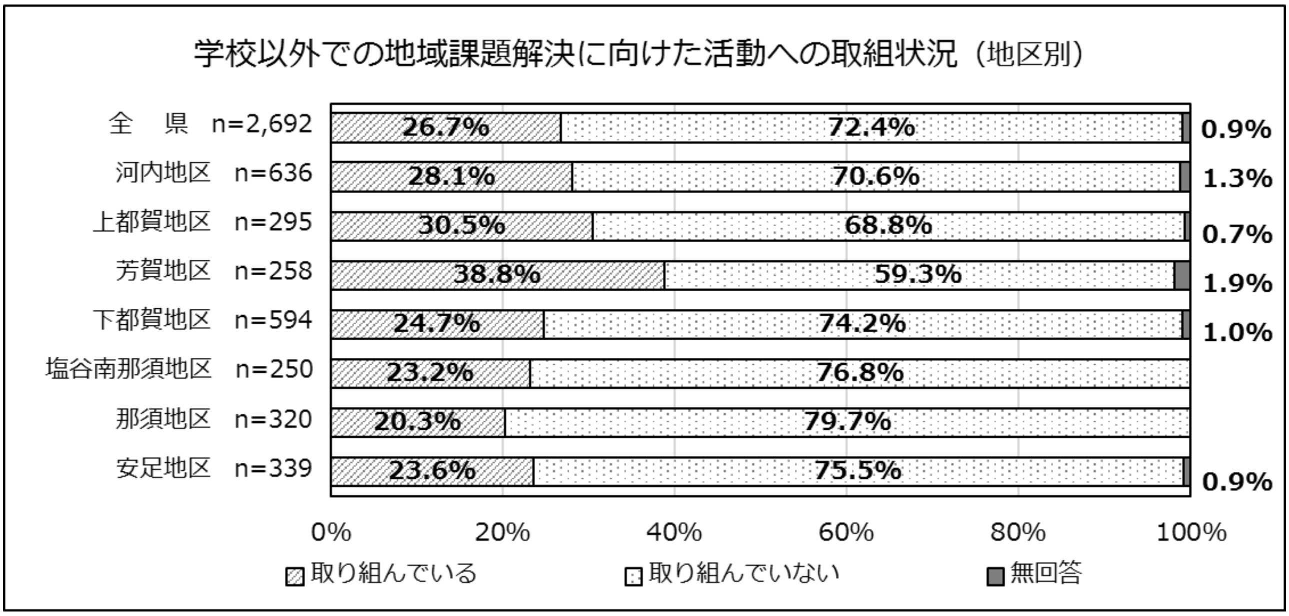
(7) 学校以外での地域課題解決に向けた取組

問６　　あなたは、学校の活動以外で、ボランティアや地域（学校の所在地・自宅の所在地ともに含む）の活動に取り組んでいますか。あてはまる番号に○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた学校以外での地域課題解決に向けた取組状況

【図 39】

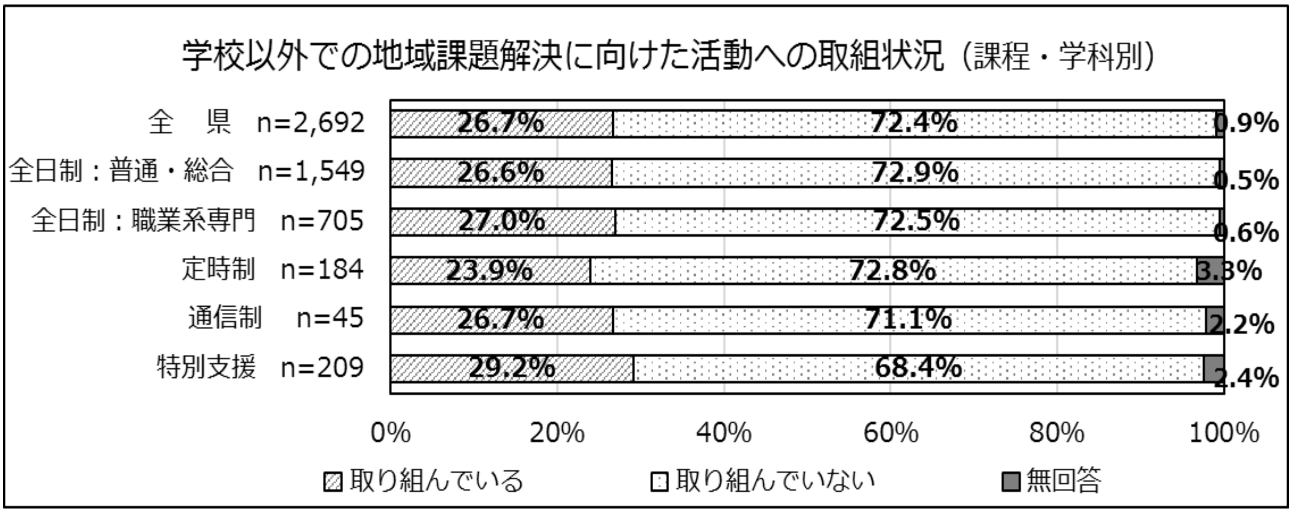


全県でみると、全体の 1/4 強の生徒が「取り組んでいる」と回答した。

特に「芳賀地区」では 38.8%と、他と比べて極めて高かった。また、「上都賀地区」も 30%を超えた。「取り組んでいる」と回答した割合の最も高い地区と最も低い地区で約 19 ポイントの開きがあり、地区間の差異がみられた。

イ　課程・学科別にみた学校以外での地域課題解決に向けた取組状況

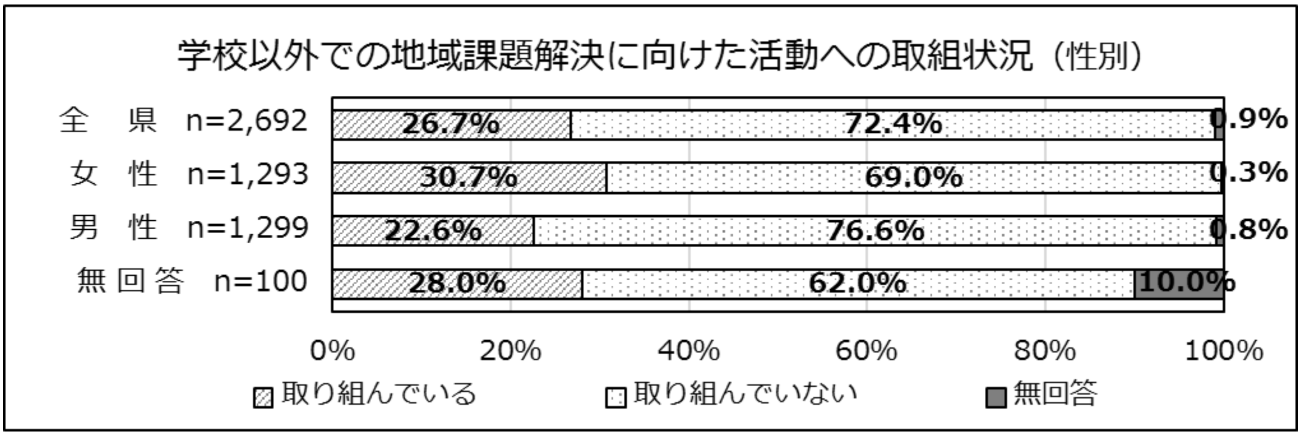
【図 40】



課程・学科別にみると、特別支援で「取り組んでいない」と回答した割合が、他と比べてやや小さいことはいえる。しかし、総じて課程・学科による大きな差異はみられない。

ウ　性別にみた学校以外での地域課題解決に向けた取組状況

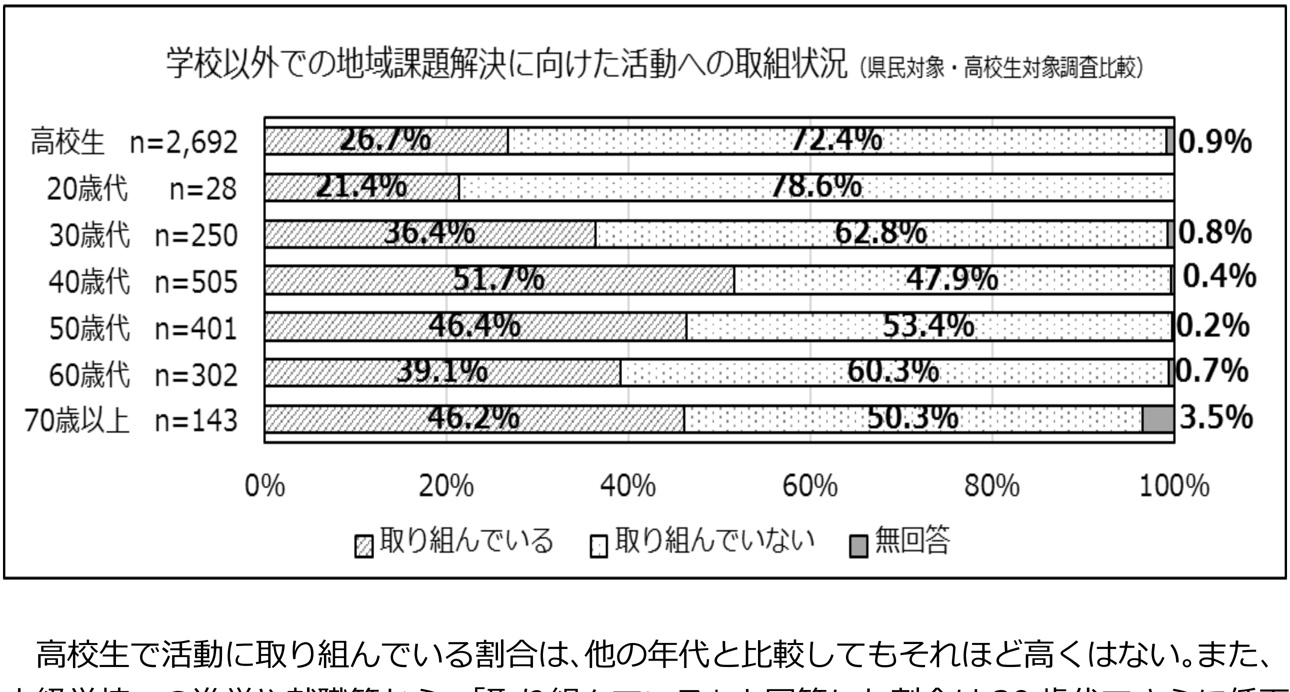
【図 41】



「取り組んでいる」と回答した割合は、女性が男性を約８ポイント上回った。

エ　県民対象調査との比較

【図 42】



高校生で活動に取り組んでいる割合は、他の年代と比較してもそれほど高くはない。また、上級学校への進学や就職等から、「取り組んでいる」と回答した割合は 20 歳代でさらに低下する。30 歳代、40 歳代と「取り組んでいる」と回答した割合は上昇し、40 歳代で最も高くなる。50 歳代と 60 歳代で徐々にその回答割合は低下するが、70 歳以上でまた上昇している。

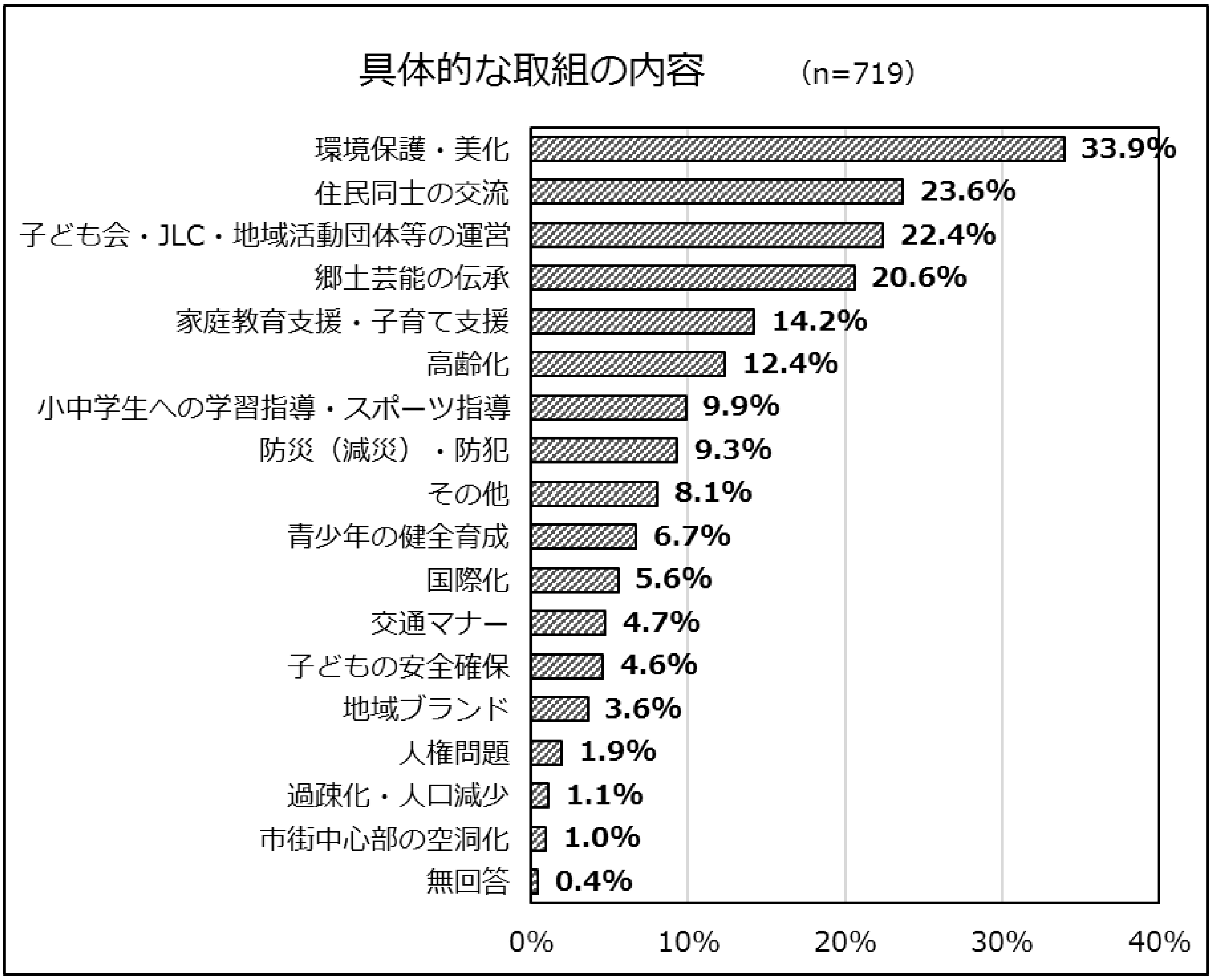
(8)　具体的な取組の内容

問７　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた具体的な取組の内容

【図 43】



実際に地域課題の解決に向けた活動に取り組んだ経験をもつ 719 名に対して、その内容について質問した。

全県でみると、「環境保護・美化」の回答割合が最も高く、全体の約 1/3 が回答した。次いで、「住民同士の交流」「子ども会・JLC・地域活動団体等の運営」「郷土芸能の伝承」が続いており、これらが 20%を超えた。

【表 47】

具体的な取組の内容（各地区別）	全　県 n＝719	河内地区 n=179	上都賀地区 n=90	芳賀地区 n=100	下都賀地区 n=147	塩谷南那須地区 n=58	那須地区 n=65	安足地区 n=80
防災（減災）・防犯	9.3%	11.2%	12.2%	10.0%	8.2%	5.2%	9.2%	6.3%
子どもの安全確保	4.6%	7.8%	4.4%	3.0%	6.1%	0.0%	4.6%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	14.2%	13.4%	5.6%	13.0%	19.0%	15.5%	12.3%	18.8%
青少年の健全育成	6.7%	8.4%	7.8%	3.0%	7.5%	6.9%	6.2%	5.0%
郷土芸能の伝承	20.6%	19.6%	37.8%	21.0%	14.3%	8.6%	23.1%	21.3%
子ども会・JLC・地域活動団体等の運営	22.4%	24.0%	22.2%	27.0%	17.7%	31.0%	20.0%	17.5%
住民同士の交流	23.6%	25.7%	23.3%	22.0%	20.4%	22.4%	13.8%	36.3%
高齢化	12.4%	9.5%	7.8%	10.0%	8.2%	19.0%	16.9%	26.3%
地域ブランド	3.6%	5.6%	4.4%	2.0%	3.4%	0.0%	3.1%	3.8%
国際化	5.6%	6.7%	10.0%	4.0%	4.1%	3.4%	4.6%	5.0%
過疎化・人口減少	1.1%	1.7%	2.2%	1.0%	0.7%	0.0%	0.0%	1.3%
環境保護・美化	33.9%	35.2%	27.8%	39.0%	37.4%	27.6%	36.9%	27.5%
人権問題	1.9%	2.2%	3.3%	1.0%	1.4%	0.0%	1.5%	3.8%
市街中心部の空洞化	1.0%	1.7%	2.2%	1.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%
交通マナー	4.7%	10.6%	3.3%	4.0%	1.4%	1.7%	1.5%	5.0%
小中学生への学習指導・スポーツ指導	9.9%	9.5%	7.8%	4.0%	10.2%	8.6%	15.4%	16.3%
その他	8.1%	8.4%	4.4%	10.0%	10.9%	8.6%	7.7%	3.8%
無回答	0.4%	0.6%	1.1%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%

「郷土芸能の伝承」では、回答割合の最も高い上都賀地区と最も低い塩谷南那須地区で約29ポイント、「住民同士の交流」では、安足地区と那須地区で約24ポイントと、それぞれ大きな差がみられた。他にも、地区間で10ポイント以上の差がみられた項目が4項目あることから、地区間による差異があるといえる。

イ　課程・学科別にみた具体的な取組の内容

【表 48】

具体的な取組の内容（課程・学科別）	全　県 n＝719	全日制：普通・総合 n=412	全日制：職業系専門 n=190	定時制 n=44	通信制 n=12	特別支援 n=61
防災（減災）・防犯	9.3%	8.7%	6.8%	20.5%	0.0%	14.8%
子どもの安全確保	4.6%	2.2%	6.3%	9.1%	25.0%	8.2%
家庭教育支援・子育て支援	14.2%	16.7%	12.1%	6.8%	8.3%	9.8%
青少年の健全育成	6.7%	6.1%	7.4%	2.3%	25.0%	8.2%
郷土芸能の伝承	20.6%	21.4%	16.8%	18.2%	41.7%	24.6%
子ども会・JLC・地域活動団体等の運営	22.4%	26.2%	18.4%	13.6%	16.7%	16.4%
住民同士の交流	23.6%	25.2%	18.9%	20.5%	25.0%	29.5%
高齢化	12.4%	11.2%	19.5%	6.8%	8.3%	3.3%
地域ブランド	3.6%	2.9%	3.7%	2.3%	33.3%	3.3%
国際化	5.6%	6.1%	4.7%	4.5%	0.0%	6.6%
過疎化・人口減少	1.1%	1.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%
環境保護・美化	33.9%	29.9%	38.4%	50.0%	41.7%	34.4%
人権問題	1.9%	2.2%	2.1%	0.0%	0.0%	1.6%
市街中心部の空洞化	1.0%	1.0%	1.1%	2.3%	0.0%	0.0%
交通マナー	4.7%	3.2%	3.2%	6.8%	8.3%	18.0%
小中学生への学習指導・スポーツ指導	9.9%	10.4%	9.5%	9.1%	8.3%	8.2%
その他	8.1%	6.8%	10.5%	6.8%	16.7%	8.2%
無回答	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%

課程・学科別にみると、「地域ブランド」で約 31 ポイント、「郷土芸能の伝承」で約 25 ポイント、「子どもの安全確保」「青少年の健全育成」で約 23 ポイント、「防災（減災）・防犯」で約 21 ポイント、「環境保護・美化」で約 20 ポイントの差が、回答割合の最も高い課程・学科と低い課程・学科との間にみられた。他にも、3 項目で 10 ポイント以上の差がみられるなど、課程・学科間の大きな差異があるといえる。

ウ　性別にみた具体的な取組の内容

【表 49】

具体的な取組の内容（性別）	全　県 n＝719	女　性 n=397	男　性 n=294	無回答 n=28
防災（減災）・防犯	9.3%	8.6%	10.2%	10.7%
子どもの安全確保	4.6%	3.8%	5.4%	7.1%
家庭教育支援・子育て支援	14.2%	19.6%	5.4%	28.6%
青少年の健全育成	6.7%	6.8%	5.4%	17.9%
郷土芸能の伝承	20.6%	21.4%	18.7%	28.6%
子ども会・JLC・地域活動団体等の運営	22.4%	28.2%	15.3%	14.3%
住民同士の交流	23.6%	24.9%	21.8%	25.0%
高齢化	12.4%	16.4%	7.5%	7.1%
地域ブランド	3.6%	3.3%	3.1%	14.3%
国際化	5.6%	5.3%	5.1%	14.3%
過疎化・人口減少	1.1%	1.0%	1.0%	3.6%
環境保護・美化	33.9%	28.7%	40.1%	42.9%
人権問題	1.9%	1.8%	1.7%	7.1%
市街中心部の空洞化	1.0%	0.3%	1.7%	3.6%
交通マナー	4.7%	2.5%	7.5%	7.1%
小中学生への学習指導・スポーツ指導	9.9%	9.8%	10.2%	7.1%
その他	8.1%	9.1%	6.8%	7.1%
無回答	0.4%	0.0%	0.7%	3.6%

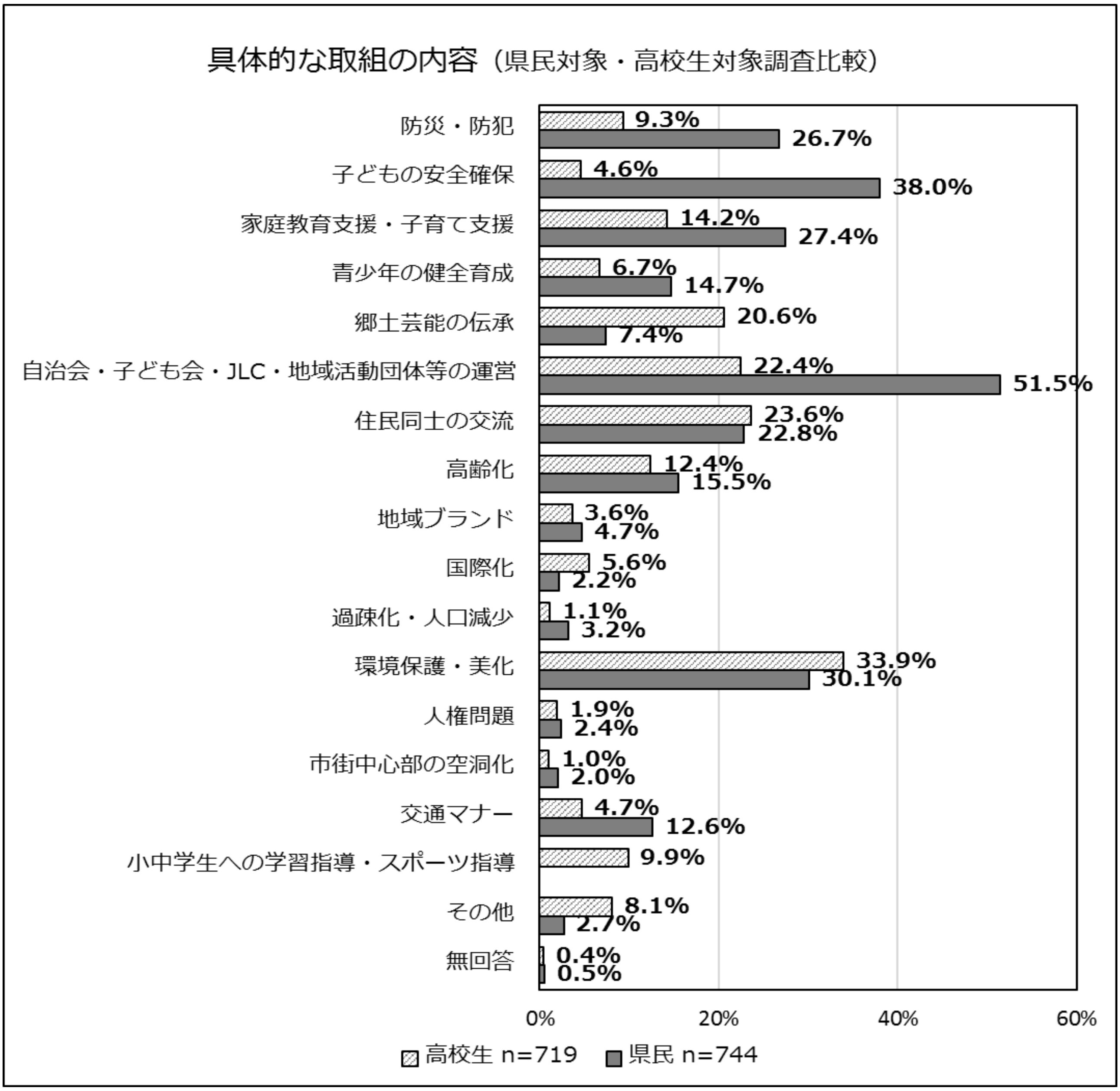
５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、５項目に差異があるといえる。

「家庭教育支援・子育て支援」では約 14 ポイント、「子ども会・JLC・地域活動団体等の運営」では約 13 ポイント、「高齢化」では約９ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。

また、「環境保護・美化」では約 11 ポイント、「交通マナー」では約 5 ポイント、それぞれ男性が女性を上回った。

エ　県民対象調査との比較

【図 44】



「郷土芸能の伝承」「国際化」等、高校生の若い力がより生かせる分野で、県民より回答割合が高かった。また、「その他」の回答割合も高く、自らの興味・関心から幅広い分野で活動している状況もうかがえる。

《参考：問７「その他」の主な回答記述》
○カンボジアの孤児院でのボランティア活動　○フィリピンで子どもたちと交流
○海外での洋服のリサイクル活動　○スラム視察
○地元プロスポーツの盛上げ役（SC チアーズ等）　○図書館でのボランティア活動
○地域の清掃活動（マンション周辺、神社周辺等）
○障害のある方々のサポート（イベントの参加、乗馬介助等）

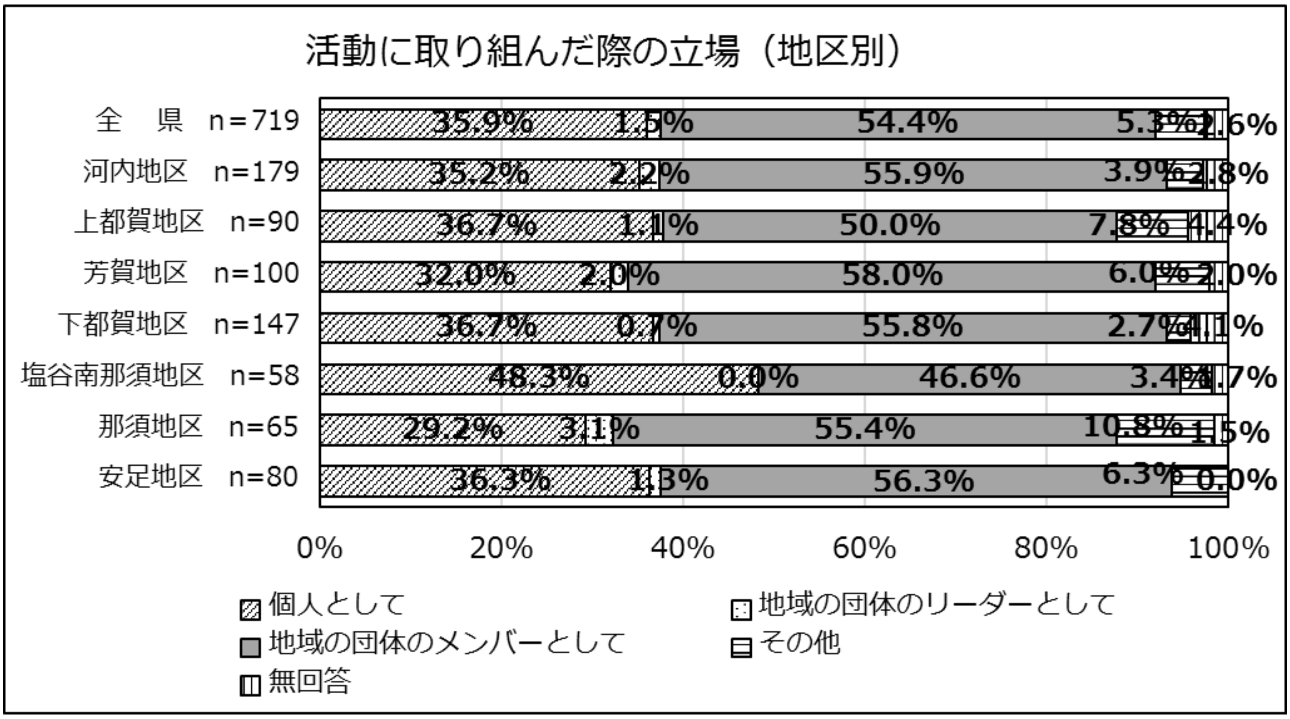
(9)　活動に取り組んだ際の立場

問８　　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。活動にはどのような立場で取り組んでいます（いました）か。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた活動に取り組んだ際の立場

図 45】

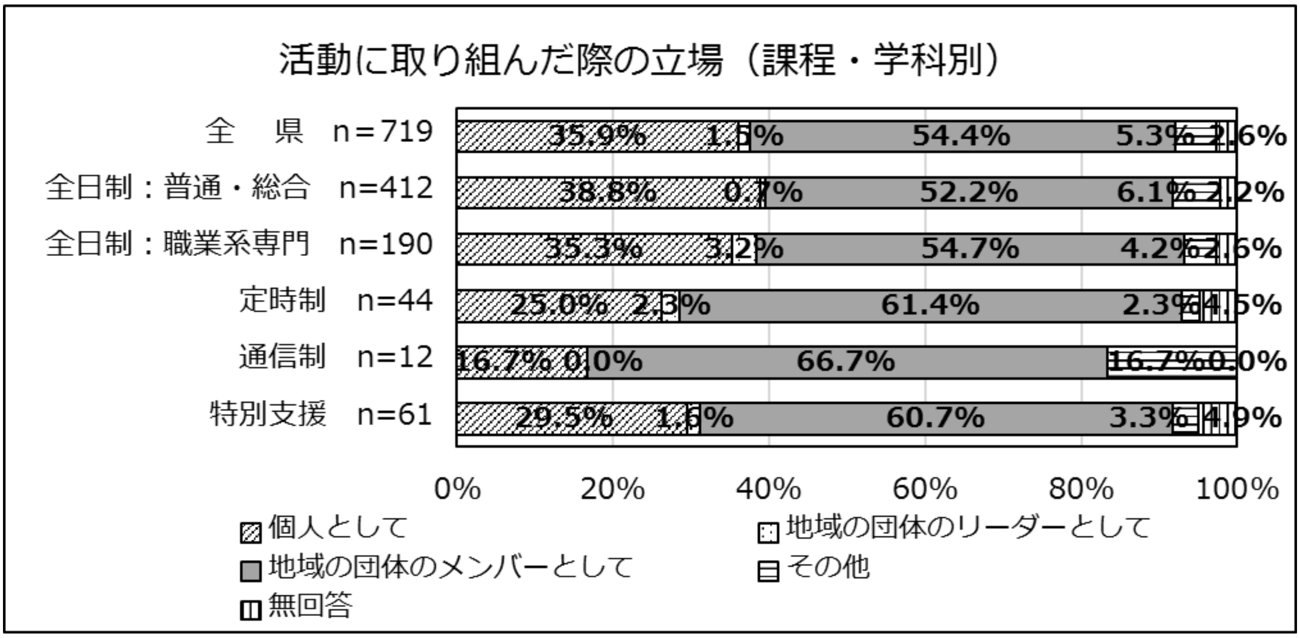


全県でみると、「個人として」と回答した割合が約 36%、地域の団体で活動している割合（「地域の団体のリーダーとして」「地域の団体のメンバーとして」と回答した回答割合の合計）が約 56%であった。団体のリーダーとして活動している生徒は、極めて少ない状況であった。

地区別にみると、塩谷南那須地区で「個人として」の回答割合が他地区と比べて 10%程度高いこと（地域の団体で活動している割合は他地区と比べて約 10%低い）、那須地区で「個人として」の回答割合が他地区と比べて約７ポイント低いことが分かる。

イ　課程・学科別にみた活動に取り組んだ際の立場

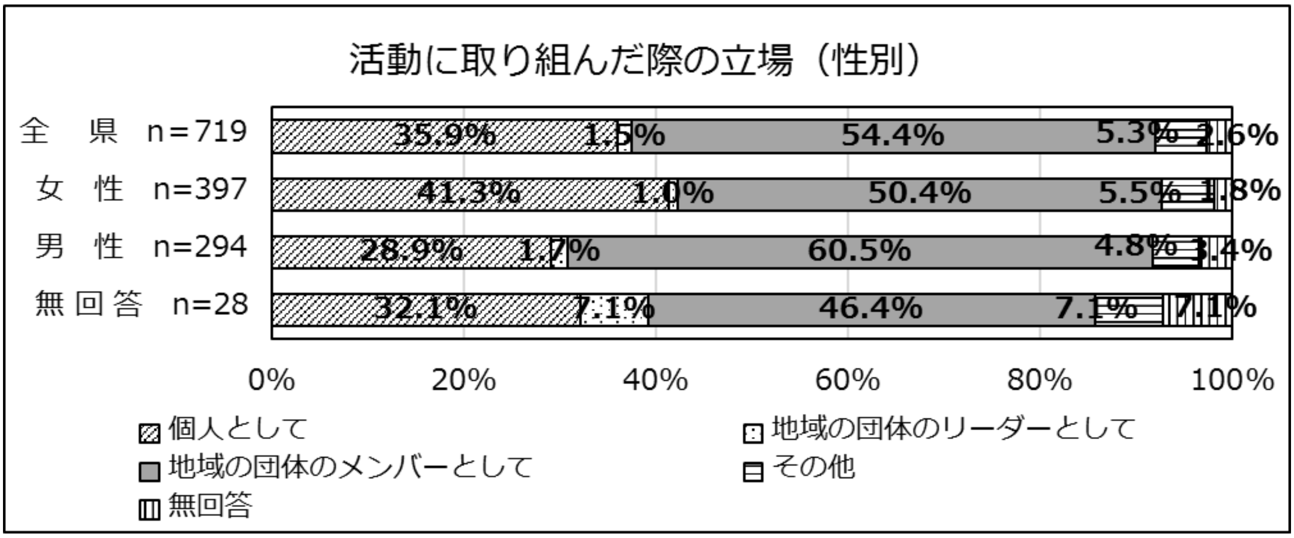
【図 46】



定時制、通信制、特別支援は、全日制と比べると「個人として」と回答した割合が低かった（地域の団体で活動している割合は全日制と比べて5～15%程度高い）。

ウ　性別にみた活動に取り組んだ際の立場

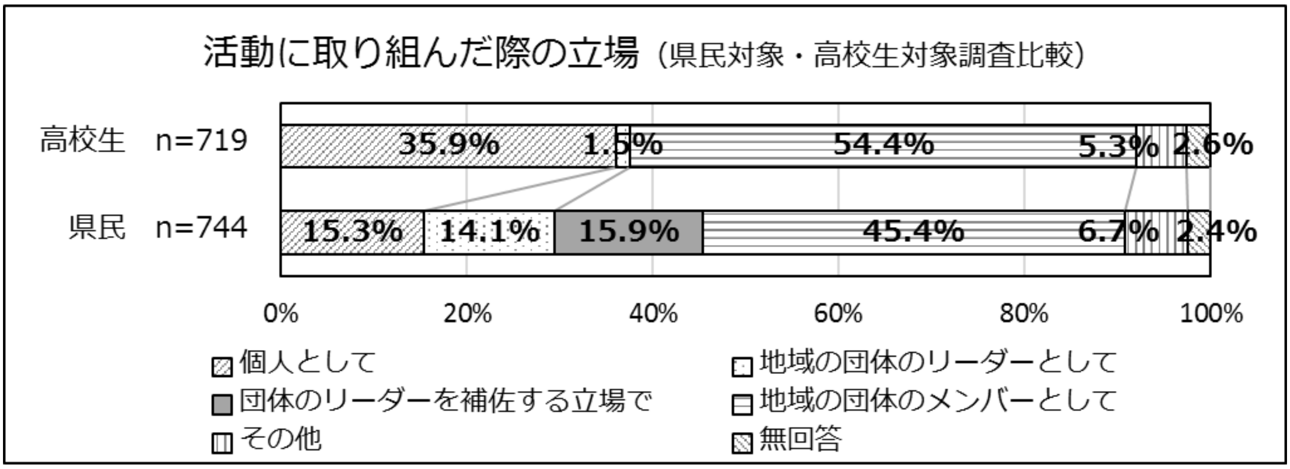
【図 47】



「個人として」と回答した割合は、女性が男性を約 12 ポイント上回った。一方で、地域の団体で活動している割合は、男性が女性を約 11 ポイント上回った。

エ　県民対象調査との比較

【図 48】



「個人として」活動している割合は、県民と比較して高校生が約 21 ポイント高かった。一方で、地域の団体で活動している割合は、県民と比較して高校生が約 20 ポイント低かった。

《参考：問７「その他」の主な回答記述》
○家族の代理で（親、祖父母等）

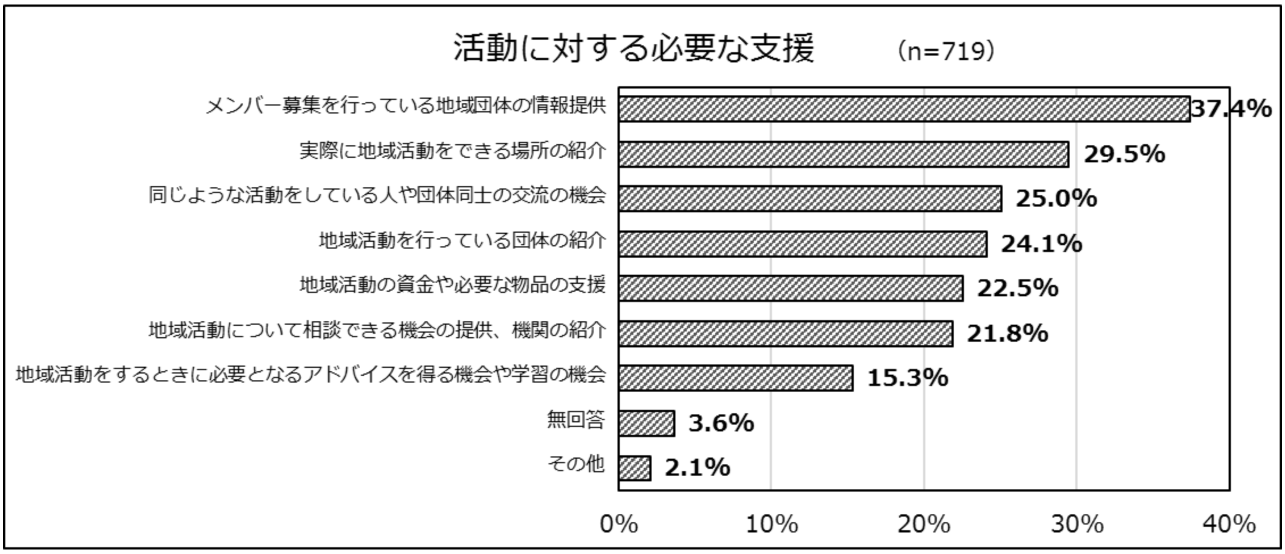
(10)　活動に対する必要な支援

問９　　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。どのような手助けがあると、さらに活動に取り組みやすくなると思いますか。あてはまる番号３つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた必要な支援

【図 49】



【表 50】

活動に対する必要な支援（各地区別）	全　県 n=719	河内地区 n=179	上都賀地区 n=90	芳賀地区 n=100	下都賀地区 n=147	塩谷南那須地区 n=58	那須地区 n=65	安足地区 n=80
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	21.8%	22.3%	24.4%	21.0%	22.4%	20.7%	12.3%	26.3%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%	36.9%	30.0%	38.0%	38.8%	43.1%	41.5%	36.3%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%	25.7%	20.0%	23.0%	27.2%	25.9%	20.0%	22.5%
実際に地域活動をできる場所の紹介	29.5%	29.6%	33.3%	29.0%	27.2%	31.0%	27.7%	30.0%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	15.3%	14.5%	14.4%	25.0%	11.6%	15.5%	9.2%	17.5%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%	25.1%	28.9%	25.0%	21.1%	27.6%	23.1%	27.5%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%	20.7%	24.4%	20.0%	25.2%	22.4%	29.2%	17.5%
その他	2.1%	2.2%	2.2%	0.0%	4.1%	1.7%	0.0%	2.5%
無回答	3.6%	2.8%	3.3%	3.0%	2.7%	3.4%	10.8%	2.5%

全県でみると、「メンバー募集を行っている地域団体の情報提供」が 37.4%で最上位となった。次いで、「実際に地域活動をできる場所の紹介」「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」と続いている。

地域別にみると、各項目とも全県での回答割合と近い値の地区が多いが、１～２地区程度離れた値を示した。地区間による差異がややあるといえる。

イ　課程・学科別にみた必要な支援

【表 51】

活動に対する必要な支援（課程・学科別）	全　県 n＝719	全日制：普通・総合 n=412	全日制：職業系専門 n=190	定時制 n=44	通信制 n=12	特別支援 n=61
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	21.8%	21.8%	17.4%	38.6%	16.7%	24.6%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%	40.0%	36.8%	31.8%	25.0%	27.9%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%	23.5%	24.2%	22.7%	41.7%	24.6%
実際に地域活動をできる場所の紹介	29.5%	26.0%	33.7%	29.5%	16.7%	42.6%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	15.3%	13.8%	14.7%	11.4%	41.7%	24.6%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%	21.1%	27.9%	25.0%	16.7%	44.3%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%	22.8%	23.7%	20.5%	8.3%	21.3%
その他	2.1%	1.5%	3.2%	4.5%	0.0%	1.6%
無回答	3.6%	3.6%	1.6%	13.6%	0.0%	3.3%

定時制では、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」の回答割合が、他と比べて極めて高かった。また、通信制では、「地域活動するときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」「地域活動を行っている団体の紹介」の回答割合が、他と比べて極めて高かった。特別支援では、「実際に地域活動をできる場所の紹介」「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」の回答割合が、他と比べて極めて高い結果となった。

ウ　性別にみた必要な支援

【表 52】

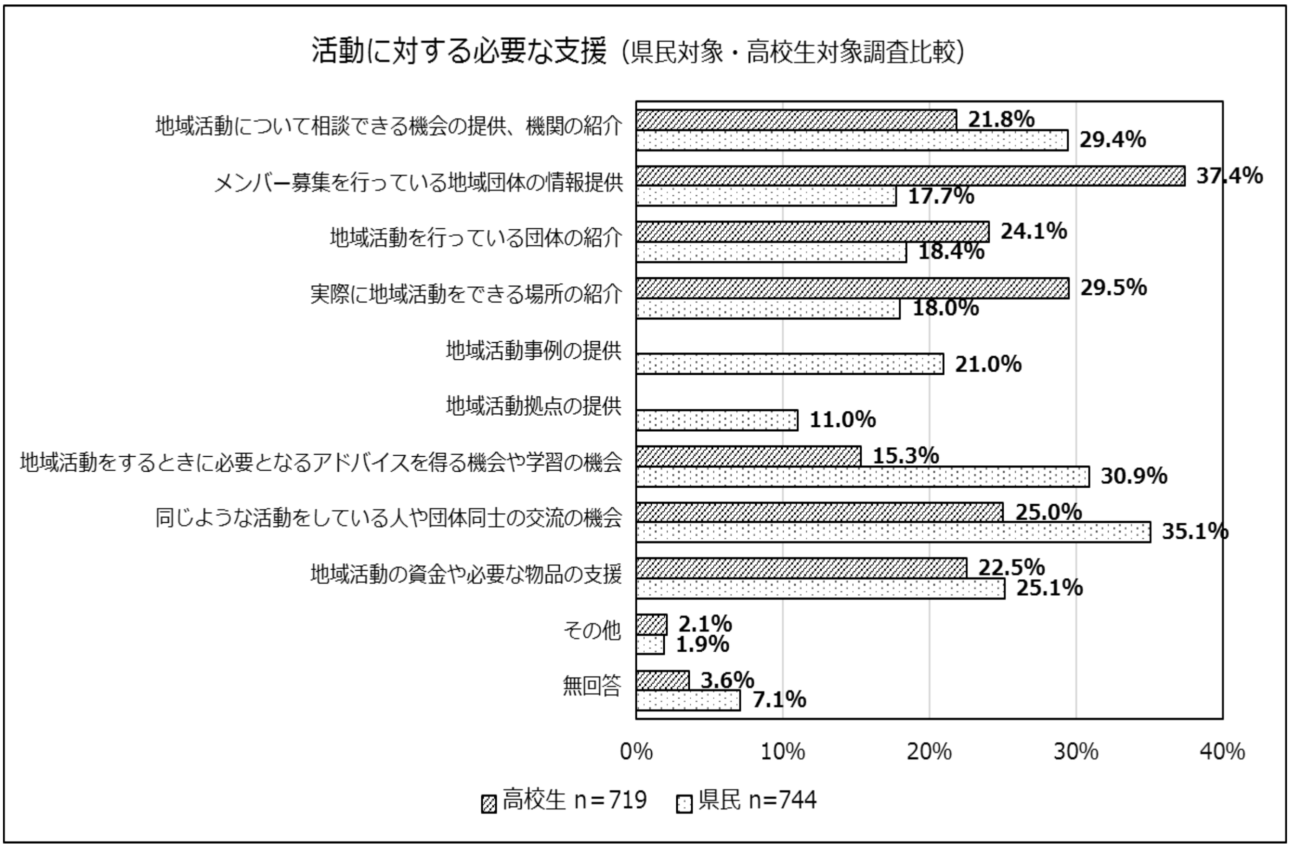
活動に対する必要な支援（性別）	全　県 n＝719	女　性 n=397	男　性 n=294	無 回 答 n=28
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	21.8%	20.4%	24.1%	17.9%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%	41.1%	33.0%	32.1%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%	24.4%	23.5%	25.0%
実際に地域活動をできる場所の紹介	29.5%	31.2%	27.6%	25.0%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	15.3%	13.9%	18.0%	7.1%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%	23.7%	27.9%	14.3%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%	18.9%	26.9%	28.6%
その他	2.1%	1.8%	2.7%	0.0%
無回答	3.6%	2.8%	4.1%	10.7%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、２項目に差異があるといえる。

「メンバー募集を行っている地域団体の情報提供」では、女性が男性を約８ポイント上回った。一方で、「地域活動の資金や必要な物品の支援」では、男性が女性を約 8 ポイント上回った。

エ　県民対象調査との比較

【図 50】



高校生が県民より回答割合が高いのは、「メンバー募集を行っている地域団体の情報提供」や「地域活動を行っている団体の紹介」「実際に地域活動をできる場所の紹介」など、活動できる場や組織の情報についての項目であった。

それに対して、県民が高校生より回答割合が高いのは、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「地域活動するときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」など、今取り組んでいる活動をさらに高めていけるようなサポートに関する項目であった。

《参考：問９「その他」の主な回答記述》
○学校内での地域活動に参加しやすい環境づくり（土曜の課外授業の際の認欠扱い等）

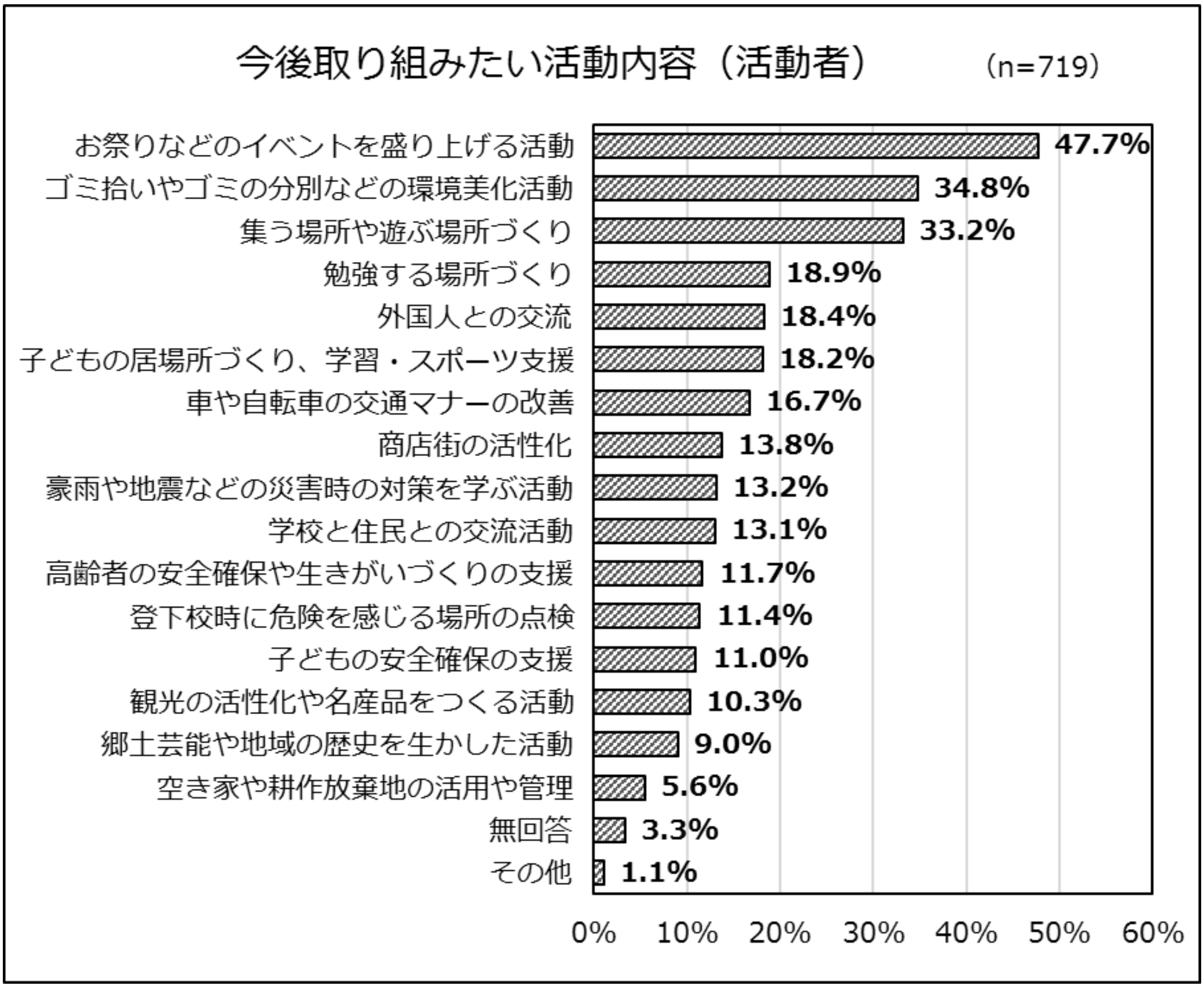
(11)　今後取り組みたい活動内容

問 10　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。今後、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた今後取り組みたい活動内容

【図 51】



全県でみると、「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」が４7.7%で最上位であった。次いで、「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」が続き、これら３項目が、30%を超える回答割合となった。

【表 53】

今後取り組みたい活動内容（各地区別）	全 県 n＝719	河内地区 n=179	上都賀地区 n=90	芳賀地区 n=100	下都賀地区 n=147	塩谷南那須地区 n=58	那須地区 n=65	安足地区 n=80
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%	29.6%	38.9%	35.0%	26.5%	53.4%	29.2%	33.8%
車や自転車の交通マナーの改善	16.7%	18.4%	21.1%	20.0%	15.0%	12.1%	7.7%	17.5%
勉強する場所づくり	18.9%	20.7%	13.3%	17.0%	21.8%	17.2%	16.9%	21.3%
登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%	10.6%	13.3%	15.0%	12.9%	6.9%	10.8%	7.5%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%	13.4%	21.1%	15.0%	10.2%	13.8%	12.3%	7.5%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%	33.5%	42.2%	38.0%	36.1%	34.5%	24.6%	31.3%
学校と住民との交流活動	13.1%	13.4%	15.6%	13.0%	11.6%	17.2%	7.7%	13.8%
外国人との交流	18.4%	24.0%	16.7%	12.0%	15.6%	19.0%	18.5%	20.0%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%	50.3%	47.8%	42.0%	46.9%	58.6%	41.5%	47.5%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%	10.6%	13.3%	12.0%	10.2%	17.2%	12.3%	10.0%
子どもの安全確保の支援	11.0%	14.5%	12.2%	8.0%	13.6%	6.9%	9.2%	5.0%
観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%	13.4%	7.8%	10.0%	8.2%	13.8%	9.2%	8.8%
商店街の活性化	13.8%	13.4%	18.9%	12.0%	10.9%	22.4%	15.4%	8.8%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%	5.6%	7.8%	7.0%	5.4%	3.4%	3.1%	5.0%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%	10.1%	14.4%	10.0%	8.2%	5.2%	4.6%	7.5%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%	16.8%	17.8%	21.0%	19.0%	19.0%	21.5%	13.8%
その他	1.1%	0.6%	1.1%	0.0%	2.0%	1.7%	0.0%	2.5%
無回答	3.3%	4.5%	4.4%	2.0%	2.0%	0.0%	6.2%	3.8%

地区別にみると、全県で最上位であった「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」は、全ての地区で回答割合が最も高かった。全県で 2 番目、3 番目に回答割合の高かった「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」は、各地区で順序は異なるものの、全ての地区でこの 2 項目が 2 番目、 3 番目に回答割合が高かった。

また、塩谷南那須地区では、「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」の回答割合がともに半数を超え、「商店街の活性化」も他の地区と比べて高かった。河内地区では「外国人との交流」が、上都賀地区では「豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動」の回答割合が、他の地区と比べて高かった。

イ　課程・学科別にみた今後取り組みたい活動内容

【表 54】

今後取り組みたい活動内容（課程・学科別）	全　県 n＝719	全日制：普通・総合 n=412	全日制：職業系専門 n=190	定時制 n=44	通信制 n=12	特別支援 n=61
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%	33.0%	34.2%	40.9%	25.0%	27.9%
車や自転車の交通マナーの改善	16.7%	12.4%	20.5%	15.9%	16.7%	34.4%
勉強する場所づくり	18.9%	23.3%	12.6%	13.6%	8.3%	14.8%
登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%	7.8%	14.2%	13.6%	0.0%	27.9%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%	12.9%	11.1%	13.6%	8.3%	23.0%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%	28.6%	41.1%	47.7%	25.0%	49.2%
学校と住民との交流活動	13.1%	11.7%	15.3%	18.2%	25.0%	9.8%
外国人との交流	18.4%	19.2%	17.4%	18.2%	25.0%	14.8%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%	50.0%	46.3%	40.9%	50.0%	41.0%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%	10.4%	13.7%	18.2%	8.3%	9.8%
子どもの安全確保の支援	11.0%	9.7%	9.5%	22.7%	0.0%	18.0%
観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%	10.0%	10.5%	9.1%	8.3%	13.1%
商店街の活性化	13.8%	15.0%	12.1%	9.1%	25.0%	11.5%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%	3.6%	8.9%	6.8%	0.0%	8.2%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%	8.7%	6.8%	11.4%	16.7%	14.8%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%	18.4%	16.3%	20.5%	16.7%	21.3%
その他	1.1%	0.5%	2.6%	0.0%	0.0%	1.6%
無回答	3.3%	2.7%	2.6%	11.4%	0.0%	4.9%

全県でみた際の上位 3 項目「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」が、課程・学科別にみても全ての課程・学科で上位３項目であった。

全日制普通・総合系学科では「勉強する場所づくり」が、定時制では「集う場所や遊ぶ場所づくり」「子どもの安全確保の支援」が、通信制では「商店街の活性化」が、特別支援では「車や自転車の交通マナーの改善」「登下校時に危険を感じる場所の点検」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、それぞれ他の課程・学科より回答割合が高かった。

ウ　性別にみた必要な支援

【表 55】

今後取り組みたい活動内容（性別）	全　県 n＝719	女　性 n=397	男　性 n=294	無 回 答 n=28
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%	30.2%	37.4%	32.1%
車や自転車の交通マナーの改善	16.7%	13.6%	21.4%	10.7%
勉強する場所づくり	18.9%	20.4%	15.6%	32.1%
登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%	10.8%	12.2%	10.7%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%	13.1%	14.3%	3.6%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%	35.0%	34.7%	32.1%
学校と住民との交流活動	13.1%	16.1%	9.9%	3.6%
外国人との交流	18.4%	22.2%	13.6%	14.3%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%	56.4%	36.1%	46.4%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%	13.6%	9.9%	3.6%
子どもの安全確保の支援	11.0%	12.1%	9.5%	10.7%
観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%	13.1%	7.1%	3.6%
商店街の活性化	13.8%	15.4%	11.9%	10.7%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%	5.3%	6.1%	3.6%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%	11.3%	5.8%	10.7%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%	22.4%	12.9%	14.3%
その他	1.1%	0.8%	1.7%	0.0%
無回答	3.3%	2.3%	4.1%	10.7%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、８項目に差異があるといえる。

「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」で約 20 ポイントと女性が男性を大きく上回った。他にも、「子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援」で約 10 ポイント、「外国人との交流」で約９ポイント、「学校と住民との交流活動」「観光の活性化や名産品をつくる活動」「郷土芸能や地域の歴史を生かした活動」で約６ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。

また、「車や自転車の交通マナーの改善」で約８ポイント、「集う場所や遊ぶ場所づくり」で約７ポイント、それぞれ男性が女性を上回った。

エ　県民対象調査との比較

【表 56】

県民　n=744		高校生　n=719	
子どもの安全確保	37.5%	お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%
住民同士の交流	26.1%	勉強する場所づくり	18.9%
高齢化	23.0%	外国人との交流	18.4%
防災・防犯	22.4%	子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%
青少年の健全育成	17.9%	車や自転車の交通マナーの改善	16.7%
環境保護・美化	16.5%	商店街の活性化	13.8%
交通マナー	11.4%	豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%
過疎化・人口減少	9.0%	学校と住民との交流活動	13.1%
地域ブランド	8.5%	高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%
郷土芸能の伝承	8.2%	登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%
国際化	7.7%	子どもの安全確保の支援	11.0%
無回答	4.8%	観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%
人権問題	4.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%
特にない	2.3%	無回答	3.3%
その他	1.1%	その他	1.1%

両調査の同様の設問での選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、共通してみられる傾向として、身近でできる活動に取り組んでみたいという意欲が表れていることが挙げられる。また、図３や図 32 で明らかにした課題意識が高い内容にも関わらず、取り組んでみたいという活動意欲につながっていないものも両調査にみられる。

《参考：問 10「その他」の主な回答記述》
○災害地復興への貢献　　　　○過疎化への対応

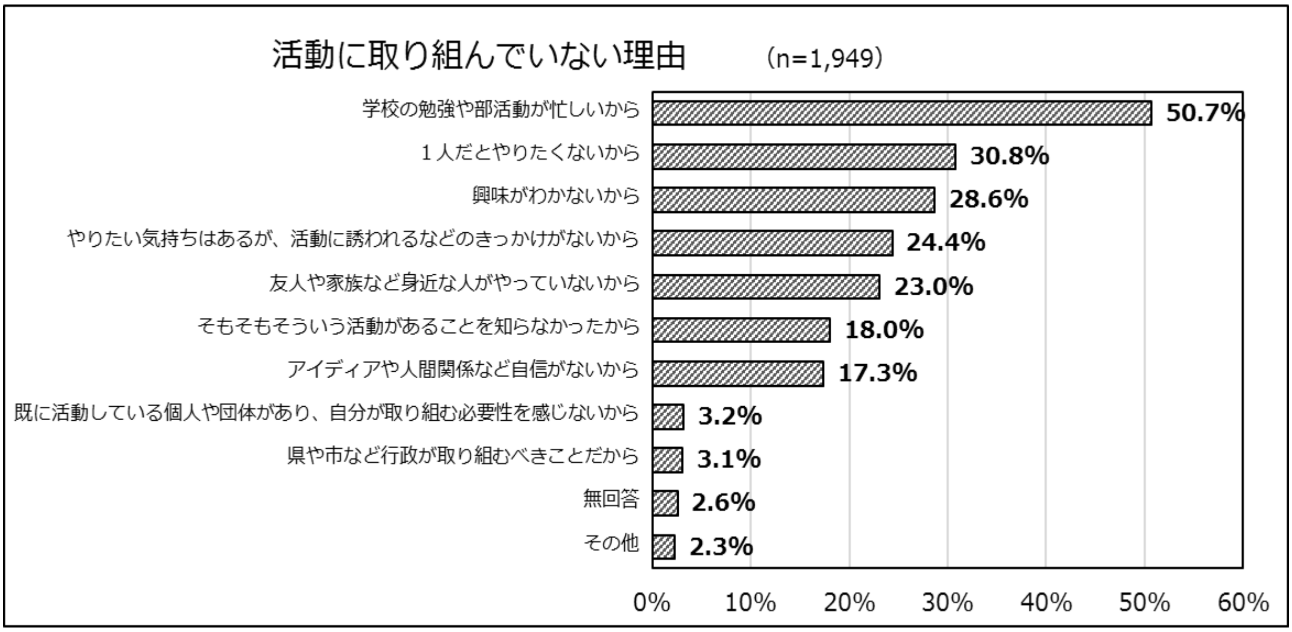
(12)　地域活動に取り組んでいない理由

問 11　問６で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組んでいない理由は何ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域活動に取り組んでいない理由

【図 52】



【表 57】

活動に取り組んでいない理由（各地区別）	全　県 n=1,949	河内地区 n=449	上都賀地区 n=203	芳賀地区 n=153	下都賀地区 n=441	塩谷南那須地区 n=192	那須地区 n=255	安足地区 n=256
学校の勉強や部活動が忙しいから	50.7%	51.0%	49.3%	45.8%	55.3%	45.3%	50.2%	51.2%
友人や家族など身近な人がやっていないから	23.0%	20.0%	20.7%	27.5%	21.1%	29.2%	24.3%	25.0%
１人だとやりたくないから	30.8%	27.6%	31.5%	27.5%	29.5%	39.1%	35.7%	28.9%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	24.4%	26.9%	19.7%	27.5%	23.4%	30.7%	20.4%	22.7%
アイディアや人間関係など自信がないから	17.3%	16.7%	12.8%	16.3%	17.2%	25.0%	18.4%	16.0%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	18.0%	18.5%	15.3%	24.8%	16.6%	18.2%	17.3%	18.4%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	3.2%	4.2%	4.9%	3.3%	1.8%	2.6%	2.7%	3.1%
県や市など行政が取り組むべきことだから	3.1%	4.2%	4.4%	5.9%	1.4%	2.6%	1.2%	3.5%
興味がわかないから	28.6%	31.2%	36.9%	20.9%	25.2%	27.6%	31.4%	26.2%
その他	2.3%	2.2%	3.4%	1.3%	1.4%	1.6%	2.7%	3.9%
無回答	2.6%	2.7%	1.5%	3.9%	2.0%	0.5%	3.5%	3.9%

地域活動の解決に向けた活動に取り組んでいないと回答した 1,949 名に、その理由について質問した。

全県でみると、「学校の勉強や部活動が忙しいから」で半数超の回答があり、地区別にみても全ての地区で最上位であった。次いで、「１人だとやりたくないから」で約 31%の回答割合であった。一方で、「興味がわかないから」という回答割合も高く、約 29%の回答があった。

地区間では大きな差異がみられなかった。

イ　課程・学科別にみた地域活動に取り組んでいない理由

【表 58】

活動に取り組んでいない理由（課程・学科別）	全　県 n=1,949	全日制：普通・総合 n=1,129	全日制：職業系専門 n=511	定時制 n=134	通信制 n=32	特別支援 n=143
学校の勉強や部活動が忙しいから	50.7%	57.1%	50.3%	29.9%	34.4%	25.2%
友人や家族など身近な人がやっていないから	23.0%	23.2%	24.3%	23.1%	28.1%	16.1%
１人だとやりたくないから	30.8%	30.0%	34.1%	27.6%	28.1%	28.7%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	24.4%	25.3%	22.5%	21.6%	28.1%	25.2%
アイディアや人間関係など自信がないから	17.3%	17.1%	14.7%	21.6%	18.8%	24.5%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	18.0%	18.2%	18.0%	16.4%	28.1%	15.4%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	3.2%	2.8%	3.1%	2.2%	0.0%	7.7%
県や市など行政が取り組むべきことだから	3.1%	2.3%	3.9%	1.5%	6.3%	7.0%
興味がわかないから	28.6%	24.7%	29.0%	49.3%	28.1%	39.2%
その他	2.3%	2.3%	1.0%	5.2%	6.3%	3.5%
無回答	2.6%	1.9%	2.9%	3.0%	3.1%	6.3%

全日制では「学校の勉強や部活動が忙しいから」が、定時制・特別支援では「興味がわかないから」が、通信制では「そもそもそういう活動があることを知らなかったから」が、それぞれ他の課程・学科よりも回答割合が高かった。

ウ　性別にみた地域活動に取り組んでいない理由

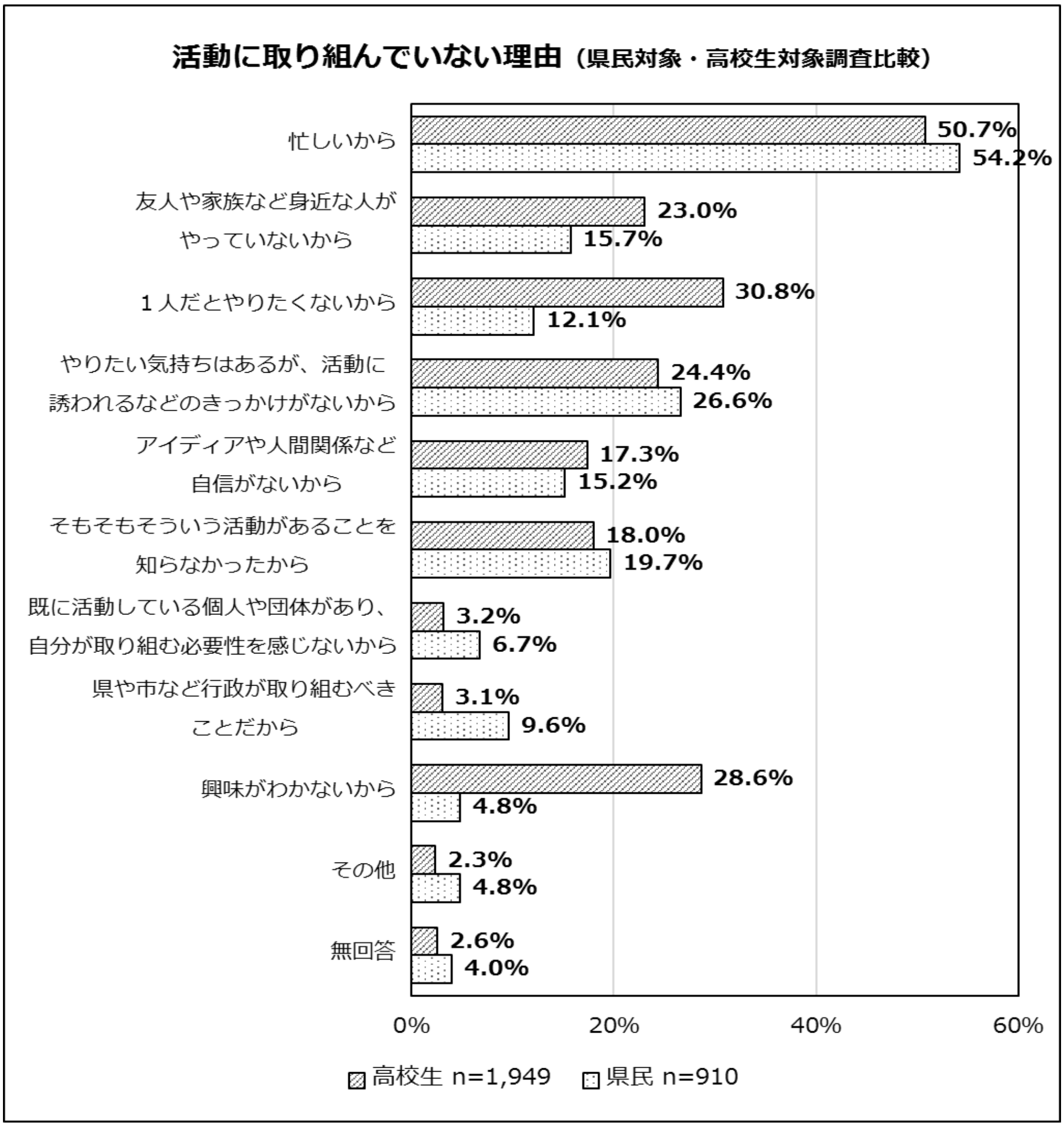
【表 59】

活動に取り組んでいない理由（性別）	全　県 n=1,949	女　性 n=892	男　性 n=995	無回答 n=62
学校の勉強や部活動が忙しいから	50.7%	48.8%	52.8%	46.8%
友人や家族など身近な人がやっていないから	23.0%	27.1%	19.4%	22.6%
１人だとやりたくないから	30.8%	35.1%	27.1%	27.4%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	24.4%	30.0%	19.8%	16.1%
アイディアや人間関係など自信がないから	17.3%	20.9%	14.0%	21.0%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	18.0%	20.5%	15.8%	17.7%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	3.2%	2.7%	3.4%	6.5%
県や市など行政が取り組むべきことだから	3.1%	2.1%	4.0%	1.6%
興味がわかないから	28.6%	23.7%	32.9%	32.3%
その他	2.3%	2.1%	2.3%	4.8%
無回答	2.6%	1.7%	3.4%	1.6%

「友人や家族など身近な人がやっていないから」「１人だとやりたくないから」「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」など、他者との同調に類する回答をした割合は、女性が男性を上回った。一方で、男性が女性を大きく上回ったのは、「興味がわかないから」という回答であった。

エ　県民対象調査との比較

【図 53】



成人すると、地域活動に意義を見出しつつも参加できていない現況がみえる。しかし、高校生では、地域活動自体に「興味がわかないから」と回答した割合が３割程度あった。また、県民以上に、「１人だとやりたくないから」「友人や家族などの身近な人がやっていないから」などの回答割合が高いことがいえる。

《参考：問 11「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述
◎自宅近くでできる活動がないから（移動手段がないから）
◎学校での活動で十分だから
○自分が活動しても地域課題の解決につながるとは思えないから
○自分に対するメリットが感じられず、自分の時間を使う価値がないと考えるから
○車いすだと難しそうだから
○考え方が変わったり、将来役に立ったりするなど、自分の成長につながるボランティアの内容ではないから

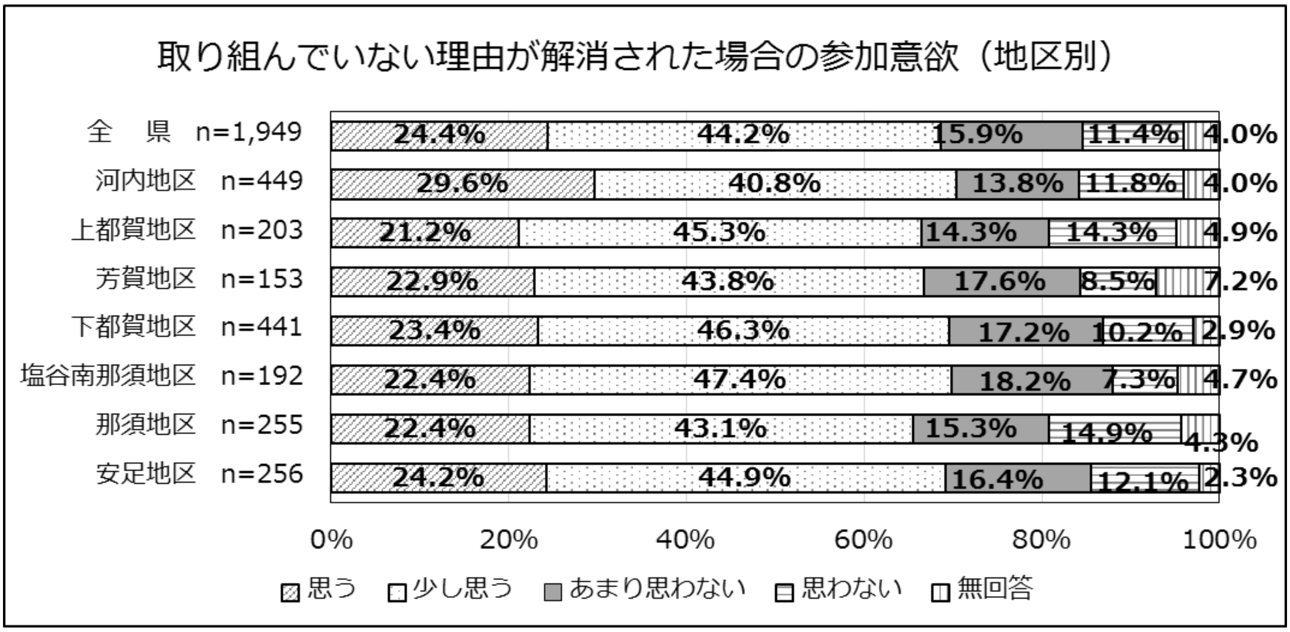
(13)　取り組まない理由が解消された場合の参加意欲

問 12　 問６で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。問 11 の理由が解消されたら、活動に取り組みたいと思いますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

【図 54】

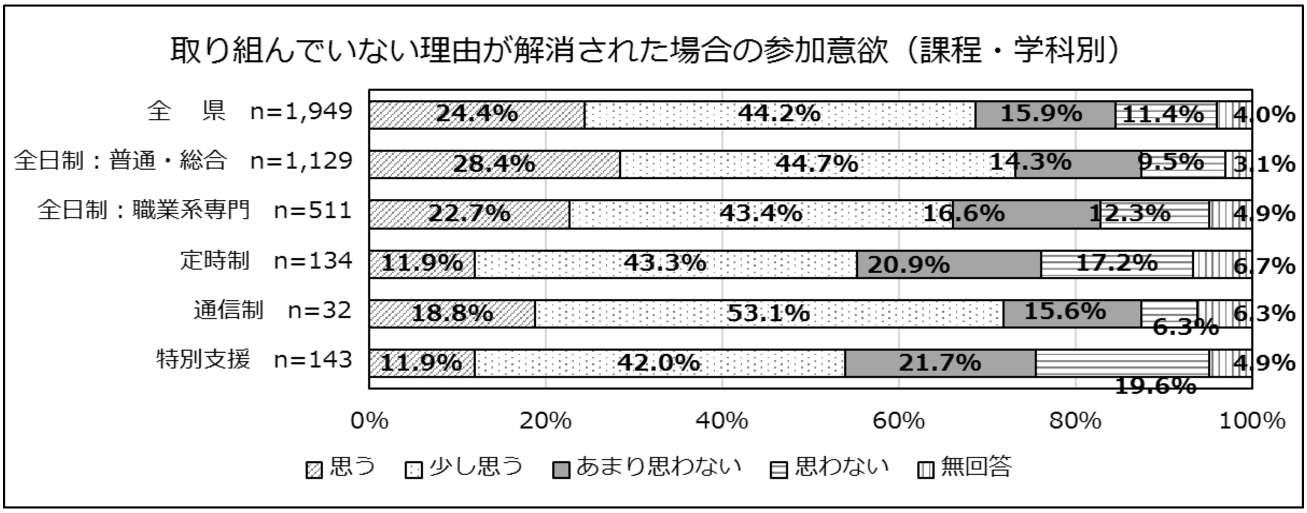


全県でみると、「思う」「少し思う」との回答割合の合計は 68.6%であった。

地区別でみると、河内地区で「思う」の割合が他の地区と比べてやや高かったが、大きな差異はみられない。

イ　課程・学科別にみた状況

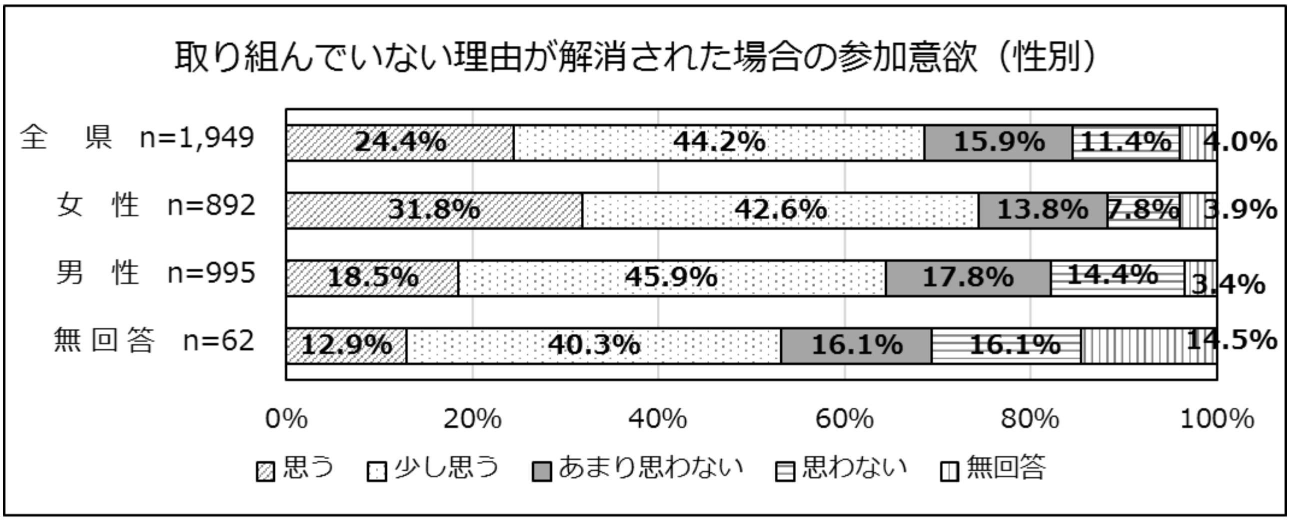
【図 55】



「思う」「少し思う」の回答割合の合計は、全日制普通・総合系学科、通信制で７割を超えて、他と比べて高かった。一方で、定時制、特別支援ではその割合が半数を超えた程度で、他と比べて低かった。

ウ　性別にみた状況

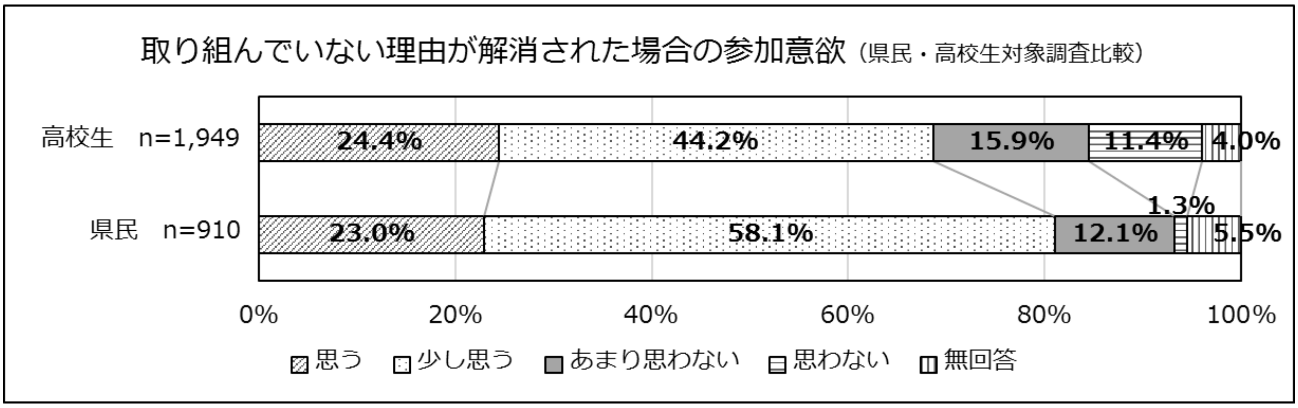
【図 56】



「思う」「少し思う」の回答割合の合計は、女性が男性を約 10 ポイント上回った。
「あまり思わない」「思わない」の回答割合の合計は、男性が女性を約 11 ポイント上回った。

エ　県民対象調査との比較

【図 57】



「思う」「少し思う」の回答割合の合計は、県民が高校生を約 13 ポイント上回った。
「あまり思わない」「思わない」の回答割合の合計は、高校生が県民を約 14 ポイント上回った。

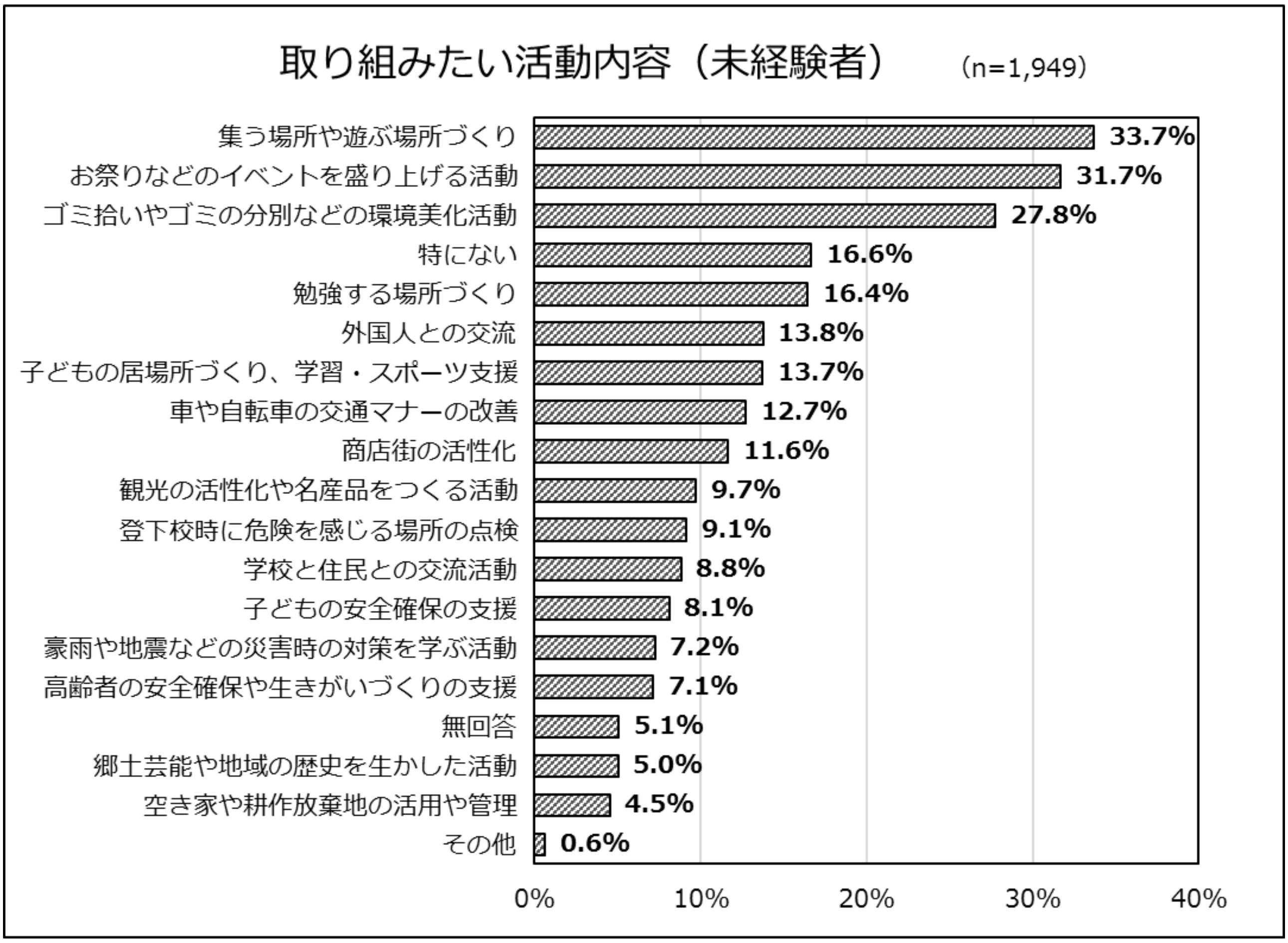
(14)　活動未経験者の取り組みたい活動内容

問 13　問６で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。どのような活動であれば、取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた状況

【図 58】



全県でみると、「集う場所や遊ぶ場所づくり」と回答した割合が 1/3 を超えて最上位であった。次いで、「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」であり、これらの２項目が 30%を超えた。

「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」も 27.8%と回答割合が高かった。

【表 60】

今後取り組みたい活動内容 (各地区別)	全　県 n=1,949	河内地区 n=449	上都賀地区 n=203	芳賀地区 n=153	下都賀地区 n=441	塩谷南那須地区 n=192	那須地区 n=255	安足地区 n=256
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%	29.6%	36.0%	37.9%	34.0%	41.1%	35.3%	28.5%
車や自転車の交通マナーの改善	12.7%	17.1%	11.3%	11.1%	11.6%	9.9%	9.4%	14.5%
勉強する場所づくり	16.4%	19.4%	12.3%	15.7%	16.1%	17.2%	15.7%	15.6%
登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%	12.2%	7.4%	11.1%	9.8%	4.2%	8.2%	7.4%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%	6.9%	8.9%	9.2%	7.0%	8.3%	5.1%	7.0%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%	30.7%	23.6%	26.8%	28.6%	31.3%	24.3%	25.8%
学校と住民との交流活動	8.8%	10.5%	8.9%	9.2%	7.3%	8.9%	7.8%	9.4%
外国人との交流	13.8%	18.9%	12.3%	11.1%	12.7%	11.5%	11.8%	12.9%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%	29.6%	30.0%	28.1%	32.0%	36.5%	29.0%	37.1%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%	12.5%	6.9%	5.2%	3.9%	4.2%	5.5%	8.6%
子どもの安全確保の支援	8.1%	10.7%	6.4%	7.8%	6.3%	4.7%	9.0%	9.8%
観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%	12.9%	10.3%	9.2%	7.0%	9.9%	7.1%	10.9%
商店街の活性化	11.6%	14.3%	13.8%	12.4%	6.6%	14.6%	9.4%	13.7%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%	7.1%	3.0%	4.6%	2.5%	5.7%	5.1%	3.1%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%	7.1%	4.9%	6.5%	3.9%	4.2%	2.4%	5.9%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%	15.8%	11.3%	8.5%	13.4%	10.9%	12.5%	18.8%
特にない	16.6%	16.9%	19.7%	12.4%	16.8%	13.5%	18.8%	16.0%
その他	0.6%	0.7%	1.0%	1.3%	0.2%	0.5%	0.0%	1.2%
無回答	5.1%	5.8%	5.4%	6.5%	3.4%	3.6%	7.8%	3.9%

地区別でみると、全県で最も回答割合の高かった「集う場所や遊ぶ場所づくり」は、河内、安足地区以外の５地区で最上位となった。河内地区では「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、安足地区では「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」が、それぞれ回答割合が最も高かった。

項目毎にみると、「集う場所や遊ぶ場所づくり」では、回答割合の最も高い塩谷南那須地区と、低い安足地区で約 13 ポイントの差があるが、それ以外の項目については 10 ポイント以内の差であり、地区間の大きな差異はみられない。

イ　課程・学科別にみた状況

【表 61】

今後取り組みたい活動内容（課程・学科別）	全　県 n=1,949	全日制：普通・総合 n=1,129	全日制：職業系専門 n=511	定時制 n=134	通信制 n=32	特別支援 n=143
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%	35.6%	34.2%	26.1%	34.4%	23.1%
車や自転車の交通マナーの改善	12.7%	11.0%	11.9%	17.9%	15.6%	23.8%
勉強する場所づくり	16.4%	19.8%	13.1%	7.5%	18.8%	9.1%
登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%	7.8%	8.8%	10.4%	12.5%	18.9%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%	6.6%	7.0%	9.0%	3.1%	11.9%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%	27.7%	27.4%	24.6%	18.8%	34.3%
学校と住民との交流活動	8.8%	9.1%	8.4%	8.2%	6.3%	9.1%
外国人との交流	13.8%	14.7%	12.1%	10.4%	9.4%	16.1%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%	32.6%	33.9%	23.1%	28.1%	25.2%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%	6.4%	8.0%	3.7%	9.4%	12.6%
子どもの安全確保の支援	8.1%	7.8%	7.2%	10.4%	9.4%	11.2%
観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%	8.8%	11.7%	10.4%	3.1%	10.5%
商店街の活性化	11.6%	12.6%	12.1%	6.7%	9.4%	7.7%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%	3.8%	5.3%	3.7%	6.3%	7.7%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%	5.1%	4.1%	7.5%	0.0%	6.3%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%	14.0%	13.1%	7.5%	12.5%	19.6%
特にない	16.6%	14.1%	17.0%	30.6%	18.8%	21.7%
その他	0.6%	0.5%	0.6%	1.5%	0.0%	0.7%
無回答	5.1%	4.0%	5.9%	9.0%	3.1%	7.7%

全県でみた際の上位 3 項目「集う場所や遊ぶ場所づくり」「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、課程・学科別にみても全ての課程・学科で上位であった。

定時制では「特にない」が最も高く、特別支援では「車や自転車の交通マナーの改善」「登下校時に危険を感じる場所の点検」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、それぞれ他の課程・学科より回答割合が高かった。

ウ　性別にみた状況

【表 62】

今後取り組みたい活動内容（性別）	全　県 n=1,949	女　性 n=892	男　性 n=995	無回答 n=62
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%	34.2%	34.1%	19.4%
車や自転車の交通マナーの改善	12.7%	10.0%	15.3%	11.3%
勉強する場所づくり	16.4%	17.7%	15.9%	6.5%
登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%	7.6%	10.5%	9.7%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%	7.3%	7.4%	3.2%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%	28.7%	27.9%	11.3%
学校と住民との交流活動	8.8%	11.8%	6.2%	8.1%
外国人との交流	13.8%	17.7%	10.6%	8.1%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%	42.5%	22.9%	16.1%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%	10.4%	4.5%	1.6%
子どもの安全確保の支援	8.1%	11.8%	5.1%	3.2%
観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%	12.7%	7.3%	4.8%
商店街の活性化	11.6%	12.3%	11.3%	8.1%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%	5.0%	4.1%	3.2%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%	7.0%	3.5%	1.6%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%	17.6%	10.8%	4.8%
特にない	16.6%	12.3%	20.1%	22.6%
その他	0.6%	0.3%	0.8%	1.6%
無回答	5.1%	5.2%	4.2%	17.7%

５ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、８項目に差異があるといえる。

「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」は、女性の 42.5%が回答し、男性を約 20 ポイント上回った。他にも、「外国人との交流」「子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援」で約７ポイント、「高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援」で約６ポイント、「学校と住民の交流活動」「観光の活性化や名産品をつくる活動」で約５ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。

また、「特にない」で８ポイント、「車や自転車の交通マナーの改善」で約５ポイント、男性が女性を上回った。

エ　県民対象調査との比較

【表 63】

県民 n=910		高校生 n=1,949	
子どもの安全確保	37.4%	集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%
防災・防犯	22.5%	ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%
高齢化	21.8%	特にない	16.6%
住民同士の交流	20.8%	勉強する場所づくり	16.4%
環境保護・美化	16.3%	外国人との交流	13.8%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%
青少年の健全育成	11.1%	車や自転車の交通マナーの改善	12.7%
交通マナー	9.8%	商店街の活性化	11.6%
過疎化・人口減少	9.6%	観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%
地域ブランド	9.0%	登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%
無回答	6.9%	学校と住民との交流活動	8.8%
郷土芸能の伝承	6.6%	子どもの安全確保の支援	8.1%
特にない	6.6%	豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%
市街中心部の空洞化	6.0%	高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%
国際化	5.1%	無回答	5.1%
人権問題	2.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%
その他	0.8%	空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%
		その他	0.6%

項目が同一ではないため単純比較はできないが、県民の傾向と比べ、高校生は、直接的かつ即効性のある活動を望んでいる傾向があるといえる。

《参考：問 13「その他」の主な回答記述》

○e スポーツのイベント　　○生態調査など科学的活動

○自分の就職したい職種に関する活動

(15) 地域活動に対するそれぞれの思い

問 14　その他、地域を学ぶことやボランティア・地域の活動について、自由にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

アンケート調査回答者の地域活動全般に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 14 の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎地域を学び、交流を深めていくことで、地域への貢献意識が高まったり、自らの新しい経験として今後の糧になったりすると思うので、地域活動は大切である。
◎ボランティア活動に参加したいが方法や時間が分からないのであまり参加できない。手軽に参加できる情報提供やシステムがあるとよい。
◎ボランティアの募集案内などの情報を各高校に提示するなど、どんなボランティア活動ができるかすぐに分かるようにしてほしい。
◎県内のボランティアを募集している Web サイトや掲示板も更新されず、何年も前の情報があることもある。
◎ボランティア情報を得るために、どのサイトを見ればいいか分からない。
○高校生でも参加できるボランティアが県内には少なく、東京にある団体や旅行会社のスタディツアーを自分で探し参加した。
○住んでいる地域が工業団地なので、もう少し地域の産業について知りたい。
○同年代の活動者が少なく、参加しづらい雰囲気がある。
○小学生の頃は地域のことを学ぶ機会があり、ボランティア活動も行っていたが、年齢が上がるにつれて地域のことに関わる機会が減った。
○地域住民と高校生のような若者との接点が増えればと思う。
○異世代間のつながりが作れる機会があるといいのではと思う。
○学校での地域を学ぶ活動が少ない。
○自分が生まれ育った場所に貢献することは、当たり前のことだと感じている。
○特定の人数のみが参加するのではなく、学校全体で取り組んでいけば、より多くの生徒が地域のことに興味をもつと思う。
○役場などの町内の環境改善の意識があまり感じられない。
○もっと自分の住んでいるところのいいところを見つけたい。
○自分自身に余裕ができれば、ボランティア活動に参加したい。
○約 12 年間も、同年代としか関わりをもたない教育方針では、ボランティアを行いたいと考える人は減っていくのではないか。
○ボランティア募集について、学校をとおしてのものであると安心して参加しやすい。
○まちづくり、まちおこしについて、中高生の意見をもっと取り入れてもいいと思う。

第２章　地域課題の解決に関する取組状況等調査の結果

１　高等学校・特別支援学校教員対象調査

(1)　回答数および回答率と回答者の属性

ア　回答数および回答率

(ｱ)　調査対象者　８３名

(ｲ)　回答数　８３名

(ｳ)　回答率　１００．０%

イ　回答者の属性（地区別、課程・学科別回答数等）

【表 64】

地　区　別			
河 内 地 区	n=	20	24.1%
上都賀地区	n=	9	10.8%
芳 賀 地 区	n=	8	9.6%
下都賀地区	n=	17	20.5%
塩谷南那須地区	n=	8	9.6%
那 須 地 区	n=	10	12.0%
安 足 地 区	n=	11	13.3%
合　　計	N=	83	100.0%

【表 65】

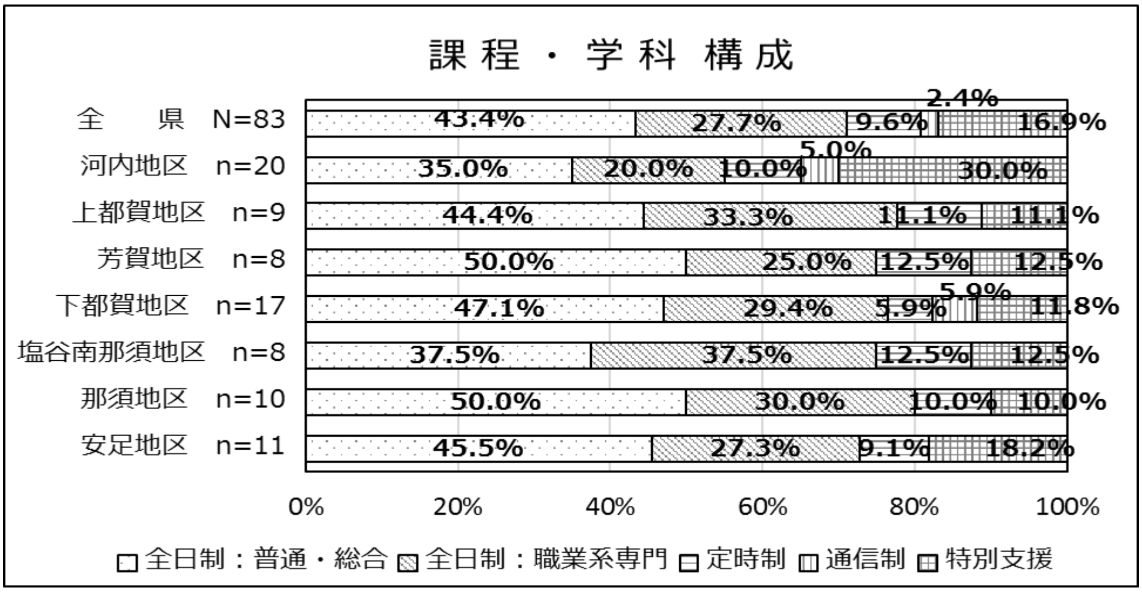
課　程・学　科　別			
全日制：普通・総合	n=	36	43.4%
全日制：職業系専門	n=	23	27.7%
定時制	n=	8	9.6%
通信制	n=	2	2.4%
特別支援学校	n=	14	16.9%
合　計	N=	83	100.0%

今回の調査では、全ての県立学校（高等学校、特別支援学校高等部〈附属中学校等は除く〉）に御協力いただき、各校（課程毎に）１名、合計 83 名の教員から回答を得られた。なお、全日制で普通科と職業系専門学科の両方を有する学校については、「全日制職業系専門学科」として集計した。

地区別にみると、学校数の多い河内地区、下都賀地区の割合がともに 20%を超えて高かった。それ以外の地区については、９～13%の範囲内である。

課程・学科別にみると、学校数の多い全日制普通・総合系学科が全体の約 40%を占めた。

【図 59】



(2) 地域課題の認識状況

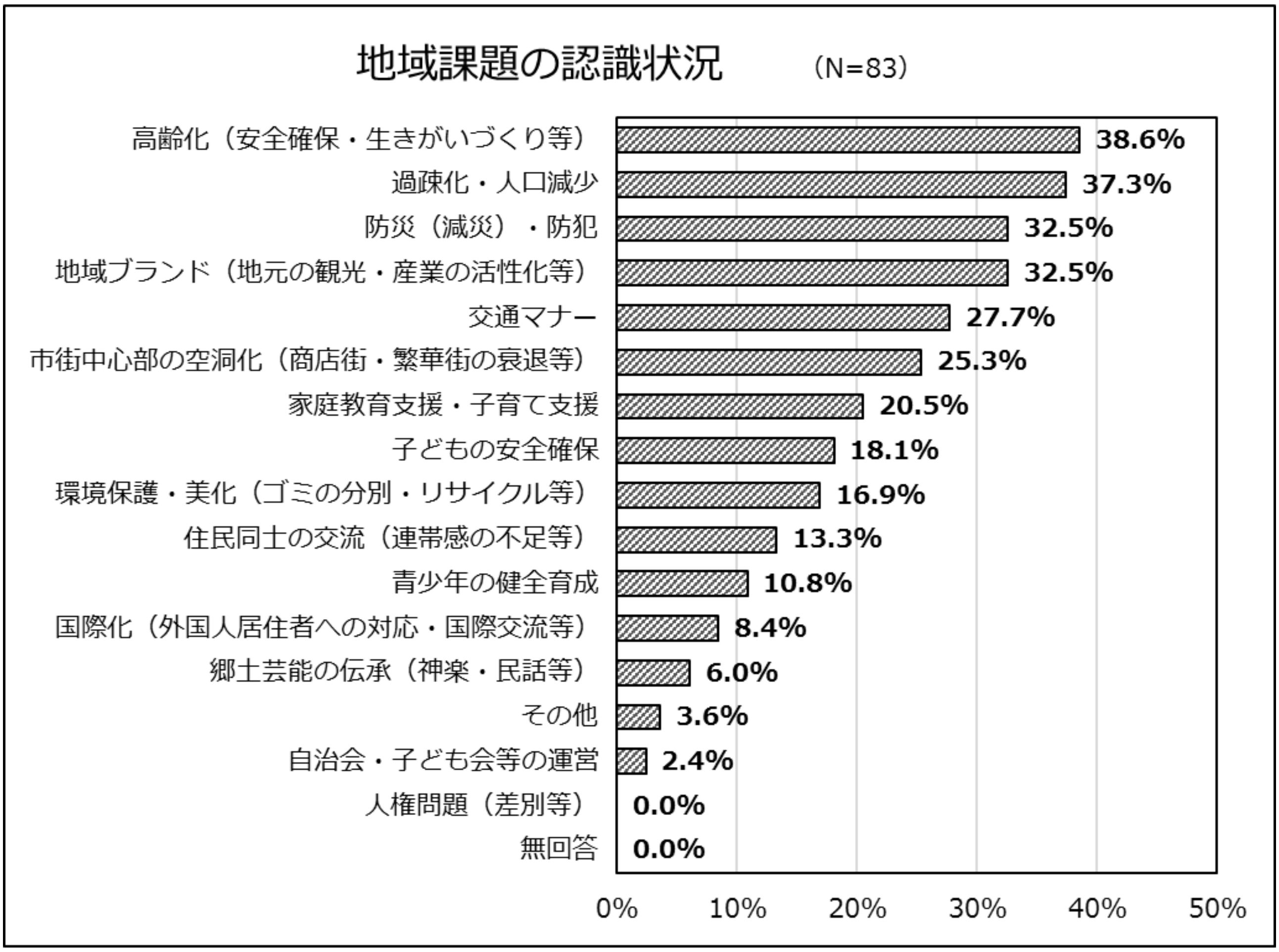
本調査における「地域」とは、回答者が勤務する学校付近とし、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問１　あなたの勤務する学校のある地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題の認識状況

【図 60】



学校のある地域の課題は、全県でみると、「高齢化」の回答割合が最も高かった。次いで「過疎化・人口減少」「防災（減災）・防犯」「地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）」と続く。これらの４項目が、30%以上の回答割合となった。

【表 66】

地域課題の認識状況（各地区別）	全 県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
防災（減災）・防犯	32.5%	60.0%	11.1%	50.0%	29.4%	0.0%	20.0%	27.3%
子どもの安全確保	18.1%	40.0%	22.2%	12.5%	17.6%	0.0%	10.0%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	20.5%	20.0%	11.1%	0.0%	29.4%	12.5%	30.0%	27.3%
青少年の健全育成	10.8%	5.0%	22.2%	12.5%	17.6%	0.0%	10.0%	9.1%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	6.0%	10.0%	22.2%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	2.4%	5.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	13.3%	15.0%	0.0%	0.0%	23.5%	0.0%	0.0%	36.4%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	38.6%	20.0%	33.3%	50.0%	29.4%	37.5%	90.0%	36.4%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	32.5%	20.0%	33.3%	25.0%	35.3%	62.5%	30.0%	36.4%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	8.4%	10.0%	0.0%	25.0%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%
過疎化・人口減少	37.3%	5.0%	55.6%	50.0%	11.8%	87.5%	80.0%	36.4%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	16.9%	30.0%	22.2%	12.5%	23.5%	0.0%	10.0%	0.0%
人権問題（差別等）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	25.3%	10.0%	11.1%	25.0%	23.5%	62.5%	30.0%	36.4%
交通マナー	27.7%	50.0%	33.3%	12.5%	23.5%	0.0%	20.0%	27.3%
その他	3.6%	10.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【表 67】

選ばれなかった選択肢数「その他」を除く（地区別）	
河 内 地 区	1
上都賀地区	4
芳 賀 地 区	5
下都賀地区	2
塩谷南那須地区	9
那 須 地 区	5
安 足 地 区	6

【表 68】

最上位の選択肢とその回答率（地区別）		
河 内 地 区	防災・防犯	60.0%
上都賀地区	過疎化・人口減少	55.6%
芳 賀 地 区	防災・防犯　他２項目	50.0%
下都賀地区	地域ブランド	35.3%
塩谷南那須地区	過疎化・人口減少	87.5%
那 須 地 区	高齢化	90.0%
安 足 地 区	住民同士の交流 他４項目	36.4%

地区別にみると、顕著な差異が認められる結果となった。

回答割合の最も高い項目も、地区の状況に応じて異なるものが挙げられている（表 68 参照）。また、河内地区や下都賀地区では全ての項目の中で選ばれなかったものが１～２個で各項目に回答が分散していたり、芳賀地区や安足地区では、最上位の項目が同じ回答割合でそれぞれ３項目、５項目あったりと、課題として捉えられているものが分散していることが分かる。一方で、塩谷南那須地区では選択肢の中で選ばれなかったものが９個であったり、那須地区では最上位の選択肢の回答率が 90.0%と高かったりと、課題として捉えられているものが集約されていることが分かる。

イ　課程・学科別にみた地域課題の認識状況

【表 69】

地域課題の認識状況（課程・学科別）	全　県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
防災（減災）・防犯	32.5%	30.6%	39.1%	12.5%	50.0%	35.7%
子どもの安全確保	18.1%	11.1%	8.7%	25.0%	50.0%	42.9%
家庭教育支援・子育て支援	20.5%	25.0%	4.3%	75.0%	0.0%	7.1%
青少年の健全育成	10.8%	8.3%	17.4%	0.0%	50.0%	7.1%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	6.0%	8.3%	4.3%	12.5%	0.0%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	2.4%	0.0%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	13.3%	11.1%	13.0%	0.0%	0.0%	28.6%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	38.6%	41.7%	30.4%	50.0%	0.0%	42.9%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	32.5%	36.1%	47.8%	0.0%	50.0%	14.3%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	8.4%	11.1%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
過疎化・人口減少	37.3%	47.2%	34.8%	25.0%	0.0%	28.6%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	16.9%	11.1%	21.7%	25.0%	0.0%	21.4%
人権問題（差別等）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	25.3%	30.6%	21.7%	25.0%	50.0%	14.3%
交通マナー	27.7%	19.4%	47.8%	0.0%	50.0%	28.6%
その他	3.6%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制普通・総合系学科では「過疎化・人口減少」、全日制職業系専門学科では「交通マナー」「地域ブランド」が、定時制では「家庭教育支援・子育て支援」、特別支援では「子どもの安全確保」「高齢化」がそれぞれ最上位と、課程・学科別でも差異がみられた。

《参考：問１「その他」の主な回答記述》
○課題を把握していない

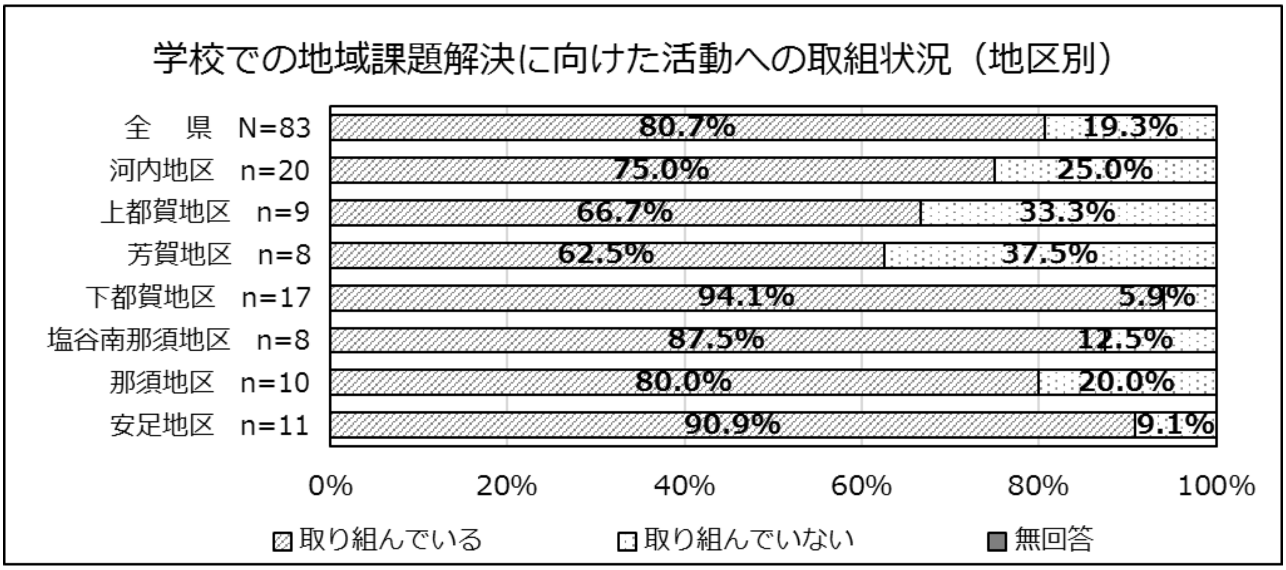
(3)　地域課題の解決に向けた取組状況（学校）

問２　　現在、あなたの学校では、地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。下記活動例を参考に、あてはまる番号に○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題の解決に向けた取組状況（学校）

【図 61】

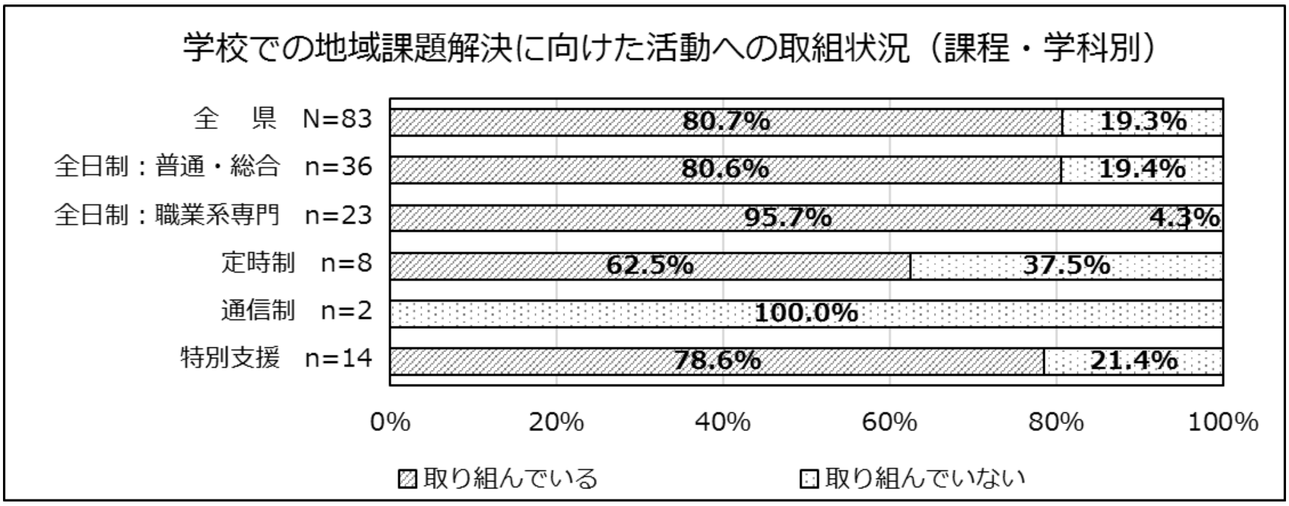


全県でみると、「取り組んでいる」と回答した割合が 80%を超えて高かった。

地区別にみると、「取り組んでいる」と回答した割合は、下都賀地区、安足地区でやや高く、上都賀地区、芳賀地区でやや低い結果となった。

イ　課程・学科別にみた地域課題の解決に向けた取組状況（学校）

【図 62】



全日制職業系専門学科では 95%を超えるなど極めて高く、ほぼ全ての学校で何らかの活動に取り組んでいることが分かる。

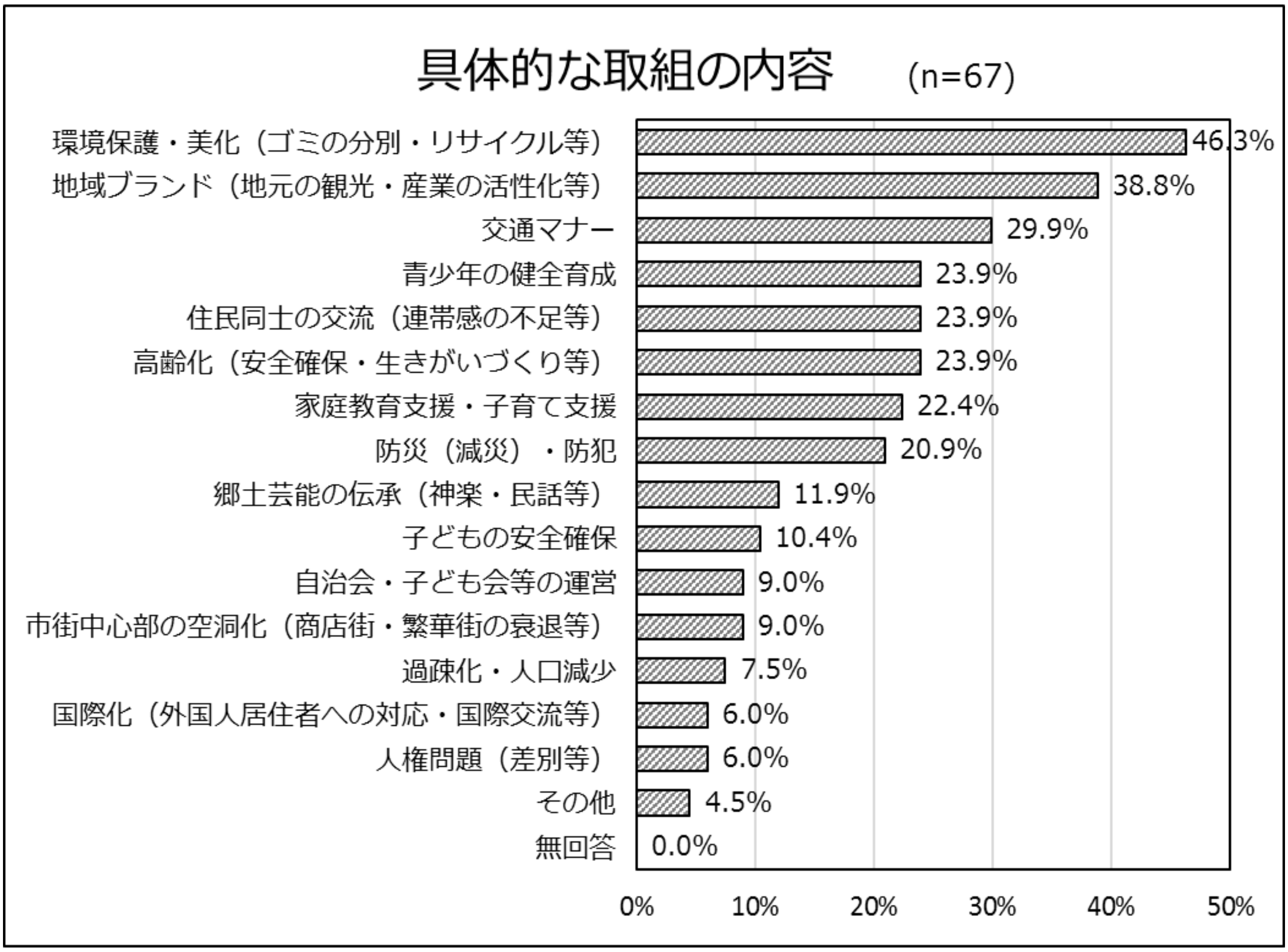
(4)　具体的な取組の内容

問３　　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは、どのような内容の課題解決に向けた活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた具体的な取組の内容

【図 63】



地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいると回答した 67 名に、その取組内容ついて質問した。

全県でみると、「環境保護・美化」の回答割合が 46.3%と最も高かった。次いで、「地域ブランド」の回答割合も高く、これら２項目が 30%を超えた。

「交通マナー」も 29.9%と回答割合が高かった。

【表 70】

具体的な取組の内容（各地区別）	全県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
防災（減災）・防犯	20.9%	26.7%	16.7%	60.0%	12.5%	28.6%	12.5%	10.0%
子どもの安全確保	10.4%	6.7%	16.7%	20.0%	6.3%	14.3%	12.5%	10.0%
家庭教育支援・子育て支援	22.4%	33.3%	0.0%	0.0%	31.3%	28.6%	12.5%	20.0%
青少年の健全育成	23.9%	20.0%	16.7%	20.0%	37.5%	0.0%	37.5%	20.0%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	11.9%	13.3%	16.7%	20.0%	0.0%	14.3%	37.5%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	9.0%	26.7%	16.7%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	23.9%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	28.6%	50.0%	30.0%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	23.9%	6.7%	33.3%	40.0%	25.0%	42.9%	12.5%	30.0%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	38.8%	6.7%	66.7%	40.0%	56.3%	57.1%	37.5%	30.0%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	10.0%
過疎化・人口減少	7.5%	0.0%	16.7%	20.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	46.3%	53.3%	33.3%	40.0%	68.8%	28.6%	50.0%	20.0%
人権問題（差別等）	6.0%	6.7%	0.0%	0.0%	6.3%	28.6%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	9.0%	6.7%	0.0%	20.0%	0.0%	42.9%	0.0%	10.0%
交通マナー	29.9%	40.0%	33.3%	40.0%	18.8%	14.3%	25.0%	40.0%
その他	4.5%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

河内地区で「環境保護・美化」、上都賀地区で「地域ブランド」、芳賀地区で「防災・防犯」、下都賀地区で「環境保護・美化」「地域ブランド」、塩谷南那須地区で「地域ブランド」、那須地区で「住民同士の交流」「環境保護・美化」の回答割合が、それぞれ 50%以上であった。

イ　課程・学科別にみた取組内容

【表 71】

具体的な取組の内容（課程・学科別）	全　県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
防災（減災）・防犯	20.9%	6.9%	27.3%	20.0%	0.0%	45.5%
子どもの安全確保	10.4%	6.9%	13.6%	20.0%	0.0%	9.1%
家庭教育支援・子育て支援	22.4%	31.0%	13.6%	20.0%	0.0%	18.2%
青少年の健全育成	23.9%	24.1%	22.7%	20.0%	0.0%	27.3%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	11.9%	3.4%	22.7%	0.0%	0.0%	18.2%
自治会・子ども会等の運営	9.0%	6.9%	9.1%	0.0%	0.0%	18.2%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	23.9%	31.0%	9.1%	0.0%	0.0%	45.5%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	23.9%	24.1%	27.3%	20.0%	0.0%	18.2%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	38.8%	37.9%	63.6%	0.0%	0.0%	9.1%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	6.0%	6.9%	4.5%	20.0%	0.0%	0.0%
過疎化・人口減少	7.5%	10.3%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	46.3%	41.4%	40.9%	60.0%	0.0%	63.6%
人権問題（差別等）	6.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	9.0%	6.9%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
交通マナー	29.9%	27.6%	40.9%	0.0%	0.0%	27.3%
その他	4.5%	6.9%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制職業系専門学科を除き、「環境保護・美化」の回答割合が最も高かった。学校にとっても高校生にとっても取り組みやすい内容であると推測できる。一方で、全日制職業系専門学科では、「地域ブランド」の回答割合が最も高かった。学校で学んだ成果を地域で生かす活動が根付きつつある状況がうかがえる。

《参考：問３「その他」の主な回答記述》

○学校と（周辺）地域との交流活動　　　　○異世代間交流

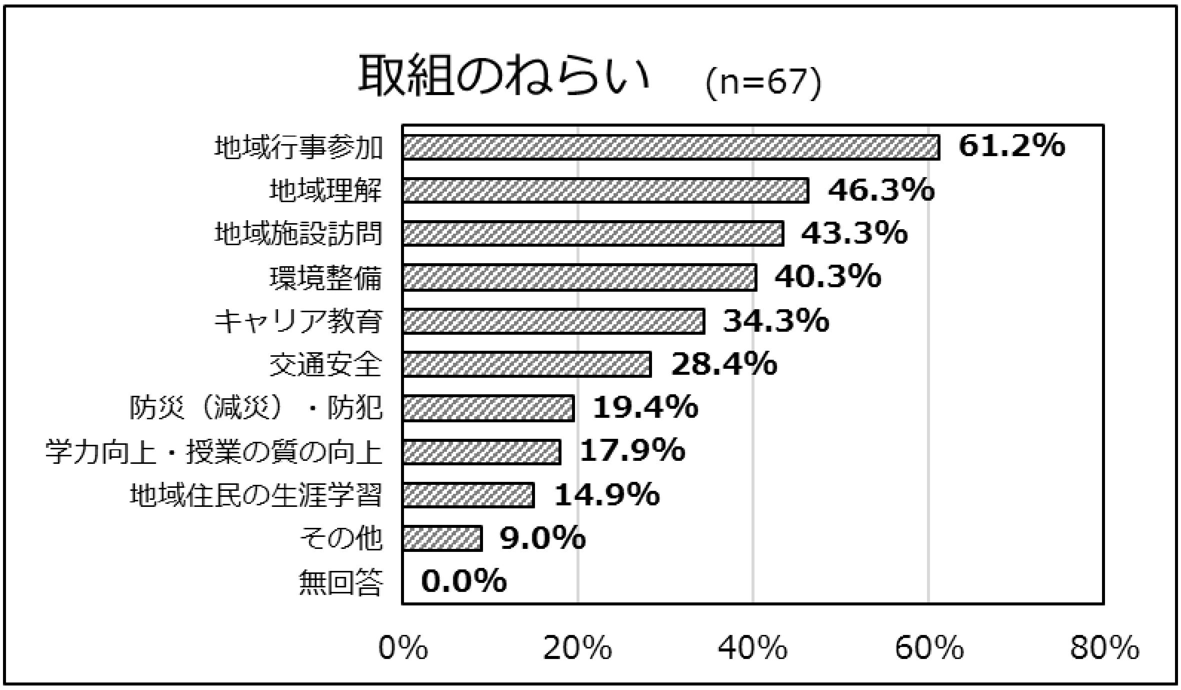
(5) 取組のねらい

問４　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは、どのような取組として行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた取組内容

【図 64】



【表 72】

取組のねらい（各地区別）	全　県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
学力向上・授業の質の向上	17.9%	0.0%	50.0%	20.0%	12.5%	28.6%	25.0%	20.0%
環境整備	40.3%	26.7%	33.3%	40.0%	68.8%	28.6%	50.0%	20.0%
キャリア教育	34.3%	33.3%	16.7%	40.0%	31.3%	57.1%	37.5%	30.0%
地域行事参加	61.2%	53.3%	66.7%	60.0%	56.3%	71.4%	87.5%	50.0%
地域理解	46.3%	46.7%	50.0%	80.0%	31.3%	57.1%	75.0%	20.0%
地域住民の生涯学習	14.9%	20.0%	0.0%	0.0%	18.8%	28.6%	12.5%	10.0%
地域施設訪問	43.3%	20.0%	66.7%	60.0%	37.5%	71.4%	25.0%	60.0%
防災（減災）・防犯	19.4%	20.0%	16.7%	60.0%	12.5%	28.6%	12.5%	10.0%
交通安全	28.4%	46.7%	16.7%	20.0%	25.0%	0.0%	25.0%	40.0%
その他	9.0%	13.3%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	25.0%	10.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「地域行事参加」の回答割合が最も高く、全ての地区で半数を超えた。次いで、「地域理解」「地域施設訪問」となり、地域を学ぶ、地域に出向くものが上位となった。
地区別にみると、河内地区で「交通安全」が、上都賀地区で「学力向上・授業の質の向上」が、芳賀地区で「防災・防犯」が、下都賀地区で「環境整備」が、塩谷南那須地区で「キャリア教育」がそれぞれ他の地区と比べて回答割合が高いなど、地区間の差異がみられた。

イ　課程・学科別にみた取組内容

【表 73】

取組のねらい（課程・学科別）	全　県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
学力向上・授業の質の向上	17.9%	20.7%	22.7%	0.0%	0.0%	9.1%
環境整備	40.3%	31.0%	45.5%	60.0%	0.0%	45.5%
キャリア教育	34.3%	27.6%	45.5%	20.0%	0.0%	36.4%
地域行事参加	61.2%	69.0%	72.7%	0.0%	0.0%	45.5%
地域理解	46.3%	41.4%	59.1%	0.0%	0.0%	54.5%
地域住民の生涯学習	14.9%	13.8%	4.5%	40.0%	0.0%	27.3%
地域施設訪問	43.3%	44.8%	40.9%	40.0%	0.0%	45.5%
防災（減災）・防犯	19.4%	10.3%	22.7%	20.0%	0.0%	36.4%
交通安全	28.4%	27.6%	31.8%	0.0%	0.0%	36.4%
その他	9.0%	3.4%	13.6%	20.0%	0.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「地域行事参加」「地域理解」は、全日制課程で回答割合が高かった。また、「防災・防犯」「交通安全」では、特別支援で回答割合が高かった。

《参考：問４「その他」の主な回答記述》
○生徒の自己肯定感の育成
○地域活性化案の地元企業への提案
○地域イベントのリ・デザイン
○コミュニケーション等の実践活動からの課題発見

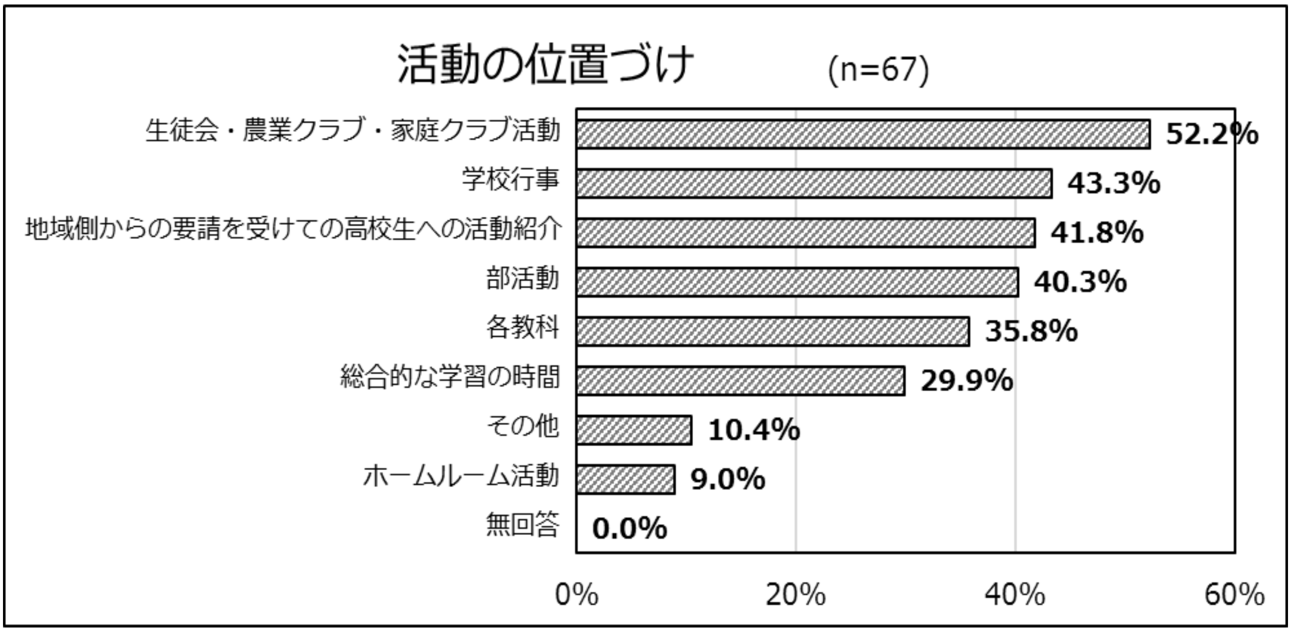
(6)　活動の位置づけ

問５　　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それらの活動は、どのような位置づけで行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた活動の位置づけ

【図 65】



【表 74】

活動の位置づけ（各地区別）	全　県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
各教科	35.8%	33.3%	16.7%	60.0%	31.3%	42.9%	50.0%	30.0%
総合的な学習の時間	29.9%	26.7%	50.0%	60.0%	31.3%	42.9%	12.5%	10.0%
部活動	40.3%	26.7%	66.7%	60.0%	50.0%	42.9%	12.5%	40.0%
ホームルーム活動	9.0%	0.0%	16.7%	0.0%	12.5%	14.3%	12.5%	10.0%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	52.2%	40.0%	50.0%	60.0%	56.3%	57.1%	62.5%	50.0%
学校行事	43.3%	46.7%	16.7%	60.0%	43.8%	71.4%	25.0%	40.0%
地域側からの要請を受けての高校生への活動紹介	41.8%	40.0%	33.3%	60.0%	56.3%	42.9%	37.5%	20.0%
その他	10.4%	13.3%	0.0%	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	20.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動」の回答割合が 52.2%と最も高く、全ての地区で 40%以上であった。次いで、塩谷南那須地区で 70%を超える「学校行事」「地域側からの要請を受けての高校生への活動紹介」「部活動」と続き、これらの項目が全体の40%を超える結果となった。

イ　課程・学科別にみた活動の位置づけ

【表 75】

活動の位置づけ（課程・学科別）	全　県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
各教科	35.8%	24.1%	59.1%	0.0%	0.0%	36.4%
総合的な学習の時間	29.9%	34.5%	22.7%	0.0%	0.0%	45.5%
部活動	40.3%	44.8%	59.1%	20.0%	0.0%	0.0%
ホームルーム活動	9.0%	10.3%	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	52.2%	51.7%	68.2%	40.0%	0.0%	27.3%
学校行事	43.3%	37.9%	54.5%	40.0%	0.0%	36.4%
地域側からの要請を受けての高校生への活動紹介	41.8%	55.2%	40.9%	20.0%	0.0%	18.2%
その他	10.4%	3.4%	4.5%	0.0%	0.0%	45.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制職業系専門学科では、「生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動」の回答割合が極めて高かった。他にも、「各教科」の回答割合が高く、学んだ成果を活動に生かしている様子がうかがえる。「部活動」では、全日制の回答割合が高かった。

特別支援では、「総合的な学習の時間」の回答割合が高かった。また、「その他」の回答割合も高く、「PTA の行事、活動」やボランティア養成等の「学校主催の講座の実施（アカデミアとちぎ等）」との記述が多かった。

《参考：問５「その他」の主な回答記述》

○PTA の行事、活動　　　○学校主催の講座の実施（アカデミアとちぎ等）

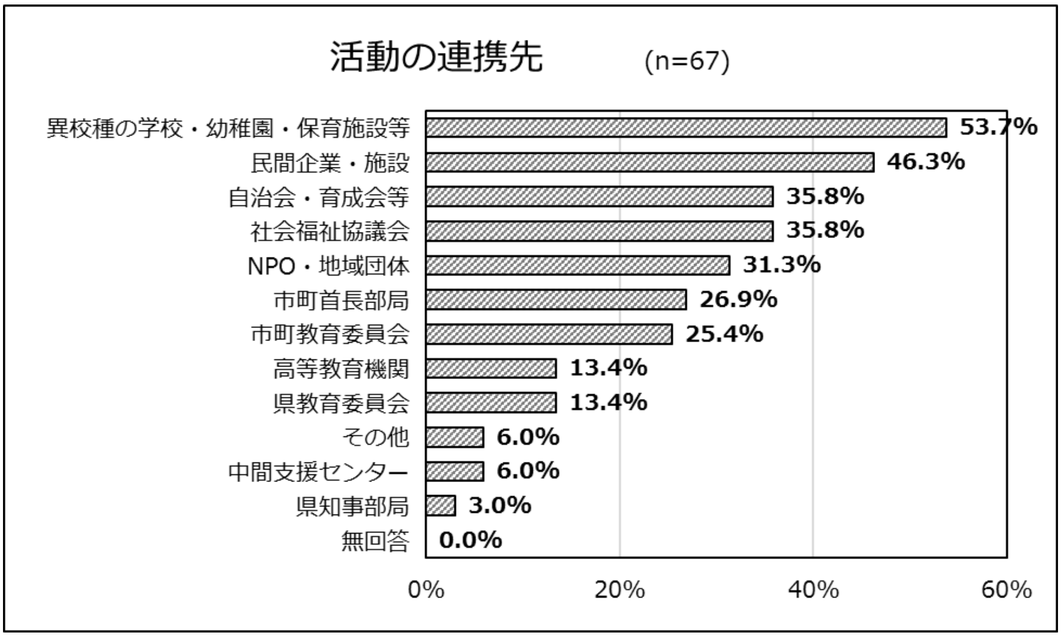
(7)　活動の連携先

問６　　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それらの活動は、どのような機関と連携して行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた活動の連携先

【図 66】



【表 76】

活動の連携先 （各地区別）	全　県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
県教育委員会	13.4%	6.7%	16.7%	20.0%	12.5%	0.0%	25.0%	20.0%
市町教育委員会	25.4%	6.7%	16.7%	60.0%	18.8%	42.9%	37.5%	30.0%
県知事部局	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	14.3%	0.0%	0.0%
市町首長部局	26.9%	13.3%	83.3%	20.0%	25.0%	42.9%	25.0%	10.0%
社会福祉協議会	35.8%	20.0%	16.7%	60.0%	37.5%	57.1%	25.0%	50.0%
中間支援センター	6.0%	6.7%	16.7%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
民間企業・施設	46.3%	46.7%	33.3%	80.0%	37.5%	85.7%	25.0%	40.0%
異校種の学校・幼稚園・保育施設等	53.7%	40.0%	50.0%	20.0%	68.8%	71.4%	62.5%	50.0%
NPO・地域団体	31.3%	26.7%	33.3%	40.0%	43.8%	71.4%	12.5%	0.0%
高等教育機関	13.4%	6.7%	16.7%	0.0%	31.3%	14.3%	0.0%	10.0%
自治会・育成会等	35.8%	53.3%	50.0%	60.0%	18.8%	28.6%	25.0%	30.0%
その他	6.0%	13.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「異校種の学校・幼稚園・保育施設等」が53.7%と回答割合が最も高く、次いで、「民間企業・施設」、並んで「社会福祉協議会」「自治会・育成会等」が続く。

地区間の特徴もみられ、河内地区では「自治会・育成会等」が、上都賀地区では「市町首長部局」が、芳賀地区では「社会福祉協議会」が、下都賀地区では「高等教育機関」が、塩谷南那須地区では「民間企業・施設」「異校種の学校・幼稚園・保育施設等」「NPO・地域団体」が、それぞれ他地区と比べて回答割合が高かった。

特に、塩谷南那須地区では回答割合の高い項目が多く、いろいろな機関と連携しながら活動を進めている様子がうかがえる。

イ　課程・学科別にみた活動の連携先

【表77】

活動の連携先（課程・学科別）	全　県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
県教育委員会	13.4%	13.8%	9.1%	0.0%	0.0%	27.3%
市町教育委員会	25.4%	27.6%	27.3%	20.0%	0.0%	18.2%
県知事部局	3.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
市町首長部局	26.9%	20.7%	45.5%	0.0%	0.0%	18.2%
社会福祉協議会	35.8%	34.5%	45.5%	40.0%	0.0%	18.2%
中間支援センター	6.0%	6.9%	4.5%	0.0%	0.0%	9.1%
民間企業・施設	46.3%	34.5%	63.6%	20.0%	0.0%	54.5%
異校種の学校・幼稚園・保育施設等	53.7%	62.1%	59.1%	60.0%	0.0%	18.2%
NPO・地域団体	31.3%	34.5%	40.9%	0.0%	0.0%	18.2%
高等教育機関	13.4%	17.2%	13.6%	20.0%	0.0%	0.0%
自治会・育成会等	35.8%	20.7%	36.4%	40.0%	0.0%	72.7%
その他	6.0%	6.9%	4.5%	0.0%	0.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制、定時制では「異校種の学校・幼稚園・保育施設等」が、特別支援では「自治会・育成会等」が、それぞれ回答割合が高かった。

また、全日制職業系専門学科では「民間企業・施設」「市町首長部局」が、特別支援では「県教育委員会」が、それぞれ他の課程・学科と比べて回答割合が高かった。

《参考：問6「その他」の主な回答記述》

○PTA　　　○警察署

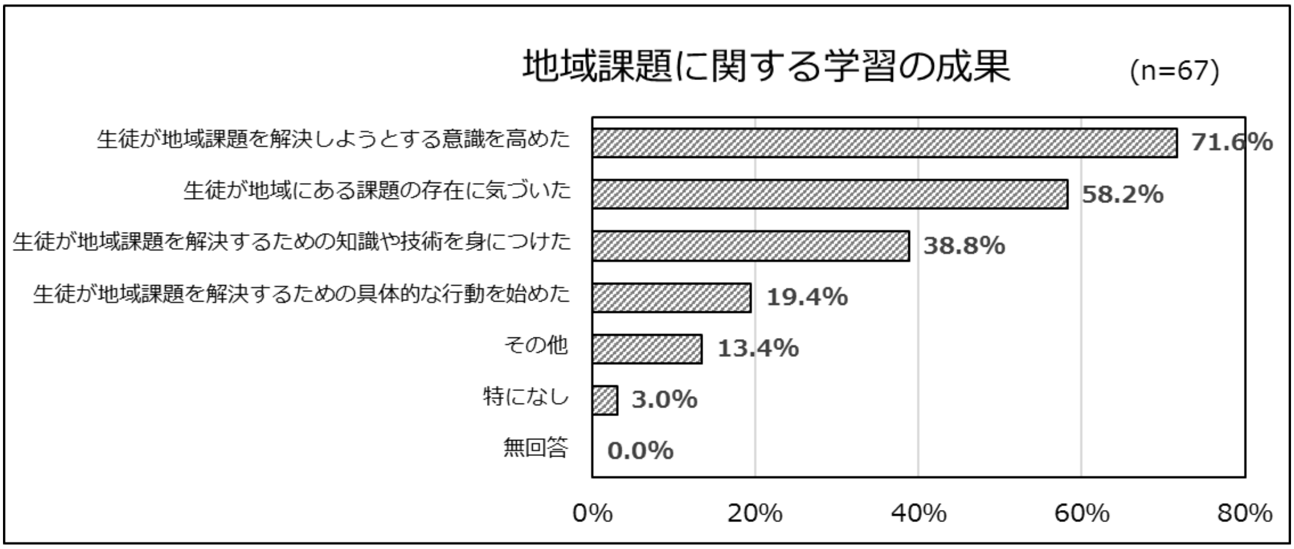
(8)　地域課題に関する学習の成果

問７　　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。地域課題に関する学習を提供した成果には、どのようなものがありますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習の成果

【図 67】



【表 78】

地域課題に関する学習の成果（各地区別）	全　県 n=67	河内地区 n=15	上都賀地区 n=6	芳賀地区 n=5	下都賀地区 n=16	塩谷南那須地区 n=7	那須地区 n=8	安足地区 n=10
生徒が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた	19.4%	13.3%	16.7%	0.0%	25.0%	28.6%	12.5%	30.0%
生徒が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた	38.8%	33.3%	50.0%	40.0%	56.3%	14.3%	37.5%	30.0%
生徒が地域課題を解決しようとする意識を高めた	71.6%	73.3%	83.3%	60.0%	75.0%	85.7%	62.5%	60.0%
生徒が地域にある課題の存在に気づいた	58.2%	66.7%	100.0%	60.0%	56.3%	71.4%	37.5%	30.0%
その他	13.4%	20.0%	0.0%	0.0%	18.8%	14.3%	12.5%	10.0%
特になし	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	12.5%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「生徒が地域課題を解決しようとする意識を高めた」「生徒が地域にある課題の存在に気づいた」の回答割合が高く、いずれの地区でも上位の項目であった。多くの学校で、地域課題に関する学習を提供した成果として、生徒が地域課題を知り、それらを解決したいという意欲の高揚につながっていることが挙げられる。

また、「生徒が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた」も 38.8%、「生徒が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた」も 19.4%の回答があった。

イ　課程・学科別にみた地域課題に関する学習の成果

【表 79】

地域課題に関する学習の成果（課程・学科別）	全　県 n=67	全日制：普通・総合 n=29	全日制：職業系専門 n=22	定時制 n=5	通信制 n=0	特別支援 n=11
生徒が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた	19.4%	13.8%	27.3%	20.0%	0.0%	18.2%
生徒が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた	38.8%	27.6%	59.1%	40.0%	0.0%	27.3%
生徒が地域課題を解決しようとする意識を高めた	71.6%	72.4%	90.9%	80.0%	0.0%	27.3%
生徒が地域にある課題の存在に気づいた	58.2%	62.1%	68.2%	0.0%	0.0%	54.5%
その他	13.4%	10.3%	0.0%	20.0%	0.0%	45.5%
特になし	3.0%	3.4%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制職業系専門学科は、その他を除く全ての項目で他の課程・学科よりも回答割合が高く、地域課題に関する学習を提供した成果を実感している様子がうかがえる。

特別支援では「その他」の回答割合が高かったが、生徒自身の変容だけでなく、保護者の変化や地域住民の学校理解などの記述がみられた。

《参考：問７「その他」の主な回答記述》

○地域の方々との関わりをもつことができた。

（生徒は県内全域から通っているため、関わる機会が少ない。）

○年配の方々との交流で気遣いができるようになった。

○地域住民の学校に対する理解が深まった。

○思春期の子育てに対する保護者の意識を高めた。

○将来、地域で活躍したいという生徒が出てきた。

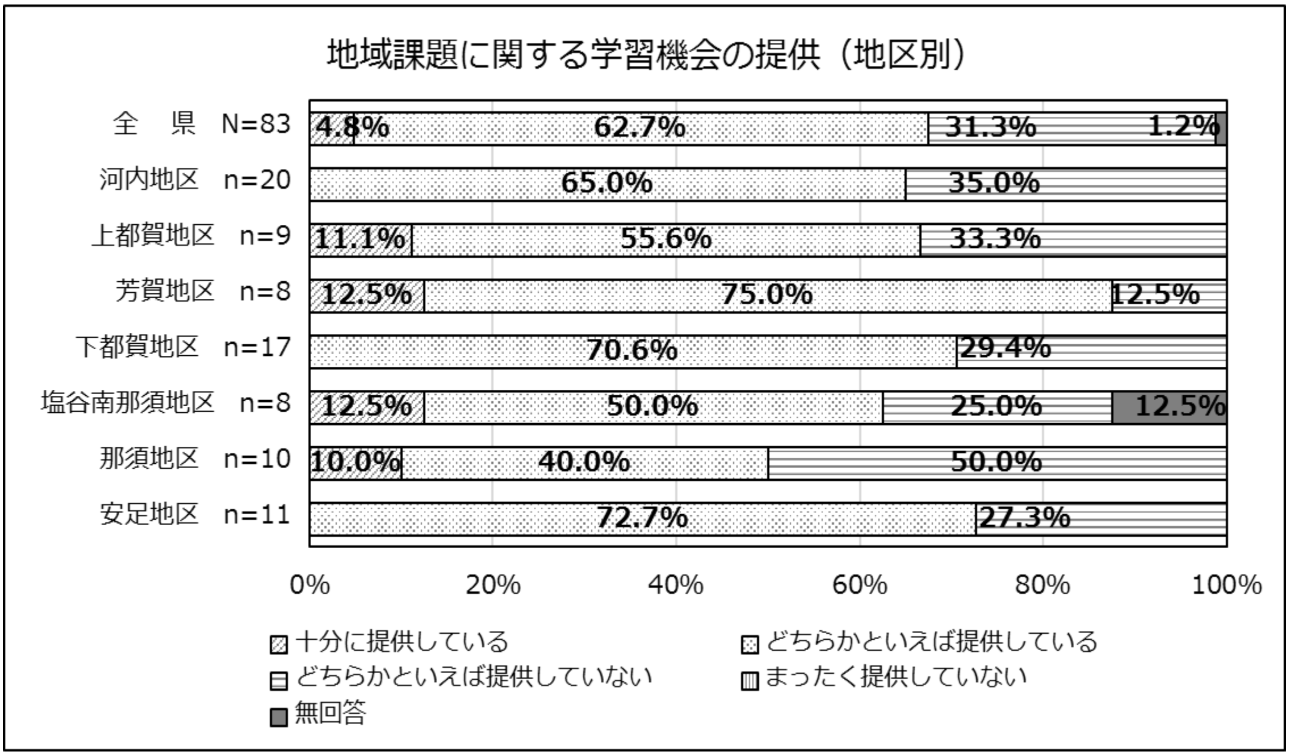
(9)　地域課題に関する学習機会の提供

問８　　生徒に対して、学校や地域が地域課題に関する学習の機会を十分に提供していると感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習機会の提供

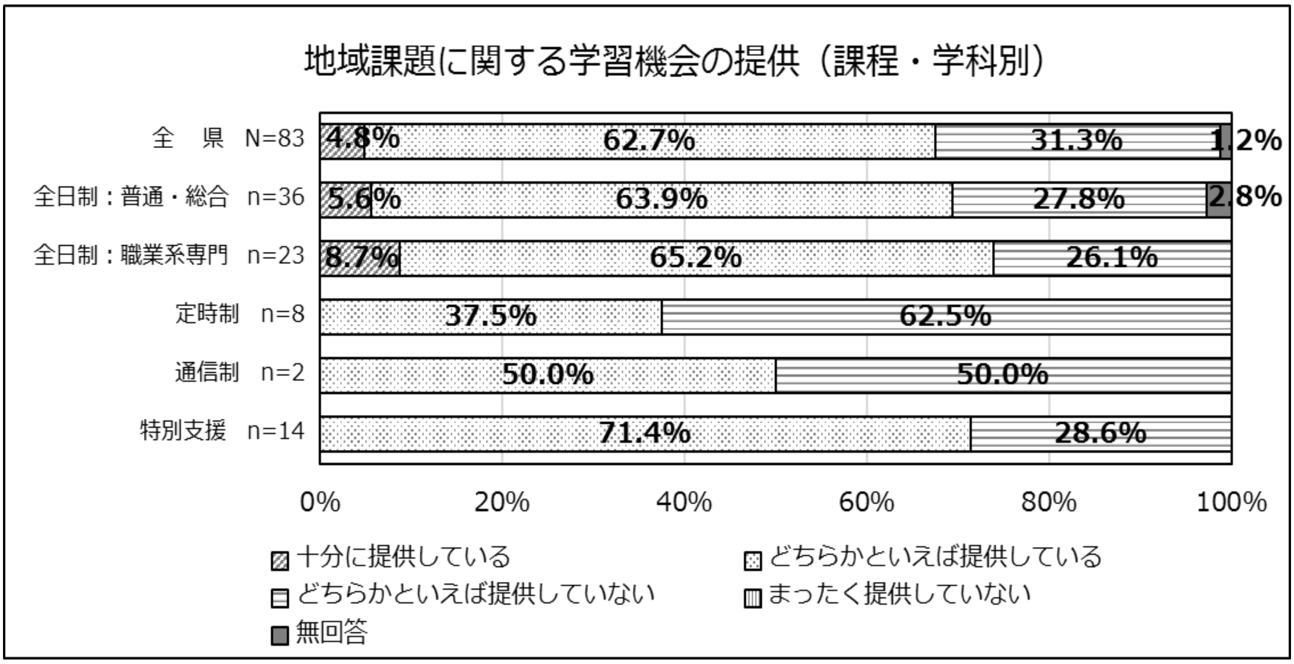
【図 68】



全県でみると、全体の約 2/3 は「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」と回答しているが、「十分に提供している」の回答割合は約５％であった。
地区別にみると、芳賀地区で「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」の回答割合が 87.5%と極めて高かった。

イ　課程・学科別にみた学習機会の提供

【図 69】



課程・学科別にみると、全日制、特別支援では「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」の回答割合が 70%前後と高かったが、定時制、通信制ではそれぞれ 37.5%、50.0%であった。

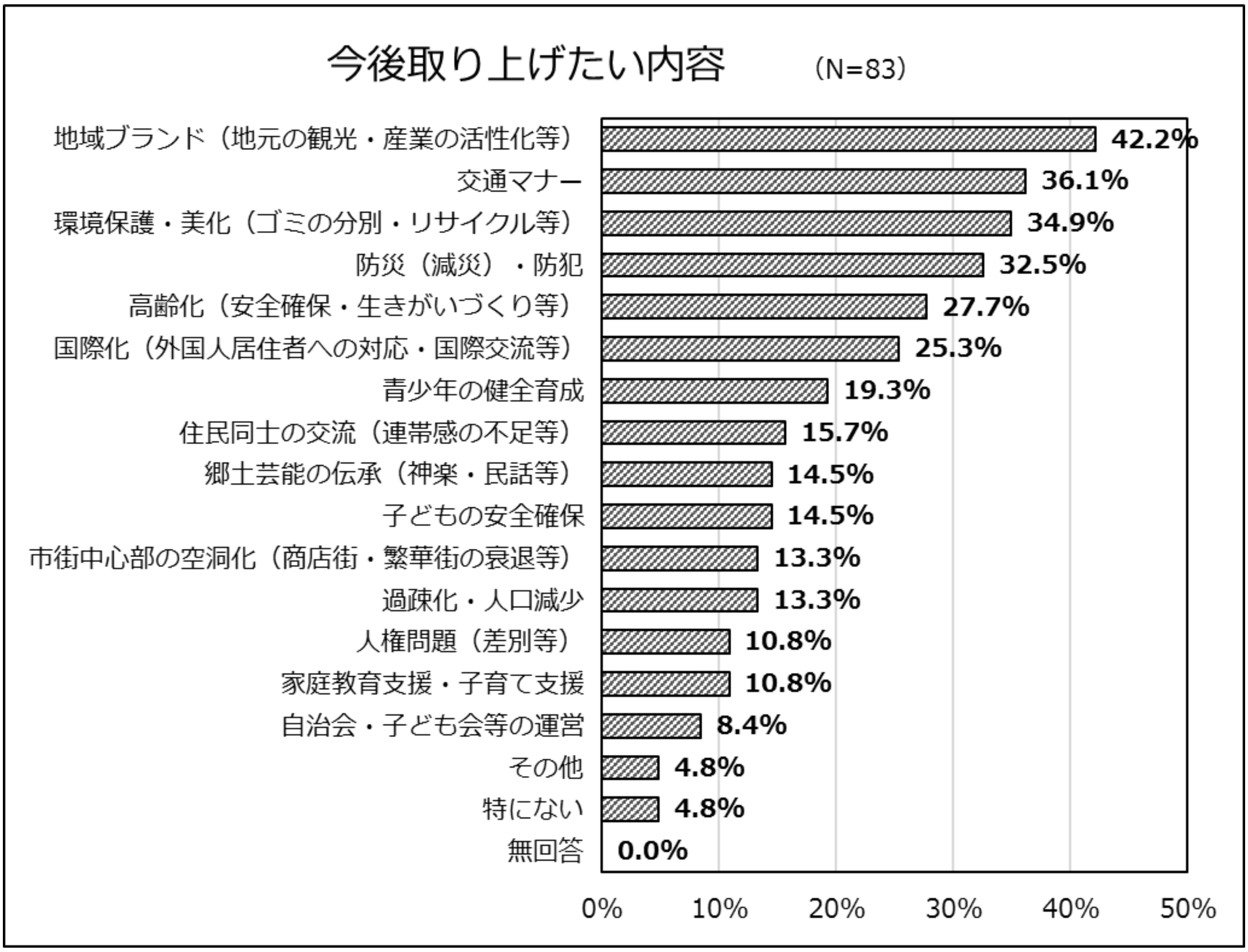
(10)　今後取り上げたい内容

問９　今後、どのようなテーマ（内容）を取り上げようと考えていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　地区別にみた今後取り上げたい内容

【図 70】



全県でみると、「地域ブランド」が 42.2%と回答割合が最も高く、唯一 40%を超えた。次いで、「交通マナー」「環境保護・美化」と続く。これらの 3 項目は、順序は違えど現在取り組んでいる内容の上位 3 項目とも一致する（図 63 参照）。

回答割合の高い順で 4 番目は「防災・防犯」、5 番目は「高齢化」である。これらは、教員による地域課題の認識の上位 3 項目の内の 2 項目であった（図 60 参照）。

現在取り組んでいる活動の質の維持・向上とともに、現在考え得る地域課題への取組も視野に、地域との連携・協働を進めている様子がうかがえる。

【表 80】

今後取り上げたい内容（各地区別）	全　県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
防災（減災）・防犯	32.5%	55.0%	11.1%	50.0%	23.5%	37.5%	10.0%	27.3%
子どもの安全確保	14.5%	20.0%	22.2%	12.5%	11.8%	0.0%	0.0%	27.3%
家庭教育支援・子育て支援	10.8%	10.0%	0.0%	0.0%	23.5%	12.5%	10.0%	9.1%
青少年の健全育成	19.3%	25.0%	11.1%	12.5%	11.8%	0.0%	30.0%	36.4%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	14.5%	15.0%	11.1%	25.0%	11.8%	25.0%	10.0%	9.1%
自治会・子ども会等の運営	8.4%	15.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	18.2%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	15.7%	20.0%	11.1%	12.5%	17.6%	0.0%	10.0%	27.3%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	27.7%	20.0%	11.1%	12.5%	41.2%	50.0%	10.0%	45.5%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	42.2%	35.0%	33.3%	62.5%	41.2%	62.5%	60.0%	18.2%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	25.3%	30.0%	33.3%	50.0%	17.6%	12.5%	20.0%	18.2%
過疎化・人口減少	13.3%	5.0%	11.1%	12.5%	17.6%	50.0%	0.0%	9.1%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	34.9%	55.0%	33.3%	25.0%	23.5%	37.5%	20.0%	36.4%
人権問題（差別等）	10.8%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	10.0%	9.1%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	13.3%	5.0%	11.1%	0.0%	11.8%	37.5%	10.0%	27.3%
交通マナー	36.1%	65.0%	44.4%	37.5%	11.8%	12.5%	20.0%	45.5%
特にない	4.8%	5.0%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
その他	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	12.5%	0.0%	18.2%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

地区別にみると、河内地区で「交通マナー」「防災・防犯」「環境保護・美化」、芳賀地区で「防災・防犯」「地域ブランド」「国際化」、塩谷那須地区で「地域ブランド」「高齢化」「過疎化・人口減少」、那須地区で「地域ブランド」が、それぞれ 50%以上の回答割合となった。

イ　課程・学科別にみた今後取り上げたい内容

【表 81】

今後取り上げたい内容（課程・学科別）	全　県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
防災（減災）・防犯	32.5%	27.8%	34.8%	37.5%	50.0%	35.7%
子どもの安全確保	14.5%	8.3%	4.3%	25.0%	50.0%	35.7%
家庭教育支援・子育て支援	10.8%	16.7%	0.0%	25.0%	0.0%	7.1%
青少年の健全育成	19.3%	13.9%	26.1%	12.5%	0.0%	28.6%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	14.5%	13.9%	13.0%	12.5%	0.0%	21.4%
自治会・子ども会等の運営	8.4%	5.6%	8.7%	12.5%	0.0%	14.3%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	15.7%	8.3%	13.0%	25.0%	50.0%	28.6%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	27.7%	19.4%	43.5%	25.0%	0.0%	28.6%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	42.2%	38.9%	60.9%	12.5%	50.0%	35.7%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	25.3%	36.1%	21.7%	25.0%	0.0%	7.1%
過疎化・人口減少	13.3%	13.9%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	34.9%	30.6%	34.8%	50.0%	0.0%	42.9%
人権問題（差別等）	10.8%	13.9%	4.3%	0.0%	0.0%	21.4%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	13.3%	19.4%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%
交通マナー	36.1%	27.8%	43.5%	37.5%	50.0%	42.9%
特にない	4.8%	8.3%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	4.8%	5.6%	4.3%	12.5%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

課程・学科別にみると、回答割合で最も高かったのは、全日制職業系専門学科における「地域ブランド」で、60.9%であった。

《参考：問９「その他」の主な回答記述》
○地域住民による地域づくり・地域活性化

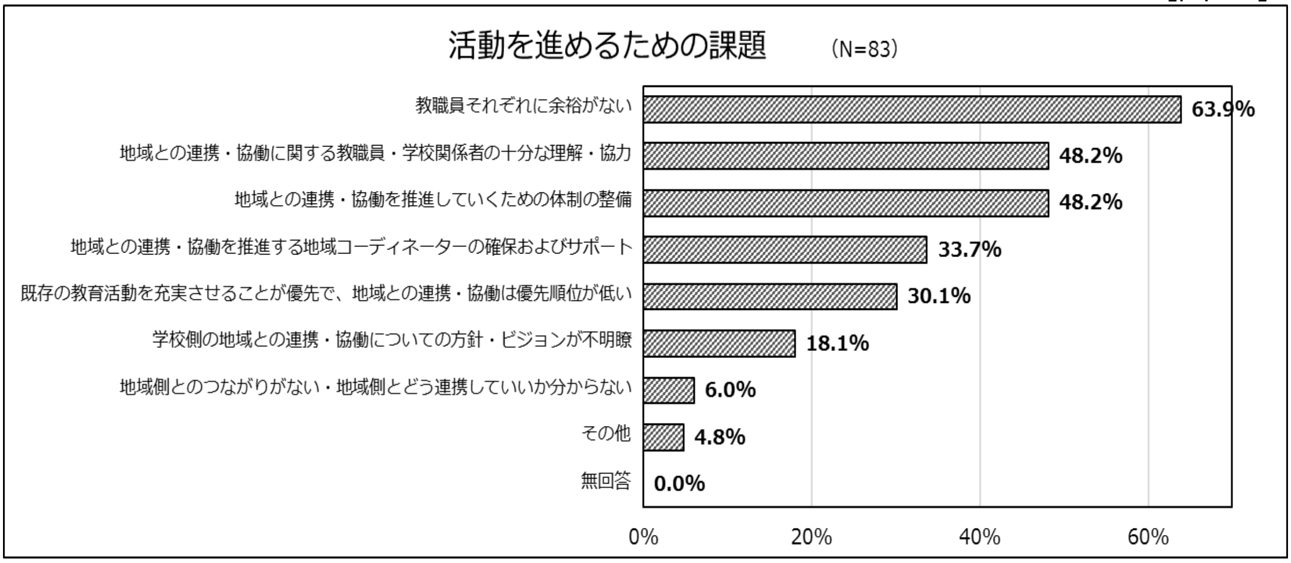
(11)　活動を進めるための課題

問 10　地域課題に関する活動を進めていくために、どのような課題を感じていますか。特にあてはまる番号３つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　地区別にみた活動を進めるための課題

【図 71】



【表 82】

活動を進めるための課題（各地区別）	全　県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
地域との連携・協働を推進していくための体制の整備	48.2%	45.0%	55.6%	37.5%	47.1%	75.0%	40.0%	45.5%
地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力	48.2%	50.0%	44.4%	37.5%	52.9%	50.0%	50.0%	45.5%
地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート	33.7%	25.0%	66.7%	37.5%	23.5%	62.5%	20.0%	27.3%
教職員それぞれに余裕がない	63.9%	60.0%	55.6%	75.0%	88.2%	12.5%	80.0%	54.5%
学校側の地域との連携・協働についての方針・ビジョンが不明瞭	18.1%	15.0%	33.3%	37.5%	5.9%	25.0%	30.0%	0.0%
既存の教育活動を充実させることが優先で、地域との連携・協働は優先順位が低い	30.1%	45.0%	33.3%	25.0%	23.5%	25.0%	20.0%	27.3%
地域側とのつながりがない・地域側とどう連携していいか分からない	6.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.8%	0.0%	10.0%	9.1%
その他	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	20.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「教職員それぞれに余裕がない」の回答割合が 63.9%と最も高く、塩谷南那須地区を除く 6 地区で最上位であった。次いで、「地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力」「地域との連携・協働を推進していくための体制の整備」「地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート」となっている。

イ　課程・学科別にみた活動を進めるための課題

【表 83】

活動を進めるための課題（課程・学科別）	全　県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
地域との連携・協働を推進していくための体制の整備	48.2%	44.4%	47.8%	62.5%	0.0%	57.1%
地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力	48.2%	50.0%	43.5%	62.5%	0.0%	50.0%
地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート	33.7%	27.8%	17.4%	50.0%	50.0%	64.3%
教職員それぞれに余裕がない	63.9%	75.0%	73.9%	25.0%	100.0%	35.7%
学校側の地域との連携・協働についての方針・ビジョンが不明瞭	18.1%	25.0%	17.4%	12.5%	50.0%	0.0%
既存の教育活動を充実させることが優先で、地域との連携・協働は優先順位が低い	30.1%	36.1%	30.4%	0.0%	50.0%	28.6%
地域側とのつながりがない・地域側とどう連携していいか分からない	6.0%	8.3%	0.0%	12.5%	0.0%	7.1%
その他	4.8%	2.8%	8.7%	12.5%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全日制、通信制は、「教職員それぞれに余裕がない」が、定時制、特別支援と比べて回答割合が高かった。定時制や通信制、特別支援では、「地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力」「地域との連携・協働を推進していくための体制の整備」「地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート」が、全日制と比べて回答割合が高かった。

《参考：問 10「その他」の主な回答記述》
○実技系の学科の生徒と比較して、普通科の生徒に活躍の場を提供することが難しい。
○生徒が考案したことや活動したことを、どう「見える化」（自身・地域）するかが難しい。
○定時制の生徒には、活動時間帯に制約がある。

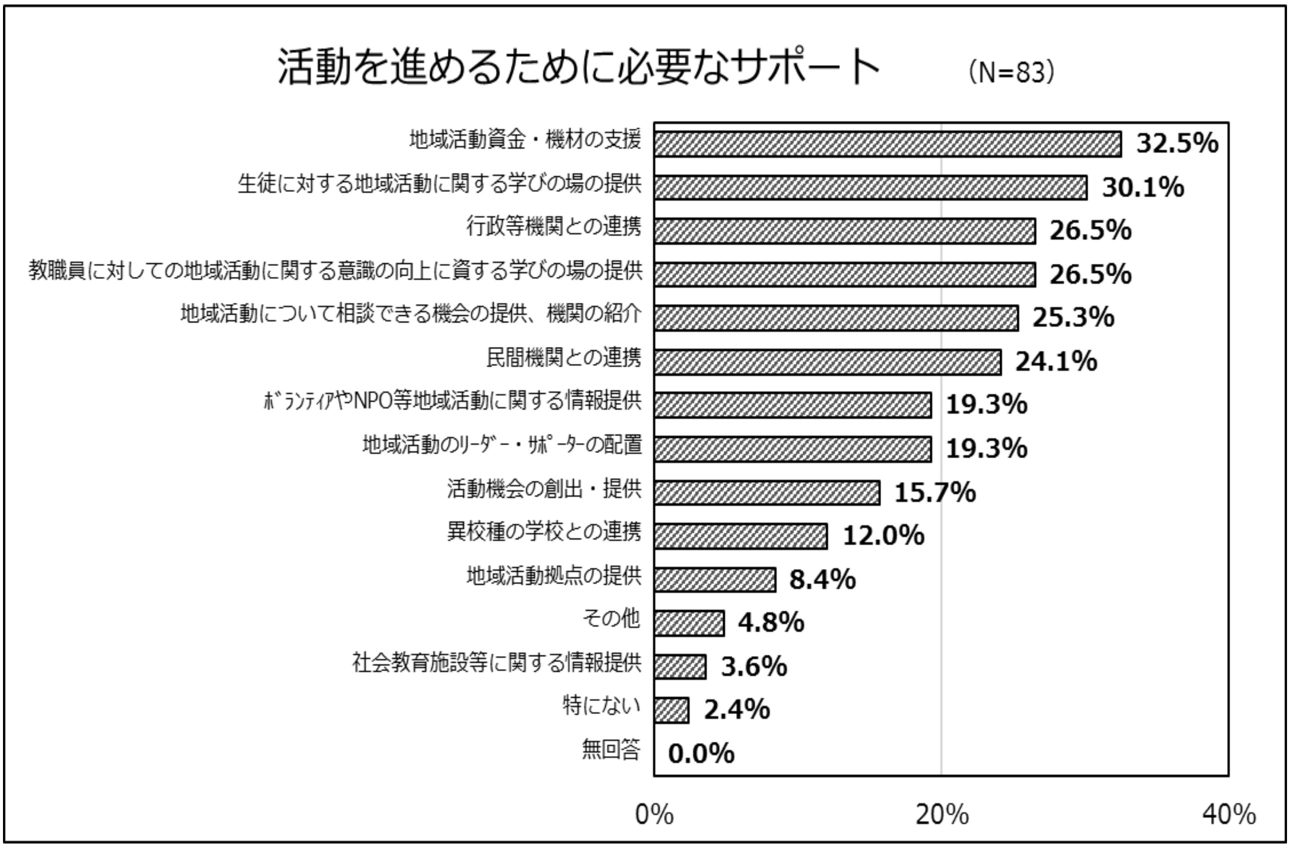
(12)　活動を進めるために必要なサポート

問 11　どのようなサポートがあると、地域課題に関する活動が円滑に進むと思いますか。あてはまる番号３つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　地区別にみた活動を進めるために必要なサポート

【図 72】



全県でみると、「地域活動資金・機材の支援」の回答割合が最も高かった。次いで、「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」が続き、これらの 2 項目が 30%を超えた。

また、「教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供」「行政等機関との連携」の回答割合も高く、前問の「活動を進めるための課題」に挙げられていた、「地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力」「地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート」等の課題解決に向けたサポートを望んでいる現状がうかがえる（図 71 参照）。また、回答割合が 50%を超える項目はなく、必要なサポートは地域や学校の現状により異なることも推測できる。

【表 84】

活動を進めるために必要なサポート（各地区別）	全　県 N=83	河内地区 n=20	上都賀地区 n=9	芳賀地区 n=8	下都賀地区 n=17	塩谷南那須地区 n=8	那須地区 n=10	安足地区 n=11
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	25.3%	20.0%	22.2%	37.5%	17.6%	25.0%	30.0%	36.4%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	30.1%	35.0%	22.2%	37.5%	23.5%	25.0%	30.0%	36.4%
地域活動資金・機材の支援	32.5%	30.0%	33.3%	37.5%	23.5%	50.0%	30.0%	36.4%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置	19.3%	10.0%	33.3%	25.0%	17.6%	37.5%	20.0%	9.1%
地域活動拠点の提供	8.4%	5.0%	11.1%	0.0%	11.8%	0.0%	30.0%	0.0%
活動機会の創出・提供	15.7%	15.0%	0.0%	37.5%	17.6%	0.0%	10.0%	27.3%
社会教育施設等に関する情報提供	3.6%	10.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやNPO等地域活動に関する情報提供	19.3%	15.0%	22.2%	0.0%	29.4%	12.5%	30.0%	18.2%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	26.5%	30.0%	11.1%	12.5%	47.1%	25.0%	20.0%	18.2%
行政等機関との連携	26.5%	25.0%	33.3%	25.0%	23.5%	37.5%	20.0%	27.3%
民間機関との連携	24.1%	25.0%	11.1%	50.0%	17.6%	50.0%	20.0%	9.1%
異校種の学校との連携	12.0%	5.0%	11.1%	0.0%	23.5%	12.5%	10.0%	18.2%
特にない	2.4%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
その他	4.8%	5.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

地区別にみると、芳賀地区、塩谷南那須地区で「民間機関との連携」、下都賀地区で「教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供」の回答割合が高く、最も低い地区との差が 30%を超えた。

イ　課程・学科別にみた活動を進めるために必要なサポート

【表 85】

活動を進めるために必要なサポート（課程・学科別）	全　県 N=83	全日制：普通・総合 n=36	全日制：職業系専門 n=23	定時制 n=8	通信制 n=2	特別支援 n=14
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	25.3%	25.0%	13.0%	50.0%	50.0%	28.6%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	30.1%	25.0%	39.1%	50.0%	50.0%	14.3%
地域活動資金・機材の支援	32.5%	36.1%	39.1%	12.5%	50.0%	21.4%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置	19.3%	25.0%	8.7%	12.5%	0.0%	28.6%
地域活動拠点の提供	8.4%	11.1%	0.0%	12.5%	0.0%	14.3%
活動機会の創出・提供	15.7%	13.9%	21.7%	12.5%	0.0%	14.3%
社会教育施設等に関する情報提供	3.6%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやNPO等地域活動に関する情報提供	19.3%	11.1%	21.7%	50.0%	0.0%	21.4%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	26.5%	27.8%	30.4%	25.0%	50.0%	14.3%
行政等機関との連携	26.5%	27.8%	4.3%	37.5%	50.0%	50.0%
民間機関との連携	24.1%	25.0%	13.0%	25.0%	50.0%	35.7%
異校種の学校との連携	12.0%	8.3%	17.4%	0.0%	0.0%	21.4%
特にない	2.4%	2.8%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	4.8%	2.8%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

定時制や通信制では、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」の回答割合が高く、生徒の活動機会創出に向けたサポートを必要としている状況がうかがえる。

特別支援では、「行政機関等との連携」「民間機関との連携」の回答割合が高く、連携機関の幅を広げ、活動の質の向上を目指していくためのサポートを必要としている状況がうかがえる。

《参考：問 11「その他」の主な回答記述》

○対応できる人員の確保　　　○生徒の活動時間の確保

(13)　地域との協働による高等学校改革の推進に関する自由記述

問 12　国（文部科学省）では、「地域との協働による高等学校改革の推進」において、「高等学校と市町村・産業界・高等教育機関・社会教育施設（公民館等）等とが協働し、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組を推進すること」を求めています。このことについて、あなたが感じていることなど、自由にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

アンケート調査回答者の地域との協働による高等学校改革の推進に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 12 の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎高等学校に対する地域のニーズを、学校側が把握できない（機会がない）。

◎地域課題の解決に取り組むことを主権者教育（社会人としての在り方、生き方を考えさせ、実行に移せるようなキャリア教育　他）と結びつけて実施したいが、現行の教育内容との調整が難しい。

◎次期学習指導要領「社会に開かれた教育課程」「探求的な学び」の実現のために、教科カリキュラムを核に教育を進めてきた中で急に再編するには様々な支障・問題が生じる。また、それに見合った効果が期待できるか定かではない。「総合的な探求の時間」「SHR」「LHR」「部活動」の枠に、大学・地域との接点を継続的に設け、学習者の一生を支えるような自発的な学習動機を芽生えさせ、育てられたらと思う。

◎生徒も教職員も、取り組まなければならないものがたくさんあり（部活動や学習〔平日の学習活動以外の土日の模擬試験など〕）、地域と協働を進める余裕がない。

◎学校と行政、企業との意識に格差を感じており、地域側の協働に対する理解も必要である。互いが協働していくためのシステムが必要だと考える。

◎学校が地域諸機関と連携することによりどんなメリットがあるのか、という点について広く教員に浸透していない。教員に向けて地域連携に関する研修を行うなど、未来を生き抜く生徒を教育する上で必要なことであることを伝えていく必要がある。

○協働することが目的ではないので、効果的な学びや地域課題の解決に取り組んでいきたいが、それらを評価したり、検証したりするのは難しい。

○高校生が地域に出て活動することは多いが、ボランティアや運営スタッフの協力のみで終えてしまう。それでは地域で学んだことにはならないので、事前事後の指導にも取り組む必要性を感じている。

○探究的な学びを実現する取組について、長期的かつ継続的な取組が想定されることから、高等学校卒業後も続けてできるよう、学校や市町村、社会教育施設等が連携を図り、生涯学習に根ざした活動形態を設けることが必要である。その一例として、在学中には行事だけでの地域との交流だけではなく、生徒を日常的に交流の場に迎えられる体制があるとよい。

《参考：問 12 の主な回答記述（続き）》
○理想と現実のギャップを感じているが、小学校や大学などの連携しやすいところから協働を進めていきたい。
○生徒はいきいきと活動していて、地元住民とのつながり、普段の学習内容への興味・関心の向上など、学校内だけでは得られない教育効果がある。
○地域との協働に携わっている教員や生徒はよく理解しているが、他へ広まっていかない。全職員、全校生徒で取り組めるようになるとよい。
○定時制では、多くの生徒が昼間アルバイト等で働き、夜間学校で勉強しているので、社会との繋がりは個人差が大きい。また、生徒には地域課題の解決に取り組む時間的余裕がない。
○地域側が高校生を「無償の労働力」と捉えている印象があるが、学校現場の実情を理解した上で要望してもらえるとありがたい。
○高校生が学ぶ内容について整理し、もっと余裕をもって学校生活を送れるようにした上で、自らの様々な問題について考えられる状況をつくり、取組を進めるべきである。
○地域コーディネーターの役割がこれまで以上に重要になる。
○働き方改革で仕事量を減らす中で、逆に増加することについて違和感を覚える。

2　市町生涯学習・社会教育関係職員対象調査
社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査

(1)　回答数および回答率と回答者の属性

ア　回答数および回答率

(ｱ)　調査対象者　　　　　　　３８７名

内訳：市町生涯学習・社会教育関係職員対象　　　　　　　２８９名
社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査　　　　９８名

(ｲ)　回答数　　　　　　　　　２６３名

内訳：市町生涯学習・社会教育関係職員対象　　　　　　　１９２名
社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査　　　　７１名

(ｳ)　回答率　　　　　　　　６８．０％

内訳：市町生涯学習・社会教育関係職員対象　　　　　　６６．４％
社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査　７２．４％

「市町生涯学習・社会教育関係職員対象調査」と「社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査」については、ともに地域課題に関する学習機会を提供する立場にあり、地区間の傾向を捉えやすくするために、両調査を合わせた形で調査結果を報告する。なお、両調査の比較ができるように、職種別の分析結果も掲載する。

市町生涯学習・社会教育関係職員調査では、県内全ての市町に御協力をいただき、各市町教育委員会生涯学習・社会教育主管課職員各市町１～２名、市町公民館、図書館、博物館等の社会教育施設職員各施設１名に調査をお願いし、192 名からの回答を得た。

社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査では、県および各市町の社会福祉協議会、県内中間支援センターに御協力をいただき、社会福祉協議会職員各１～２名、中間支援センター職員各施設２名に調査を依頼し、71 名からの回答を得た。

イ　回答者の属性（地区別、職種別回答数等）

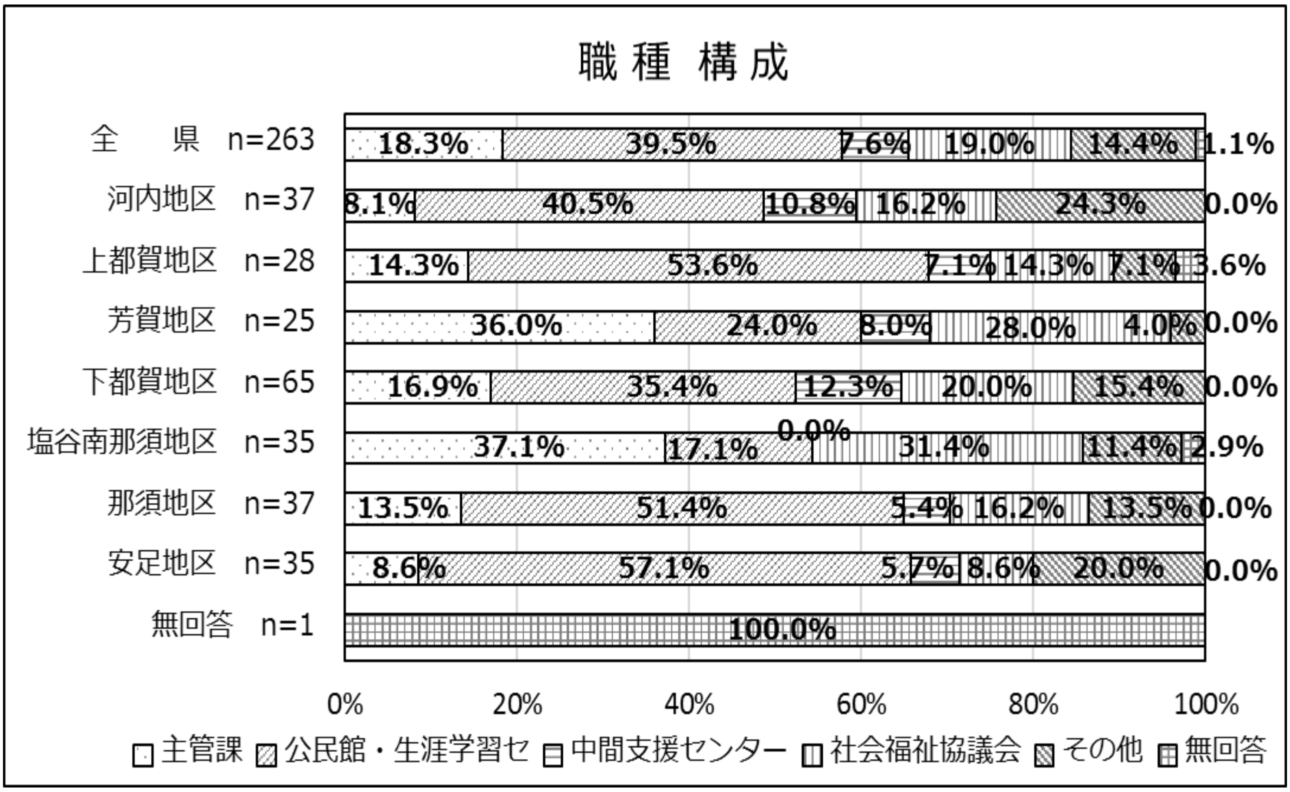
【表 86】

地　区　別			
河内地区	n=	37	14.1%
上都賀地区	n=	28	10.6%
芳賀地区	n=	25	9.5%
下都賀地区	n=	65	24.7%
塩谷南那須地区	n=	35	13.3%
那須地区	n=	37	14.1%
安足地区	n=	35	13.3%
無　回　答	n=	1	0.4%
合　　計	n=	263	100.0%

【表 87】

職　種　別			
生涯学習・社会教育主管課	n=	48	18.3%
公民館・生涯学習センター	n=	104	39.5%
中間支援センター	n=	20	7.6%
社会福祉協議会	n=	50	19.0%
その他	n=	38	14.4%
無回答	n=	3	1.1%
合　計	n=	263	100.0%

【図 73】



地区別にみると、下都賀地区が 24.7%と全体の約 1/4 を占める。また、芳賀地区が 9.5%、上都賀地区が 10.6%、と回答者数の割合がやや低かった。他の地区は 13～15%の範囲であった。

職種別にみると、公民館・生涯学習センターの回答者数の割合が最も高く、約 40%であった。また、「その他」は全て市町生涯学習・社会教育関係職員対象調査のものであり、図書館・博物館・美術館等の社会教育施設職員（指定管理者を含む）、コミュニティセンター職員、文化財課職員との回答であった。

(2)　地域課題の認識状況

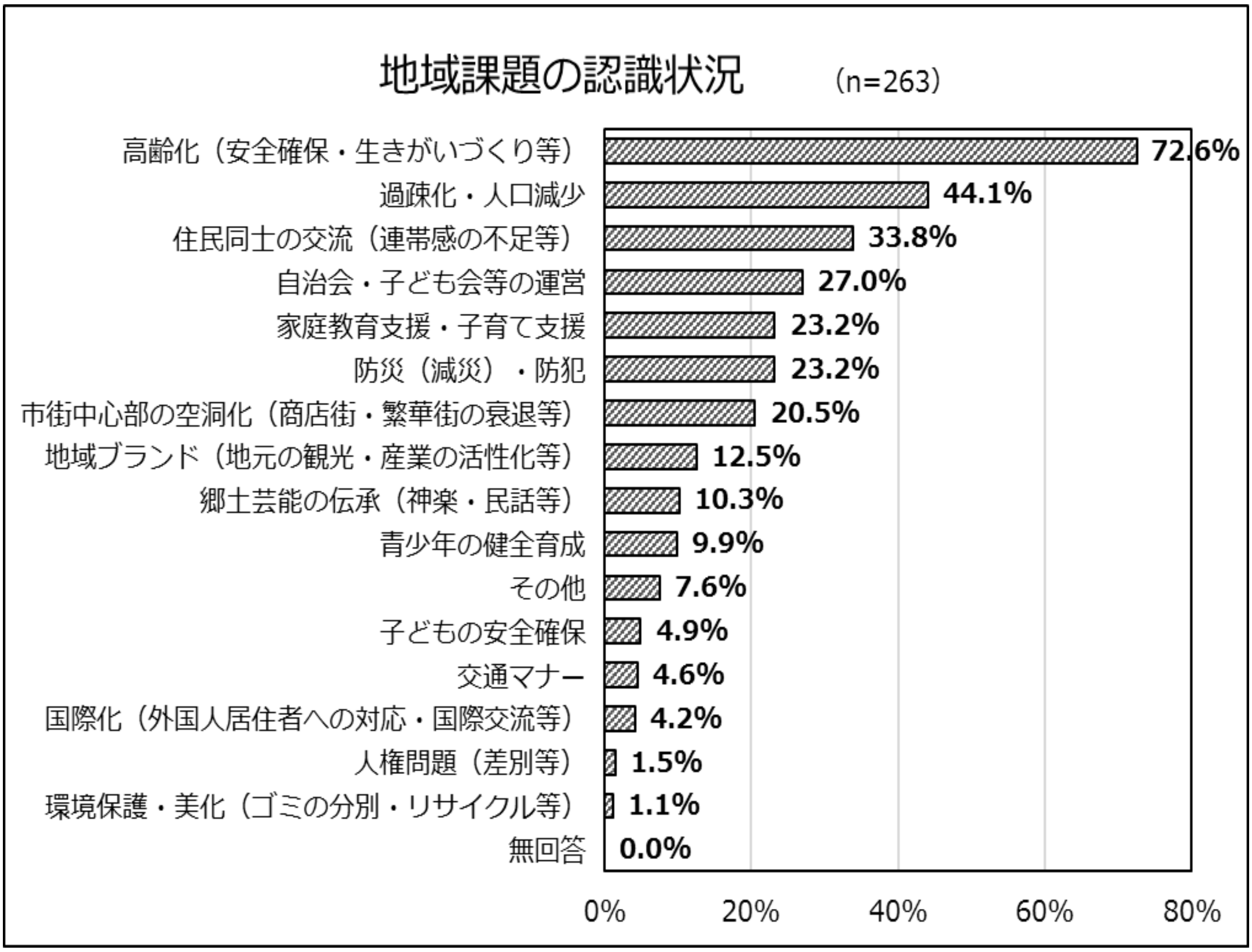
本調査における「地域」とは、回答者が勤務する市町と定義した。また、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問１　　あなたの勤務する地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題の認識状況

【図 74】



全県でみると、「高齢化」が 72.6%と回答割合が最も高く、他の項目と比較してその差異は顕著なものであった。次いで、「過疎化・人口減少」「住民同士の交流」となり、これらの 3 項目が 30%を超えた。

【表 88】

地域課題の認識状況 （各地区別）	全　県 n＝263	河内地区 n＝37	上都賀地区 n＝28	芳賀地区 n＝25	下都賀地区 n＝65	塩谷南那須地区 n＝35	那須地区 n＝37	安足地区 n＝35	無回答 n＝1
防災（減災）・防犯	23.2%	45.9%	39.3%	16.0%	13.8%	17.1%	18.9%	20.0%	0.0%
子どもの安全確保	4.9%	0.0%	0.0%	16.0%	4.6%	8.6%	5.4%	2.9%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	23.2%	32.4%	3.6%	16.0%	23.1%	34.3%	21.6%	25.7%	0.0%
青少年の健全育成	9.9%	18.9%	7.1%	4.0%	9.2%	2.9%	8.1%	17.1%	0.0%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	10.3%	5.4%	14.3%	4.0%	13.8%	11.4%	8.1%	11.4%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	27.0%	18.9%	7.1%	32.0%	32.3%	28.6%	51.4%	11.4%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	33.8%	29.7%	25.0%	44.0%	46.2%	17.1%	37.8%	25.7%	100.0%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	72.6%	70.3%	82.1%	60.0%	70.8%	74.3%	70.3%	80.0%	100.0%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	12.5%	13.5%	3.6%	16.0%	21.5%	17.1%	5.4%	2.9%	0.0%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	4.2%	5.4%	3.6%	4.0%	6.2%	0.0%	0.0%	8.6%	0.0%
過疎化・人口減少	44.1%	27.0%	78.6%	44.0%	23.1%	65.7%	40.5%	54.3%	100.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	1.1%	2.7%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%
人権問題（差別等）	1.5%	0.0%	0.0%	4.0%	1.5%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	20.5%	16.2%	21.4%	24.0%	15.4%	17.1%	24.3%	31.4%	0.0%
交通マナー	4.6%	8.1%	0.0%	12.0%	1.5%	2.9%	5.4%	5.7%	0.0%
その他	7.6%	13.5%	10.7%	4.0%	13.8%	0.0%	2.7%	2.9%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

地域課題の認識状況について、「高齢化」はどの地区でも60%以上となり、地区別により大きな差異は見られなかった。

しかし、それ以外は地区別に見ると顕著な差異が認められる結果となった。「過疎化・人口減少」では、上都賀地区で 78.6%、塩谷南那須地区で 65.7%と、他の地区と比べて回答割合が極めて高かったが、下都賀地区では 23.1%、河内地区では 27.0%と回答割合は低く、その差は 50 ポイント以上であった。また、「自治会・子ども会等の運営」についても、最も高い那須地区と最も低い上都賀地区では、40 ポイント以上の差があった。地域課題に関する学習機会を提供する立場にある職員は、それぞれの地域で直に地域課題に向き合っており、このため認識には地区間に大きな差異がみられた。

イ　職種別にみた課題認識状況

【表 89】

地域課題の認識状況（職種別）	全　県 n＝263	主管課 n＝48	公民館・生涯学習セ n＝104	中間支援センター n＝20	社会福祉協議会 n＝50	その他 n＝38	無回答 n＝3
防災（減災）・防犯	23.2%	6.3%	33.7%	30.0%	26.0%	10.5%	0.0%
子どもの安全確保	4.9%	6.3%	5.8%	5.0%	2.0%	5.3%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	23.2%	27.1%	19.2%	20.0%	10.0%	50.0%	0.0%
青少年の健全育成	9.9%	10.4%	9.6%	15.0%	6.0%	13.2%	0.0%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	10.3%	16.7%	9.6%	5.0%	4.0%	13.2%	33.3%
自治会・子ども会等の運営	27.0%	22.9%	36.5%	25.0%	32.0%	0.0%	33.3%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	33.8%	33.3%	21.2%	50.0%	62.0%	23.7%	33.3%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	72.6%	58.3%	72.1%	50.0%	84.0%	86.8%	100.0%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	12.5%	25.0%	6.7%	20.0%	4.0%	21.1%	0.0%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	4.2%	4.2%	3.8%	15.0%	0.0%	2.6%	33.3%
過疎化・人口減少	44.1%	50.0%	48.1%	20.0%	40.0%	42.1%	66.7%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	1.1%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人権問題（差別等）	1.5%	2.1%	0.0%	0.0%	2.0%	5.3%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	20.5%	25.0%	18.3%	25.0%	16.0%	26.3%	0.0%
交通マナー	4.6%	12.5%	4.8%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%
その他	7.6%	4.2%	8.7%	20.0%	8.0%	2.6%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

職種別にみると、立場の違いによる差異がみられる結果となった。

全県で最上位であった「高齢化」については、地区別と同様、いずれの職種も高い回答割合であった。

全県で２番目に回答割合が高かった「過疎化・人口減少」は、生涯学習・社会教育主管課や公民館・生涯学習センター、その他（P.127 で述べたとおり、全て市町生涯学習・社会教育関係職員対象）の行政職員の課題認識の割合が高かった。また、「住民同士の交流」では、社会福祉協議会、中間支援センター職員の課題認識の割合が高かった。

それぞれの職種の主とする業務によって、課題認識の差異が生じていることが分かる。

ウ　地域課題認識状況についての前回調査との比較

> この設問においては、過去の調査と同様の集計方法でないと比較ができないため、「総回答数からの割合」で集計を行っている。

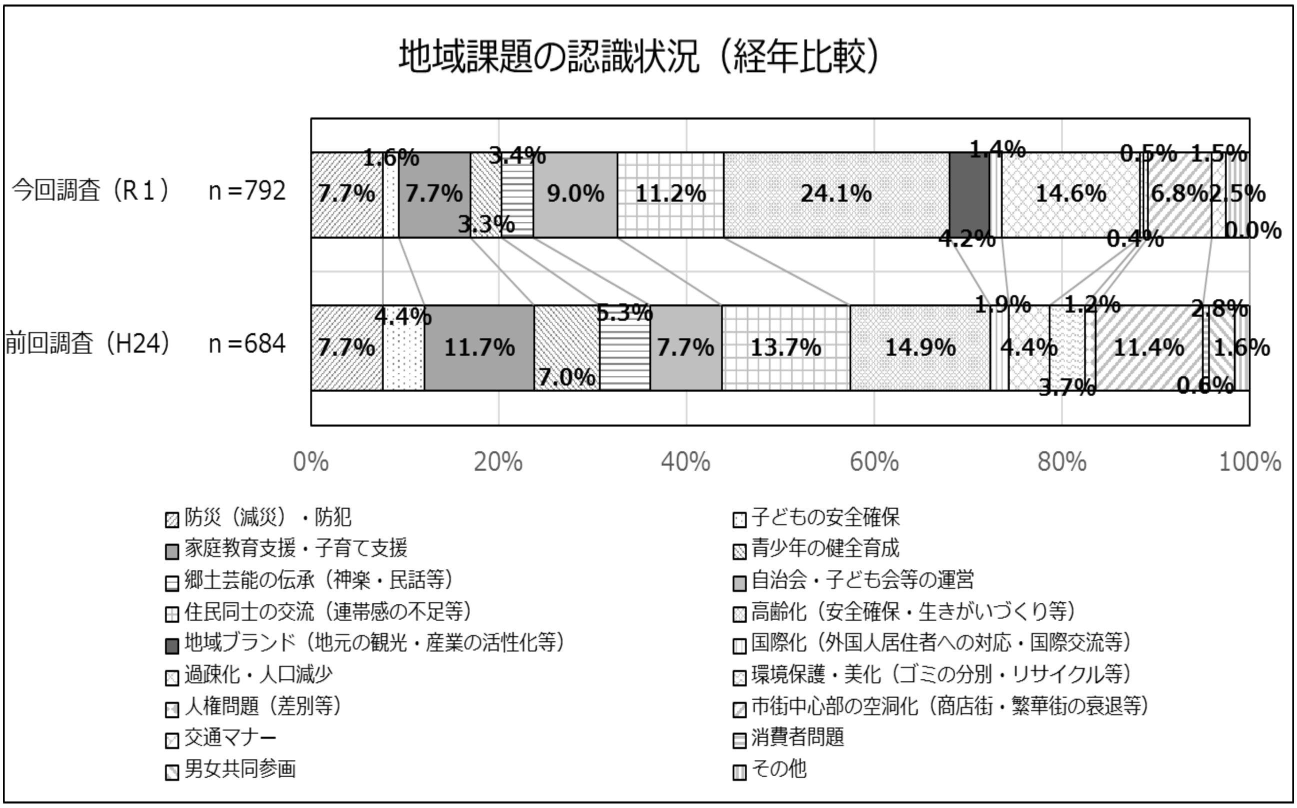
【表 90】

地域課題の認識状況（経年比較）	今回調査（R１）n＝792	前回調査（H24）n＝684	今回調査と前回調査の増減
防災（減災）・防犯	7.7%	7.7%	***0.0%***
子どもの安全確保	1.6%	4.4%	***-2.8%***
家庭教育支援・子育て支援	7.7%	11.7%	***-4.0%***
青少年の健全育成	3.3%	7.0%	***-3.7%***
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	3.4%	5.3%	***-1.9%***
自治会・子ども会等の運営	9.0%	7.7%	***1.3%***
住民同士の交流（連帯感の不足等）	11.2%	13.7%	***-2.5%***
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	24.1%	14.9%	***9.2%***
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	4.2%		***4.2%***
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	1.4%	1.9%	***-0.5%***
過疎化・人口減少	14.6%	4.4%	***10.2%***
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	0.4%	3.7%	***-3.3%***
人権問題（差別等）	0.5%	1.2%	***-0.7%***
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	6.8%	11.4%	***-4.6%***
交通マナー	1.5%		***1.5%***
消費者問題		0.6%	
男女共同参画		2.8%	
その他	2.5%	1.6%	***0.9%***
無回答	0.0%		***0.0%***

前回調査では、市町生涯学習・社会教育関係職員対象のみであり、所属別での割合は生涯学習・社会教育主管課職員が 66.4%を占めていた。今回調査で同様の対象を抽出すると25.0%に過ぎない。前回調査との比較は、学習機会を提供する側の傾向を把握するための目的であることから、今回調査は「市町生涯学習・社会教育関係職員対象調査」と「社会福祉協議会・中間支援センター職員対象調査」の全回答を対象とし、比較、分析を行った。

また、今回の調査では、「地域ブランド」「交通マナー」という選択肢を新たに設け、「消費者問題」「男女共同参画」を削除した。選択肢の数は前回調査と同数にした。

【図 75】



「過疎化・人口減少」「高齢化」の回答割合は大きく増加し、それぞれ 10 ポイント前後の伸び幅となった。「住民同士の交流」も、前回調査より回答割合がやや減少したものの、依然高い回答割合となっている。前回調査にもある項目で回答割合が増加している「自治会・子ども会等の運営」も含めて、これら上位４項目は地域内における人のつながりや地域自治の減衰に大きな影響を与える課題であることが共通点としてみえてくる。

一方で、「市街中心部の空洞化」「家庭教育支援」「青少年健全育成」等については、前回調査から回答割合が減少している。

《参考：問１「その他」の主な回答記述》

○市民自治に対する意識の弱さ	○若者が集える場の不足
○生きづらさを感じる若者の居場所や就職支援	○青少年の地域参加
○福祉に対する意識・関心	○バリアフリー不足
○勤労世代への学習機会の提供	○地域活動を担う人材の育成
○自治会への未加入者増加	○有害鳥獣対策
○公共交通対策	○NPO の数が少ないこと
○耕作放棄地対策	○引きこもり

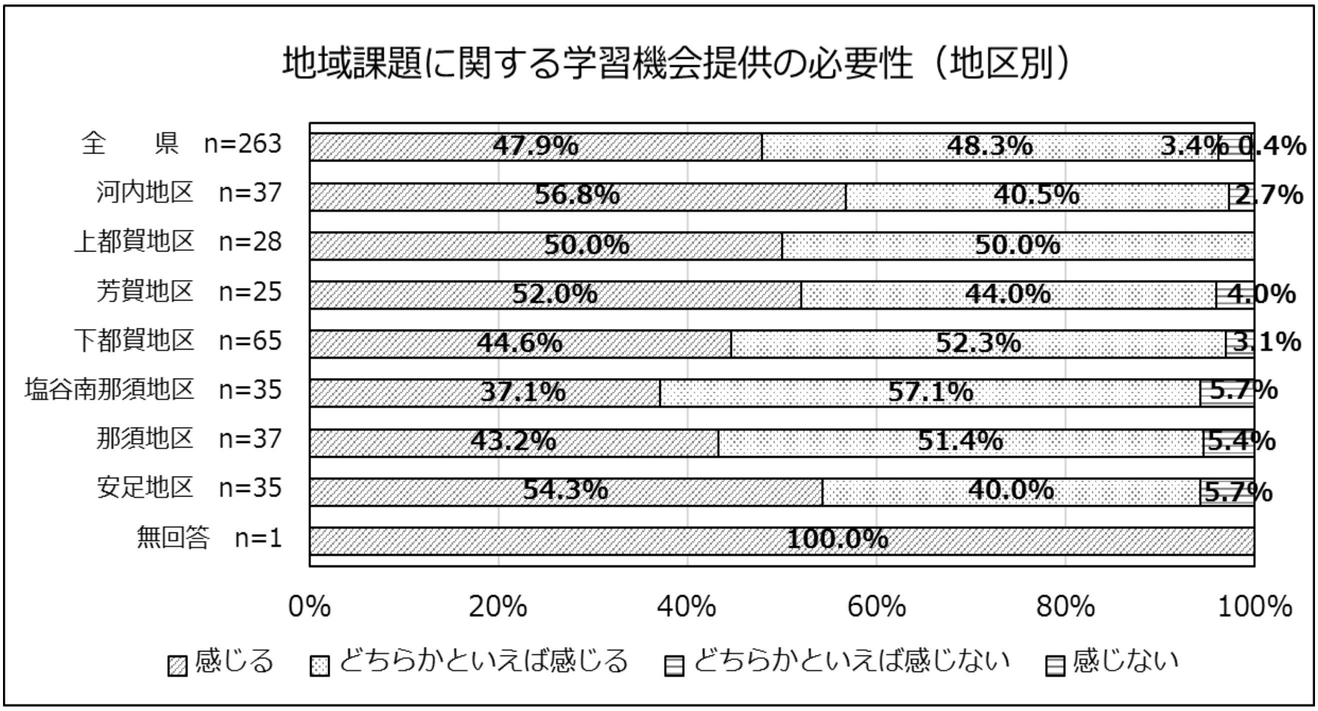
(3)　地域課題に関する学習機会提供の必要性

問２　あなたの勤務する市町（機関）では、地域住民に対して、地域課題に関する学習の機会を提供する必要性を感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習機会提供の必要性

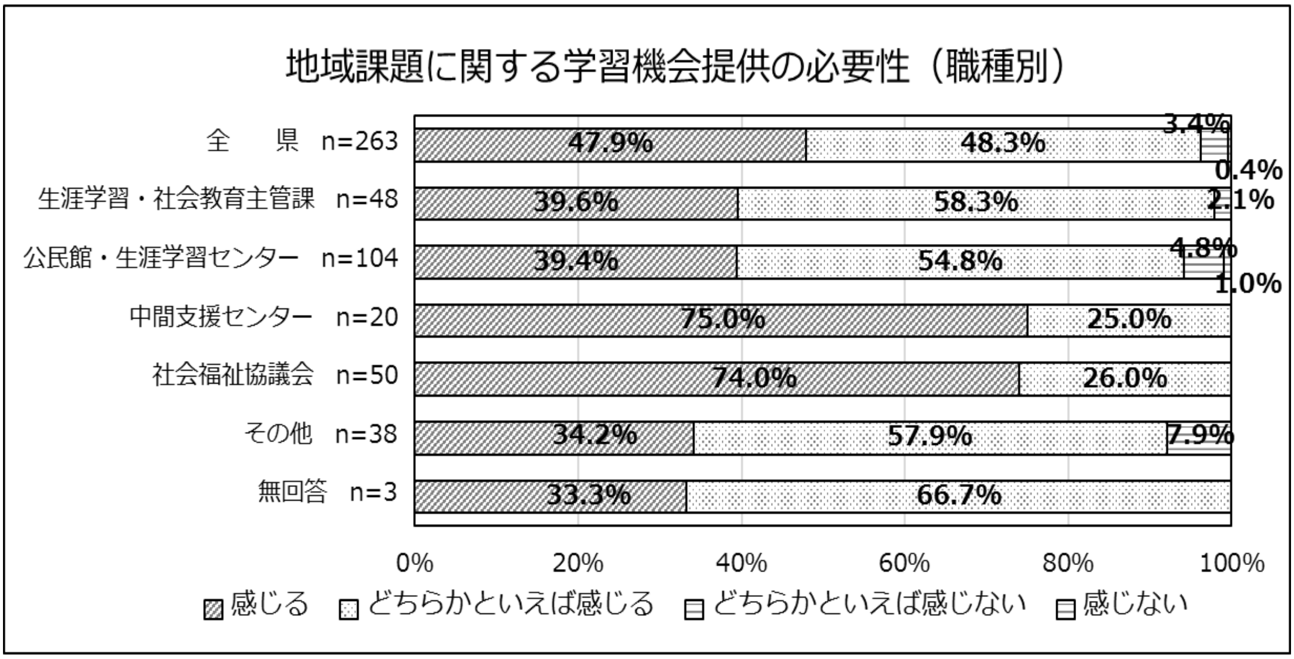
【図 76】



全県でみると、学習の機会を提供する必要性を「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計は、95%を超えて極めて高い結果となった。その中で、「感じる」と回答した割合には、地区別でやや開きがみられた。

イ　職種別にみた地域課題に関する学習機会提供の必要性

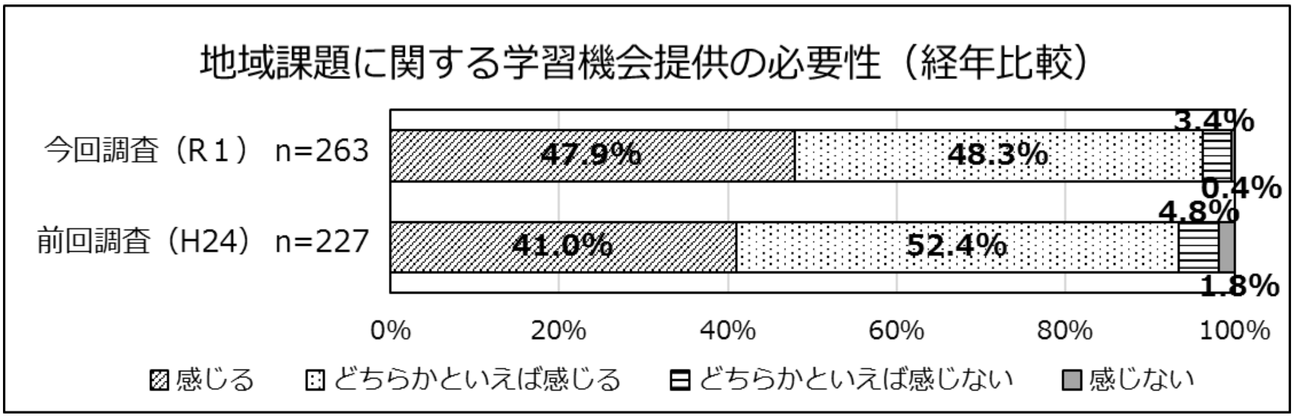
【図 77】



職種別にみると、中間支援センター、社会福祉協議会では、「感じる」と回答した割合が高く、「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計はともに 100%であることから、他と比べてより強く地域課題に関する学習機会提供の必要性を感じているといえる。

ウ　学習機会提供の必要性についての前回調査との比較

【図 78】



前回調査と比較して、「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計が 2.8 ポイント増加しているだけでなく、「感じる」と回答した割合も 6.9 ポイント増加している。したがって、前回調査よりも地域課題に関する学習機会提供の必要性を感じていることが分かる。

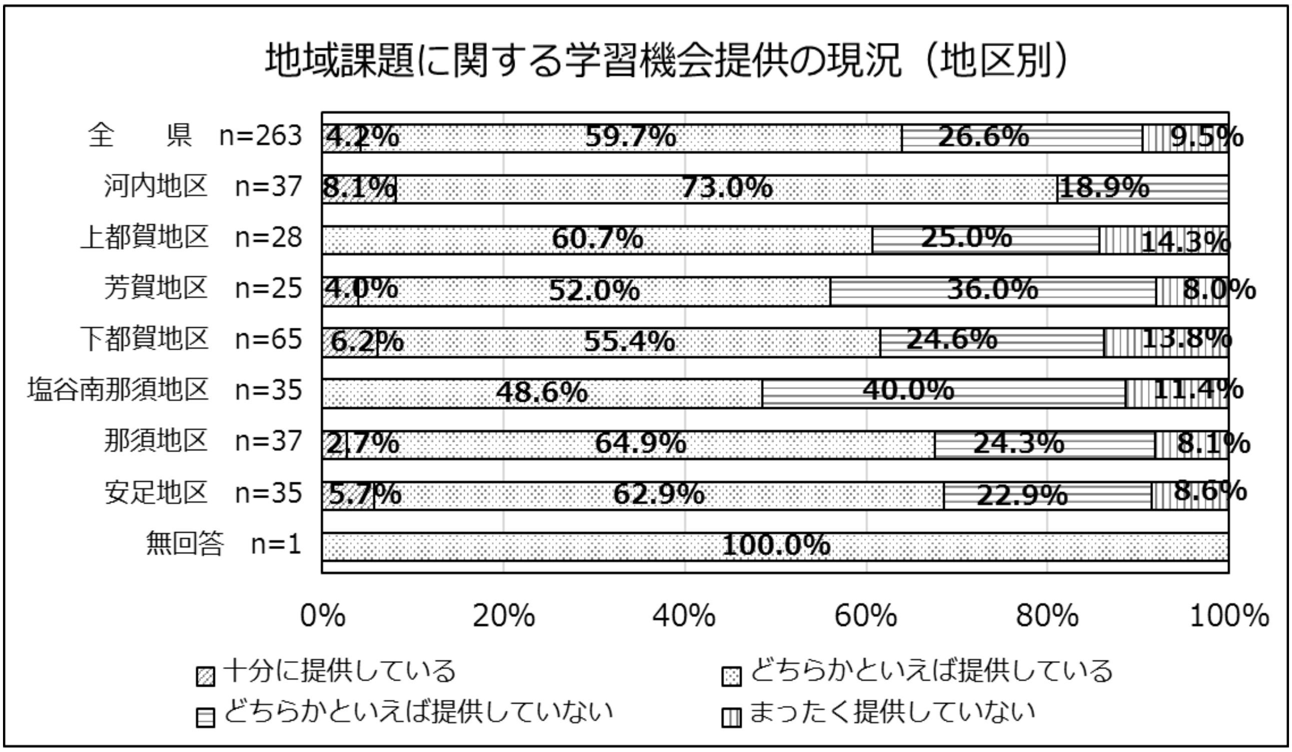
(4) 地域課題に関する学習機会提供の現況

問３　あなたの勤務する市町（機関）は、地域住民に対して、地域課題に関する学習の機会を十分に提供していると感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習機会提供の現況

【図 79】

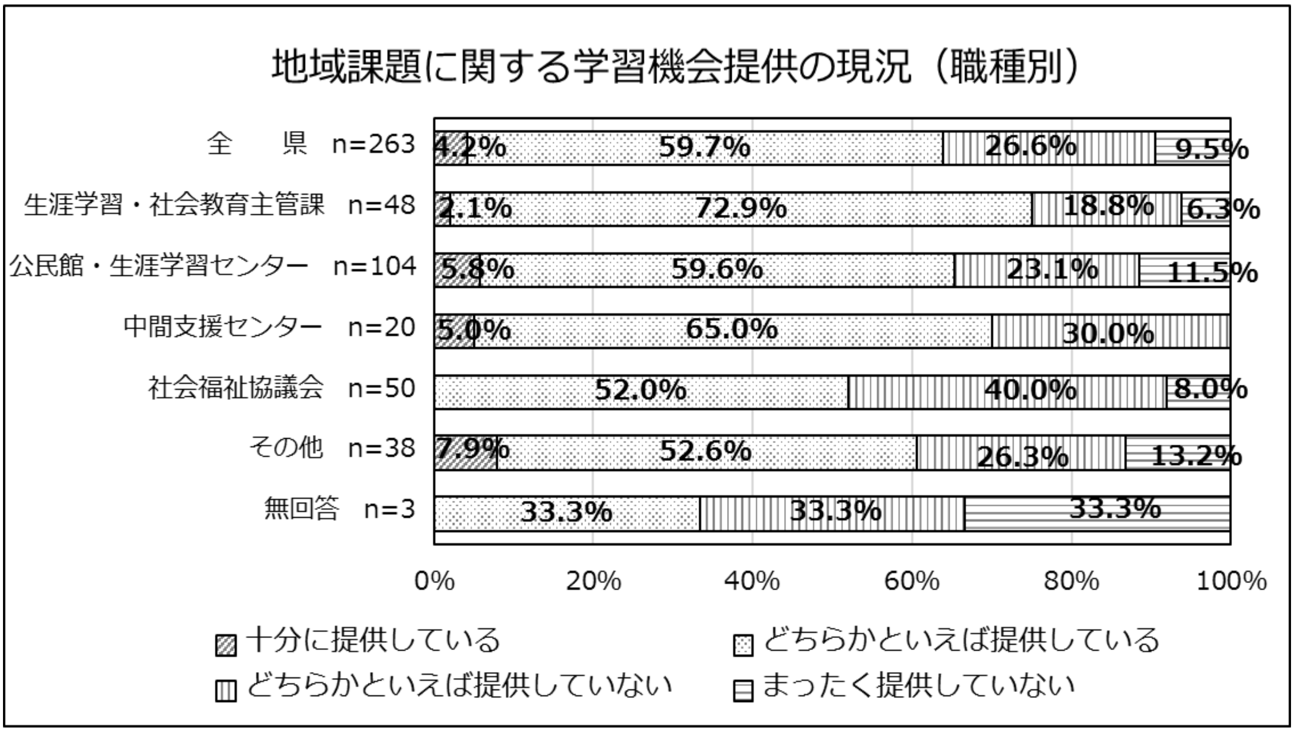


全県でみると、地域課題に関する学習機会を「十分に提供している」と回答した割合は、4.2%とそれほど高くないが、「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」の回答割合を合計すると63.9%であった。しかし、最も高い地区と最も低い地区では30ポイント以上の開きがあった。

地域課題について、ある一定以上の学習機会提供を行っていると認識していることが分かるが、地区別にみると「十分に提供している」という回答が皆無であった地区が２つあるなど、その認識状況にはややばらつきがあった。

イ　職種別にみた地域課題に関する学習機会提供の現況

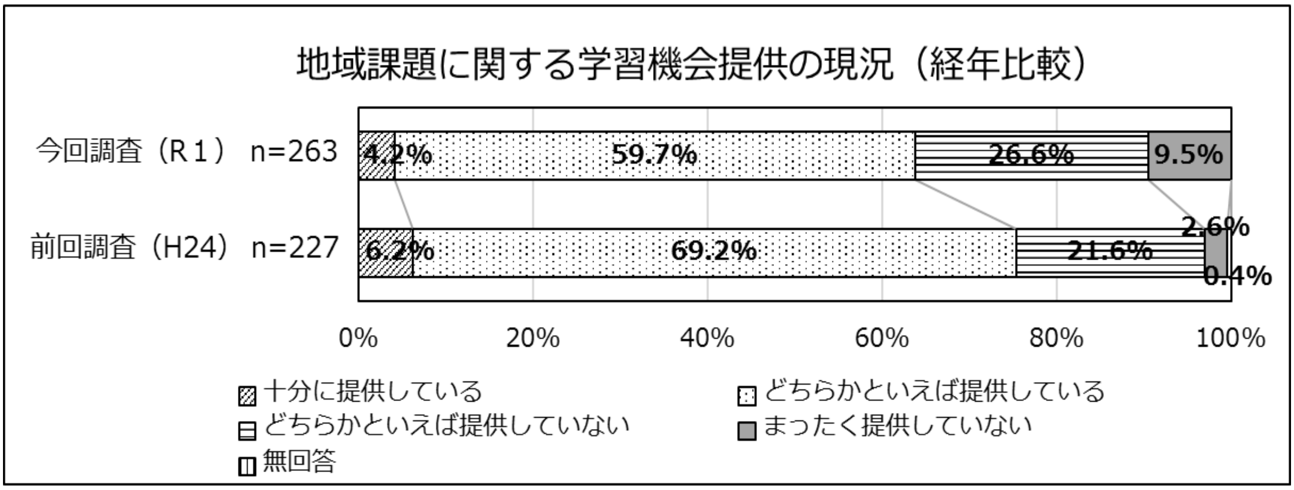
【図 80】



社会福祉協議会では、「十分に提供している」「どちらかといえば提供している」の回答割合の合計が 52.0%と、他と比べるとやや低い。

ウ　地域課題に関する学習機会提供の現況についての前回調査との比較

【図 81】



前回調査と比較すると、「十分に提供している」が 2.0 ポイント、「どちらかといえば提供している」が 9.5 ポイント減少した。合計で 11.5 ポイント減少していることになる。前回調査よりも地域課題に関する学習機会提供の必要性を感じている（P.134 参照）にも関わらず、学習機会提供の現況が改善傾向でないことは着目すべき点である。

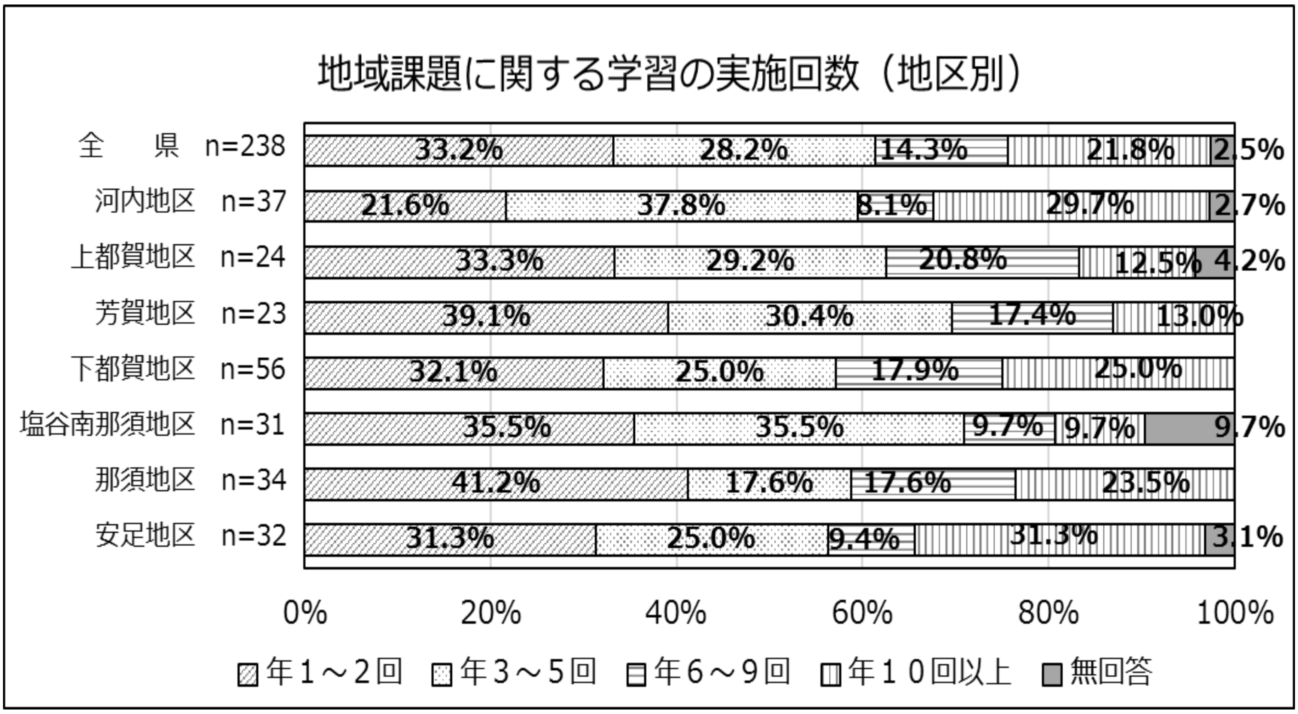
(5)　地域課題に関する学習の実施回数

問４　　問３で「１～３」と回答された方にうかがいます。（あなたの機関では、）地域課題に関する学習は、どの程度（回数で）実施していますか（生涯学習・社会教育主管課職員は、主管課が運営の主体となっている学習についてお答えください）。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。（※１つの講座を連続３回で実施する場合は、３回と計上してください。）

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習の実施回数

【図 82】

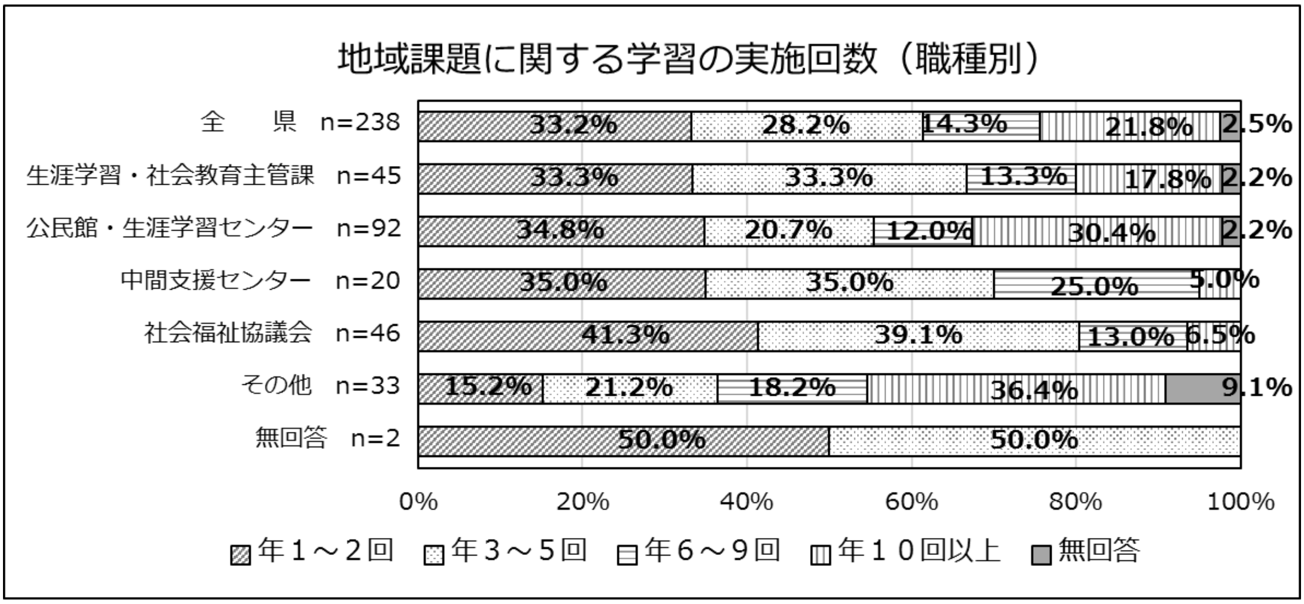


地域課題の解決に向けた学習を提供していると回答した 238 名に、その提供状況ついて質問した。

全県でみると、「年１～2 回」回答割合が最も高く、河内地区を除く 6 地区で最上位となっている。次いで「年３～5 回」「年 10 回以上」と続く。河内地区では「年３～５回」の回答割合が高く、「年 10 回以上」の回答割合も高い。塩谷南那須地区では「年１～2 回」と「年３～５回」の回答割合が同じで、合わせると 70%を超える。安足地区では「年１～2 回」と「年 10 回以上」の回答割合が同じで、提供回数の多い・少ないがはっきりしている結果となった。

イ　職種別にみた学習の実施回数

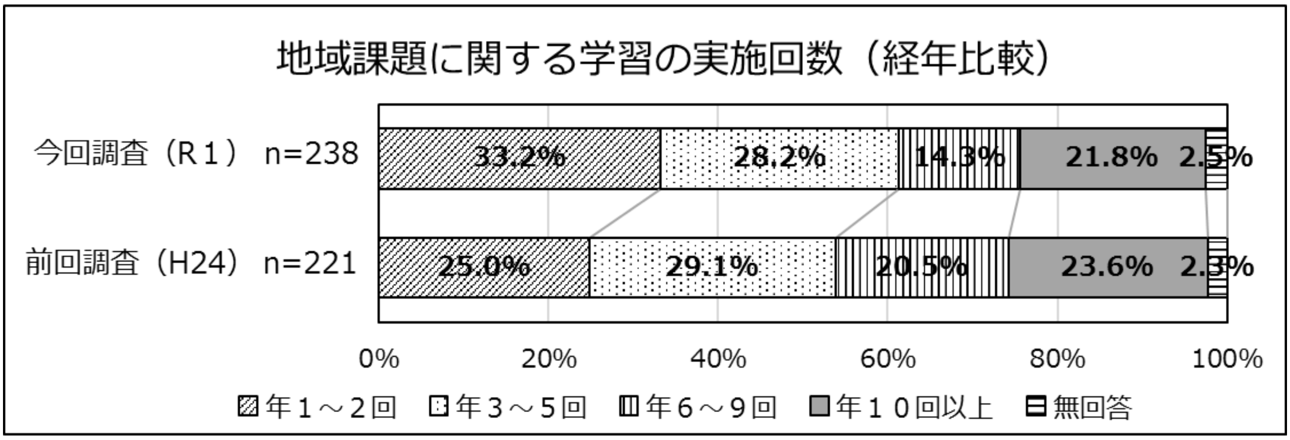
【図 83】



公民館・生涯学習センターやその他（図書館・博物館等が多い）で、「年 10 回以上」の回答が 30%以上と割合が高かった。また、社会福祉協議会では、「年１～2 回」「年３～５回」の合計で 80%を超えた。

ウ　地域課題に関する学習の実施回数についての前回調査との比較

【図 84】



前回調査より、「年１～２回」が 8.2 ポイント増加し、「年３～5 回」「年６～９回」「年 10 回以上」はそれぞれ 0.9～6.2 ポイント減少した。したがって、地域課題に関する学習の実施回数については、減少傾向にあることがいえる。

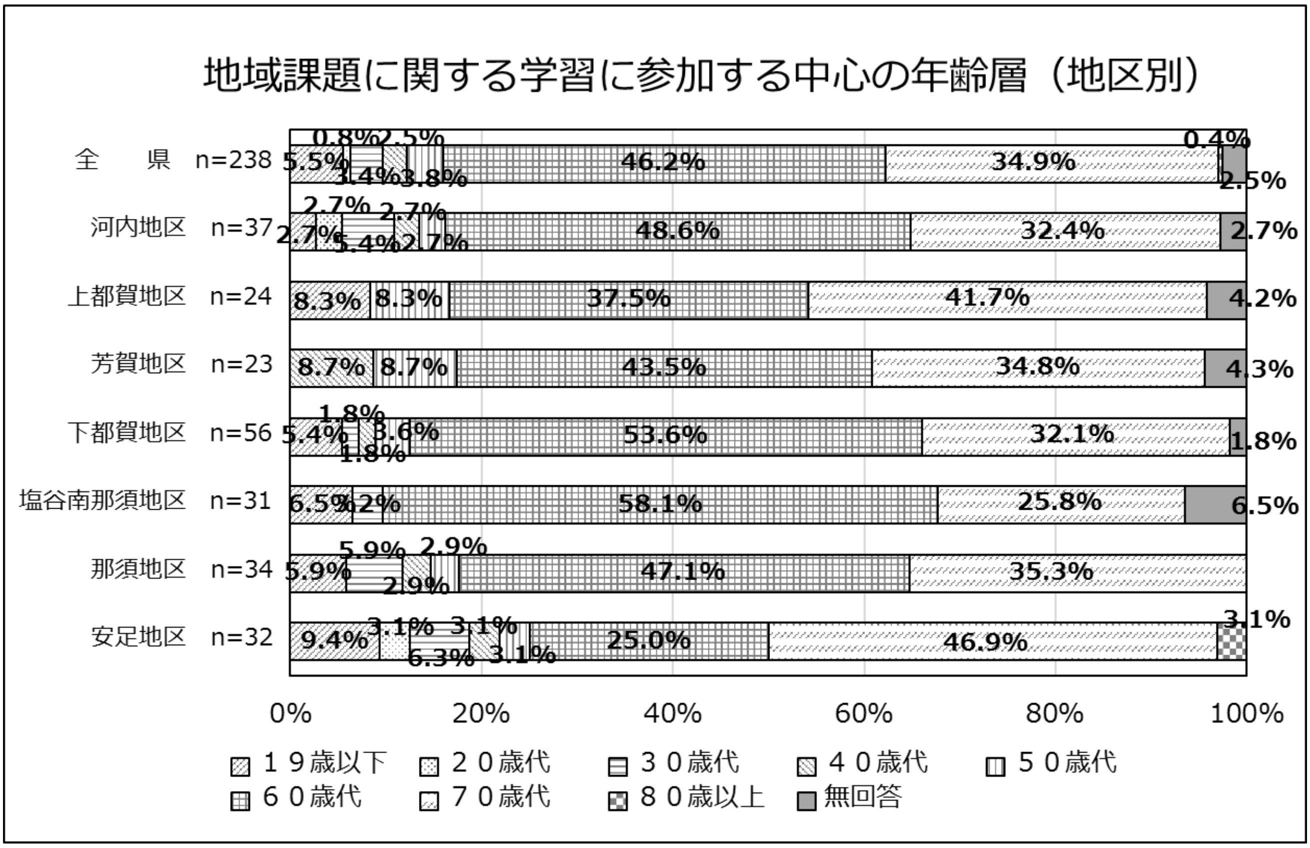
(6) 地域課題に関する学習に参加する年齢層

問５　問３で「１～３」と回答された方にうかがいます。（あなたの機関では、）問４に該当する地域課題に関する学習には、どのような年齢層の方が参加されますか。中心となる年代について、最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習に参加する年齢層

【図 85】

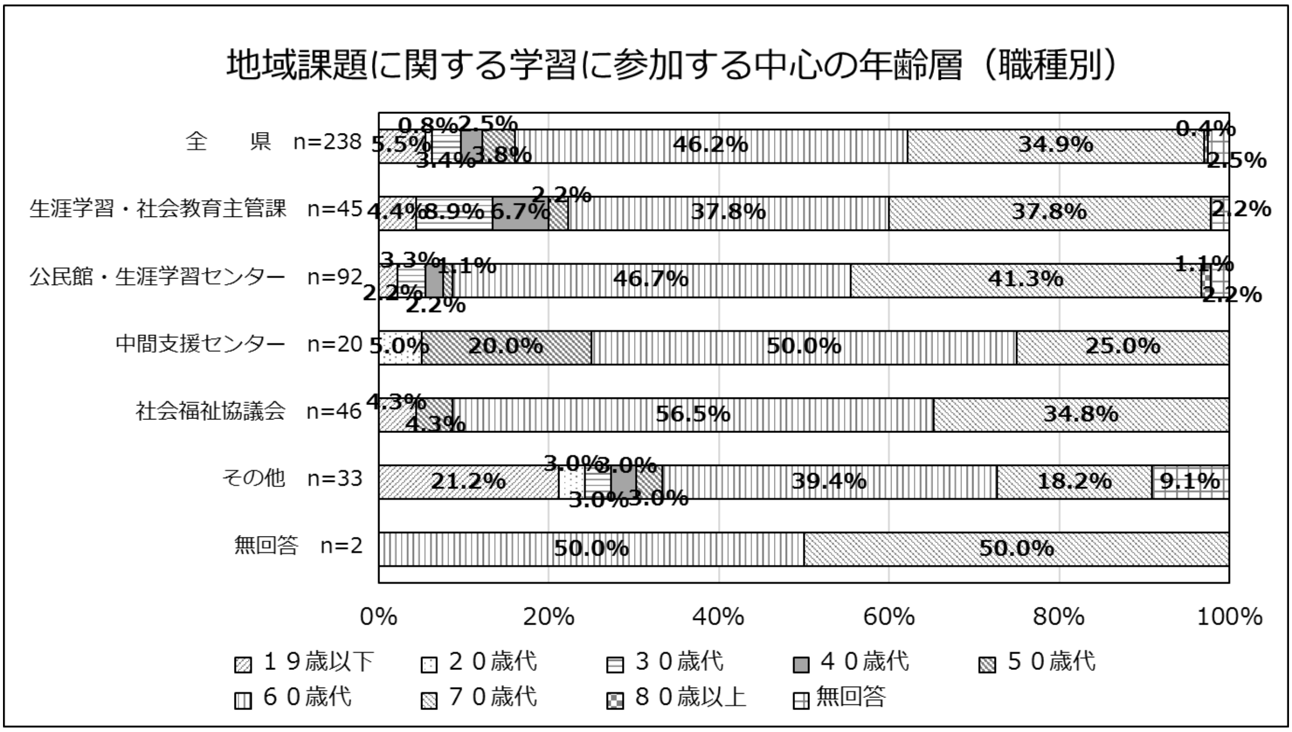


全県でみると、60 歳以上の回答割合が極めて高く、80%を超える結果（「60 歳代」「70 歳代」「80 歳以上」の回答割合の合計）となった。その中で、上都賀地区、安足地区では「70 歳代」が 40%を超えて最上位、それ以外の 5 地区では「60 歳代」がそれぞれ 40%を超えて最上位となった。

20～50 歳代については、それぞれの回答割合が 5%未満で、全ての年代に回答があったのは河内地区と安足地区の２地区のみであった。

イ　職種別にみた学習に参加する中心の年齢層

【図 86】

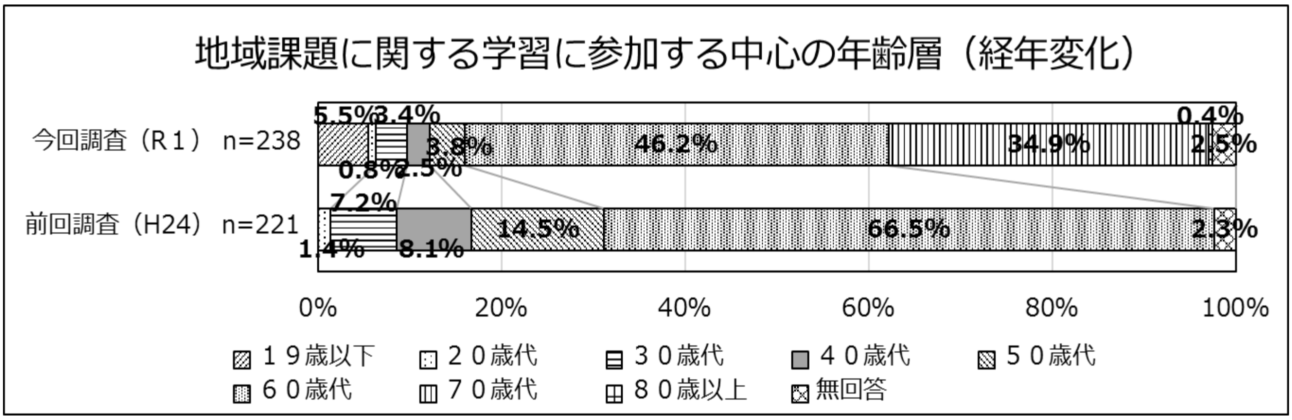


全ての職種で、60 歳以上の回答割合が極めて高かった。特に、公民館・生涯学習センターや社会福祉協議会ではその傾向が顕著となり、ともに 85%を超える結果となった。

また、生涯学習・社会教育主管課では、比較的「30 歳代」「40 歳代」の参加者も多くなっている。その他で「19 歳以下」の割合が高かった。

ウ　学習に参加する年齢層についての前回調査との比較

【図 87】



前回調査では、「19 歳以下」「70 歳代」「80 歳以上」の選択肢がなく、「20 歳代」から「60 歳以上」であった。したがって、前回調査の「60 歳以上」と今回調査の「60 歳代」「70 歳代」「80 歳以上」の合計が同義となる。その 60 歳以上の回答割合をみると、前回調査の 66.5%から 15 ポイント増加して 81.5%となった。団塊の世代がシニア層の中心となり、地域課題に関する学習の参加者の中心は、ますます高齢層にシフトする傾向となっている。

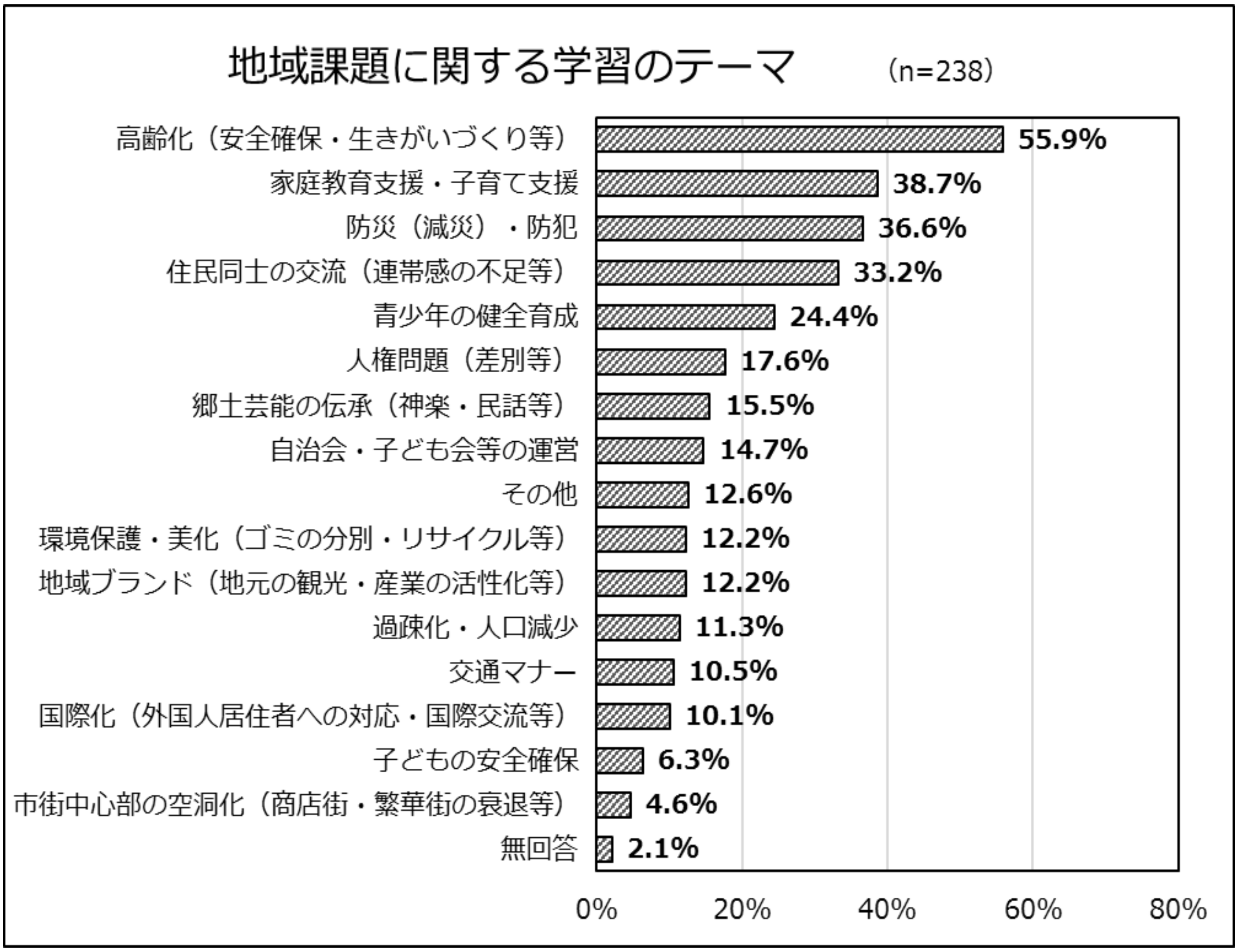
(7)　地域課題に関する学習で取り上げているテーマ

問６　　問３で「１～３」と回答された方にうかがいます。地域課題に関する学習として、どのようなテーマ（内容）を取りあげていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習で取り上げられているテーマ

【図 88】



全県でみると、「高齢化」の回答割合が最も高く、半数を超えた。次いで、「家庭教育支援・子育て支援」「防災・防犯」「住民同士の交流」が続き、これらの４項目が 30%を超えた。

地域課題の認識状況（図 74 参照）と比較すると、「高齢化」「住民同士の交流」など一部似た傾向を示すものもある。しかし、「過疎化・人口減少」「市街中心部の空洞化」などにはそのような関係性がみえず、総じて相関関係はあまりみられない。

【表 91】

地域課題に関する学習のテーマ（地区別）	全　県 n=238	河内地区 n=37	上都賀地区 n=24	芳賀地区 n=23	下都賀地区 n=56	塩谷南那須地区 n=31	那須地区 n=34	安足地区 n=32
防災（減災）・防犯	36.6%	35.1%	45.8%	34.8%	32.1%	41.9%	32.4%	40.6%
子どもの安全確保	6.3%	5.4%	4.2%	13.0%	7.1%	3.2%	5.9%	6.3%
家庭教育支援・子育て支援	38.7%	54.1%	25.0%	26.1%	37.5%	29.0%	44.1%	46.9%
青少年の健全育成	24.4%	21.6%	16.7%	39.1%	32.1%	6.5%	17.6%	34.4%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	15.5%	5.4%	25.0%	8.7%	14.3%	16.1%	14.7%	28.1%
自治会・子ども会等の運営	14.7%	8.1%	25.0%	21.7%	16.1%	12.9%	17.6%	6.3%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	33.2%	29.7%	29.2%	43.5%	32.1%	29.0%	44.1%	28.1%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	55.9%	59.5%	33.3%	47.8%	60.7%	54.8%	55.9%	65.6%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	12.2%	13.5%	4.2%	8.7%	12.5%	3.2%	11.8%	28.1%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	10.1%	10.8%	12.5%	0.0%	10.7%	6.5%	5.9%	21.9%
過疎化・人口減少	11.3%	16.2%	16.7%	4.3%	5.4%	19.4%	14.7%	6.3%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	12.2%	8.1%	8.3%	30.4%	8.9%	12.9%	2.9%	21.9%
人権問題（差別等）	17.6%	16.2%	8.3%	13.0%	16.1%	6.5%	5.9%	56.3%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	4.6%	2.7%	8.3%	4.3%	1.8%	6.5%	2.9%	9.4%
交通マナー	10.5%	5.4%	12.5%	26.1%	1.8%	16.1%	11.8%	12.5%
その他	12.6%	21.6%	4.2%	21.7%	12.5%	6.5%	17.6%	3.1%
無回答	2.1%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%	3.1%

項目別にみて、回答割合の最も高い地区と低い地区で 20 ポイント以上の開きがみられるものは、全 15 項目のうち約半数の 7 項目もある（「その他」「無回答」を除く）。取り上げられているテーマに、地域によって大きな差異がみられる。

イ　職種別にみた地域課題に関する学習で取り上げられているテーマ

【表 92】

地域課題に関する学習のテーマ（職種別）	全　県 n=238	主管課 n=45	公民館・生涯学習セ n=92	中間支援センター n=20	社会福祉協議会 n=46	その他 n=33	無回答 n=2
防災（減災）・防犯	36.6%	17.8%	44.6%	25.0%	65.2%	9.1%	0.0%
子どもの安全確保	6.3%	8.9%	6.5%	5.0%	6.5%	3.0%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	38.7%	51.1%	44.6%	15.0%	10.9%	60.6%	0.0%
青少年の健全育成	24.4%	33.3%	22.8%	25.0%	8.7%	39.4%	0.0%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	15.5%	11.1%	22.8%	5.0%	0.0%	30.3%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	14.7%	13.3%	18.5%	10.0%	10.9%	12.1%	50.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	33.2%	22.2%	23.9%	60.0%	63.0%	18.2%	0.0%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	55.9%	31.1%	62.0%	60.0%	73.9%	45.5%	50.0%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	12.2%	15.6%	9.8%	20.0%	0.0%	27.3%	0.0%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	10.1%	6.7%	9.8%	20.0%	0.0%	24.2%	0.0%
過疎化・人口減少	11.3%	8.9%	7.6%	15.0%	19.6%	12.1%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	12.2%	15.6%	7.6%	40.0%	0.0%	21.2%	0.0%
人権問題（差別等）	17.6%	26.7%	21.7%	5.0%	6.5%	18.2%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	4.6%	4.4%	2.2%	15.0%	0.0%	12.1%	0.0%
交通マナー	10.5%	15.6%	12.0%	5.0%	2.2%	15.2%	0.0%
その他	12.6%	11.1%	9.8%	30.0%	21.7%	0.0%	0.0%
無回答	2.1%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	12.1%	0.0%

項目別にみて、回答割合の最も高い職種と最も低い職種で 20 ポイント以上開きがみられるものは、全 15 項目のうち 2/3 の 10 項目もあった（「その他」「無回答」を除く）。取り上げられているテーマについて、職種によって大きな差異がみられる。

特に、公民館・生涯学習センター、社会福祉協議会では、「防災・防犯」の回答割合が高かった。また、生涯学習・社会教育主管課、その他（図書館・博物館・美術館等の社会教育施設職員〈指定管理者を含む〉、コミュニティセンター職員、文化財課職員等）では、「家庭教育支援・子育て支援」の回答割合が高かった。そして、中間支援センター、社会福祉協議会では、「住民同士の交流」の回答割合が高かった。

ウ　地域課題に関する学習で取り上げられているテーマについての前回調査との比較

【表 93】

地域課題に関する学習のテーマ（経年比較）	今回調査（R１）n=238	前回調査（H24）n=221	今回調査と前回調査の増減
防災（減災）・防犯	36.6%	33.5%	***3.1%***
子どもの安全確保	6.3%	18.1%	***-11.8%***
家庭教育支援・子育て支援	38.7%	62.4%	***-23.7%***
青少年の健全育成	24.4%	49.8%	***-25.4%***
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	15.5%	22.6%	***-7.1%***
自治会・子ども会等の運営	14.7%	26.2%	***-11.5%***
住民同士の交流（連帯感の不足等）	33.2%	34.8%	***-1.6%***
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	55.9%	44.3%	***11.6%***
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	12.2%		
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	10.1%	8.1%	***2.0%***
過疎化・人口減少	11.3%	3.2%	***8.1%***
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	12.2%	22.6%	***-10.4%***
人権問題（差別等）	17.6%	31.2%	***-13.6%***
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	4.6%	9.0%	***-4.4%***
交通マナー	10.5%		
消費者問題		13.6%	
男女共同参画		26.2%	
その他	12.6%	2.7%	***9.9%***
無回答	2.1%		***2.1%***

「(2)　地域課題の認識」と同様に、「地域ブランド」「交通マナー」という選択肢を新たに設け、「消費者問題」「男女共同参画」を削除した。選択肢数は前回調査と同数にして調査を実施した。

全県で最も回答割合の高かった「高齢化」は、前回調査から 11.6 ポイントと大幅な増加となった。次いで、「過疎化・人口減少」で 8.1 ポイントの増加であった。これらの 2 項目は、地域課題の認識における経年比較（表 90 参照）においても増加幅の大きい 2 項目であり、時代の流れに合ったテーマを学習機会として提供している様子がうかがえる。また、「防災・防犯」など時代の流れに関係なく必要な学習を、確実に提供している状況も分かる。

《参考：問６「その他」の主な回答記述》

◎若者の社会貢献活動への参加促進
◎住民同士の見守り
◎地域の歴史・文化
◎終活に関すること
○学校教育支援
○障害者福祉支援
○ボランティアや市民活動の支援
○情報化社会
○地域課題を主体的に考える市民力向上
○健康
○認知症サポーター養成

エ　実際に取り組まれている事業

問７　　問３で「１～３」と回答された方にうかがいます。取り組まれた事業について、具体的にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

《参考：問７の主な回答記述》

○地域活動促進講座（アクティブシニア講座）
○市民ボランティアによる自主企画講座の支援
○「地域元気プログラム」を活用した講座
○仲間と学ぶ防災備蓄収納講座
○災害福祉救援ボランティア養成講座
○支え合い地域づくり情報交換会
○自助力 UP 講座
○地域の居場所づくりについての講座
○バルーンアート講座
○高齢者の生活支援について学ぶセミナー
○地区ごとの資源マップの作成
○実際に地域での手助けが必要な方の事例検討
○人権問題（小学生を対象とした福祉教育）
○すくすく子育て応援講座
○生活習慣病予防ヨガ講座
○青少年健全育成に関する標語の募集
○音訳・朗読ボランティア育成講座
○公民館対抗スポーツ大会の開催
○日本語指導ボランティア養成講座
○外国人への偏見をなくすための人権講座
○協働のまちづくり講座
○地元循環バスを使っての地域ツアー
○ボランティア同士の相互交流事業
○いきいき百歳体操
○防災タウンウォッチング
○互助意識を高める講座
○協働による環境保全取組の紹介
○高校生向けのボランティアスクール
○初心者向「word・excel」等の講座
○地域包括ケアに関する勉強会
○多世代交流事業の実施
○介護保険制度について学習会
○子ども向けの読み聞かせ会
○歴史や文化の講座
○国際理解教室
○散策マップの作成
○古典文学講座
○予防医学講座
○日本語教室
○ドイツの絵本のよみきかせ

市民活動団体・NPO 法人・集落営農法人・警察・消防
学校・コミュニティ推進協議会・人材かがやきセンター
自治会・育成会・子育て支援チーム・福祉関係団体
民生委員・日本赤十字社栃木県支部・首長部局
等の専門機関と連携している様子もうかがえた。

《参考：問７の主な回答記述～続き》
○まちの縁側講座（住民交流減少について学び、新たな地域交流の場を開発、発見する講座）
○地域の子どもたちに郷土愛を育む取組
○「子どもを支える地域人の見つけ方」ワークショップ
○地域コミュニティの課題、ビジョン、企画立案ワークショップ
○ボランティア登録団体や個人ボランティアの課題解決のためのセミナー
○地域活動継続、発展のための求心力となる「共感」を高める学習
○地域円卓カフェ♪（地域福祉・若者の社会参加・交通・防災・ボランティア）
○地区懇談会の開催（参加者同士で地域の課題等を挙げ、解決策等を話し合った）
○地域の歴史や女子教育の変遷を学び、今後の女性活躍の社会について考える講座
○地域で高齢者を支えるためのボランティア講座
○高齢者のための防犯（振り込め詐欺対策）講座
○認知症予防や、認知症の方との関わり方等の紙芝居の実演
○子どもの安全確保（こども１１０番の家プレートの取組、危険箇所マップづくりなど）
○ワークライフバランスや時間管理術についての講座
○地域学習圏会議（自治体で開催する講座について、どのような講座が必要か話し合ってもらう）
○自治体で実施している男女共同参画に関する事業についての情報提供
○若者の参加を促進するためのパーソナルカラーやロースイーツ講座
○地元の特産品や古くから伝わる生産物を利用した新製品開発
○「学校を支える地域人」をテーマとした学校対抗自慢パネルディスカッション
○夏休みワクワク体験教室（千社札作り、ゆば作り、飛行機の仕組み、科学実験等）
○小学校高学年を対象とした外国人との交流を主体とする講座

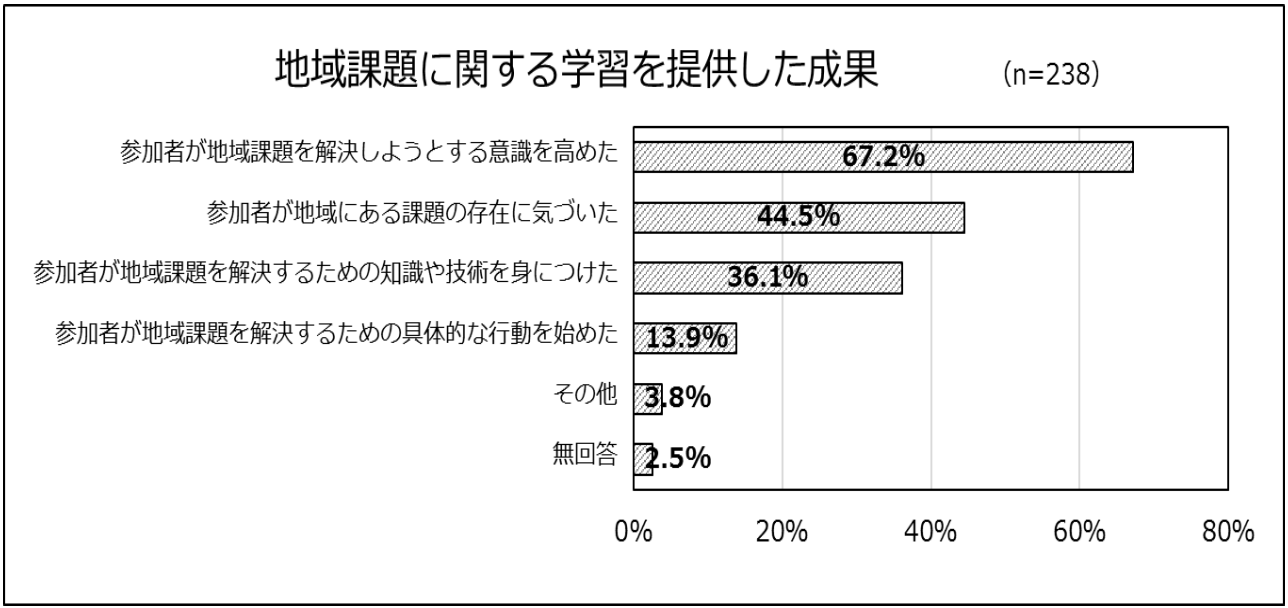
(8)　地域課題に関する学習を提供した成果

問８　　問３で「１～３」と回答された方にうかがいます。地域課題に関する学習を提供した成果には、どのようなものがありますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習を提供した成果

【図 89】



【表 94】

地域課題に関する学習を提供した成果（地区別）	全　県 n=238	河内地区 n=37	上都賀地区 n=24	芳賀地区 n=23	下都賀地区 n=56	塩谷南那須地区 n=31	那須地区 n=34	安足地区 n=32
参加者が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた	13.9%	10.8%	12.5%	8.7%	17.9%	6.5%	23.5%	12.5%
参加者が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた	36.1%	54.1%	37.5%	30.4%	39.3%	25.8%	29.4%	31.3%
参加者が地域課題を解決しようとする意識を高めた	67.2%	59.5%	70.8%	73.9%	69.6%	71.0%	67.6%	59.4%
参加者が地域にある課題の存在に気づいた	44.5%	35.1%	54.2%	39.1%	51.8%	38.7%	47.1%	40.6%
その他	3.8%	5.4%	4.2%	0.0%	3.6%	0.0%	2.9%	9.4%
無回答	2.5%	0.0%	4.2%	4.3%	0.0%	6.5%	0.0%	6.3%

全県でみると、「参加者が地域課題を解決しようとする意識を高めた」の回答割合が最も高く、いずれの地区でも最上位であった。次いで、「参加者が地域にある課題の存在に気づいた」が44.5%、「参加者が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた」も36.1%と回答割合が高かった。

多くの場で、地域課題に関する学習を提供した成果として、学習への参加者が地域課題を知り、それらを解決したいという意欲の高揚や、解決のための知識や技術の習得につながっていることがうかがえる。

地区別では、河内地区で「参加者が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた」が、那須地区で「参加者が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた」が、それぞれ他の地区より回答割合が高かった。

イ　職種別にみた学習を提供した成果

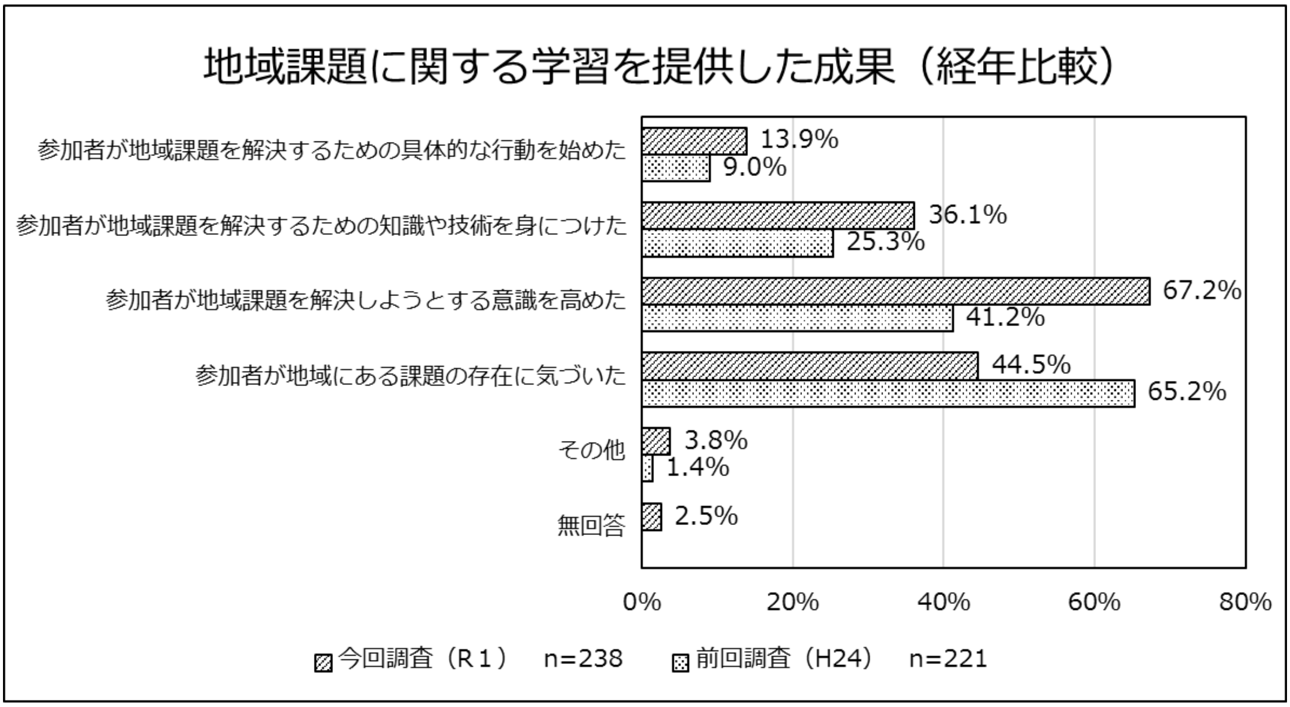
【表95】

地域課題に関する学習を提供した成果 **（職種別）**	全　県 n=238	主管課 n=45	公民館・生涯学習セ n=92	中間支援センター n=20	社会福祉協議会 n=46	その他 n=33	無回答 n=2
参加者が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた	13.9%	13.3%	4.3%	55.0%	21.7%	6.1%	0.0%
参加者が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた	36.1%	26.7%	33.7%	55.0%	43.5%	36.4%	0.0%
参加者が地域課題を解決しようとする意識を高めた	67.2%	75.6%	58.7%	85.0%	82.6%	48.5%	50.0%
参加者が地域にある課題の存在に気づいた	44.5%	35.6%	43.5%	50.0%	63.0%	27.3%	100.0%
その他	3.8%	4.4%	4.3%	5.0%	4.3%	0.0%	0.0%
無回答	2.5%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	12.1%	0.0%

「参加者が地域課題を解決しようとする意識を高めた」は、どの職種においても回答割合が高く、いずれも半数を超えた（無回答を除く）。

ウ　学習を提供した成果に関する前回調査との比較

【図 90】



前回調査と比較して、「参加者が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた」で約 5 ポイント、「参加者が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた」で約 11 ポイント、「参加者が地域課題を解決しようとする意識を高めた」で約 26 ポイント増加している。

時代の流れとして、地域創生や学校を核とした地域づくりなどの地域活動がより身近なものとして市民に捉えられてきていること、シニア層が増加し地域活動に参加できる人材として期待されていることなどから、地域課題に関する学習機会を提供した成果についても、より積極性がみられるものとなっていると考えられる。

《参考：問８「その他」の主な回答記述》
○参加者（団体）同士の連携やつながりが生まれた
○特に成果は認められない

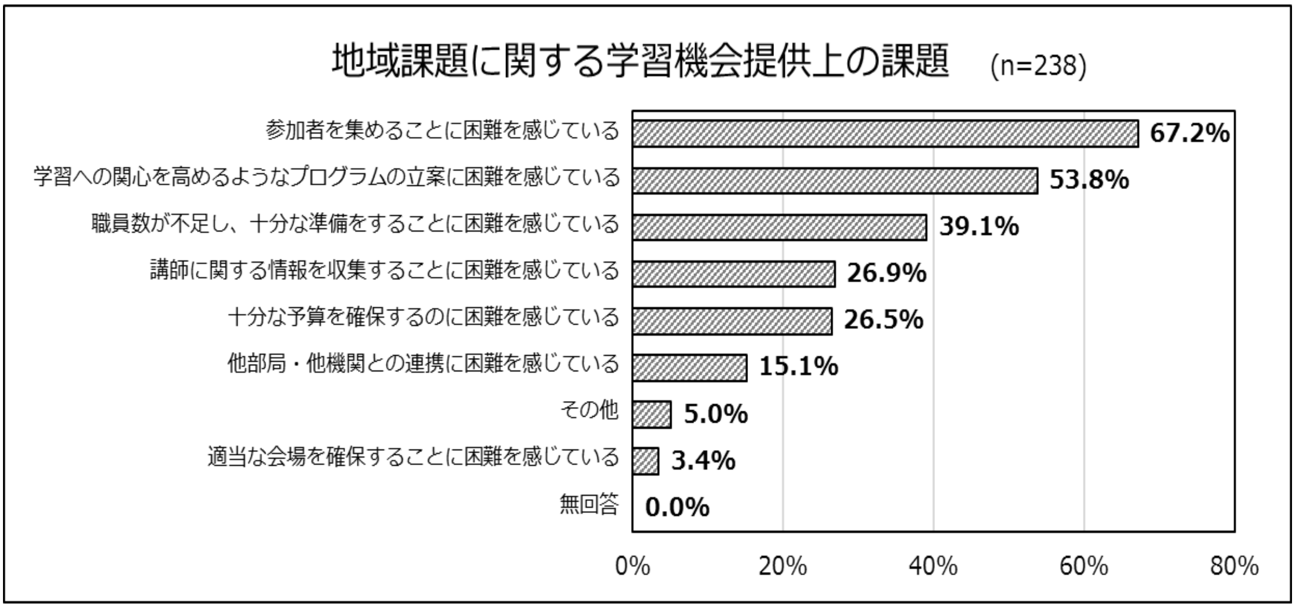
(9)　地域課題に関する学習機会提供上の課題

問９　　問３で「１～３」と回答された方にうかがいます。地域課題に関する学習を提供するにあたっての課題には、どのようなものがありますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた学習機会提供上の課題

【図 91】



【表 96】

地域課題に関する学習機会提供上の課題（地区別）	全　県 n=238	河内地区 n=37	上都賀地区 n=24	芳賀地区 n=23	下都賀地区 n=56	塩谷南那須地区 n=31	那須地区 n=34	安足地区 n=32
十分な予算を確保するのに困難を感じている	26.5%	13.5%	16.7%	21.7%	26.8%	22.6%	17.6%	65.6%
職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている	39.1%	40.5%	41.7%	34.8%	35.7%	38.7%	44.1%	40.6%
講師に関する情報を収集することに困難を感じている	26.9%	35.1%	8.3%	26.1%	30.4%	19.4%	23.5%	34.4%
学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている	53.8%	62.2%	41.7%	60.9%	51.8%	48.4%	55.9%	53.1%
適当な会場を確保することに困難を感じている	3.4%	2.7%	0.0%	0.0%	1.8%	6.5%	5.9%	6.3%
参加者を集めることに困難を感じている	67.2%	51.4%	66.7%	56.5%	76.8%	64.5%	67.6%	81.3%
他部局・他機関との連携に困難を感じている	15.1%	18.9%	12.5%	4.3%	21.4%	9.7%	14.7%	15.6%
その他	5.0%	5.4%	4.2%	4.3%	1.8%	9.7%	8.8%	3.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全県でみると、「参加者を集めることに困難を感じている」の回答割合が 67.2%と最も高く、全ての地区で 50%を超えた。「その他」の記述にもあるが、特に勤労世代への学習機会を提供するための開催日時の設定や、これまでの学習機会に参加したことのない新たな参加者の募集方法などに、頭を悩ませている様子がうかがえる。

次いで、「学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている」が続き、これらの 2 項目の回答割合が 50%を超えた。

「講師に関する情報を収集することに困難を感じている」「学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている」「参加者を集めることに困難を感じている」では、回答割合の最も高い地区と最も低い地区で 20 ポイント以上の差があり、地区間による差異がみられた。

イ　職種別にみた学習機会提供上の課題

【表 97】

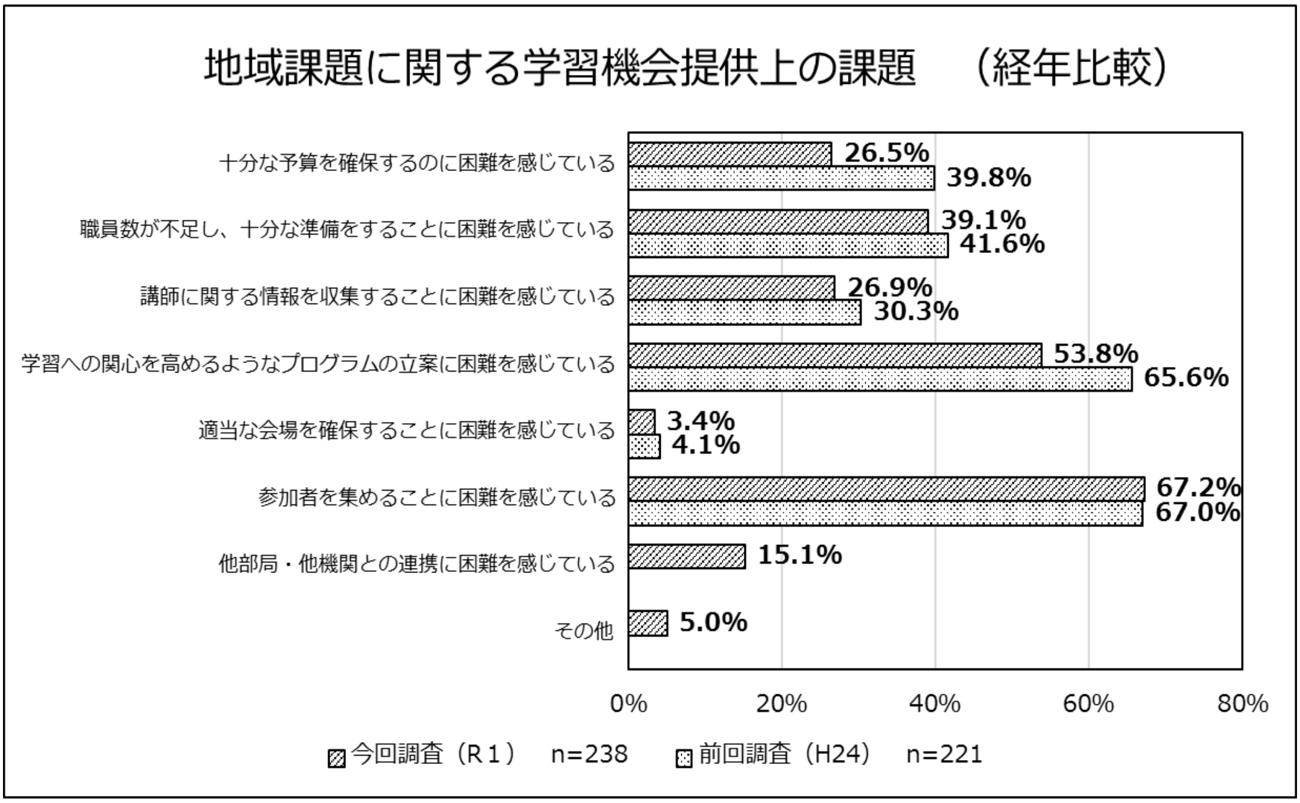
地域課題に関する学習機会提供上の課題（職種別）	全　県	主管課	公民館・生涯学習セ	中間支援センター	社会福祉協議会	その他	無回答
	n=238	n=45	n=92	n=20	n=46	n=33	n=2
十分な予算を確保するのに困難を感じている	26.5%	22.2%	26.1%	45.0%	13.0%	42.4%	0.0%
職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている	39.1%	40.0%	38.0%	50.0%	37.0%	39.4%	0.0%
講師に関する情報を収集することに困難を感じている	26.9%	28.9%	30.4%	20.0%	17.4%	30.3%	50.0%
学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている	53.8%	42.2%	58.7%	50.0%	65.2%	42.4%	50.0%
適当な会場を確保することに困難を感じている	3.4%	2.2%	1.1%	5.0%	4.3%	9.1%	0.0%
参加者を集めることに困難を感じている	67.2%	75.6%	68.5%	70.0%	67.4%	51.5%	50.0%
他部局・他機関との連携に困難を感じている	15.1%	20.0%	7.6%	30.0%	26.1%	6.1%	0.0%
その他	5.0%	8.9%	3.3%	10.0%	6.5%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

中間支援センターでは、「十分な予算を確保するのに困難を感じている」や「職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている」の回答割合が他の職種より高く、予算や職員数に課題を感じている傾向にある。また、「他部局・他機関との連携に困難を感じている」の回答割合も高く、つながりづくりに課題を感じている様子もうかがえる。

公民館・生涯学習センターや社会福祉協議会では、「学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている」の回答割合が他の職種より高く、学習計画の企画・立案に苦労している様子がうかがえる。

ウ　学習機会提供上の課題についての前回調査との比較

【図 92】



今回の調査では、「他部局・他機関との連携に困難を感じている」の項目を設けたことで、前回調査より選択肢が 1 つ増えたので、単純な比較はできない。

前回調査でほぼ同じ回答割合であった「参加者を集めることに困難を感じている」と「学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている」について、参加者募集は変わらず高い回答割合であったが、学習のプログラムの立案は約 12 ポイント減少した。とはいえ、引き続き上位 2 項目であることに変化はなかった。

また、「十分な予算を確保するのに困難を感じている」も、前回調査と比較し約 13 ポイント減少した。

《参考：問９「その他」の主な回答記述》

○地域課題（ニーズ）の収集　　　　○勤労世代向け講座の開催曜日や開催時間の設定

○参加者の幅を広げること　　　　　○経験のある講師やアドバイザーの確保

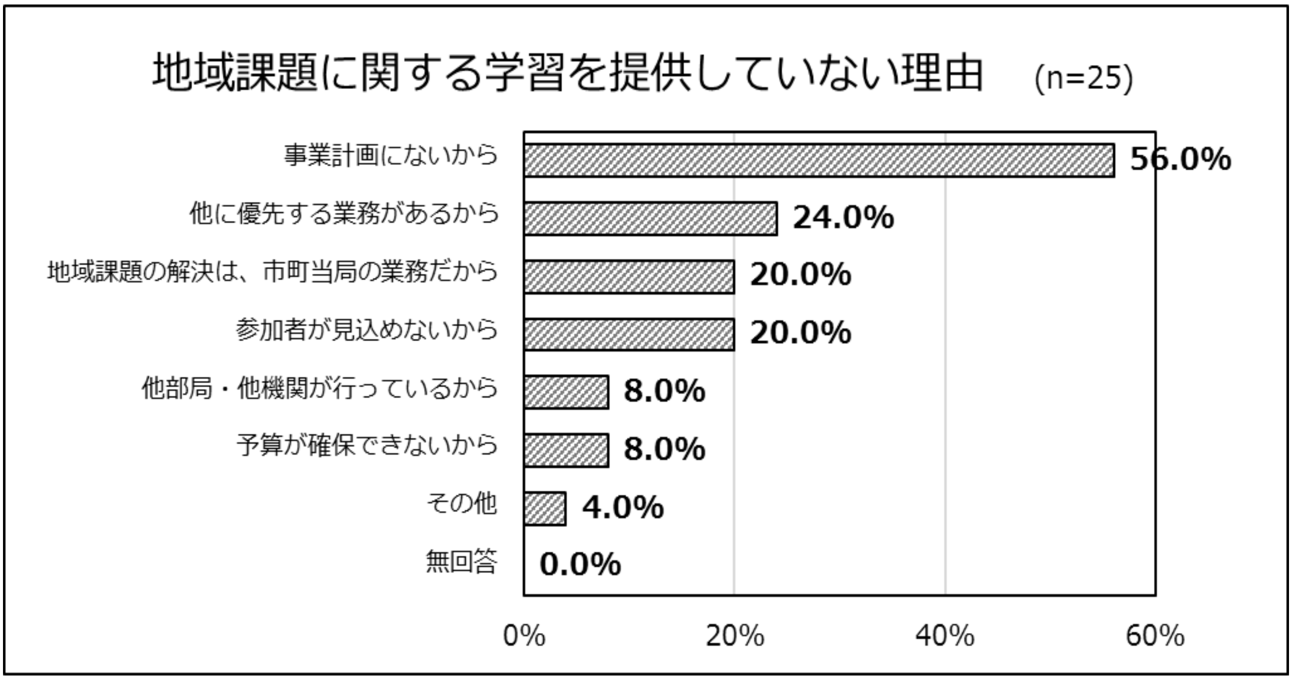
(10)　地域課題に関する学習を提供していない理由

問 10　　問３で「４」と回答された方にうかがいます。地域課題に関する学習を提供していない理由として、どのようなものがありますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

問３での「４」の回答数（地域課題のに関する学習機会を提供していないと回答した数）は 25 であり、全体の 10%に満たない。サンプル数が少ないため、地区別や職種別による分析は行わず、全県での回答結果のみまとめておく。

【図 93】



「事業計画にないから」の回答割合が最も高く、50%を超えた。次いで、「他に優先する業務があるから」「地域課題の解決は市町当局の業務だから」「参加者が見込めないから」等の理由が、ほぼ同じ回答割合で続いた。

《参考：問 10「その他」の主な回答記述》
○計画の段階であるから　　　○活動者の高齢化が進んでいるから
○実施の所管課が曖昧であるから

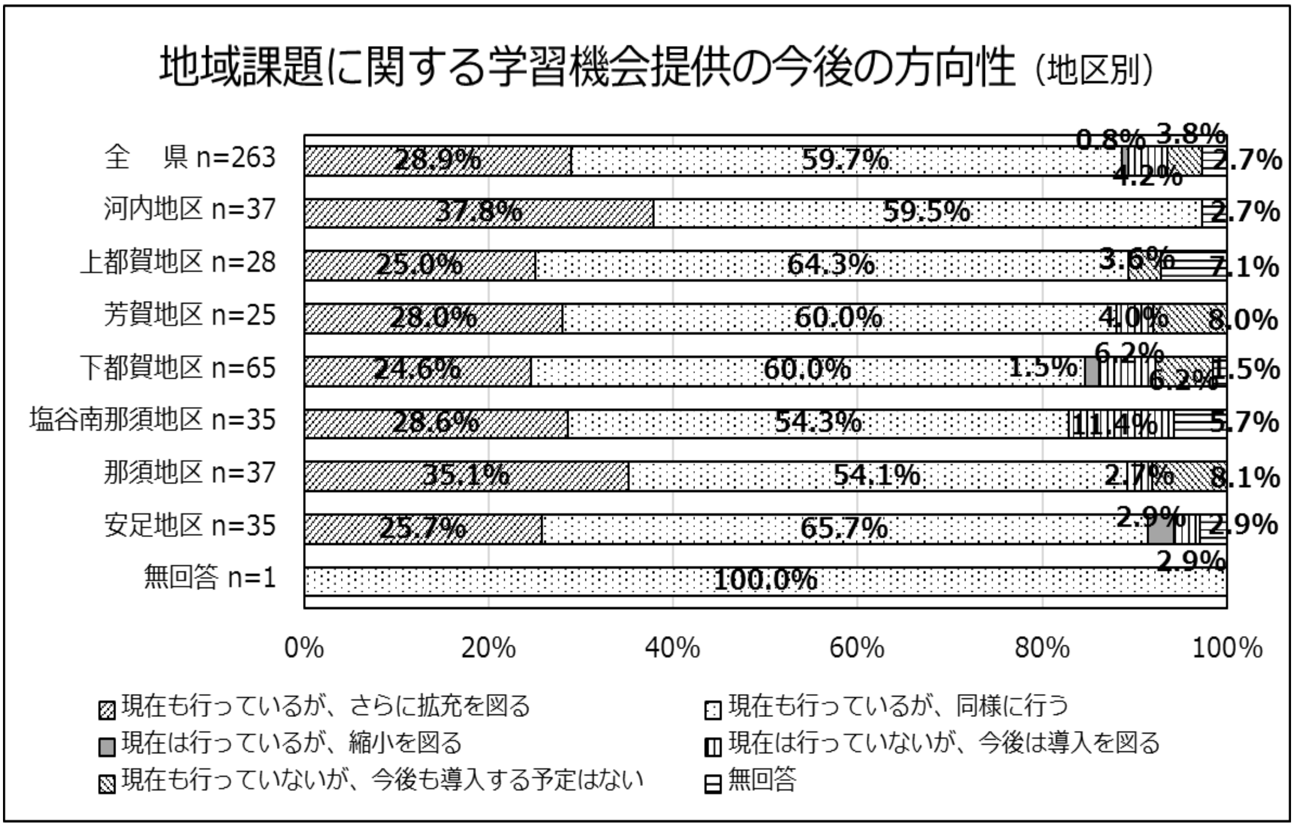
(11)　地域課題に関する学習機会提供の今後の方向性

問 11　　今後、あなたの市町（組織）では地域課題に関する学習機会の提供をどのように進めていく予定ですか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた地域課題に関する学習機会提供の今後の方向性

【図 94】

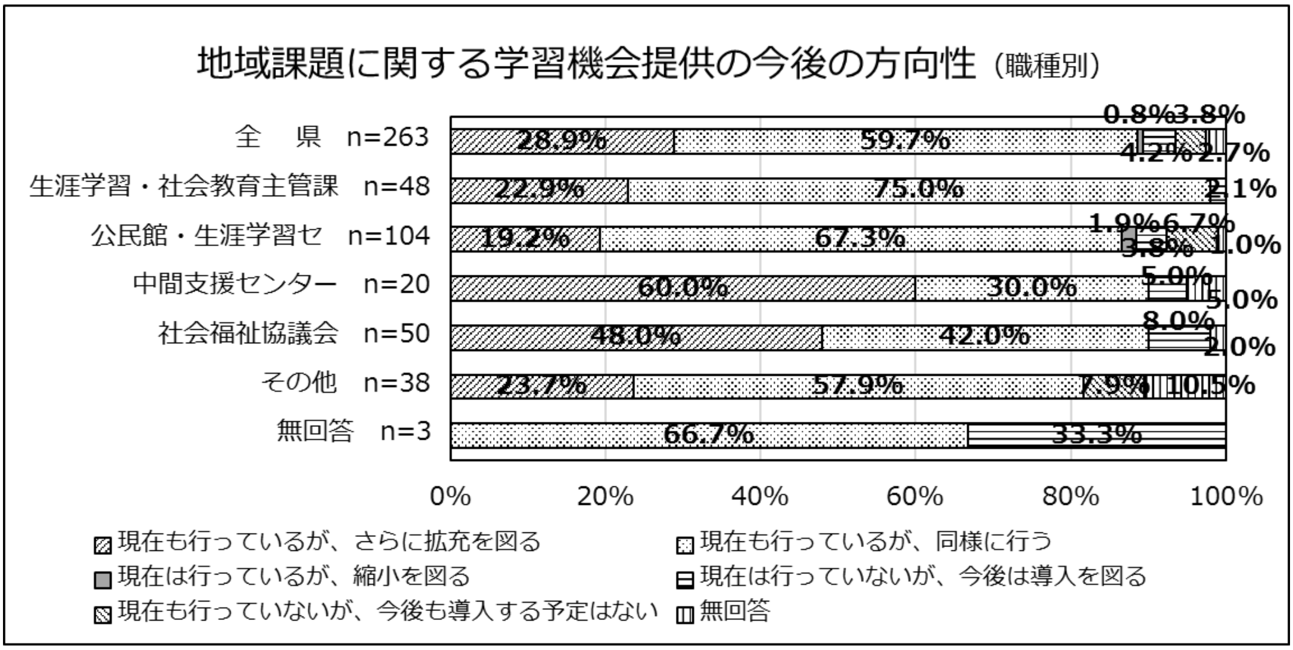


全県でみると、「同様に行う」の回答割合が約 60%で最も高く、全ての地区で 50%を超えた。

また、今後の学習機会提供について、「拡充を図る」「同様に行う」「今後は導入を図る」という３つの項目の回答割合の合計は、92.8%であり、全ての地区で 89%を超えた。

イ　職種別にみた地域課題に関する学習機会提供の今後の方向性

【図 95】

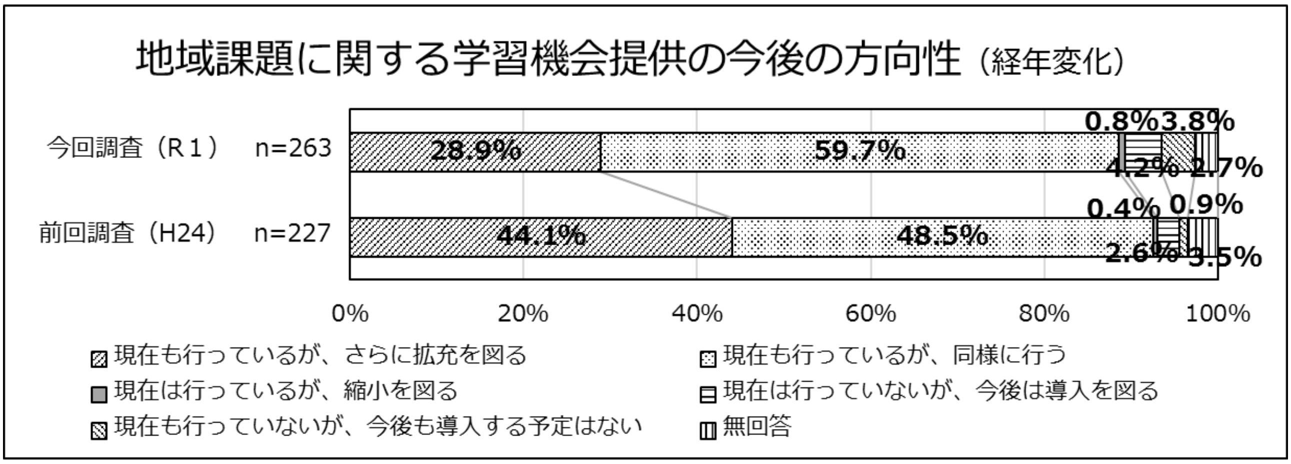


中間支援センター、社会福祉協議会では、「拡充を図る」の回答割合が最も高く、それぞれ 60.0%、48.0%であった。

生涯学習・社会教育主管課、公民館・生涯学習センター、その他では、「同様に行う」の回答割合が最も高く、それぞれ 75.0%、67.3%、57.9%であった。

ウ　地域課題に関する学習機会提供の今後の方向性についての前回調査との比較

【図 96】



前回調査より「拡充を図る」の回答割合は約 15 ポイント減少したのに対して、「同様に行う」の回答割合は約 11 ポイント増加した。学習機会を提供する側として、拡充を図りにくい状況になりつつあるといえる。

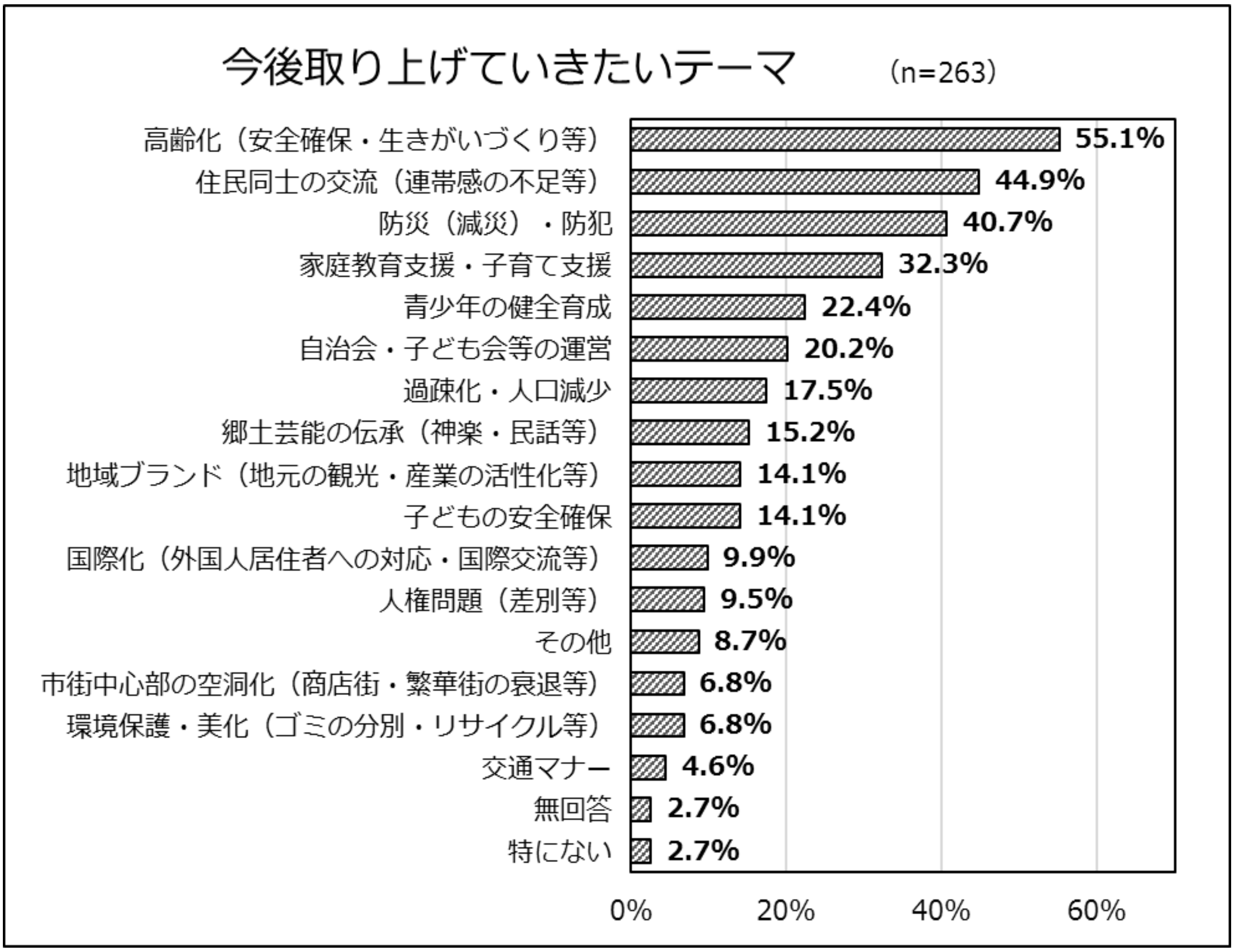
(12)　今後取り上げていきたいテーマ

問 12　　今後、どのようなテーマ（内容）を取り上げようと考えていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた今後取り上げていきたいテーマ

【図 97】



全県でみると、「高齢化」の回答割合が最も高く、55.1%であった。これは、現在提供している地域課題に関する学習のテーマでも最上位であり（図 88 参照）、引き続き提供していきたいものであるといえる。

次いで、「住民同士の交流」「防災・防犯」と続き、これらの３項目が 40%を超えた。

【表 98】

今後取り上げていきたいテーマ（各地区別）	全県 n=263	河内地区 n=37	上都賀地区 n=28	芳賀地区 n=25	下都賀地区 n=65	塩谷南那須地区 n=35	那須地区 n=37	安足地区 n=35	無回答 n=1
防災（減災）・防犯	40.7%	48.6%	46.4%	36.0%	38.5%	48.6%	37.8%	31.4%	0.0%
子どもの安全確保	14.1%	10.8%	3.6%	32.0%	12.3%	8.6%	21.6%	14.3%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	32.3%	48.6%	14.3%	16.0%	33.8%	34.3%	32.4%	37.1%	0.0%
青少年の健全育成	22.4%	24.3%	10.7%	28.0%	27.7%	11.4%	24.3%	25.7%	0.0%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	15.2%	21.6%	10.7%	0.0%	20.0%	11.4%	16.2%	17.1%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	20.2%	8.1%	17.9%	24.0%	32.3%	17.1%	16.2%	17.1%	0.0%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	44.9%	45.9%	42.9%	52.0%	56.9%	40.0%	43.2%	22.9%	100.0%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	55.1%	62.2%	53.6%	48.0%	58.5%	51.4%	54.1%	51.4%	100.0%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	14.1%	13.5%	10.7%	4.0%	16.9%	2.9%	18.9%	25.7%	0.0%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	9.9%	18.9%	7.1%	0.0%	15.4%	0.0%	2.7%	17.1%	0.0%
過疎化・人口減少	17.5%	8.1%	28.6%	20.0%	15.4%	22.9%	13.5%	20.0%	0.0%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	6.8%	5.4%	7.1%	12.0%	7.7%	0.0%	5.4%	11.4%	0.0%
人権問題（差別等）	9.5%	8.1%	3.6%	12.0%	13.8%	0.0%	2.7%	22.9%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	6.8%	10.8%	0.0%	16.0%	1.5%	5.7%	8.1%	11.4%	0.0%
交通マナー	4.6%	5.4%	3.6%	4.0%	4.6%	2.9%	2.7%	8.6%	0.0%
特にない	2.7%	0.0%	3.6%	4.0%	0.0%	0.0%	8.1%	5.7%	0.0%
その他	8.7%	13.5%	7.1%	4.0%	12.3%	2.9%	13.5%	2.9%	0.0%
無回答	2.7%	0.0%	3.6%	8.0%	0.0%	2.9%	0.0%	8.6%	0.0%

地区別にみると、回答割合の最も高い地区と最も低い地区との差が 20 ポイント以上の開きがみられるものは全 15 項目中 8 項目であった（「特にない」「その他」「無回答」を除く）。また、芳賀地区の「子どもの安全確保」や河内地区の「家庭教育支援・子育て支援」、下都賀地区の「自治会・子ども会等の運営」など、他地区と比べて際立って高い回答割合を示す項目もあり、地区間の差異がみられた。

イ　職種別にみた今後取り上げていきたいテーマ

【表 99】

今後取り上げていきたいテーマ（職種別）	全　県 n=263	主管課 n=48	公民館・生涯学習セ n=104	中間支援センター n=20	社会福祉協議会 n=50	その他 n=38	無回答 n=3
防災（減災）・防犯	40.7%	29.2%	49.0%	35.0%	60.0%	10.5%	33.3%
子どもの安全確保	14.1%	18.8%	15.4%	10.0%	14.0%	7.9%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	32.3%	39.6%	30.8%	30.0%	14.0%	55.3%	0.0%
青少年の健全育成	22.4%	25.0%	27.9%	30.0%	6.0%	23.7%	0.0%
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	15.2%	8.3%	20.2%	5.0%	4.0%	31.6%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	20.2%	16.7%	23.1%	25.0%	26.0%	5.3%	33.3%
住民同士の交流（連帯感の不足等）	44.9%	41.7%	34.6%	65.0%	76.0%	26.3%	33.3%
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	55.1%	35.4%	59.6%	50.0%	72.0%	44.7%	100.0%
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	14.1%	12.5%	16.3%	20.0%	0.0%	26.3%	0.0%
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	9.9%	8.3%	10.6%	25.0%	0.0%	15.8%	0.0%
過疎化・人口減少	17.5%	20.8%	17.3%	10.0%	26.0%	5.3%	33.3%
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	6.8%	6.3%	5.8%	25.0%	2.0%	7.9%	0.0%
人権問題（差別等）	9.5%	10.4%	11.5%	10.0%	6.0%	7.9%	0.0%
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	6.8%	6.3%	6.7%	15.0%	6.0%	5.3%	0.0%
交通マナー	4.6%	4.2%	8.7%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%
特にない	2.7%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%
その他	8.7%	2.1%	5.8%	20.0%	22.0%	2.6%	0.0%
無回答	2.7%	2.1%	2.9%	0.0%	0.0%	7.9%	0.0%

項目別にみて、回答割合の最も高い職種と最も低い職種で 20 ポイント以上の開きがみられる項目は、全 15 項目のうち 2/3 以上となる 11 項目もあり（「その他」「無回答」を除く）、今後取り上げたいテーマに職種によって大きな差異がみられる。

特に、公民館・生涯学習センター、社会福祉協議会では、「防災・防犯」の回答割合が高かった。また、生涯学習・社会教育主管課、その他（図書館・博物館・美術館等の社会教育施設職員〈指定管理者を含む〉、コミュニティセンター職員、文化財課職員等）では、「家庭教育支援・子育て支援」の回答割合が高かった。そして、中間支援センター、社会福祉協議会では、「住民同士の交流」の回答割合が高かった。これらは、現在学習で取り上げられているテーマ（表 91 参照）の傾向と同様で、強い相関関係があるといえる。

ウ　今後取り上げていきたいテーマについての前回調査との比較

【表 100】

今後取り上げていきたいテーマ（経年比較）	今回調査（R１）n=263	前回調査（H24）n=107	今回調査と前回調査の増減
防災（減災）・防犯	40.7%	35.5%	***5.2%***
子どもの安全確保	14.1%	28.0%	***-13.9%***
家庭教育支援・子育て支援	32.3%	59.8%	***-27.5%***
青少年の健全育成	22.4%	51.4%	***-29.0%***
郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	15.2%	31.8%	***-16.6%***
自治会・子ども会等の運営	20.2%	34.6%	***-14.4%***
住民同士の交流（連帯感の不足等）	44.9%	63.4%	***-18.5%***
高齢化（安全確保・生きがいづくり等）	55.1%	44.9%	***10.2%***
地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	14.1%		
国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）	9.9%	12.1%	***-2.2%***
過疎化・人口減少	17.5%	11.2%	***6.3%***
環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）	6.8%	23.4%	***-16.6%***
人権問題（差別等）	9.5%	25.2%	***-15.7%***
市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）	6.8%	23.4%	***-16.6%***
交通マナー	4.6%		
特にない	2.7%		
その他	8.7%		
無回答	2.7%		

「(2)　地域課題の認識」などと同様に、「地域ブランド」「交通マナー」という選択肢を新たに設け、「消費者問題」「男女共同参画」を削除した。選択肢数は前回調査と同数にして調査を実施したため、単純な比較はできない。

全県で最も回答割合の高かった「高齢化」は、前回調査から 10.2 ポイントと大幅な増加となった。次いで、「過疎化・人口減少」で 6.3 ポイントの増加であった。これらの 2 項目は、地域課題の認識における経年比較（表 90 参照）や学習で取り上げられているテーマにおける経年比較（表 93 参照）でも増加幅の大きい 2 項目であり、「防災・防犯」など時代の流れに関係なく必要な学習も含めて、今後学習テーマとして推進していく傾向がうかがえる。

《参考：問 12「その他」の主な回答記述》
○地域課題解決に向けた企業・社会福祉法人等と連携した地域貢献活動づくり
○地域課題に関心を持てる若者の発掘　○勤労世代向け事業の更なる充実
○支え合う地域づくり　○SDGs を取り入れたもの
○引きこもり　○ゴミ屋敷問題　○有害鳥獣対策　○福祉
○歴史・文化の継承　○市民自治　○地域の居場所づくり

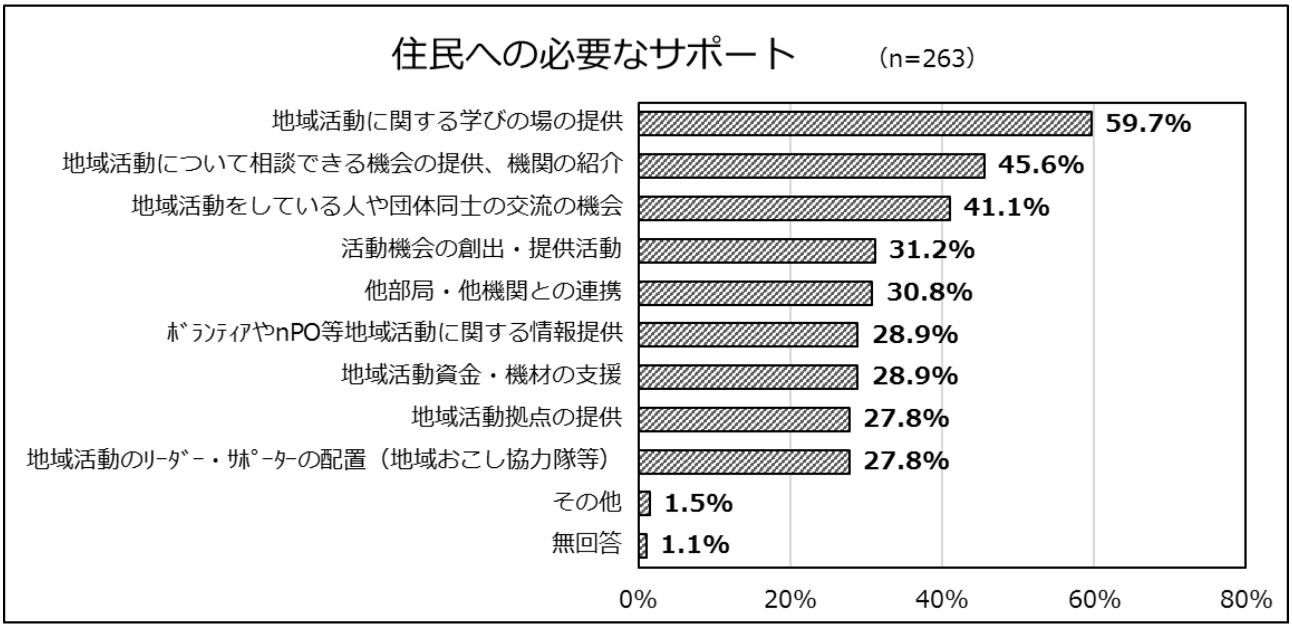
(13)　地域課題の解決に向けた活動の活性化に向けた住民への必要なサポート

問 13　地域課題の解決に向けた活動の活性化に向けて、住民に対して、行政（貴機関）としてどのようなサポートが必要であると感じていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた住民への必要なサポート

【図 98】



【表 101】

住民への必要なサポート（各地区別）	全　県 n=263	河内地区 n=37	上都賀地区 n=28	芳賀地区 n=25	下都賀地区 n=65	塩谷南那須地区 n=35	那須地区 n=37	安足地区 n=35	無回答 n=1
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	45.6%	40.5%	57.1%	60.0%	36.9%	65.7%	35.1%	40.0%	0.0%
地域活動に関する学びの場の提供	59.7%	59.5%	50.0%	72.0%	72.3%	54.3%	48.6%	54.3%	0.0%
地域活動資金・機材の支援	28.9%	35.1%	25.0%	28.0%	26.2%	31.4%	27.0%	31.4%	0.0%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）	27.8%	37.8%	32.1%	20.0%	24.6%	25.7%	18.9%	37.1%	0.0%
地域活動拠点の提供	27.8%	18.9%	32.1%	28.0%	29.2%	20.0%	32.4%	31.4%	100.0%
活動機会の創出・提供活動	31.2%	35.1%	32.1%	24.0%	35.4%	31.4%	24.3%	31.4%	0.0%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやnPO等地域活動に関する情報提供	28.9%	35.1%	28.6%	20.0%	35.4%	17.1%	24.3%	31.4%	100.0%
他部局・他機関との連携	30.8%	27.0%	32.1%	24.0%	23.1%	34.3%	48.6%	31.4%	0.0%
地域活動をしている人や団体同士の交流の機会	41.1%	37.8%	42.9%	48.0%	53.8%	25.7%	32.4%	37.1%	100.0%
その他	1.5%	2.7%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	2.7%	2.9%	0.0%
無回答	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	5.7%	0.0%

全県でみると、「地域活動に関する学びの場の提供」の回答割合が最も高く、59.7%であった。次いで、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「地域活動をしている人や団体同士の交流の機会」が続き、これら上位 3 項目が 40%を超えた。残りの項目は全て 25%～35%の範囲にあり、地域活動に関する住民への必要なサポートは多岐にわたることがうかがえる。

項目毎にみると、回答割合の最も高い地区と最も低い地区の差が 20 ポイント以上ある項目は3項目に過ぎず、多少のばらつきはあるものの、地区間による差異はさほどみられない。

イ　職種別にみた住民への必要なサポート

【表 102】

住民への必要なサポート（職種別）	全　県 n=263	主管課 n=48	公民館・生涯学習セ n=104	中間支援センター n=20	社会福祉協議会 n=50	その他 n=38	無回答 n=3
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	45.6%	43.8%	38.5%	70.0%	62.0%	31.6%	66.7%
地域活動に関する学びの場の提供	59.7%	60.4%	53.8%	80.0%	62.0%	63.2%	33.3%
地域活動資金・機材の支援	28.9%	16.7%	31.7%	25.0%	40.0%	26.3%	0.0%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）	27.8%	25.0%	32.7%	25.0%	32.0%	13.2%	66.7%
地域活動拠点の提供	27.8%	12.5%	29.8%	55.0%	28.0%	23.7%	66.7%
活動機会の創出・提供活動	31.2%	29.2%	25.0%	40.0%	38.0%	36.8%	33.3%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやnPO等地域活動に関する情報提供	28.9%	18.8%	19.2%	65.0%	54.0%	15.8%	33.3%
他部局・他機関との連携	30.8%	18.8%	25.0%	40.0%	48.0%	34.2%	33.3%
地域活動をしている人や団体同士の交流の機会	41.1%	41.7%	33.7%	80.0%	52.0%	26.3%	33.3%
その他	1.5%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%
無回答	1.1%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%

中間支援センターとは、行政と地域の間で様々な地域活動を支援する組織であり、その機能からか、他の機関等と比較して、あらゆる項目で回答割合が高かった。「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「地域活動に関する学びの場の提供」「地域活動をしている人や団体同士の交流の機会」「地域活動拠点の提供」「活動機会の創出・提供」「ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供」の項目で他より回答割合が高かった。特に先に挙げた 3 項目は 70%以上の高い回答割合で、中間支援センター職員として職務といえる内容でもある。

社会福祉協議会も、あらゆる項目で全県での回答割合を上回った。

《参考：問 13「その他」の主な回答記述》

○ファシリテーターの育成派遣　　○事業の継続　　○事業計画立案の工夫

(14)　高校生の地域活動に対する実施可能なサポートと課題

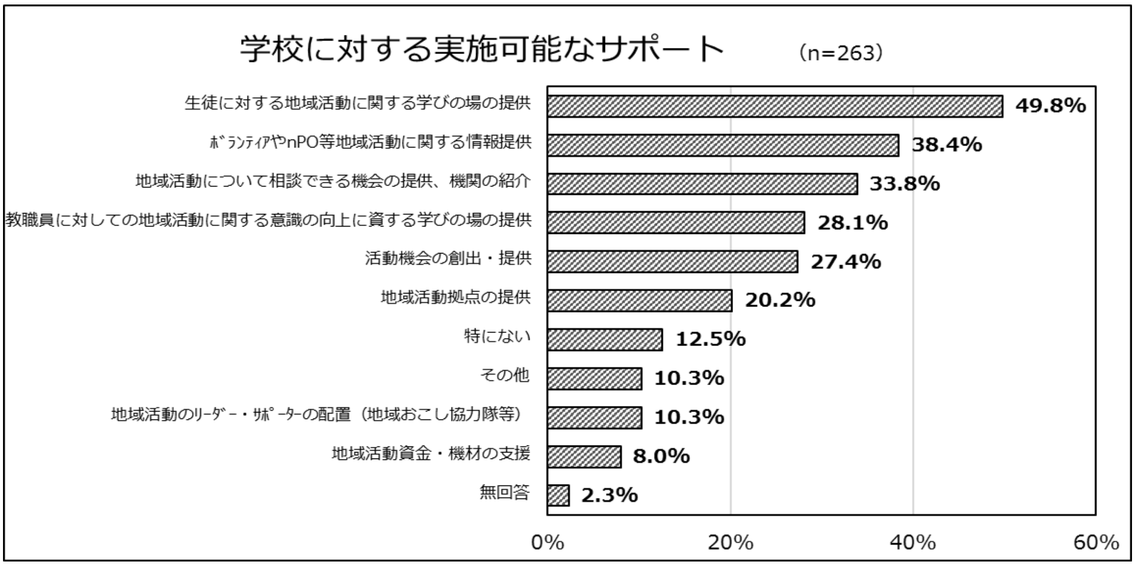
問 14　国（文部科学省）では、「地域との協働による高等学校改革の推進」において、「高等学校と市町村・産業界・高等教育機関・社会教育施設（公民館等）等とが協働し、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組を推進すること」を求めています。
　あなたの市町（組織）では、高校生の地域活動に対する「学校に向けて」と「高校生個人に向けて」実施可能なサポートについて、またそのサポート実施にあたっての課題について、それぞれあてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

＊設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア　各地区別にみた実施可能なサポートと課題

(ｱ)　学校に対して

【図 99】



【表 103】

学校に対する実施可能なサポート（各地区別）	全　県 n=263	河内地区 n=37	上都賀地区 n=28	芳賀地区 n=25	下都賀地区 n=65	塩谷南那須地区 n=35	那須地区 n=37	安足地区 n=35	無回答 n=1
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	33.8%	37.8%	35.7%	48.0%	36.9%	37.1%	18.9%	25.7%	0.0%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	49.8%	48.6%	39.3%	44.0%	53.8%	45.7%	54.1%	57.1%	0.0%
地域活動資金・機材の支援	8.0%	8.1%	3.6%	16.0%	12.3%	2.9%	0.0%	11.4%	0.0%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）	10.3%	16.2%	0.0%	12.0%	10.8%	11.4%	8.1%	11.4%	0.0%
地域活動拠点の提供	20.2%	13.5%	21.4%	16.0%	27.7%	11.4%	27.0%	17.1%	0.0%
活動機会の創出・提供	27.4%	35.1%	28.6%	28.0%	23.1%	34.3%	29.7%	17.1%	0.0%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやnPO等地域活動に関する情報提供	38.4%	43.2%	35.7%	60.0%	41.5%	40.0%	29.7%	22.9%	0.0%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	28.1%	32.4%	35.7%	28.0%	33.8%	22.9%	18.9%	20.0%	100.0%
特にない	12.5%	16.2%	17.9%	4.0%	12.3%	2.9%	13.5%	20.0%	0.0%
その他	10.3%	8.1%	14.3%	8.0%	10.8%	14.3%	8.1%	8.6%	0.0%
無回答	2.3%	2.7%	0.0%	4.0%	0.0%	2.9%	2.7%	5.7%	0.0%

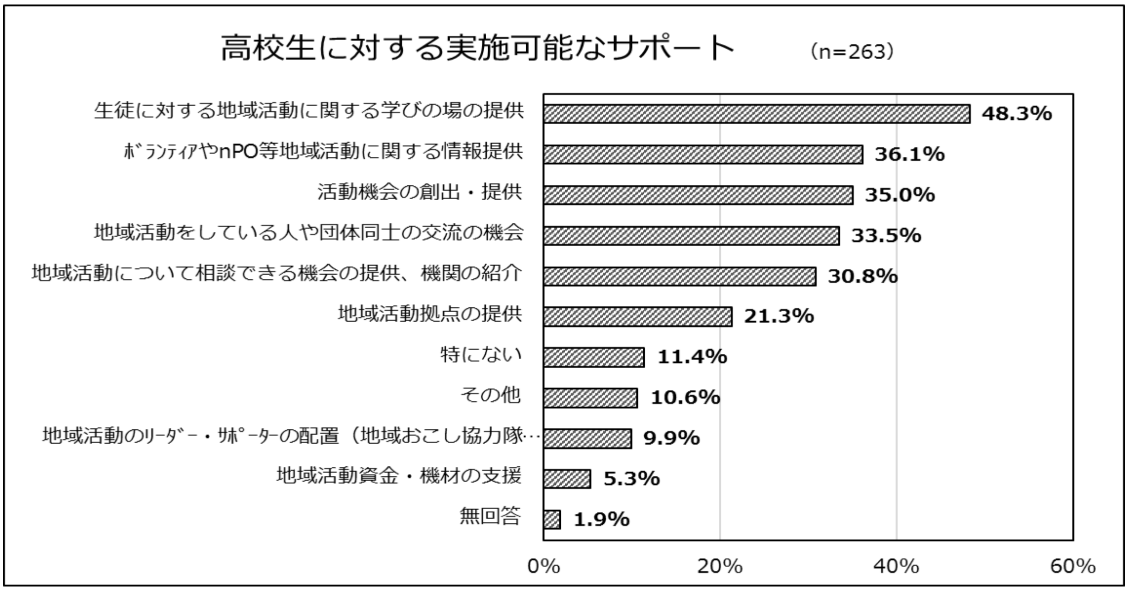
全県でみると、「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」の回答割合が最も高く、49.8%であった。次いで、「ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供」「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」が続き、これら上位 3 項目が 30%を超えた。

住民に対しての必要なサポートでも「地域活動に関する学びの場の提供」は最上位であったが、「ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供」はそれほど高くなく、高校に対する支援の特徴として見出せる。地域課題に関する学習機会を提供する側は、地域課題解決に向けた環境づくりをしていく上で、学校と NPO 等がネットワークを築いていくことを大切なプロセスであると考えていることがうかがえる。

項目毎にみると、回答割合の最も高い地区と最も低い地区で 20 ポイント以上開きのみられるものは 2 項目に過ぎず、多少のばらつきはあるものの、地区間による差異はさほどみられない。

(ｲ) 高校生個人に対して

【図 100】



【表 104】

高校生に対する実施可能なサポート（各地区別）	全　県 n=263	河内地区 n=37	上都賀地区 n=28	芳賀地区 n=25	下都賀地区 n=65	塩谷南那須地区 n=35	那須地区 n=37	安足地区 n=35	無回答 n=1
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	30.8%	32.4%	35.7%	28.0%	41.5%	31.4%	10.8%	28.6%	0.0%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	48.3%	54.1%	39.3%	48.0%	52.3%	40.0%	43.2%	57.1%	0.0%
地域活動資金・機材の支援	5.3%	5.4%	10.7%	12.0%	6.2%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）	9.9%	10.8%	0.0%	8.0%	13.8%	11.4%	5.4%	14.3%	0.0%
地域活動拠点の提供	21.3%	16.2%	25.0%	24.0%	29.2%	11.4%	18.9%	20.0%	0.0%
活動機会の創出・提供	35.0%	35.1%	35.7%	48.0%	30.8%	40.0%	45.9%	17.1%	0.0%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやnPO等地域活動に関する情報提供	36.1%	35.1%	35.7%	44.0%	38.5%	40.0%	29.7%	31.4%	0.0%
地域活動をしている人や団体同士の交流の機会	33.5%	29.7%	46.4%	40.0%	40.0%	22.9%	24.3%	28.6%	100.0%
特にない	11.4%	8.1%	25.0%	8.0%	6.2%	14.3%	5.4%	20.0%	0.0%
その他	10.6%	8.1%	10.7%	4.0%	10.8%	11.4%	18.9%	8.6%	0.0%
無回答	1.9%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	2.9%	2.7%	5.7%	0.0%

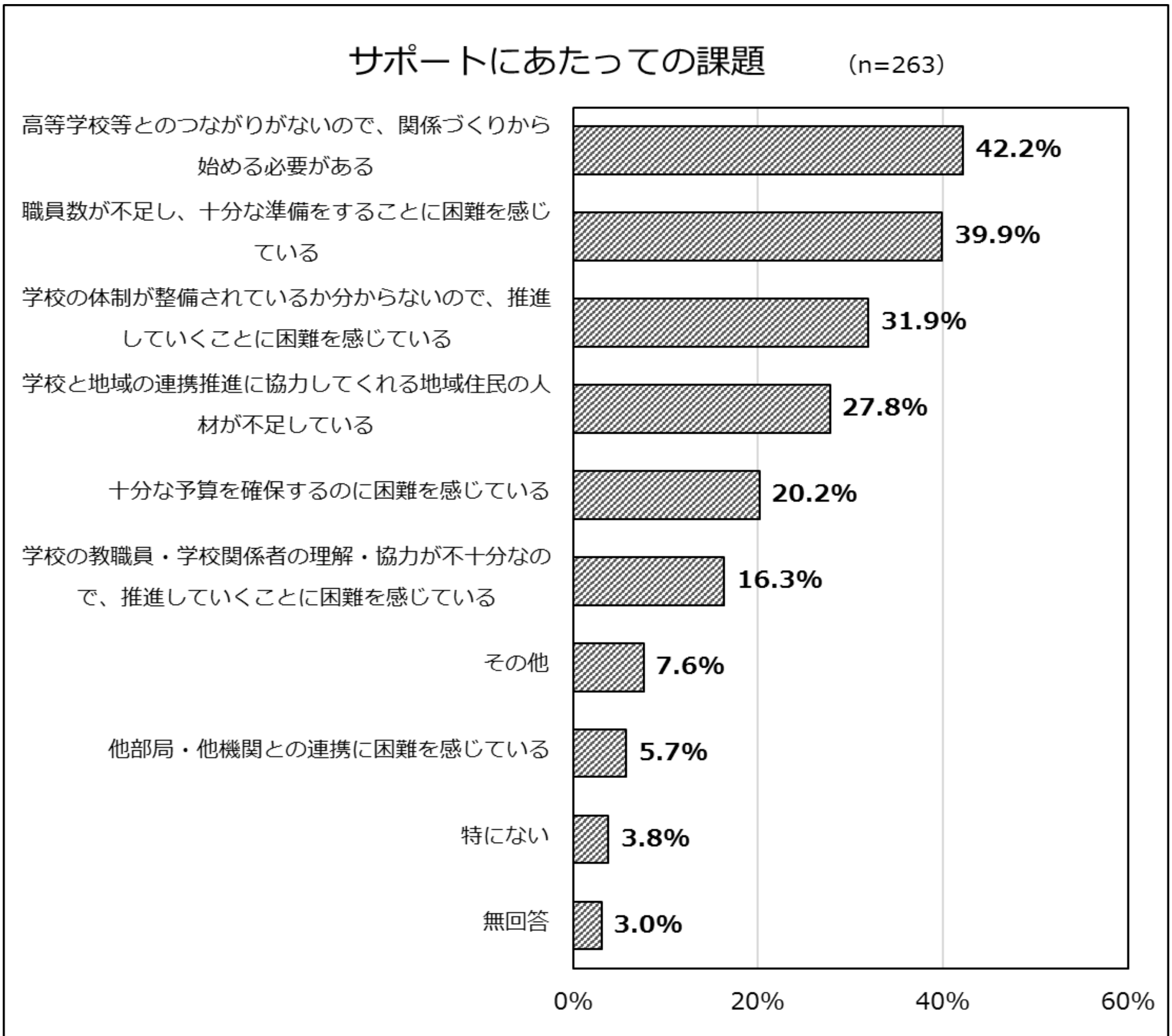
全県でみると、「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」の回答割合が最も高く、48.3%であった。次いで、「ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供」「活動機会の創出・提供」が続き、これら上位 3 項目が 35%を超えた。他にも 30%を超える項目が 2 つあり、サポートの幅は広い。

学校に対してと比較すると、上位 2 項目は同様であったが、「活動機会の創出・提供」の回答割合が高かった。個人に対してのサポートとして、活動できる場や地域課題を学ぶ場を提供する項目が上位に挙げられている。

項目毎にみると、回答割合の最も高い地区と最も低い地区で 20 ポイント以上開きのみられる項目は3項目あった。那須地区の「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」や、安足地区の「活動機会の創出・提供」など、他地区と比較して顕著な差があり、若干、地区間による差異がみられる。

(ｳ) サポートにあたっての課題

【図 101】



【表 105】

サポートにあたっての課題（各地区別）	全　県 n=263	河内地区 n=37	上都賀地区 n=28	芳賀地区 n=25	下都賀地区 n=65	塩谷南那須地区 n=35	那須地区 n=37	安足地区 n=35	無回答 n=1
十分な予算を確保するのに困難を感じている	20.2%	10.8%	32.1%	28.0%	16.9%	20.0%	18.9%	22.9%	0.0%
職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている	39.9%	27.0%	50.0%	56.0%	35.4%	40.0%	40.5%	42.9%	0.0%
学校の体制が整備されているか分からないので、推進していくことに困難を感じている	31.9%	29.7%	21.4%	28.0%	40.0%	20.0%	32.4%	42.9%	0.0%
学校の教職員・学校関係者の理解・協力が不十分なので、推進していくことに困難を感じている	16.3%	13.5%	10.7%	20.0%	20.0%	14.3%	21.6%	11.4%	0.0%
学校と地域の連携推進に協力してくれる地域住民の人材が不足している（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等も含む）	27.8%	32.4%	14.3%	28.0%	24.6%	37.1%	21.6%	37.1%	0.0%
高等学校等とのつながりがないので、関係づくりから始める必要がある	42.2%	40.5%	57.1%	28.0%	50.8%	28.6%	37.8%	45.7%	0.0%
他部局・他機関との連携に困難を感じている	5.7%	8.1%	0.0%	4.0%	7.7%	0.0%	13.5%	2.9%	0.0%
その他	7.6%	10.8%	0.0%	12.0%	7.7%	5.7%	13.5%	2.9%	0.0%
特にない	3.8%	8.1%	3.6%	0.0%	3.1%	8.6%	2.7%	0.0%	0.0%
無回答	3.0%	2.7%	3.6%	4.0%	0.0%	2.9%	2.7%	5.7%	100.0%

全県でみると、「高等学校等とのつながりがないので、関係づくりから始める必要がある」の回答割合が最も高く、42.2%であった。次いで、「職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている」「学校の体制が整備されているか分からないので、推進していくことに困難を感じている」が続き、これら上位 3 項目が 30%を超えた。

地区別にみても、学校とのつながりの状況や、学校自体の地域連携・協働の現況、それぞれの自治体や機関の予算や人員配置の状況等により課題が異なるため、地区間による大きな差異がみられる。

イ　職種別にみた実施可能なサポートと課題

(ｱ)　学校に対して

【表 106】

学校に対する実施可能なサポート（職種別）	全　県 n=263	主管課 n=48	公民館・生涯学習セ n=104	中間支援センター n=20	社会福祉協議会 n=50	その他 n=38	無回答 n=3
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	33.8%	31.3%	22.1%	75.0%	52.0%	26.3%	0.0%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	49.8%	33.3%	44.2%	65.0%	72.0%	52.6%	0.0%
地域活動資金・機材の支援	8.0%	2.1%	6.7%	10.0%	18.0%	5.3%	0.0%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）	10.3%	12.5%	11.5%	20.0%	6.0%	5.3%	0.0%
地域活動拠点の提供	20.2%	20.8%	26.0%	20.0%	8.0%	18.4%	33.3%
活動機会の創出・提供	27.4%	22.9%	24.0%	30.0%	38.0%	28.9%	0.0%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやnPO等地域活動に関する情報提供	38.4%	37.5%	31.7%	65.0%	58.0%	21.1%	0.0%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	28.1%	31.3%	17.3%	55.0%	40.0%	23.7%	33.3%
特にない	12.5%	14.6%	16.3%	5.0%	2.0%	18.4%	0.0%
その他	10.3%	6.3%	14.4%	5.0%	6.0%	10.5%	33.3%
無回答	2.3%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	7.9%	0.0%

学校に対するサポートとして、中間支援センターや社会福祉協議会では、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」「ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供」の回答割合が極めて高く、いずれも 50%を超えた。また、「活動機会の創出・提供」「教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供」の回答割合も高く、いずれも 30～55%の範囲内であった。

公民館・生涯学習センターでは、「地域活動拠点の提供」の回答割合が、他の職種より高かった。

《参考：問 14 学校に対して「その他」の主な回答記述》

○補助金や助成金の情報提供　　　　○講座の企画情報提供

○教職員の負担にならない仕組

(ｲ)　高校生個人に対して

【表 107】

高校生に対する実施可能なサポート（職種別）	全　県 n=263	主管課 n=48	公民館・生涯学習セ n=104	中間支援センター n=20	社会福祉協議会 n=50	その他 n=38	無回答 n=3
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	30.8%	20.8%	26.0%	70.0%	50.0%	13.2%	0.0%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	48.3%	35.4%	41.3%	65.0%	74.0%	44.7%	0.0%
地域活動資金・機材の支援	5.3%	4.2%	2.9%	15.0%	12.0%	0.0%	0.0%
地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）	9.9%	10.4%	10.6%	25.0%	4.0%	7.9%	0.0%
地域活動拠点の提供	21.3%	16.7%	25.0%	45.0%	18.0%	7.9%	33.3%
活動機会の創出・提供	35.0%	35.4%	26.9%	50.0%	54.0%	26.3%	0.0%
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱやnPO等地域活動に関する情報提供	36.1%	27.1%	31.7%	75.0%	56.0%	15.8%	0.0%
地域活動をしている人や団体同士の交流の機会	33.5%	35.4%	27.9%	65.0%	34.0%	28.9%	33.3%
特にない	11.4%	20.8%	14.4%	0.0%	4.0%	7.9%	0.0%
その他	10.6%	10.4%	13.5%	5.0%	2.0%	15.8%	33.3%
無回答	1.9%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%

高校生に対するサポートとして、中間支援センターや社会福祉協議会では、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供」「活動機会の創出・提供」「ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供」の回答割合が極めて高く、いずれも 50%以上となった。また、中間支援センターでは、「地域活動をしている人や団体同士の交流の機会」も、65.0%と回答割合が高かった。

《参考：問 14 高校生個人に対して「その他」の主な回答記述》

○補助金や助成金の情報提供　　　　○講座の企画情報提供

○体験活動の提供

(ｳ)　サポートにあたっての課題

【表 108】

サポートにあたっての課題（職種別）	全　県 n=263	主管課 n=48	公民館・生涯学習セ n=104	中間支援センター n=20	社会福祉協議会 n=50	その他 n=38	無回答 n=3
十分な予算を確保するのに困難を感じている	20.2%	14.6%	19.2%	30.0%	26.0%	18.4%	0.0%
職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている	39.9%	33.3%	36.5%	60.0%	42.0%	47.4%	0.0%
学校の体制が整備されているか分からないので、推進していくことに困難を感じている	31.9%	25.0%	35.6%	45.0%	36.0%	18.4%	33.3%
学校の教職員・学校関係者の理解・協力が不十分なので、推進していくことに困難を感じている	16.3%	22.9%	9.6%	40.0%	26.0%	2.6%	0.0%
学校と地域の連携推進に協力してくれる地域住民の人材が不足している（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等も含む）	27.8%	35.4%	26.9%	20.0%	36.0%	13.2%	33.3%
高等学校等とのつながりがないので、関係づくりから始める必要がある	42.2%	31.3%	56.7%	30.0%	26.0%	42.1%	33.3%
他部局・他機関との連携に困難を感じている	5.7%	8.3%	6.7%	5.0%	6.0%	0.0%	0.0%
その他	7.6%	6.3%	9.6%	0.0%	4.0%	13.2%	0.0%
特にない	3.8%	4.2%	1.9%	5.0%	10.0%	0.0%	0.0%
無回答	3.0%	8.3%	1.0%	0.0%	0.0%	5.3%	33.3%

中間支援センター、社会福祉協議会では、「職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている」の回答割合が最も高く、それぞれ 60.0%、42.0%であった。実施可能なサポートはある程度定まっており（表 106・表 107 参照）、それらを遂行する人員不足を感じている現状がうかがえる。

また、公民館・生涯学習センターでは「高等学校等とのつながりがないので、関係づくりから始める必要がある」の回答割合が極めて高い。公民館・生涯学習センターがサポートするエリアと小学校区、中学校区は重なっていることから、小学校や中学校などはつながりができている場合が多い。それに対して、高校や特別支援学校は学区がなく、地域連携・協働の必要性をお互いに感じながらもつながる手立てや機会を得にくい現状がある。

《参考：問 14 サポートにあたっての課題「その他」の主な回答記述》
○学校の強みを生かせていないと感じている
○教職員が忙しく、連携を進めることが難しい

(15)　地域づくりへの思い

問 15　　その他、地域づくりの在り方等について日頃感じていることなど、自由にお書きください。

アンケート調査回答者の地域づくりの在り方全般に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 15 の主な回答記述》
○地域づくりの中心となるべき行政が、組織間のつながりをほとんど持っていない。
○ネットワークの構築の重要性は痛感しているが、なかなか地域とのつながりができない。
○首長部局に地域づくり推進課、教育委員会に生涯学習課があるが、地域づくりの推進にあたり、どちらがリーダーシップをとって進めていくのか曖昧になっている。
○他課・他部局で実践しているものが既にあり、本課として何をすべきか不透明である。
○行政としてそれぞれの課が地域づくりに取り組んでいるが、課を越えた、横断的な地域づくりに取り組めていない（それぞれの管轄でしか、地域づくりに取り組めない）。
○単なる消費者や受益者から脱し、地域にコミットしたいと内発的に思える人を育むには、どんな地域や生育環境が必要であり、中間支援センターとして何ができるのか悩んでいる。
○地域づくりの在り方に関する世代間のギャップを感じる。
○価値観の多様化と同時に地域課題も多様化しており、行政や市民活動から大きなムーブメントを起こす難しさを感じている。同時多発的に小さな課題解決の種をまくことが求められているのかも。
○地域に入りながら、住民の方と交流し少しずつ関係形成を進めていきたいが、担当業務、担当地域が複数あり、事業の進め方等に不安、困難を抱えている。
○地域のニーズを吸い上げられているのか、そのニーズに対する対応ができているのかについて、自問自答している。
○地域づくりを進める既存団体との連携や（学習会を開催するスキルがあっても）アプローチの方法が難しい。
○地域毎にそれぞれ特色があるため、その地域の方々と話し合い、その地域にあった地域づくりが必要である。
○課題は地区での座談会などで挙げられているが、実際の活動につながらない。
○地域づくりに関する認識を広く広めることが難しい。住民は基本生活が中心のため、地域づくりまでの意識を持ちにくい。
○移住者が多い地区のシニア層を学校と協働する人材として活用したいが、きっかけを作る難しさを感じている。

《参考：問 15 の主な回答記述～続き》

○地域づくりに寄りそってくれるアドバイザー制度（１年を通してよりそってくれる専門家等）があればと思う。

○自治会を横断した地域づくり活動の中心になる人材が、高齢化のため不足している。今まで、まち協事務局がカバーしていたが、カバーしきれなくなっている。

○自立している地域と行政任せの地域の差がありすぎて、職員の負担が大きすぎる（人口での職員配置に問題がある）。

○高校との連携が不足している。働き方改革が進む中で、高校教諭が負担なく情報共有し合えればと感じている。

○まちづくりや地域振興に関する業務は他部署が行っているため、公民館サイドでは分からないことが多い。

○地域福祉は地域住民が主役で、活動を主体的に行うことが必要になるが、住民の主体化の難しさやリーダーのなり手不足、基盤になる自治会運営が困難な状況であるなど、地域づくりの難しさを感じている。

○団体等の役員の高齢化が進んでおり、まちづくりの担い手となる後継者の育成や、新たな人材の発掘を含む地域団体や地域まちづくり組織への支援が求められている。

○地域内の一部の人達だけが活動に参加し、残りの殆どの人が地域の問題等に無関心な現状である。

○アパートに居住している方の多くは、自治会に加入せず、地域との関わりを嫌がる傾向にある。

＊資料　　1　県民対象の地域課題に関する意識・行動調査アンケート調査票

地域課題に関する意識・行動調査　【一般県民用】

調査協力のお願い

本調査は、県民の地域課題に関する意識・行動の状況を把握し、今後の地域づくりに関する学びの場の充実に向けた基礎データとするものです。

本調査の目的を理解いただき、協力をお願いします。なお、本調査結果は統計的に処理し、皆様の回答を個別に公表することはございません。

栃木県総合教育センター 生涯学習部

下記をよく読んでから、各設問に御回答ください。

本調査における「地域」や「地域課題」の捉え方について

本調査における**「地域」**とは、**あなた自身がお住まいの小学校区**と捉えてください。

また、**「地域課題」**とは、**当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるもの**ととらえてください。

問１　あなたのお住まいの地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯　　2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援　　4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）　　6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）　　8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）　　10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少　　12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）　　14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー　　16　その他〔　　　　〕

問２　現在、あなたは地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。上記選択肢や下記活動例を参考に、あてはまる番号に○をつけてください。

1　取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）　→問３～問６・問10～
2　取り組んでいない　→問７～

＊「地域課題の解決に向けた活動」の活動例 ＊

地域行事やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動への参加、地域の清掃活動、交通マナー等の街頭での啓発活動、福祉施設や高齢者施設への慰問、花いっぱい運動、子どもへのスポーツの技術指導、自治会の班長、子ども会の会長、スクールガード、地域の防災訓練への参加、学校支援ボランティア　等

次のページへお進みください

【問２で１に回答された方は、問３～６にお答えください。その後、問10にお進みください。】

問３　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯　　2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援　　4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）　　6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）　　8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）　　10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少　　12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）　　14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー　　16　その他〔　　　　〕

問４　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。活動にはどのような立場で取り組まれています（いました）か。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　個人として　　2　団体のリーダーとして　　3　団体のリーダーを補佐する立場で
4　団体のメンバーとして　　5　判断しにくい

問５　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。今後、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯　　2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援　　4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）　　6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）　　8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）　　10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少　　12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）　　14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー　　16　特にない
17　その他〔　　　　〕

問６　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。どのような手助けがあるとさらに活動に取り組みやすくなると思いますか。あてはまる番号３つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介　　2　メンバー募集を行っている地域団体の情報提供
3　地域活動を行っている団体の紹介　　4　実際に地域活動をできる場所の紹介
5　地域活動事例の提供　　6　地域活動拠点の提供
7　地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会
8　同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会
9　地域活動の資金や必要な物品の支援　　10　その他〔　　　　〕

【問２で２に回答された方は、問７～９にお答えください。その後、問 10 にお進みください。】

問７　問２で「取り組んでいない」と回答された方に伺います。
取り組まれていない理由は何ですか。あてはまる番号全てに〇をつけてください。
その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　忙しいため、取り組む時間がないから
2　友人や家族など身近な人がやっていないから
3　１人だとやりたくないから
4　やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから
5　アイディアや人間関係など自信がないから
6　そもそもそういう活動があることを知らなかったから
7　既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから
8　県や市など行政が取り組むべきことだから
9　興味がわかないから
10　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問８　問２で「取り組んでいない」と回答された方に伺います。
取り組んでいない理由が解消された場合、地域課題解決に向けた活動に取組もうと思いますか。
最もよくあてはまる番号１つに〇をつけてください。

1　思う　　2　少し思う　　3　あまり思わない　　4　思わない

問９　問２で「取り組んでいない」と回答された方に伺います。
どのような活動であれば、取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに〇をつけてください。
その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯	2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援	4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）	6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）	8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）	10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少	12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）	14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー	16　特にない
17　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕	

《次の設問からは、全員お答えください。》

問 10　地域課題に関して学習する機会の必要性を感じますか。
最もよくあてはまる番号１つに〇をつけてください。

1　感じる　　2　どちらかといえば感じる
3　どちらかといえば感じない　　4　感じない

次のページへ
お進みください

問 11　地域課題に関して学習する機会は、十分に提供されていると感じますか。
最もよくあてはまる番号１つに〇をつけてください。

1　十分に提供されている　　2　どちらかといえば提供されている
3　どちらかといえば提供されていない　　4　まったく提供されていない

問 12　その他、地域活動全般について、自由にお書きください。

《次の設問からは、あなた自身のことについてお聞きします。》

問 13　あなたの現在の年齢は、以下のどれに該当しますか。あてはまる番号に〇をつけてください。

1　２９歳以下　　2　３０～３９歳　　3　４０～４９歳
4　５０～５９歳　　5　６０～６９歳　　6　７０歳以上

問 14　差し支えなければ御回答ください。
あなたの性別について、あてはまる番号に〇をつけてください。

1　女　　2　男

問 15　あなたのお住まいの市町を選んで、あてはまる番号に〇をつけてください。

【河内地区】	1　宇都宮市	2　上三川町	
【上都賀地区】	3　鹿沼市	4　日光市	
【芳賀地区】	5　真岡市	6　益子町	7　茂木町
	8　市貝町	9　芳賀町	
【下都賀地区】	10　壬生町	11　野木町	12　小山市
	13　栃木市	14　下野市	
【塩谷南那須地区】	15　矢板市	16　さくら市	17　那須烏山市
	18　塩谷町	19　高根沢町	20　那珂川町
【那須地区】	21　大田原市	22　那須町	23　那須塩原市
【安足地区】	24　佐野市	25　足利市	
【その他】	26　県外		

以上で設問は終わりです。御協力ありがとうございました。

2　高校生対象の地域課題に関する意識・行動調査アンケート調査票

地域課題に関する意識・行動調査　【生徒用】

調査協力のお願い

本調査は、県内高校生の地域課題に関する意識・行動の状況を把握し、今後の地域づくりに関する学びの場の充実に向けた基礎データとするものです。
本調査の目的を理解いただき、協力をお願いします。なお、本調査結果は統計的に処理し、皆様の回答を個別に公表することはありません。

栃木県総合教育センター　生涯学習部

問１　学校付近や通学時におけるあなたの困りごとや地域の気がかりなこと（地域課題）を教えてください。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　集う場所や遊ぶ場所がない　　2　車や自転車の交通マナーが悪い
3　勉強する場所がない　　4　登下校時に危険を感じる場所がある
5　豪雨や地震などの災害時対策が不安である　　6　ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない
7　学校と住民との交流が不足している　　8　外国人との交流がない
9　お祭りなどのイベントが盛り上がっていない　　10　高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない
11　子どもの安全確保が不十分である　　12　観光名所や名産品がない
13　商店街の活気がない　　14　空き家や耕作放棄地が増えている
15　郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない　　16　子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない
17　その他〔　　　　　　　　　　〕

問２　問１の１～16 中で、現状を改善するために、あなたが関わってもよいと思うものはどれですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　集う場所や遊ぶ場所がない　　2　車や自転車の交通マナーが悪い
3　勉強する場所がない　　4　登下校時に危険を感じる場所がある
5　豪雨や地震などの災害時対策が不安である　　6　ゴミが落ちていたり、ゴミの分別ができていない
7　学校と住民との交流が不足している　　8　外国人との交流がない
9　お祭りなどのイベントが盛り上がっていない　　10　高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない
11　子どもの安全確保が不十分である　　12　観光名所や名産品がない
13　商店街の活気がない　　14　空き家や耕作放棄地が増えている
15　郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない　　16　子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない
17　その他〔　　　　　　　　　　〕

問３　あなたは、学校の活動で、ボランティアや地域の活動に取り組んでいますか。その場面について、あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　各教科　　2　総合的な学習の時間　　3　部活動　　4　ホームルーム活動
5　生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動　　6　学校行事
7　その他〔　　　　　　　　　　〕　　8　取り組んでいない

次のページへ
お進みください

問４　学校での地域活動について、次の中でどのようなことを期待しますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　地域の特色や課題を知ることができる　　2　地域の産業や文化への理解を深める
3　地域の多様な人々と交流できる　　4　地域の企業・機関・上級学校とつながりをもてる
5　地域の仕組みを学ぶことができる　　6　地域貢献の方法・技術を学ぶことができる
7　地域の課題の解決に貢献できる　　8　地域の活性化に貢献できる
9　自分の進路意識が高まる　　10　様々な体験活動ができる
11　自分の視野を広げる　　12　自分を表現する力を養う
13　教科学習についてプラスなる　　14　大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる
15　授業で学んだことを実社会で役立てる場にできる　　16　特にない
17　その他〔　　　　　　　　　　〕

問５　地域のことを知る・学習する機会は、学校や地域から十分に提供されていると感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　十分に提供されている　　2　どちらかといえば提供されている
3　どちらかといえば提供されていない　　4　まったく提供されていない

問６　あなたは、学校の活動以外で、ボランティアや地域（学校の所在地・自宅の所在地ともに含む）の活動に取り組んでいますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1　取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）→問７～問 10・問 14～
2　取り組んでいない→問 11～

【問６で１に回答された方は、問７～10 にお答えください。その後、問 14 にお進みください。】

問７　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯（地域での防災訓練 、防災マップの作成 等）
2　子どもの安全確保（登下校の見守り、安全・安心な子どもの居場所づくり 等）
3　家庭教育支援・子育て支援（児童館・保育園のボランティア 等）
4　青少年の健全育成（体験活動、主権者としての学習 等）
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話の伝承、お祭り・伝統行事への参加 等）
6　子ども会・JLC・地域活動団体等の運営（まちづくり・ボランティア団体等の活動への参加 等）
7　住民同士の交流（地域の運動会や文化祭への参加 等）
8　高齢化（安全確保、福祉施設への慰問 等）
9　地域ブランド（観光の活性化、名産品をつくる 等）
10　国際化（国際交流イベントへの参加、日本語教室への支援 等）
11　過疎化・人口減少（空き家や耕作放棄地の活用 等）
12　環境保護・美化（道路・河川の清掃、花いっぱい運動 等）
13　人権問題（差別の撤廃、社会を明るくする運動 等）
14　市街中心部の空洞化（商店街の活性化、地域情報誌の発行 等）
15　交通マナー（街頭での啓発活動 等）
16　小中学生への学習指導・スポーツ指導（小中学生での 等）
17　その他〔　　　　　　　　　　〕

問８　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。活動にはどのような立場で取り組んでいます（いました）か。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　個人として　　2　地域の団体のリーダーとして
3　地域の団体のメンバーとして　　4　その他〔　　　　　　　　　　〕

問９　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。
どのような手助けがあると、さらに活動に取り組みやすくなると思いますか。あてはまる番号**３つ以内**に〇をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　地域活動に関する相談ができる機会の提供、機関の紹介
2　メンバー募集を行っている地域団体の情報提供
3　地域活動を行っている団体の紹介
4　実際に地域活動ができる場所の紹介
5　地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会
6　同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会
7　地域活動の資金や必要な物品の支援
8　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問 10　問６で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。
今後、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまる番号**全て**に〇をつけてください。
その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1	集う場所や遊ぶ場所づくり	2	車や自転車の交通マナーの改善
3	勉強する場所づくり	4	登下校時に危険を感じる場所の点検
5	豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	6	ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動
7	学校と住民との交流活動	8	外国人との交流
9	お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	10	高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援
11	子どもの安全確保の支援	12	観光の活性化や名産品をつくる活動
13	商店街の活性化	14	空き家や耕作放棄地の活用や管理
15	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	16	子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援
17	その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕		

【問６で２に回答された方は、問 11～13 にお答えください。その後、問 14 にお進みください。】

問 11　問６で「取り組んでいない」と回答された方に伺います。
取り組んでいない理由は何ですか。あてはまる番号**全て**に〇をつけてください。
その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　学校の勉強や部活動が忙しいから
2　友人や家族など身近な人がやっていないから
3　１人だとやりたくないから
4　やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから
5　アイディアや人間関係など自信がないから
6　そもそもそういう活動があることを知らなかったから
7　既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから
8　県や市など行政が取り組むべきことだから
9　興味がわかないから
10　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

次のページへ
お進みください

問 12　問６で「取り組んでいない」と回答された方に伺います。
問 11 の理由が解消されたら、活動に取り組みたいと思いますか。最もよくあてはまる番号**１つ**に〇をつけてください。

1　思う　　2　少し思う　　3　あまり思わない　　4　思わない

問 13　問６で「取り組んでいない」と回答された方に伺います。
どのような活動であれば、取り組んでみたいですか。あてはまる番号**全て**に〇をつけてください。
その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1	集う場所や遊ぶ場所づくり	2	車や自転車の交通マナーの改善
3	勉強する場所づくり	4	登下校時に危険を感じる場所の点検
5	豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	6	ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動
7	学校と住民との交流活動	8	外国人との交流
9	お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	10	高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援
11	子どもの安全確保の支援	12	観光の活性化や名産品をつくる活動
13	商店街の活性化	14	空き家や耕作放棄地の活用や管理
15	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	16	子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援
17	特にない	18	その他〔　　　　　　　　〕

《次の設問からは、全員お答えください。》

問 14　その他、地域を学ぶことやボランティア・地域の活動について、自由にお書きください。

《次の設問からは、あなた自身のことについてお聞きします。》

問 15　差し支えなければ回答してください。
あなたの性別について、あてはまる番号に〇をつけてください。

1　女　　2　男

問 16　あなたの通学する学校のある市町と、あなたがお住まいの市町は、
同じですか。あてはまる番号に〇をつけてください。

1　同じ市町である　　2　違う市町である

以上で設問は終わりです。御協力ありがとうございました。

3　高等学校・特別支援学校教員対象の地域課題に関する取組状況等調査アンケート調査票

地域課題に関する取組状況等調査　【教員用】

調査協力のお願い

本調査は、各学校の地域課題への取組状況を把握し、今後の地域づくりに関する学びの場の充実に向けた基礎データとするものです。

御多用中誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。なお、本調査結果は統計的に処理し、皆様の回答を個別に公表することはございません。

栃木県総合教育センター　生涯学習部

本調査における「地域」や「地域課題」の捉え方について

本調査における**「地域」**とは、**あなたが勤務する学校付近**と捉えてください。

また、**「地域課題」**とは、当該地域において、**相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられる**ものと捉えてください。

問１　あなたの勤務する学校のある地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯
2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援
4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）
6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）
8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）
10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少
12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）
14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー
16　その他〔　　　　　　　　　　　　　　〕

問２　現在、あなたの学校では、地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。下記活動例を参考に、あてはまる番号に○をつけてください。

1　取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）　→問３～
2　取り組んでいない　→問８～

＊「地域課題の解決に向けた活動」の活動例 ＊
地域学、地域行事やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動への参加、名産品をつくる、地域の清掃活動、交通マナー等の街頭での啓発活動、福祉施設や高齢者施設への慰問、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、児童館でのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、花いっぱい運動、部活動での異世代間のスポーツ技術指導 放課後活動における小中学生への学習支援 等

＊貴校で取り組まれた事業の内容について、下記枠内に具体的に御記入いただくか、概要等が分かる資料等を添付してください。

次のページへ
お進みください

【問２で１に回答された方は、問３～７にお答えください。その後、問８にお進みください。】

問３　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。それは、どのような内容の課題解決に向けた活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯
2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援
4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）
6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）
8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）
10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少
12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）
14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー
16　その他〔　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。それは、どのような取組として行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　学力向上・授業の質の向上
2　環境整備
3　キャリア教
4　地域行事参加
5　地域理解
6　地域住民の
7　地域施設訪問
8　防災（減災）・防犯
9　交通安全
10　その他〔

問５　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。それらの活動は、どのような位置づけで行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　各教科
2　総合的な学習の時間
3　部活動
4　ホームルーム活動
5　生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動
6　学校行事
7　地域側からの要請を受けての高校生への活動紹介
8　その他〔　　　　　　　　　　〕

問６　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。それらの活動は、どのような機関と連携して行われていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　県教育委員会（事務局・出先機関等）
2　市町教育委員会（事務局・出先機関等）
3　県知事部局（教育委員会を除く県行政機関等）
4　市町首長部局（教育委員会を除く市町行政機関等）
5　社会福祉協議会（県・市町含む）
6　中間支援センター（市民活動支援センター等）
7　民間企業・施設（社会福祉施設等）
8　異校種の学校・幼稚園・保育施設等
9　NPO・地域活動団体
10　高等教育機関（大学・短期大学・専門学校等）
11　自治会・育成会等
12　その他〔　　　　　　　　　　〕

問７　問２で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方に伺います。地域課題に関する学習を提供した成果には、どのようなものがありますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　生徒が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた
2　生徒が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた
3　生徒が地域課題を解決しようとする意識を高めた
4　生徒が地域にある課題の存在に気づいた
5　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕
6　特にない

《次の設問からは、全員お答えください。》

問８　生徒に対して、学校や地域が地域課題に関する学習の機会を十分に提供していると感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　十分に提供している
2　どちらかといえば提供している
3　どちらかといえば提供していない
4　まったく提供していない

問９　今後、どのようなテーマ（内容）を取り上げようと考えていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯
2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援
4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）
6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）
8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）
10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少
12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）
14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー
16　特にない
17　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問10　地域課題に関する活動を進めていくために、どのような課題を感じていますか。特にあてはまる番号３つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　地域との連携・協働を推進していくための体制の整備
2　地域との連携・協働に関する教職員・学校関係者の十分な理解・協力
3　地域との連携・協働を推進する地域コーディネーターの確保およびサポート
4　教職員それぞれに余裕がない
5　学校側の地域との連携・協働についての方針・ビジョンが不明瞭（連携・協働する内容が明確にできない等）
6　既存の教育活動を充実させることが優先で、地域との連携・協働は優先順位が低い
7　地域側とのつながりがない・地域側とどう連携していいか分からない
8　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問11　どのようなサポートがあると、地域課題に関する活動が円滑に進むと思いますか。あてはまる番号３つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介
2　生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供
3　地域活動資金・機材の支援
4　地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）
5　地域活動拠点の提供
6　活動機会の創出・提供
7　社会教育施設等に関する情報提供
8　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱや NPO 等地域活動に関する情報提供
9　教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供（啓発）
10　行政等機関（県や市町の教育委員会・県知事部局・市町首長部局・社会福祉協議会・中間支援センター等）との連携
11　民間機関（民間企業・NPO・地域活動団体・高等教育機関等）との連携
12　異校種の学校（小学校・中学校・義務教育学校・幼稚園・保育園等）との連携
13　その他〔　　　　　　　　〕
14　特にない

次のページへ
お進みください

問13　国（文部科学省）では、「地域との協働による高等学校改革の推進」において、「高等学校と市町村・産業界・高等教育機関・社会教育施設（公民館等）等とが協働し、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組を推進すること」を求めています。
このことについて、あなたが感じていることなど、自由にお書きください。

《次の設問からは、あなた自身のことについてお聞きします。》

問14　あなたの現在の年齢は、以下のどれに該当しますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1　２９歳以下
2　３０～３９歳
3　４０～４９歳
4　５０～５９歳
5　６０歳以上

問15　差し支えなければ御回答ください。
あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。

1　女
2　男

問16　あなたは、地域連携教員ですか。あてはまる番号に○をつけてください。
２を回答した場合には、本調査に御協力いただくことになった立場を〔　〕内に御記入ください。

1　地域連携教員である
2　地域連携教員ではない〔　　　　　　　　　　〕

問17　あなたは、社会教育主事の資格を持っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1　持っている
2　持っていない

問18　あなたの勤務する市町を選んで、あてはまる番号に○をつけてください。

【河内地区】	1　宇都宮市	2　上三川町	
【上都賀地区】	3　鹿沼市	4　日光市	
【芳賀地区】	5　真岡市	6　益子町	7　茂木町
	8　市貝町	9　芳賀町	
【下都賀地区】	10　壬生町	11　野木町	12　小山市
	13　栃木市	14　下野市	
【塩谷南那須地区】	15　矢板市	16　さくら市	17　那須烏山市
	18　塩谷町	19　高根沢町	20　那珂川町
【那須地区】	21　大田原市	22　那須町	23　那須塩原市
【安足地区】	24　佐野市	25　足利市	

以上で設問は終わりです。御協力ありがとうございました。

地域課題に関する取組状況等調査　【市町職員用】

調査協力のお願い

本調査は、各市町の地域課題への取組状況を把握し、今後の地域づくりに関する学びの場の充実に向けた基礎データとするものです。
御多用中誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。なお、本調査結果は統計的に処理し、皆様の回答を個別に公表することはございません。

栃木県総合教育センター 生涯学習部

本調査における「地域」や「地域課題」の捉え方について

本調査における**「地域」**とは、あなたが勤務する市町と捉えてください。
また、**「地域課題」**とは、当該地域において、**相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられる**ものと捉えてください。

問１　あなたの勤務する地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯　　2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援　　4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）　　6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）　　8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）　　10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少　　12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）　　14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー　　16　その他〔　　　　　　　　　　〕

問２　あなたの勤務する市町では、地域住民に対して、地域課題に関する学習の機会を提供する必要性を感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　感じる　　2　どちらかといえば感じる
3　どちらかといえば感じない　　4　感じない

問３　あなたの勤務する市町は、地域住民に対して、地域課題に関する学習の機会を十分に提供していると感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　十分に提供している　　2　どちらかといえば提供している
3　どちらかといえば提供していない　　4　まったく提供していない

【問３で１～３に回答された方は、問４～９にお答えください。その後、問 11 にお進みください。】

問４　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
あなたの機関では、地域課題に関する学習は、どの程度（回数で）実施していますか（生涯学習・社会教育主管課職員は、主管課が運営の主体となっている学習についてお答えください）。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。（※１つの講座を連続３回で実施する場合は、３回と計上してください。）

1　年１～２回　　2　年３～５回　　3　年６～９回　　4　年１０回以上

問５　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
問４に該当する地域課題に関する学習には、どのような年齢層の方が参加されますか。中心となる年代について、最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　１９歳以下　　2　２０歳代　　3　３０歳代　　4　４０歳代
5　５０歳代　　6　６０歳代　　7　７０歳代　　8　８０歳以上

問６　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習として、どのようなテーマ（内容）を取りあげていますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯　　2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援　　4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）　　6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）　　8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）　　10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少　　12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）　　14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー　　16　その他〔　　　　　　　　　　〕

問７　問３で「１～３」と回答された方に伺います。取り組まれた事業について、具体的にお書きください。

問８　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習を提供した成果には、どのようなものがありますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　参加者が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた
2　参加者が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた
3　参加者が地域課題を解決しようとする意識を高めた
4　参加者が地域にある課題の存在に気づいた
5　その他〔　　　　　　　　　　〕

問９　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習を提供するにあたっての課題には、どのようなものがありますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　十分な予算を確保するのに困難を感じている
2　職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている
3　講師に関する情報を収集することに困難を感じている
4　学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている
5　適当な会場を確保することに困難を感じている
6　参加者を集めることに困難を感じている
7　他部局・他機関との連携に困難を感じている
8　その他〔　　　　　　　　　　〕

【問３で４に回答された方は、問 10 にお答えください。その後、問 11 にお進みください。】

問10　問３で「４」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習を提供していない理由として、どのようなものがありますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　予算が確保できないから　　2　他に優先する業務があるから
3　参加者が見込めないから　　4　事業計画にないから
5　他部局・他機関が行っているから　　6　その他〔　　　　　　　　　　〕

《次の設問からは、全員お答えください。》

問 11　今後、あなたの市町では地域課題に関する学習機会の提供をどのように進めていく予定ですか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　現在も行っているが、さらに拡充を図る　　2　現在も行っているが、同様に行う
3　現在は行っているが、縮小を図る　　4　現在は行っていないが、今後は導入を図る
5　現在も行っていないが、今後も導入する予定はない

問 12　今後、どのようなテーマ（内容）を取り上げようと考えていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯　　2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援　　4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）　　6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）　　8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）　　10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少　　12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）　　14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー　　16　特にない
17　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問 13　地域課題の解決に向けた活動の活性化に向けて、住民に対して、行政としてどのようなサポートが必要であると感じていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介　　2　地域活動に関する学びの場の提供
3　地域活動資金・機材の支援　　4　地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）
5　地域活動拠点の提供　　6　活動機会の創出・提供活動
7　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱや NPO 等地域活動に関する情報提供　　8　他部局・他機関との連携
9　地域活動をしている人や団体同士の交流の機会　　10　その他〔　　　　　　　　〕

問 14　国（文部科学省）では、「地域との協働による高等学校改革の推進」において、「高等学校と市町村・産業界・高等教育機関・社会教育施設（公民館等）等とが協働し、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組を推進すること」を求めています。
あなたの市町では、高校生の地域活動に対する「学校に向けて」と「高校生個人に向けて」実施可能なサポートについて、またそのサポート実施にあたっての課題について、それぞれあてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

○学校に対して

1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介　　2　生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供
3　地域活動資金・機材の支援　　4　地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）
5　地域活動拠点の提供　　6　活動機会の創出・提供
7　社会教育施設等に関する情報提供　　8　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱや NPO 等地域活動に関する情報提供
9　教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供（啓発）
10　特にない　　11　その他〔　　　　　　　　〕

○高校生個人に対して

1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介　　2　地域活動に関する学びの場の提供
3　地域活動資金・機材の支援　　4　地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）
5　地域活動拠点の提供　　6　活動機会の創出・提供
7　社会教育施設等に関する情報提供　　8　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱや NPO 等地域活動に関する情報提供
9　地域活動をしている人や団体同士の交流の機会　　10　特にない
11　その他〔　　　　　　　　〕

次のページへ
お進みください

○サポートにあたっての課題

1　十分な予算を確保するのに困難を感じている
2　職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている
3　学校の体制が整備されているか分からないので、推進していくことに困難を感じている
4　学校の教職員・学校関係者の理解・協力が不十分なので、推進していくことに困難を感じている
5　学校と地域の連携推進に協力してくれる地域住民の人材が不足している（コーディネーター等も含む）
6　高等学校等とのつながりがないので、関係づくりから始める必要がある
7　他部局・他機関との連携に困難を感じている
8　特にない　　9　その他〔　　　　　　　　〕

問 15　その他、地域づくりの在り方等について日頃感じていることなど、自由にお書きください。

《次の設問からは、あなた自身のことについてお聞きします。》

問 16　あなたの現在の年齢は、以下のどれに該当しますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1　２９歳以下　　2　３０～３９歳　　3　４０～４９歳
4　５０～５９歳　　5　６０歳以上

問 17　差し支えなければ御回答ください。
あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。

1　女　　2　男

問 18　あなたの現在の所属は、以下のどれに該当しますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 生涯学習・社会教育主管課　　2 公民館・生涯学習センター　　3 その他〔　　　　　　〕

問 19　あなたの現在の所属での勤務歴は、以下のどれに該当しますか。
あてはまる番号に○をつけてください。

1　1年目　　2　2年目　　3　3年目　　4　4年目～

問 20　あなたの勤務する市町を選んで、あてはまる番号に○をつけてください。

【河内地区】	1　宇都宮市	2　上三川町	
【上都賀地区】	3　鹿沼市	4　日光市	
【芳賀地区】	5　真岡市	6　益子町	7　茂木町
	8　市貝町	9　芳賀町	
【下都賀地区】	10　壬生町	11　野木町	12　小山市
	13　栃木市	14　下野市	
【塩谷南那須地区】	15　矢板市	16　さくら市	17　那須烏山市
	18　塩谷町	19　高根沢町	20　那珂川町
【那須地区】	21　大田原市	22　那須町	23　那須塩原市
【安足地区】	24　佐野市	25　足利市	

以上で設問は終わりです。御協力ありがとうございました。

５　社会福祉協議会・中間支援センター職員対象の地域課題に関する取組状況等調査アンケート調査票

地域課題に関する取組状況等調査　【ボラセン・社協職員用】

調査協力のお願い

本調査は、各市町の地域課題への取組状況を把握し、今後の地域づくりに関する学びの場の充実に向けた基礎データとするものです。

御多用中誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。なお、本調査結果は統計的に処理し、皆様の回答を個別に公表することはございません。

栃木県総合教育センター 生涯学習部

本調査における「地域」や「地域課題」の捉え方について

本調査における「**地域**」とは、あなたが勤務する市町と捉えてください。

また、「**地域課題**」とは、当該地域において、**相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられる**ものと捉えてください。

問１　あなたの勤務する地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号３つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

１　防災（減災）・防犯
２　子どもの安全確保
３　家庭教育支援・子育て支援
４　青少年の健全育成
５　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）
６　自治会・子ども会等の運営
７　住民同士の交流（連帯感の不足等）
８　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
９　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）
10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少
12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）
14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー
16　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問２　あなたの機関では、地域住民に対して、地域課題に関する学習の機会を提供する必要性を感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

１　感じる
２　どちらかといえば感じる
３　どちらかといえば感じない
４　感じない

問３　あなたの機関では、地域住民に対して、地域課題に関する学習の機会を十分に提供していると感じますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

１　十分に提供している
２　どちらかといえば提供している
３　どちらかといえば提供していない
４　まったく提供していない

【問３で１～３に回答された方は、問４～９にお答えください。その後、問 11 にお進みください。】

問４　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
あなたの機関では、地域課題に関する学習は、どの程度（回数で）実施していますか。最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。（※１つの講座を連続３回で実施する場合は、３回と計上してください。）

１　年１～２回
２　年３～５回
３　年６～９回
４　年１０回以上

問５　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
あなたの機関では、地域課題に関する学習には、どのような年齢層の方が参加されますか。中心となる年代について、最もよくあてはまる番号１つに○をつけてください。

１　１９歳以下
２　２０歳代
３　３０歳代
４　４０歳代
５　５０歳代
６　６０歳代
７　７０歳代
８　８０歳以上

問６　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習として、どのようなテーマ（内容）を取りあげていますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

１　防災（減災）・防犯
２　子どもの安全確保
３　家庭教育支援・子育て支援
４　青少年の健全育成
５　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）
６　自治会・子ども会等の運営
７　住民同士の交流（連帯感の不足等）
８　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
９　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）
10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少
12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）
14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー
16　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問７　問３で「１～３」と回答された方に伺います。取り組まれた事業について、具体的にお書きください。

問８　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習を提供した成果には、どのようなものがありますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

１　参加者が地域課題を解決するための具体的な行動を始めた
２　参加者が地域課題を解決するための知識や技術を身につけた
３　参加者が地域課題を解決しようとする意識を高めた
４　参加者が地域にある課題の存在に気づいた
５　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問９　問３で「１～３」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習を提供するにあたっての課題には、どのようなものがありますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

１　十分な予算を確保するのに困難を感じている
２　職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている
３　講師に関する情報を収集することに困難を感じている
４　学習への関心を高めるようなプログラムの立案に困難を感じている
５　適当な会場を確保することに困難を感じている
６　参加者を集めることに困難を感じている
７　他部局・他機関との連携に困難を感じている
８　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【問３で４に回答された方は、問 10 にお答えください。その後、問 11 にお進みください。】

問 10　問３で「４」と回答された方に伺います。
地域課題に関する学習を提供していない理由として、どのようなものがありますか。
あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

１　予算が確保できないから
２　他に優先する業務があるから
３　参加者が見込めないから
４　地域課題の解決は、市町当局の業務だから
５　事業計画にないから
６　他部局・他機関が行っているから
７　その他〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

《次の設問からは、全員お答えください。》

問 11　今後、あなたの組織では地域課題に関する学習機会の提供をどのように進めていく予定ですか。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

1　現在も行っているが、さらに拡充を図る　　2　現在も行っているが、同様に行う
3　現在は行っているが、縮小を図る　　4　現在は行っていないが、今後は導入を図る
5　現在も行っていないが、今後も導入する予定はない

問 12　今後、どのようなテーマ（内容）を取り上げようと考えていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　防災（減災）・防犯　　2　子どもの安全確保
3　家庭教育支援・子育て支援　　4　青少年の健全育成
5　郷土芸能の伝承（神楽・民話等）　　6　自治会・子ども会等の運営
7　住民同士の交流（連帯感の不足等）　　8　高齢化（安全確保・生きがいづくり等）
9　地域ブランド（地元の観光・産業の活性化等）　　10　国際化（外国人居住者への対応・国際交流等）
11　過疎化・人口減少　　12　環境保護・美化（ゴミの分別・リサイクル等）
13　人権問題（差別等）　　14　市街中心部の空洞化（商店街・繁華街の衰退等）
15　交通マナー　　16　特にない
17　その他〔　　　　　　　　　　　　　　〕

問 13　地域課題の解決に向けた活動の活性化に向けて、住民に対して、貴機関としてどのようなサポートが必要であると感じていますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介　　2　地域活動に関する学びの場の提供
3　地域活動資金・機材の支援　　4　地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）
5　地域活動拠点の提供　　6　活動機会の創出・提供活動
7　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱや NPO 等地域活動に関する情報提供　　8　他部局・他機関との連携
9　地域活動をしている人や団体同士の交流の機会　　10　その他〔　　　　　　　　〕

問 14　国（文部科学省）では、「地域との協働による高等学校改革の推進」において、「高等学校と市町村・産業界・高等教育機関・社会教育施設（公民館等）等とが協働し、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組を推進すること」を求めています。
あなたの組織では、高校生の地域活動に対する「学校に向けて」と「高校生個人に向けて」実施可能なサポートについて、またそのサポート実施にあたっての課題について、それぞれあてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

○学校に対して
1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介　　2　生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供
3　地域活動資金・機材の支援　　4　地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）
5　地域活動拠点の提供　　6　活動機会の創出・提供
7　ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供
8　教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供（啓発）
9　特にない　　10　その他〔　　　　　　　　〕

○高校生個人に対して
1　地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介　　2　地域活動に関する学びの場の提供
3　地域活動資金・機材の支援　　4　地域活動のﾘｰﾀﾞｰ・ｻﾎﾟｰﾀｰの配置（地域おこし協力隊等）
5　地域活動拠点の提供　　6　活動機会の創出・提供
7　ボランティアや NPO 等地域活動に関する情報提供　　8　地域活動をしている人や団体同士の交流の機会
9　特にない　　10　その他〔　　　　　　　　〕

○サポートにあたっての課題
1　十分な予算を確保するのに困難を感じている
2　職員数が不足し、十分な準備をすることに困難を感じている
3　学校の体制が整備されているか分からないので、推進していくことに困難を感じている
4　学校の教職員・学校関係者の理解・協力が不十分なので、推進していくことに困難を感じている
5　学校と地域の連携推進に協力してくれる地域住民の人材が不足している（コーディネーター等も含む）
6　高等学校等とのつながりがないので、関係づくりから始める必要がある
7　他部局・他機関との連携に困難を感じている
8　その他〔　　　　　　　　〕　　9　特にない

問 15　その他、地域づくりの在り方等について日頃感じていることなど、自由にお書きください。

《次の設問からは、あなた自身のことについてお聞きします。》

問 16　あなたの現在の年齢は、以下のどれに該当しますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1　２９歳以下　　2　３０～３９歳　　3　４０～４９歳
4　５０～５９歳　　5　６０歳以上

問 17　差し支えなければ御回答ください。
あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。

1　女　　2　男

問 18　あなたの現在の所属は、以下のどれに該当しますか。あてはまる番号に○をつけてください。
その他を選択した場合には、〔　〕内にお書きください。

1　中間支援センター　　2　社会福祉協議会　　3　その他〔　　　　　　〕

問 19　あなたの現在の所属での勤務歴は、以下のどれに該当しますか。
あてはまる番号に○をつけてください。

1　1年目　　2　2年目　　3　3年目　　4　4年目～

問 20　あなたの勤務する市町を選んで、あてはまる番号に○をつけてください。

【河内地区】	1　宇都宮市	2　上三川町	
【上都賀地区】	3　鹿沼市	4　日光市	
【芳賀地区】	5　真岡市	6　益子町	7　茂木町
	8　市貝町	9　芳賀町	
【下都賀地区】	10　壬生町	11　野木町	12　小山市
	13　栃木市	14　下野市	
【塩谷南那須地区】	15　矢板市	16　さくら市	17　那須烏山市
	18　塩谷町	19　高根沢町	20　那珂川町
【那須地区】	21　大田原市	22　那須町	23　那須塩原市
【安足地区】	24　佐野市	25　足利市	

以上で設問は終わりです。御協力ありがとうございました。

高等学校・特別支援学校の教職員の方々
行政・市民活動支援センター・社会福祉協議会の職員の方々 へ

高校生の地域活動参加促進に向けて
～高校生と関わる大人ができること～

さあ、今こそ高校生の「地域参画」！

なぜ、高校生の地域参画が“今”必要か？

現状

学校では･･･
○新学習指導要領への対応
○働き方改革の推進　　等

地域では･･･
○地域の人間関係の希薄化
○高齢化・過疎化・少子化 等

高校生は･･･
○自己有用感、学習意欲が低い
○社会に関わる意識が低い　等

↓ 高校生の地域参画

効果

学校では
「生きる力」を育む学びが充実する
○地域における活動を通じた探究的な学びが実現できる
○学校の中だけではできない多様な社会体験が提供できる
○生徒の成長を促す学びの土壌ができる

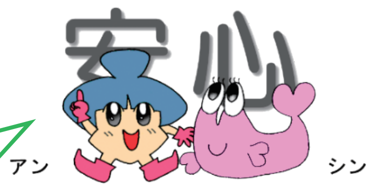
地域では
「地域活性化」のきっかけになる
○高校生との関わりを通して地域の魅力を再確認できる
○異世代のつながりが生まれ、お互いに助け合い、支え合う
　地域コミュニティの再生につながる

高校生は
「社会的な自立」のきっかけになる
○自分と社会とのつながりを実感できる
○自分らしさを発揮できる世界が広がる
○ソーシャルスキルを身につけられる

↓ 学校が変わる！
地域が変わる！

変容
「生徒の学びを深める学習環境づくり」「地域教育力の向上･持続可能な地域づくり」

　栃木県総合教育センターでは、県民、特に高校生の地域活動参加を促進する目的で、高校生、県民、県立学校教員、行政・市民活動支援センター（以下、ボラセン）・社会福祉協議会（以下、社協）等職員約 4,700 名に対して、地域・社会への課題認識や活動・学習への意識についてアンケート調査を実施しました。
　調査結果の詳しい内容を知りたい方は、Web サイト「とちぎレインボーネット」にアクセスして、「地域課題に関する調査研究」を御覧ください。



「アン・シン」は、栃木県総合教育センターのマスコットキャラクターです。

高校生の地域活動への関心の度合いの差

地域活動の「現在の取組状況」と「今後の取組意思」の調査結果から、高校生を次のような３つの群に分類しました。これらは、高校生の地域活動への関心の度合いで分類しています。地域活動への参加、定着につなげていくためには、それぞれに合わせたアプローチの工夫が必要となってきます。

＝ 地域活動への関心の度合いによる高校生の分類とアプローチの工夫 ＝

無関心群 30.2% の高校生
現在：地域活動していない
今後：地域活動しない（当事者意識がない）

↓ 高校生の地域の諸課題への関心を高めるには
学校教育の強みを生かすこと が必要

有関心群 42.1% の高校生
現在：地域活動していない
今後：地域活動したい

↓ 高校生の地域活動への参加につなげるには
学校と行政･ボラセン･社協等との協力･連携 が必要

既活動群 27.8% の高校生
現在：地域活動している

↓ 高校生の地域活動への参加の定着化や主体的な参画につなげるには
多様な世代との交流や対話の場を創ること が必要

高校生対象調査の回答者 2,692 名のうち、有効回答者 2,590 名の分類。パーセント表示については、小数第 2 位を四捨五入して掲載。

無関心群の高校生のために　「社会参画意識」を高める教育の充実

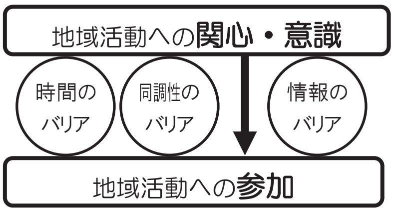
地域や社会に興味や関心がない高校生に対しては、自分のやりたいことなどを考えさせると同時に、自分と他者が生活している社会にまで視野を広げ、地域課題解決に対する当事者意識を高めていくことが必要となってきます。このような姿勢は、高校生に求められる姿であり、学校教育において、社会参画意識を高める教育を充実することが求められます。

＊高等学校･特別支援学校ができること＊

○主権者教育、キャリア教育の視点のもとに、高校生の社会参画意識を高めるという目的を明確にし、現在実践している教育活動を改めて見直していきましょう。その際、体験活動、探究活動を取り入れながら実践していくと効果的です。

○高校生の率直な課題認識や見方、考え方を生かした探究学習を提供し、能動的な学びにしていきましょう。
　→特にグループ学習では、チームづくりを大切にして、そのスキルを学ばせたり、役割を明確にしたりすることで、高校生がチーム内で「役立っている」感覚、いわゆる自己有用感をもてるように配慮することが必要です。

有関心群の高校生のために　高校生が地域活動に参加しやすい環境づくり



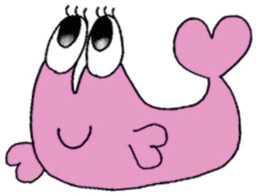
地域活動への関心・意欲はあるものの、実際の地域活動参加にまで至らないのは、その間にバリア（障壁）が介在するからです。その一つ一つを取り除いていくことで、高校生が地域活動に参加しやすい環境が整っていきます。

＊高等学校・特別支援学校ができること＊

○部活動や課外授業等の効果的な時間の配置を考えましょう。
【学習や部活動により制約される時間のバリアの解消】
→高校生が社会貢献や自己への投資など、主体的に時間の使い方を考え、行動できるように支援していくことが大切です。

＊行政・ボラセン・社協ができること＊

○既存の団体とのマッチングや、高校生同士での団体の設立など、活動意欲のある高校生をつなげていきましょう。
【1人では活動への参加や継続に至らない同調性のバリアの解消】
○学校と協力して、活動機会や学習機会の情報を発信しましょう。
【活動情報のやりとりが滞る情報のバリアの解消】



既活動群の高校生のために　模範となる地域の大人との関係づくり

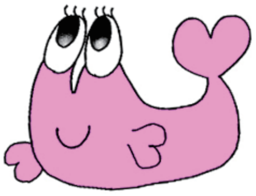
高校生の地域活動を定着化するためには、活動への参加意欲をさらに高め、活動の質の向上や、新たな活動参加につなげていくことが必要となってきます。そのためには、高校生に対して活動をより充実させるための学習の必要性を示唆すること、また、その機会を提供していくことが大切で、高校生に寄り添える大人の存在（コーディネーター等）が重要といえます。高校生と大人の関わりにより、地域の活力が生まれ、住民どうしの結びつきもよりいっそう強くなっていきます。

＊高等学校・特別支援学校ができること＊

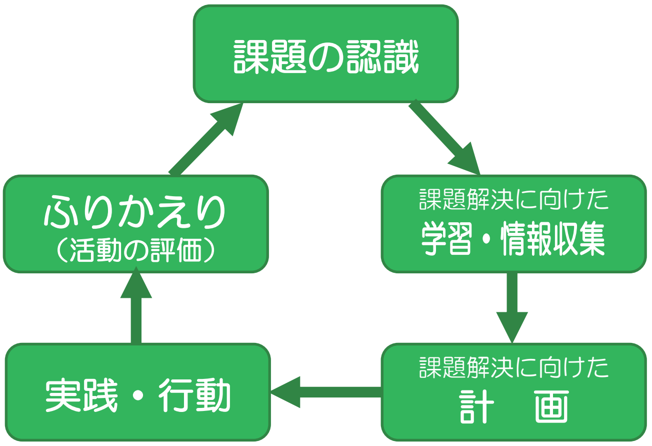
○行政や中間支援センター、社会福祉協議会が実施している事業に目を向けて、高校生に情報を提供していきましょう。
○PTAや同窓会と連携し、多様な大人、社会との接点を設けることも有効です。

＊行政・ボラセン・社協ができること＊

○活動意欲のある高校生をつなげるとともに、先輩・後輩の関係や地域の大人との関係が円滑に構築していけるよう、支援していきましょう。
→必要に応じて助言したり見守ったりするなど、高校生の自発性を尊重する姿勢が重要です。そうして自己有用感が育まれると、地域活動に継続的にまた能動的に参加し、定着化につながります。



地域課題の特徴に合わせたアプローチ

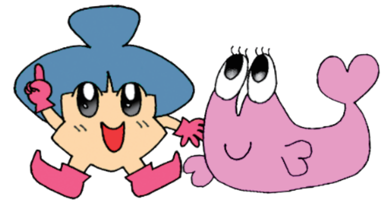


　課題解決のフローは、右のとおりです。このサイクルが円滑であるとき、主体的な活動参加につながっているといえます。このサイクルを円滑に進めていけるよう支援していくことが必要です。

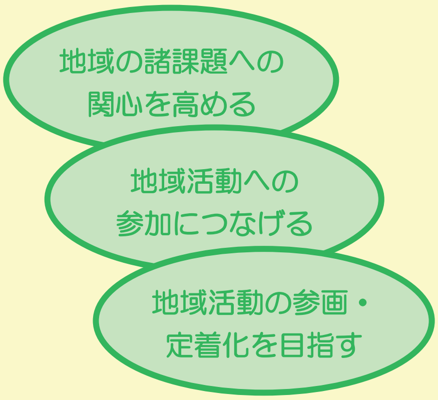
　例えば、「課題の認識」が「実践・行動」につながっていない場合には、活動できる場を創出することが求められます。また、高校生が、地域や社会からの要請を受けて「実践・行動」している場合があります。そのような場合には、活動への責任感や当事者意識を持たせて、地域や社会の課題として捉えさせたり、課題解決に向けた「学習・情報収集」や「計画」立案に取り組ませたりすることで、主体的な参画にしていくことが大切です。

＊それぞれの立場でできること＊

○地域課題における課題解決のサイクルが、円滑にいかない理由を明確にし、その解消に向けて支援することが必要です。



高校生と関わる大人がつながろう！　～高校生の地域活動参加促進に向けて～



　「第３期教育振興基本計画」や「まち・ひと・しごと創生基本方針 2019」等において、地域課題解決のための学びの推進、高校生に地域課題の解決等を通じた探究的な学びを提供する取組の推進が示されており、高校生の地域活動への参加・参画を促進することが求められています。

　本リーフレットでは、高校生の地域活動への関心の度合いにより、「社会参画意識を高める教育の充実させること」「高校生が地域活動に参加しやすい環境づくりをすること」「模範となる地域の大人との関係づくりをすること」を、その手立てとして挙げました。高校生の地域への関心を高め、円滑に地域活動につなげ、定着化させるためには、また、高校生が主体的に地域活動に参画するためには、学校とその周囲にある行政、企業、ボラセン・社協など、多様な機関が積極的につながることが必要となります。

　高校生への効果的な支援を進めていくために、高校生と関わる大人がつながる、すなわち、学校と地域の連携・協働体制を構築しましょう！

栃木県総合教育センター
生涯学習部

TEL：028-665-7206
FAX：028-665-7219
E-mail：skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

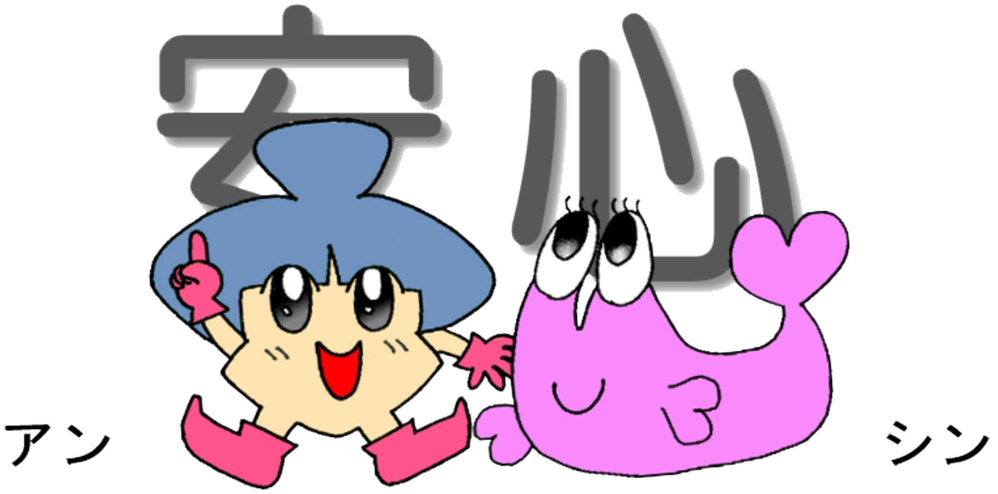
とちぎレインボーネットのQRコードはこちら！

令和２（2020）年 ３月

・詳しくは、Webサイト「とちぎレインボーネット」を御覧ください！
URL　https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/
・学校と地域のつながりづくりなど、御相談は上記まで御連絡ください。

本調査研究報告書「資料編」及び「概要・総括編」は、とちぎレインボーネットでも御覧になれます。

https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/research



地域活動の参加促進に向けて

～地域課題に関する調査研究～

資料編

令和２（2020）年３月
編集・発行　栃木県総合教育センター

〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
栃木県総合教育センター生涯学習部
TEL　028-665-7206　　FAX　028-665-7219
URL　https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/